

CF2  
3  
02

壹本

佛蘭西  
法律書

訴訟法

從一至八

全







權大内史箕作麟祥譯

# 佛蘭西 法律書 訴訟法

## 文部省

明治三十一年圖書發售

權大内史箕作麟祥譯

佛蘭西 法律書 訴訟法第一

○上篇 裁判所ニ於テノ訴訟

○第一卷 治安裁判所ニ於テノ訴訟

○第一章 呼出ノ事

第一條 治安裁判所ニ呼出狀ニ年月日及原告人ノ姓名住所職業使吏ノ姓名住居授任狀被告人ノ姓名住所ヲ記シ且訴訟ノ趣意及之訴訟ノ為メノ證據ノ之ヲ審判ニ可シ裁判所並ニ裁判所ニ出席ニ可シ日刻ヲ記シ可シ

第二條 人權又ハ動産ノ事ニ付テ訴訟ノ為メ時ハ被告人ノ其住所ノ裁判所ノ裁判所ノ面前ニ之呼出ニ可シ住所知レタル時ハ其寄居ノ場所ノ裁判所ノ裁判所ノ面前ニ之呼出ニ可シ

第三條 左ノ事件ニ於テハ争ハ生シタル物件所在ノ地ノ裁判所ノ裁判所ノ面前ニ被告人ヲ呼出ニ可シ  
一 由野果實収納物ニ損害ヲ為シタルニ付テ訴訟  
二 本洋内ニ為シタル境界ヲ移易シテ土地樹木植籬溝渠及之其他ノ範圍物ヲ侵メシ事又ハ水路ニ管

第四條 土地又ハ家屋ノ借主其借受ケタル土地又ハ家屋ノ利益ヲ得ルル能ハサルニ付テ償ヲ求メテ債主ノ争ハタル時唯其分量ニ付テ訴訟及之土地又ハ家屋ノ貸主ヨリ其借主之ヲ損壞シタルニ付テ為メ  
第五條 借屋ノ修理ニ付テノ訴訟

第六條 呼出狀ハ被告人住所ノ治安裁判所ノ使吏之ヲ被告人ニ送達シ若シ其使吏ニ故障アル時ハ裁判所ノ持任

人ノ方ニ其書ノ寫ヲ留メ置ク可シ但シ此等ノ官吏ハ謝金ヲ收ムルトシ其正本ニ檢印ヲ為ス可シ



特39  
789

CF2  
3  
02



治安裁判所ノ使吏ハ其宗系ノ血屬ノ親其兄弟姉妹及同ノ級ノ姻族ノ親原告人タル時其者ノ為ノ呼出狀ヲ送達ス可カラシ

第五條 呼出ノ受ケル被告人治安裁判所ヨリ三「リヤメートル」距離内ニ住スル時ハ呼出狀ヲ送達シタル日ニ裁判所ニ出席ス可トドトノ間ニ一日ヨリ少カシタル時間ヲ隔ツ可シ 若シ被告人其距離外ニ住スル時ハ三「リヤメートル」毎ニ一日ノ増ス可シ 原告人此猶豫ノ時間ヲ隔ツ可ト規則ニ背キタル時被告人出席セザルニ於テハ裁判所ノ呼出狀ヲ再々呼出狀ヲ送達ス可キコトヲ原告人ニ言渡ス可シ但シ初メ呼出狀ヲ送達シタル費用ハ原告人之ヲ當ス可シ

第六條 至急ノ場合ニ於テハ裁判所其猶豫ノ定期ヲ減スル呼出狀ヲ原告人ニ與ヘ原告人其呼出狀ニ記シタル日刻ニ被告人ヲ呼出ス可ト得可シ

第七條 原告被告雙方ノ者已レノ隨意ヲ以テ治安裁判所ニ出席スルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テ被告人ノ住所ノ地又ハ其ノ生シタル物件所在ノ地ノ事ニ付キ其裁判所ノ裁判所被告人ノ者ノ為ノ至當ノ裁判所ニ從ヒ非タル時ニ法律上ノ許シ又ハ雙方ノ者ノ承諾ニ因リ其訴訟ニ付キ終審ノ裁判所ヲ為シ又ハ治安裁判所ノ為スルコトヲ得可シ 雙方ヨリ其裁判所ノ願ヲ書面ハ雙方ノ者之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ手署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

○第二章 治安裁判所ノ聽訟及ヒ雙方ノ者ノ出席

第八條 治安裁判所ノ裁判所ハ毎週二次ヨリ少カシタル聽訟ノ日ヲ定メ日曜日及ヒ祭日ヲ間ハス午前午後共ニ裁判所ノ得可シ其裁判所ハ已ノ家ニテ聽ク可ト得可シ但シ衆人來聽ノ為ニ其門扉ヲ閉シ置ク可シ

第九條 呼出狀ニテ定メタル日又ハ雙方互ニ協議ニテ日ニ至リ雙方ノ者自ラ出席シ又ハ名代人ヲ出ス可シ但シ雙方互ニ辯論書ヲ送達ス可カラシ

第十條 雙方ノ者ハ裁判所ノ面前ニテ言語ヲ用テ對シテ不敬ナキコトニ注意ス可シ若シ雙方ノ者過失アル時ハ裁判所先ツ其過失ヲ責治シ再犯ノ時ハ十「フラン」過キサル罰金ヲ言渡シ且其言渡書ヲ貼附ス可シ但シ其

其貼附ノ數ハ縣中ノ邑數ニ過ク可カラシ

第十一條 裁判所ノ又ハ甚シク不敬ヲ為シタル時ハ其旨ヲ調書ニ記シ三日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ言渡ス可シ

第十二條 前二條ニ記シタル場合ニ於テノ裁判所言渡ハ假ニ之ヲ執行ヲ可シ

第十三條 雙方ノ者又ハ其名代人互ニ相對シテ吟味ヲ受ケ可シ○訴訟ハ自ニ之ヲ裁判シ又ハ次ノ聽訟ノ日ニ之ヲ裁判ス可シ又裁判所必要ナリト思量スル時ハ證書類ヲ出サシム可シ

第十四條 一方ノ者ノ他ノ一方ノ者ノ證書ノ便宜タルコトヲ訴ヘント欲シ又ハ之ヲ認メタル旨ヲ述フル時ハ裁判所其旨ヲ書面ニ記シテ之ヲ其者ニ與ヘ且其證書ニ姓名ニ代用スル横線ヲ畫シ此事ノ審判ス可キ裁判所ノ面前ニテ訴訟ヲ為ス可キコトヲ言渡ス可シ

第十五條 本案ニ管スル預審ノ言渡書ハ其旨ヲ為シタル時ハ其日ヨリ四月ニ過キサル時間ニ其本案ノ確定ノ裁判ヲ為ス可シ其四月ノ期限後ハ其定期ヲ過ヒシニ因リ其訴訟ヲ取消ト為ス可シ若シ四月後ニ訴訟ノ本案ニ付キ裁判所言渡シタル時ハ治安裁判所ニテ終審ノ裁判ヲ為シ得可キ事件ト雖モ一方ノ者控訴ヲ為シテ其言渡ヲ取消ト為ス可ト得可シ 若シ裁判所過失ニ因リ同上ノ定期ヲ過シタル時ハ裁判所一方ノ者ニ其損失ヲ償フ可シ

第十六條 治安裁判所ノ裁判所言渡ハ其裁判所ノ使吏又ハ裁判所ヨリ持ニ仕シタル者其裁判所言渡書ヲ送達タル日ヨリ三月内ニ非テハ控訴ヲ為ス可カラシ

第十七條 三百「フラン」ニ至ル迄ノ價高ニ付キ治安裁判所ノ裁判所言渡ハ相手方控訴ヲ為スニ管セズ其言渡ヲ得タル者假ニ之ヲ執行シ其執行ニ付キ保證人ヲ立ツルニ及バヌ又其他ノ場合ニ於テハ治安裁判所其裁判ノ如ク假ニ執行ヲ可キコトヲ言渡スヲ得可シト雖モ其言渡ヲ得ル者ヨリ保證ヲ立ツ可シ

第十八條 裁判所言渡ノ裁判所ノ書記官聽訟ノ書類ノ簿冊ニ之ヲ記シ其訟ヲ聽キタル裁判所及ヒ書記官之ニ姓名ヲ手署ス可シ



第三章 一方ノ者抗傳シテ言渡シタル裁判及ヒ其裁判ニ付キ故障ヲ述フル事

第十九條 呼出狀ニ記シタル日ニ至リ一方ノ者出席セサル時其者抗傳儘ニテ其訴訟ヲ裁判ス可シ但シ第五條第三項ノ場合ニ於テハ其出席セサル者ヲ再ヒ呼出ス可シ

第二十條 抗傳シテ裁判ノ言渡ヲ受ケタル者ハ治安裁判所ノ使吏又ハ特ニ任テ受ケタル者ヨリ其言渡書ヲ受取りシ後三日内ニ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ 其故障ヲ述フル書ニハ之ヲ述フル者ノ憑據トスル所ヲ簡略ニ記シ且其後ノ聽訟ノ日ニ他ノ一方ノ者ヲ呼出ス可キ旨ヲ記ス可シ但シ之ヲ呼出スニハ其定期ニ循フ可キ且其呼出狀ニハ其出席ス可キ日刻ヲ記シ前ニ云ヘル如ク之ヲ送達ス可シ

第二十一條 治安裁判所ノ裁判役自カラ被告人其訴訟ヲ知ラサルノ證ヲ得又ハ被告人ノ親族隣人朋友ノ聽訟ノ時述ヘタル所ニ因リ其被告人訴訟ヲ知ラサルノ證ヲ得タルニ於テハ裁判役被告人ノ抗傳ノ儘ニテ裁判ヲ言渡シタル時其者言渡ノ故障ヲ述フルニ相當ナルト思量スル猶豫ノ期限ヲ定ムルコトヲ得可シ又裁判役其職務ヲ以テ猶豫ノ期限ヲ許スコトナク又ハ之ヲ願フ者ナキ時ト雖モ抗傳者失踪又ハ重病ニテ其訴訟ヲ知り得サルコトヲ證スル時ハ猶豫ノ期限ヲ得テ裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

第二十二條 裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル者再ヒ出席スルヲ為メテ裁判所ヲ受ケタル時ハ更ニ裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フ可カラス

第四章 財産占有ノ權ノ訴訟ノ裁判

第二十三條 財産占有ノ權ニ付テノ訴訟ハ一年ヨリ少カラサル時間所有者ノ名義ヲ以テ財産ヲ自カラ妨ナリ占有シ又ハ名代人ヲシテ其財産ヲ妨ナリ占有セシメタル者他人ヨリ其妨ヲ受ケタル後一年内ニ非レハ之ヲ為スコトヲ許サス

第二十四條 被告人原告人ト占有ノ權ヲ述ヘ又ハ其權ヲ妨ケタルコトヲ述フル時裁判所ヨリ言渡シタル證人吟味ハ占有ノ權ノミニ關係ス可キ所有ノ權ニ管ス可カラス

訴訟所

第二十五條 占有ノ權ニ付テノ訟ト所有ノ權ニ付テノ訟ト共ニ同時ニ為ス可カラス

第二十六條 所有ノ權ノ訴訟ニ付テノ原告人ハ占有ノ權ニ付テノ原告人トナルコトヲ得ス

第二十七條 占有ノ權ノ訴訟ニ付テノ被告人ハ其訴訟ノ終リシ後ニ非レハ所有ノ權ニ付テノ原告人トナルコトヲ得又其占有ノ權ノ被告人負訴訟ノ時ハ其言渡サレシ如ク執行ヲタル後ニ非レハ所有ノ權ニ付キ原告人トナルコトヲ得然レモ其負訴訟ノ者ヲシテ其言渡ノ如ク執行ハシムルニ急リシ時ハ裁判役其負訴訟ノ者ヲシテ其言渡ノ如ク行ハシムル猶豫ノ期限ヲ定メ其期限ノ後ハ負訴訟ノ者所有ノ權ニ付テノ原告人トナルコトヲ許ス可シ

第五章 確定ニ非サル裁判言渡及ヒ其執行

第二十八條 確定ニ非サル裁判言渡ノ面前ニテ言渡シタル時ハ其言渡書ヲ送達スルニ及ハス○其言渡ニテ雙方後ニ裁判所ニ出テ又ハ他所ニ至テ親シク其面前ニテ行フ可キ所為ヲ命スル時ハ其言渡書ニ雙方ノ者後ニ出席ス可キ日刻ヲ記ス可シ但シ其言渡書ヲ讀上ケタルヲ以テ後ニ裁判所ニ出テ又ハ他所ニ至ラシムルノ呼出狀送達シタルニ等シキ効アリトス

第二十九條 裁判所ノ言渡ニ鑑定人ヲシテ為サシムル可キ所為ヲ命スル時ハ裁判役之ヲ願フタル者ニ其鑑定人ヲ呼出ス可キ呼出狀ヲ與フ可シ但シ其呼出狀ニハ其出ツ可キ場所ト日刻トヲ記シ且其事柄其主意并ニ其事ヲ為スル命スル言渡ノ旨モ亦記ス可シ同上ノ言渡ニ證人吟味ヲ命スル時ハ其證人ノ呼出狀ニ其言渡ノ日附及ヒ其出ツ可キ場所并ニ日刻ヲ記ス可シ

第三十條 治安裁判所ノ裁判役争ノ生シタル土地ヲ検査シ又ハ證人ノ述フル所ヲ聽ク可キ為メ其土地ニ至ル時ハ書記官ヲ同伴ス可シ但シ其書記官ハ預審ノ裁判言渡ノ正本ヲ携ヘ行ク可シ

第三十一條 確定ノ裁判言渡アリシ後ニ非レハ本案ニ管セサル預審ノ裁判言渡ヲ控訴ス可カラス又其預審ノ裁判ノ控訴ハ確定ノ裁判ノ控訴ト共ニ之ヲ為ス可シ然レモ預審ノ裁判言渡ノ如ク執行ヒ雙方ノ者別段ノ約定ヲ為サス



ト雖モ控訴ヲ為スコト權ノ阻害トナルヲナカル可シ 本案ニ管スル預審ノ裁判言渡檢査ルハ確定裁判言渡可シ  
前之爲テヲ許ス 此場合檢査其預審ノ裁判言渡書副本 相手方送達ス可シ

○第六章 保證者ヲ呼出ス事

第三十二條 被告人初メテ裁判ヲ出席シタル日ニ保證人ヲ裁判ヲ呼出ス可キヲ願フタル時ハ裁判役其保證  
人ノ住所ノ距離ニ准シ相當ノ猶豫ヲ許ス可シ又保證人ニ送達スル呼出狀ハ簡畧ニ其趣意ヲ記ス可シ但シ保證人  
ヲ呼出ス可キヲ命シタル裁判言渡書ハ之ヲ保證人ニ送達スルニ及ハス

第三十三條 被告人初メテ出席シタル時保證人ヲ呼出ス可キヲ願ハサル時又ハ定期内ニ其呼出狀ヲ保證人ニ送達セ  
サル時ハ直ニ訴訟ノ裁判ニ取掛ル可シ但シ後ニ至リ別ニ其保證人ヲ呼出ス可キヲ願フ裁判ヲ為スコシ

○第七章 證人吟味ノ事

第三十四條 雙方ノ述フル所相異ナリテ證人ヲ以テ之ヲ證スルヲ得可キ事件ナル時裁判役證人ヲ以テ之ヲ證セシ  
ムルヲ有用ナリト思量スルニ於テハ其證ヲ立ツ可キヲ言渡シテ審クニ其目的ヲ定ム可シ

第三十五條 定リシ日ニ至リ證人出席ノ上其姓名職年餘住ヲ述ヘタル後誠實ヲ述フ可キノ誓ヲ爲シ且原告又  
ハ被告ノ血屬又ハ姻屬ノ親ナル時ハ其級ヲ述ヘ又其從僕ナル時ハ其旨ヲ述フ可シ

第三十六條 證人ハ原告被告雙方ノ者出席スルニ於テハ其雙方ノ面前ニテ各自ニ其證ヲ述フ可シ又一方ノ者證人  
ニ付キ故障ヲ述ヘントスル時ハ證人ノ證ヲ述フル前ニ其故障ノ書面ヲ出シ之ニ其姓名ヲ手署ス可シ若シ姓名ヲ  
手署スルコトヲ知ラス又ハ之ヲ爲シ得サル時ハ其旨ヲ記ス可シ○其證人ニ付キ故障ヲ述ル書ハ證人ノ既ニ證ヲ述  
ヘタル後之ヲ出ス可キヲ許サス但シ別段ノ證書アルニ因リ其故障ヲ述フ可キ道理アル時ハ格別アリトス

第三十七條 雙方ノ者證人ノ證ヲ述フル間ハ辭ヲ參スルコトヲ得ス又裁判役ハ證人ノ證ヲ述ヘ終リシ後雙方ノ者  
ニ從ヒ又ハ已レノ職務ヲ以テ證人ニ相當ノ問糾ヲ爲スコトヲ得可シ

第三十八條 證人ノ述フル所ヲ解シ得可キ爲メ土地ヲ檢査スルコト有益ナル時殊ニ境界ノ移易及ヒ土地掘込埋藏  
溝渠其他築圍物ノ侵奪并ニ水路ニ營ミ設タル物件ニ付テハ訴訟ニ於テハ裁判役必要アリト思量スル時自ラ其

地ニ至テ證人ノ述フル所ヲ聽ク可キヲ言渡ス可シ

第三十九條 控訴ヲ爲シ得可キ訴訟ニ付テハ裁判役ノ書記官證人ノ述フル所ヲ調書ニ記シ其調書ニハ證人ノ姓名  
年餘職業住所擔詞ト其原告又ハ被告ノ血屬姻族ノ親或ハ從僕ナリトノ申述并ニ其證人ニ付キ故障ヲ述ヘタル事  
ヲ記ス可シ○其調書中各證人ニ管シタル部分ヲ其證人ハ已レノ述ヘタル所ヲ記シタル部分ニ  
姓名ヲ手署ス可シ若シ其姓名ヲ手署スルコトヲ知ラス又ハ之ヲ爲シ得サル時ハ其旨ヲ記ス可シ 且其調書ハ裁判  
役及ヒ書記官其姓名ヲ手署ス可シ○此事ヲ爲シタル後即時ニ裁判ニ取掛リ又ハ遲クモ次ノ聽訟ノ日ニ其裁判  
ニ取掛ル可シ

第四十條 治安裁判所ニテ終審ノ裁判ヲ爲シ得可キ訴訟ノ時ハ前條ニ記シタル調書ヲ記スルニ及ハス其裁判言渡  
書ニ證人ノ姓名年餘職業住所擔詞ト其原告又ハ被告ノ血屬又ハ姻族ノ親又ハ其從僕ナリトノ申述ト并ニ證人數  
人ノ述ヘタル所ノ結局ト記ス可シ

○第八章 土地ノ檢査及ヒ評價

第四十一條 土地ノ景狀ヲ檢査ス可キコト又ハ不動産ニ付テノ價額ヲ計ル可キコトアル時ハ治安裁判所ノ裁判役雙方  
ノ面前ニテ自カラ其他檢査ス可キコトヲ言渡ス可シ

第四十二條 檢査又ハ評價ヲ爲スニ裁判役ノ習知セサル點ニ要スル時ハ其裁判役鑑定人ト共ニ其地ヲ檢査シ  
定人ヲシテ其意ヲ述ヘシム可キコトヲ言渡ス可シ但シ其鑑定人ハ其言渡書ヲ以テ任ス可シ○其裁判役ハ其地ヲ去  
ルコトナリ直チニ其場所ニ於テ裁判スルコトヲ得可シ○控訴ヲ爲スコトヲ得可キ訴訟ニ付テハ書記官其檢査ノ調書ヲ  
記ス可キ其調書ニハ鑑定人ノ述ヘタル誓詞モ亦之ヲ記ス可シ○其調書ニハ裁判役書記官鑑定人其姓名ヲ手署ス  
可シ若シ鑑定人其手署ヲ知ラス又ハ爲シ得サル時ハ其旨ヲ記ス可シ

第四十三條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第四十四條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第四十五條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第四十六條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第四十七條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第四十八條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第四十九條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第五十條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ

第五十一條 控訴ヲ爲シ得可カラサル訴訟ニ付テハ前條ノ調書ヲ記スルニ及ハス裁判言渡書ニ鑑定人ノ姓名誓詞  
并ニ其述フル所ノ結局ヲ記ス可シ



○第九章 治安裁判役ニ付キ故障述フル事  
第四十四條 左ノ諸件アル時ハ治安裁判役ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ

第一 裁判役自カラ訴訟ニ管係アル時

第二 裁判役原告又ハ被告ノ役兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻族ノ親タル時

第三 當時ヨリ前一年内ニ裁判役ト原告又ハ被告中ノ一方又ハ其配偶者又ハ其宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親トノ間ニ刑事ニ管シテ訴訟アリシ時

第四 裁判役ト原告又ハ被告中ノ一方又ハ其配偶者トノ間ニ當時民事ニ管シタル訴訟アル時

第五 裁判役訴訟ノ事ニ付キ原告又ハ被告ノ一方ニ書ヲ以テ旁聴シタル時

第四十五條 原告及ビ被告中ノ一方ノ者治安裁判役ニ付キ故障ヲ述ヘント欲スル時ハ其故障述フル趣意書ヲ記シ其

擇ム所ノ使吏ヲシテ其書ヲ治安裁判所ノ書記官ニ送達セシ書記官其書ノ正本ニ檢印ス可シ○其趣意書ハ正本副

本共ニ原告又ハ被告又ハ其名代人姓名ヲ手署シ副本ハ之ヲ書記官ニ納メ書記官直ニ裁判役ニ之ヲ示ス可シ

第四十六條 裁判役ハ二日内ニ其副本ノ紙尾ニ故障ノ申述ヲ承諾又承諾ノ事其答辯ヲ記ス可シ

第四十七條 裁判役故障ノ申述ヲ承諾セサル答ヲ為シタル時ヨリ三日内又ハ裁判役前條ノ定期内ニ其答ヲ為サ

ル時ハ其定期後直ニ其故障ヲ述フル書面ノ副本ト別裁判役ノ答書アルニ於テハ其答書ヲ本人ノ願ニ因リ書記官

ヨリ治安裁判所所在ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ檢事ニ送達ス可シ但シ初告裁判所ニテハ双方ノ者ヲ呼出スニ

及ハス檢事ノ述フル所ヲ聽タル上八日内ニ終審ノ裁判ヲ為ス可シ

○第二章 下等裁判所 初告裁判所及ビ第二審裁判所ヲ指ス (千八百六十六年四月十四日決定)

○第一章 勸解

第四十八條 和解 民事訴訟法第二百四十四條ニ依リテ 和解ニ付キ事柄ニ付キ主タル訴訟ヲ初メテ為サン

トスルニハ原告人豫メ被告人ヲ治安裁判所ニ勸解ノ為メ呼出シ又ハ双方ノ者互ニ勸解ノ為メ已レノ意ヲ以テ治

訴訟法五

安裁判所ニ出席シタル後ニ非レハ初告裁判所ニ於テ其訴訟ヲ為スヲ得サス  
第四十九條 左ノ諸件ニ付テハ勸解ノ式ヲ為スニ及ハス

第一 官府及ビ其附屬ノ地邑公舎幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者遺物相續人ノ虧缺シタル財産ノ管財人ニ管

タル 訴訟

第二 迅速ナルヲ要スル訴訟

第三 主タル訴訟ニ他人ノ管渉セントスル訴訟 第三百三十九條以下見合 又ハ保證ニ付テノ訴訟 第四百七十五條以下見合

第四 商業ノ事ニ付テノ訴訟

第五 負債ヲ償ハサルニ付キ禁錮ヲ受ケシ者自由ヲ得ントスルノ訴訟 負債者債主ノ為メニ已レノ財産ヲ

差押ヘテシタルヲ免カレントスル訴訟 負債者人ヨリ金高ヲ得可キ債主ノ為メニ差留メラレタルヲ

免カレントスル訴訟 土地及ビ家屋ノ貸賃又ハ年金及ビ養料ノ拂方ヲ得ントスル訴訟 代書師裁判所費

用ノ償戻ヲ得ントスルノ訴訟

第六 二人以上ノ者ニ對シテ為シタル訴訟 但シ其二人以上ノ者同一ノ管係アル時ト雖モ亦此ノ如シ

第七 書類ノ驗真ヲ為スニ付テノ訴訟 本人其代書師使吏等ノ所為ヲ知ラズト述フル訴訟 裁判役數人ノ管

轄相觸ル、時其中ノ一人ニ定ム可キトニ付テノ訴訟 裁判役ニ付キ故障ヲ述ヘ他ノ裁判役ノ裁判ヲ受ク

可キトニ付テノ訴訟 裁判役不正ノ裁判ノ為シタルニ因リ損失ヲ受ケタル時其裁判ヲ取消シ其債ヲ得ン

トスルニ付テノ訴訟 負債者ニ物件ヲ渡ス可カラサル差留メ債主ヨリ受ケタル者ニ對シテ為ス所ノ訴訟

負債者財産差押ニ付テノ訴訟 義務ヲ盡クス為メ物件ヲ提供スルニ付テノ訴訟 民法第一千二百五十七條見合 原告被告

互ニ其證書ヲ渡シ又ハ示ス可キトニ付テノ訴訟 夫婦財産ヲ分ツトニ付テノ訴訟 後見人及ビ管財人ニ付

テノ訴訟 其他總テ法律ヲ以テ別段ニ指定メタル訴訟

第五十條 被告人左件ニ付テハ勸解ノ為メ次ニ記スル所ノ裁判所ニ呼出ヲ受ク可シ



第一 人権及ヒ物權ノ事ニ付テハ其住所ノ治安裁判役ノ面前ニ呼出サル可シ若シ被告人二人ナル時ハ原告人ノ釋ミテ其中一人ノ住所ノ治安裁判役ノ面前ニ呼出サル可シ

第二 商業ノ會社ヲ除クノ外總ニ會社ノ事ニ付テハ其會社ノ存続ナル時間其會社ヲ設ケタル地ノ治安裁判役ノ面前ニ呼出サル可シ

第三 遺物相續ノ事ニ付キ其分派ニ至ル迄ノ間其相續人等ノ互ニ爲ス訴訟及ヒ分派ノ前死者ノ遺者ヨリ爲シタル訴訟并ニ分派ノ裁判言渡ノ確定ニ至ル迄ノ間遺囑ノ贈遺ヲ行フコト爲メノ訴訟ニ付テハ其遺物相續ヲ爲ス可キ地ノ治安裁判役ノ面前ニ呼出サル可シ

第五十一條 被告人勸解ノ爲メ治安裁判役ニ出席ス可キ呼出狀ノ送達ヲ受ケタルヨリ出席ヲ爲ス日ニ至ル迄三日ヨリ少カラサル猶豫ヲ得可シ

第五十二條 呼出狀ハ被告人住所ノ治安裁判役ノ使吏之ヲ送達ス可シ但シ呼出狀ニハ勸解ノ目的ヲ簡略記ス可シ

第五十三條 雙方ノ者ハ勸解ノ爲メ自カラ出席ス可シ若シ故障アル時ハ各代人ヲ出ス可シ

第五十四條 原告人ハ出席ヲ爲シタル上已レノ要ムル所ヲ辨明スルコトヲ得又ハ其求ムル所ヲ更ニ増加シテ述フルコトヲ得可シ又被告人モ已レノ至當ト思フ所ヲ述フルコトヲ得可シ○此事ニ付キ記ス可キ調査ニハ勸解ヲ爲スニ付テノ簡略ヲ記シ若シ勸解スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ簡略ニ附記ス可シ○雙方ノ者勸解ニ付テノ契約ヲ其調査ニ記入シタル時ハ私ノ契約書ノカヲリトス

第五十五條 一方ヨリ他ノ一方ニ格ヲ求ムル時ハ裁判役之ヲ許ス可シ又其求メテ受ケタル者之ヲ爲スコトヲ肯セサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

第五十六條 一方ノ者出席ヲ爲サル時ハ十コトシテ罰金ヲ言渡サレ且既ニ其罰金ヲ拂フケルノ證ヲ立ル迄ハ裁判役ニテ其者ニ訴訟ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 期滿得免ノ權ヲ得ントスル者勸解ノ爲メ呼出ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ出席ヲ爲スト雖モ勸解ヲ爲ス

訴訟法

第七條ハサル時其日ヨリ一月内ニ訴訟ヲ受クルニ於テハ其期限得免ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ経過シタル時間ヲ除キシ借貸ノ息銀又ハ土地家屋ノ入額價ヲ可キノ義務ヲ生ス可シ

第五十八條 若シ一方ノ者出席セサル時ハ治安裁判役ノ書記局ノ簿冊ト呼出狀ノ正本又ハ副本トニ其旨ヲ記ス可シ但シ此場合ニ於テハ別ニ其事ニ付テノ調査ヲ記スルニ及ハス

○第二章 下等裁判所ニ呼出ス事

第五十九條 人権ノ事ニ付テハ被告人住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ若シ其住所ノ知ラサル時ハ寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ若シ被告人數人アル時ハ原告人ノ釋ミニ從ヒ其中一人ノ住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ物權ノ事ニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ人権ト物權ト相混シタル事ニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所又ハ被告人住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ會社ノ事ニ付テハ其會社ノ存続ナル時間之ヲ設ケタル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ遺物相續ノ事ニ付キ其分派ニ至ル迄ノ時間其相續人等ノ互ニ爲ス訴訟及ヒ分派ノ前死者ノ債主ヨリ爲シタル訴訟并ニ分派ノ裁判言渡ノ確定ニ至ル迄ノ時間遺囑ノ贈遺ヲ執行フコト爲メノ訴訟ニ付テハ其遺物相續ヲ爲ス可キ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ家資分派ノ事ニ付テハ分派人住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ保證ノ事ニ付テハ主タル訴訟ヲ爲シタル裁判所ニ呼出サル可シ証書ノ如ク執行フコトニ付キ別段住所ヲ

第六十條 裁判所ニ管シタル官吏ノ職權ニ依リテ裁判所費用ノ償戻ヲ得ントスル時ハ以前其費用ノ生シタル裁判所ニ之ヲ訴出ス可シ

第六十一條 呼出狀ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 年月日原告人ノ姓名職業住所其若シ代書師ヲ任シタル事及ヒ原告人其代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事但シ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事ナキ時ハ其旨ヲ記ス可シ

第二 呼出狀ヲ送達スル使吏ノ姓名住所被任被任人ノ姓名住所并ニ呼出狀ノ副本ヲ別ニ受取ル可キ者

第三 呼出狀ヲ送達スル使吏ノ姓名住所被任被任人ノ姓名住所并ニ呼出狀ノ副本ヲ別ニ受取ル可キ者

第四 呼出狀ヲ送達スル使吏ノ姓名住所被任被任人ノ姓名住所并ニ呼出狀ノ副本ヲ別ニ受取ル可キ者



アル時ハ其者ノ姓名ヲ記ス可シ

第三 訴訟ノ目的及ヒ訴訟ヲ爲ス憑據ノ簡略ナル辨明

第四 訴訟ヲ審判ス可キ裁判所及ヒ其裁判所ニ出席ス可キ證據ノ期限、但シ此諸件ヲ記セサル時ハ其呼出狀ノ効ナカル可シ

第六十二條 使吏ヲシテ呼出狀ヲ送達セシムル謝金ハ一日分餘ノ額ヲ拂フ可カラス

第六十三條 裁判所ノ上席人ヨリ允許ヲ得サレハ祭日ニ呼出狀ヲ送達ス可カラス

第六十四條 物權ノミニ管シタル訴訟又ハ入權ト物權ト相混シタル事ニ付テハ訴訟ノ時ハ呼出狀ニ不動産ノ種類其所在ノ邑ノ名及ヒ知ルヲ得可キニ於テ其邑中不動産所在ノ部弁并ニ其不動産ニ隣レル地ノ中少ナクとも二箇所ヲ記ス可シ但シ一箇ヲ爲シタル不動産ニ管シタル時ハ其名ト其所在ノ地ヲ記スルヲ以テ足レリトス若シ此等ノ事ヲ記セサル時ハ其呼出狀ヲ取消ス可シ

第六十五條 其呼出狀ト共ニ勸解ヲ爲シ得サル事ノ調査ノ爲メハ勸解ニ出席セサル事ヲ記シタル書ノ寫ヲ送達ス可シ若シ之ヲ送達セサル時ハ其呼出狀ノ効ナカル可シ○又呼出狀ト共ニ訴訟ヲ爲スノ憑據タル證書ノ全部又ハ一部ノ寫ヲ送ル可シ但シ此等ノ寫ヲ呼出狀ト共ニ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時原告人共寫ヲ送ルヲアリト雖モ其寫ノ費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

第六十六條 使吏ハ總テ自己ノ宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親及ヒ其姉ノ宗系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ爲メニ呼出狀ヲ送達ス可カラス又其再從兄弟以上ナル自己ノ傍系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ爲メニ呼出狀ヲ送達ス可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ其呼出狀ノ効ナカル可シ

第六十七條 使吏ハ呼出狀ノ正本及ヒ副本ノ末ニ其謝金高ヲ記入ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ後ニ其呼出狀ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル時五フランクノ罰金ヲ出ス可シ

第六十八條 呼出狀ハ被告人ニ之ヲ渡シ又ハ其住居ニ之ヲ渡ス可シ然レ被被告人ノ住居ニ其被告人及ヒ其親族從者

ノ共ニアラサル時ハ使吏其呼出狀ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡シ近隣ノ者其正卒ニ其姓名ヲ手署ス可シ若シ其近隣ノ者姓名ヲ手署スルヲ得ズ又ハ手署スルヲ欲ヒサル時ハ使吏其副本ヲ其邑長又ハ其輔佐役ニ渡シ此等ノ者謝金ヲ得ルシテ正卒ニ檢印ヲ爲ス可シ 使吏ハ其正卒及ヒ副本ニ此等ノ諸事ヲ附記ス可シ

第六十九條

第一 官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ呼出ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所所在ノ地ノ州長又

ハ其住居ニ呼出狀ヲ送達ス可シ

第二 官府ノ會計局ノ訴訟ノ事ニ付キ呼出ス時ハ其官吏又ハ其官署ニ呼出狀ヲ送達ス可シ

第三 官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハ其本局所在ノ地ニ於テハ其本局ニ呼出狀ヲ送達シ其他ノ地ニ於テハ其委員又ハ其官署ニ送達ス可シ

第四 皇帝ヲ其私領ノ事ニ付キ呼出ス時ハ裁判所管轄地内ニ在ル檢事ニ其呼出狀ヲ送達ス可シ

第五 邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハ其住居ニ呼出狀ヲ送達シ巴勒ニ於テハ州長又ハ其住居ニ之ヲ送達ス可シ

此五箇ノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取リタル者其正卒ニ檢印ス可シ若シ之ヲ受取ル可キ者其呼居ニ在ラス又ハ其呼居ニ在リト雖モ檢印ヲ爲スルヲ肯セサル時ハ治安裁判所ノ裁判役又ハ初告裁判所檢事其檢印ヲ爲シテ其呼出狀ノ副本ヲ受取ル可シ 第三十九條

第六 商社ヲ其社ヲ結ヒタル時間呼出ス時ハ其商社ノ家ニ呼出狀ヲ送達ス可シ又既ニ商社ヲ解キタル後ハ其社中ノ者又ハ其住居ニ之ヲ送達ス可シ

第七 家賃分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時ハ其管理者又ハ其住居ニ呼出狀ヲ送達ス可シ

第八 佛蘭西國內ニ分明ナル住居アラサル者ヲ呼出ス時ハ其寄居スル場所ニ呼出狀ヲ送達ス可シ若シ其寄居スル場所ノ知レサル時ハ訴訟ヲ審判ス可キ裁判所ノ訟庭ノ最大ノ門扉ニ呼出狀ノ副本一通ヲ貼附シ又一通ヲ檢事ニ送達シ檢事其正卒ニ檢印ヲ爲ス可シ



第九 佛蘭西本國外ノ佛蘭西領地ニ居住スル者又ハ外國ニ居住スル者ヲ呼出ス時ハ訴訟ヲ審判スル裁判  
所ノ檢事ニ呼出狀ヲ送達シ其官吏其正本ニ捺印ヲ為シテ其副本ヲ本國外ノ領地ニ居住スル者ニ付テハ  
海軍事務宰相ニ送達シ外國ニ居住スル者ニ付テハ外國事務宰相ニ送達ス可シ

第七十條 前二條ニ定メタル規則ニ循ハサルニ於テハ其呼出狀ノ効ナカル可シ

第七十一條 使吏ノ過失ニテ呼出狀ノ効ナキニ至リシ時ハ其使吏呼出狀送達ノ罰金ヲ失ヒ及ヒ取消ストナリタル  
訴訟ノ費用ヲ償ヒ且其時ノ模様ニ因リ原告人ニ其損害ノ償ヲ為ス可シ

第七十二條 佛蘭西國內ニ住居スル者ニ付テハ呼出狀ヲ送達シタルヨリ裁判所ニ出席スルニ至ルマテノ定期ヲ八  
日トス

迅速ニ審判ヲ為ス可キ場合ニ於テハ裁判所、上席人原告人ノ別段ノ願ニ因リ定期ヨリモ更ニ速ニ被告人ヲ呼出  
ス可キ事ノ言渡ヲ為シ得可シ

第七十三條 一千八百六十二年五月三日如左條ニ佛蘭西本國外ニ在ル者呼出ヲ受ケル時ハ其呼出ヲ受ケタルヨリ裁  
判所ニ出席スルニ至ル迄ノ期限左ノ如シ

第一 「コルス島、アルピリ」ニ不可領諸島、以太利佛蘭西ニ隣接シタル島ニ在ル者ニ付テハ一月ノ時間

第二 其他歐羅巴又ハ地中海ノ沿岸又ハ黑海ノ沿岸ニ於ケル國ニ在ル者ニ付テハ二月ノ時間

第三 歐羅巴外ニテ「ラカ」海峽及「ソンド」海峽ヨリ近ク又ハ「ホルン」岬ヨリ近キ地ニ在ル者ニ付テハ五  
月ノ時間

第四 「ソンド」海峽及「ソンド」海峽又ハ「ホルン」岬ヨリ遠キ國ニ在ル者ニ付テハ八月ノ時間 但シ海上戰爭  
ノ時ハ海外ニ在ル者ノ為ノ其定期ヲ倍ス可シ

第七十四條 佛蘭西國內ニ住所アル者佛蘭西ニ在ル時呼出ヲ受ケタルニ於テハ佛蘭西國內ニ住所アル者ト同一ノ  
定期内ニ出席ス可シ但シ別段ノ道理アリテ裁判所ニテ其定期ヲ更ニ延シタル時ハ格別ナリトス

第七十五條 被告ハ呼出狀ヲ受ケタル日ヨリ裁判所ニ出席スル送ノ定期内ニ其代書師ヲ任ス可シ但シ此事ニ付  
テハ其任ヲ受ケル代書師ヨリ原告人ノ代書師ニ書ヲ送達シテ之ヲ報知ス可シ

第七十六條 原告人通常ノ定期ヨリ更ニ短キ期限内ニ被告人ヲ出席セシム可キ「ソ」ヲ訴タル時ハ被告ハ其期限ノ終  
ル日ニ其代書師ト為サントスル者ヲ吟味ノ席ニ出テシメ裁判後其席ニテ其者ヲ被告ノ代書師ニ任スル「ソ」ヲ許  
ス言渡書ヲ與フ可シ但シ此言渡書ハ別段之ヲ寫取ルニ及ハス然レモ其代書師ハ其日ノ内ニ被告人ニ代書師ノ任  
ヲ受ケタル「ソ」ヲ原告人ノ代書師ニ書ヲ以テ報知ス可シ若シ之ヲ報知セサルニ於テハ被告ノ代書師ノ費用ニテ  
全上ノ言渡書ヲ寫取リ之ヲ原告人ノ代書師ニ送達ス可シ

第七十七條 被告ハ其代書師ト任シタル日ヨリ十五日内ニ答辯書ヲ記シ其代書師姓名ヲ手書シテ之ヲ原告人ニ送達  
ス可シ但シ其答辯書ニハ被告人已レノ證書類ヲ其代書師ヲシテ原告人ノ代書師ニ送達セシム可キ「ソ」又ハ其證書  
類ヲ裁判所ノ書記局ニ納メ其的ニテ原告人ニ示ス可キ「ソ」ヲ記ス可シ

第七十八條 被告ハ其代書師ヲ送達シタル日ヨリ八日以内ニ原告人ハ被告ノ答辯書ニ再答ス可シ

第七十九條 若シ被告ハ其代書師ヲ任シタルヨリ十五日内ニ其答辯書ヲ原告人ニ送達セサ「ソ」時ハ原告人ノ代書師  
ヨリ被告ノ代書師ニ裁判所ニ出ツ可キ招書ヲ送ル可シ

第八十條 原告人被告ノ答辯書ニ再答ス可キ期限ノ終リシ後原告人又ハ被告人已レノ代書師ヲシテ相手方ノ代  
書師ニ裁判所ニ出ツ可キ招書ヲ送ラシム可シ又原告人ハ被告ノ答辯書ヲ受取リシ後再答ヲ為サ「ソ」其代書師  
ヲシテ直ニ招書ヲ送ラシムル「ソ」ヲ得可シ

第八十一條 前數條ニ記シタル以外ノ書類ノ費用ハ裁判費用中ニ加フ可カラズ

第三章 被告人代書師ヲ任スル事及ヒ被告人ノ答辯



第八十二條 一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ指書ヲ送り吟味ノ席ニ出ツ可キヲ求メタル時ハ雙方共ニ其書ノ一通ノミノ費用ヲ裁判費用中ニ加フ可シ

○第四章 檢察官ニ報告スル事

第八十三條 左ノ訴訟ハ檢察官ニ報告ス可シ

第一 國ノ安寧ニ管シタル訴訟官府ニ管シタル訴訟官ニ屬シノル土地邑村ニ公舎ニ管シタル訴訟官人ノ為メ公ニナシタル贈遺ニ管セン訴訟

第二 人ノ身上及ヒ後見ノ事ニ管シタル訴訟

第三 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味ヲ受ケルコトヲ拒ム訴訟

第四 致箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中一箇ノ裁判所ニ定ム可キ為メナシタル訴訟裁判役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟裁判役相手方ノ親族ナルニ付キ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル訴訟

第五 裁判役不正ノ裁判ヲ為シタルニ因リ其裁判ヲ取消サントスル訴訟第五百五條

第六 夫ノ許諾ヲ得スシテ為シタル婦ノ訴訟又ハ夫ノ許諾アリト雖モ其婦嫁資分括ノ契約ニテ婚姻ヲ結ビタル時其婦ノ嫁資ニ管シタル訴訟幼者ノ訴訟其他原告又ハ被告ノ一方管財人ノ補佐ヲ受ケル訴訟

第七 失踪ノ思慮ヲ受ケタル者ニ管シタル訴訟 又檢察官其他ノ訴訟ト雖モ已レノ干渉ス可キコトヲ必要ナリト思量スル時ハ其訴訟ノ報告ヲ得ント求ム可シ又裁判所ヨリ其職務ヲ以テ檢察官ニ訴訟ヲ報告ス可キノ言渡ヲ為スコトヲ得可シ

第八十四條 檢察官及其代役ノ共ニ失踪トナリ又ハ故障アル時ハ裁判役中ノ一人又ハ其代役中ノ一人之ニ代ル可シ

第五章 吟味ノ事吟味ノ公ケナル事吟味取締ノ規則

第八十五條 原告被告ハ其代書師ノ助ケヲ得テ自カラ辯論スルコトヲ得可シ然レモ原告又ハ被告ノ心情ニ因リ又ハ其者事故ヲ経サルニ因リ相當ノ禮義ヲ以テ其趣意ヲ述フルコト能ハス又ハ裁判役ノ了知シ得可キ様ニ其意ヲ明白ニ

述ルコト能ハサルヲ裁判所ニテ知リタル時ハ自カラ辯論スルヲ禁スルコトヲ得可シ

第八十六條 雙方共ニ相談ノ為メノミタリトモ在職ノ裁判役檢察官長代言代長檢察官ニ此等ノ名代人ヲシテ縱令掛リ以外ノ裁判所ト雖モ口上又ハ書面ヲ以テ已レノ訴訟ヲ助ケシムルコトヲ任ス可カラス然レモ此等ノ官吏共ニ其各代人ハ何レノ裁判所ニ於テモ已レノ身ニ管シタル訴訟其婦ニ管シタル訴訟宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ管シタル訴訟其後見ヲ為ス幼者ニ管シタル訴訟ヲ為シテ自カラ辯論スルコトヲ得可シ

第八十七條 雙方ノ辯論ハ別段法律ニテ陰密ニ為ス可キコトヲ定メタル場合ノ外之ヲ公ケニ為ス可シ○然レモ公ケニ辯論ヲ為ス時ハ甚シキ恥辱又ハ不都合ヲ生ス可キニ於テハ陰密ニ辯論ス可キコトヲ裁判所ヨリ言渡スコトヲ得可シ然レモ其言渡ヲ為サントスルニハ裁判役等評議ヲ為シ其評議ノ旨ヲ控訴院ノ檢察官ニ告知ス可シ又控訴院ニ為シタル訴訟ノ時ハ之ヲ裁判事務宰相ニ告知ス可シ

第八十八條 吟味ノ席ニ出ツル者ハ皆帽ヲ脱シ裁判所ヲ敬禮シテ靜然シ且總テ裁判所ノ上席人ヨリ喧嘩ヲ禁ズ可キ為メ言渡シタル諸事ハ直ニ之ヲ細密ニ遵守ス可シ 裁判所以外ノ地ニテ裁判役又ハ檢察官ノ職務ヲ行フ場所ニ於テモ亦此規則ヲ適用フ可シ

第八十九條 原告被告ノ互ニ辯論スル時又ハ裁判役及ヒ檢察官ノ言詞ヲ述フル時又ハ裁判所ノ上席人掛リ裁判役及ヒ檢察官糾謫責命今ヲ為ス時又ハ裁判役ノ言渡ヲ為ス時ニ當リ安ニ言語ヲ發シ又ハ責備及ヒ誹謗ヲ為シ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス喧嘩スル者使吏ノ謹責ヲ受ケ猶止メサル時ハ吟味ノ席ヲ退ク可キコトヲ命シ若シ其命ニ從ハサル時ハ之ヲ捕ヘテ直ニ二十四時間裁判所附屬ノ獄舎ニ繋ク可シ但シ獄舎ニ於テハ吟味ノ調書ニ記シタル裁判所上席人ノ命令書ヲ視タル上其犯人ヲ受取ル可シ

第九十條 若シ裁判所ニテ職務ヲ行フ者其喧嘩ヲ為シタル時ハ前條ニ記シタル罰ノ外定期ノ時間其職ヲ罷メラル可シ但シ初犯ニ付テハ其定期三月ニ過ク可カラス○其言渡ハ前條ノ場合ニ等シク假ニ之ヲ執行フ可シ

第九十一條 裁判役又ハ其他裁判所ノ官吏ニ其職務ヲ行フニ當リ之ニ不敬ヲ加ヘ又ハ切迫シタル者ハ裁判所ノ上



席人及ヒ掛リ裁判役又ハ檢事ノ命ニテ之ヲ捕ヘ直チニ裁判所附属ノ獄舎ニ繋キテ二十四時間ニ吟味ヲ為シ裁判所ニテ其罰犯ヲ證スル調書ヲ視タル上一月ニ過キサル時間之ヲ禁錮ノ刑ニ處シ且二十五アランクヨリ少カラス三百アランクヨリ多カラサル罰金ヲ言渡ス可シ 若シ其犯人ヲ直チニ捕フルルハサハサル時ハ裁判所ヨリ二十四時間ニ其者ニ付キ前ニ記シタル罰金言渡ス可シ但シ其者十日内ニ自力ヲ出訴シテ獄舎ニ入ル時ハ其罰ノ言渡シニ付キ故障ヲ送フルルヲ得可シ

第九十二條 若シ其罪施雖又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キモノタル時ハ其犯人ヲ捕ヘテ刑法裁判所ニ送リ治罪法ニ定メタル規則ニ依ヒ其罪ヲ訴ヘ之ヲ罰ス可シ

第六章 裁判役ノ評議及ヒ書面ニ因テ吟味ヲ為ス事

第九十三條 裁判所ヨリ原告人及ヒ被告人ニ證書類ヲ出ス可キト掛リ裁判役一人ノ申立ノ上其證書ニ因リ裁判役等ヲシテ評議ヲ為サシム可キトノ言渡ヲ為ス可キ得可シ但シ其言渡書ニハ掛リ裁判役ノ申立ヲ為ス可キ期日ヲ記入可シト申シ候可シ

第九十四條 原告被告雙方ノ者及ヒ其代書師ハ前條ノ言渡書ノ寫ヲ得テ互ニ之ヲ送達スル事及ヒ別致招書ヲ送ル事ノ手續ヲ行フニ及ハスシテ其言渡シノ如ク執行ヲ可シ若シ一方ノ者證書類ヲ出サミル時ハ他ノ一方ヨリ出シタル證書類ノミニ據リ其訴訟ヲ裁判ス可シ

第九十五條 雙方ノ評議又ハ證書ノ評議ノミニテ訴訟ヲ裁判スルコトヲ得サル模様アル時ハ掛リ裁判役一人ヲシテ裁判所ニ申立ヲ為サシメタル上書面ニ因テ其吟味ヲナス可キトノ言渡ス可シ 此言渡ハ必ス吟味ノ席ニテ裁判役ノ可トスル者ノ數多キ時ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス

第九十六條 原告人ハ其言渡書ヲ被告人ニ送達シタルヨリ十五日内ニ已レノ訴ヲ為ス憑據ヲ記シタル願書或ハ調書或ハ被告ノ人ニ送達ス可シ但シ其願書ノ紙尾ニ已レノ證書類ノ目録ヲ附記ス可シ 原告人ハ其願書ヲ送達シタルヨリ二十四時間ニ已レノ證書類ヲ裁判所ノ書記局ニ出シ且之ヲ出シタルニ付キ被告人ノ證書類モ亦之ヲ出

訴訟法 第六十

ス可キトノ要ハル書ヲ被告人ニ送達ス可シ

第九十七條 原告人ノ證書類ヲ書記局ニ出シタルヨリ十五日内ニ被告人書記局ニ至リ原告人ノ證書類ヲ受取リ且已レノ證書類ノ目録ヲ附記シタル答辯書或ハ願書或ハ調書ヲ原告人ニ送達シ其送達ノ時ヨリ二十四時間ニ原告人ノ證書類ヲ書記局ニ送シテ已レノ證書類ヲ出シ且之ヲ出シタル旨ヲ記シタル書ヲ原告人ニ送達ス可シ 被告人數人アリテ其權利及ヒ代書師ノ各異ナリタル時ハ被告人書記局ヨリ原告人ノ證書類ヲ受取リ其答辯書ヲ送達シ且已レノ證書類ヲ書記局ニ出ス可キ各前ニ定メタル期限ヲ得可シ但シ原告人ノ證書類ハ被告人中ノ最モ先ニ之ヲ要ムル者ヲ初トシ相次テ其他ノ者受取ル可シ

第九十八條 若シ原告人前ニ定メタル期限内ニ已レノ證書類ヲ書記局ニ出サミル時ハ被告人ヨリ前條記シタル如ク已レノ證書類ヲ書記局ニ出シ原告人ハ八日以内ニ被告人ノ證書類ヲ書記局ヨリ受取テ其故障ヲ述フ可シ但シ原告人其期限ヲ過コス時ハ被告人ノ出シタル證書ノミニ據リ裁判ヲ為ス可シ

第九十九條 若シ被告人定期内ニ已レノ證書類ヲ出サミル時ハ原告人ノ出シタル證書ノミニ據リ裁判ヲ為ス可シ 第一百條 被告人數人アリテ原告人ノ出シタル證書類ヲ定期内ニ受取ル者一人モアラサル時ハ原告人ノ出シタル證書ノミニ據リ裁判ヲ為ス可シ

第一百一條 被告人數人アル時原告人已レノ證書類ヲ出サミルニ於テハ其數人中何レノ人ニ限ラス先ツ已レノ證書類ヲ書記局ニ出シ前ニ記シタル如ク吟味ヲ得ルノ手續ヲ為ス可シ

第一百二條 原告人又ハ被告人ノ一方ニテ更ニ證書類ヲ出サント欲スル時ハ之ヲ書記局ニ出シ其證書類ヲ出シタル旨ヲ記シタル書ニ其證書類ノ目録ヲ附記シ之ヲ相手方ノ代書師ニ送達ス可シ但シ此場合ニ於テハ更ニ願書及

其他ノ書類ヲ相手方ニ送達スルコトナカル可シ若シ之ヲ送達シタル時ハ縱令更ニ出シタル證書類ノ目録ニ添テ以前ト異リタル憑據ヲ附記シタルト雖モ此等ノ書類ノ費用ヲ裁判所費用中ニ加フ可カラス

第一百三條 更ニ出シタル證書類ハ相手方ニテ八日以内ニ書記局ヨリ之ヲ受取リ已レノ答辯書ヲ送達ス可シ但シ其



答辯書ハ六葉ニ過ク可カラス

第四百四條 雙方ノ代言人ハ訴ヲ為スノ憑據ヲ記タル願書、答辯書並其他ノ書類ノ正本副本及證書類ヲ書記局ニ出セ

旨ヲ記タル書ニ其葉數ヲ記シ可シ若シ之ヲ記セサル時ハ此等ノ書類ノ費用ヲ裁判所費用中ニ加フ可カラス

第四百五條 此章ニ記シタル以外ノ書類ノ費用ハ裁判所費用中ニ加フ可カラス

第四百六條 原告人又ハ被告人ノ書記局ニ出シタル證書類ヲ相手方ニテ受取ルニハ代書師ヨリ其受取シ月日ヲ記シタル受取書ヲ書記局ニ出ス可シ

第四百七條 若シ一方代書師相手方ノ出シタル證書類ヲ受取り之ヲ前ニ記シタル定期内ニ書記局ニ送サミル時ハ書記官ノ受合書ト相手方ノ代書師ヨリノ招書トニ因リ其證書類ヲ書記局ニ送シテ裁判ノ費用ヲ償ヒ且其遲延シタル一日毎二十フランクノ償ヲ相手方本人ニ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ其言渡ハ其代書師ノ一身ニ受クル所ニシテ且之ヲ控訴ス可カラス 其代書師共言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ八日內ニ猶相手方ノ證書類ヲ書記局ニ送サミル時ハ裁判所ヨリ其代書師ニ前ニ記タルヨリ更ニ多數ノ償額ヲ出サシメ又ハ之ヲ禁錮シ且相當ト思量スル時間其職務ヲ行フヲ禁スル言渡ヲナスコトヲ得可シ但シ其代書師ハ其言渡ヲ控訴ス可カラス 相手方本人此等ノ言渡ヲ得ントスルニハ必ス別ニ代書師ヲ任スルニ及ハス唯裁判所ノ上席人又ハ掛リ裁判役又ハ檢事ニ其言渡ヲ得ント求ムル書ヲ自カラ出スノミヲ以テ足レリトス

第四百八條 書記局ニハ一箇簿冊ヲ設ケ置キ原告被告ノ證書類ヲ出シタル順序ヲ以テ其出シタル證書類ヲ寫取ル可シ又其簿冊ハ直線ヲ畫シテ之ヲ區分シ其各部ニ證書ヲ出シタル日附、原告被告双方ノ姓名、其代書師ノ姓名、掛リ裁判役ノ姓名ヲ記ス可シ但シ其區分シタル中其一部ヲ空格ニ為シ置ク可シ

第四百九條 原告被告共ニ其證書類ヲ出シタル時又ハ前ニ記シタル定期ノ終リシ後ハ書記官先ニ願出ル者ノ求メニ從ヒ其證書類ヲ掛リ裁判役ニ渡シテ其裁判所簿冊ノ空格ノ部ニ己レノ姓名ヲ手書シ其證書ヲ預ル可シ

第四百十條 掛リ裁判役ノ死去シ又ハ其職ヲ退キ又ハ申立ヲ為スコト結ハサル時ハ原告人ノ願ニ因リ裁判所上席人

ノ言渡ニテ更ニ掛リ裁判役ヲ任シ且其裁判役ヲ任シタル日ヨリ少クモ三日前ニ被告人又ハ其代書師ニ報知ス可シ

第四百十一條 總テ掛リ裁判役ノ申立ハ裁判役評議ノ為メト雖モ其旨ハ吟味ノ席ニテ之ヲ為ス可ク且申立ヲ為ス掛リ裁判役ハ己レノ説ヲ述フルコトナク其事情ト雙方ノ憑據トスル所トヲ酌量ニ從フ可シ又原告被告及ヒ其代書師ハ如何ナル口實アリト雖モ掛リ裁判役ノ申立ノ後辯論ヲ為ス可カラズ唯掛リ裁判役ノ申立中ニテ充足セス又ハ正シカラスト思フ箇條ヲ聲明スル覺書ヲ直チニ裁判所ノ上席人ニ出スコトヲ得可シ

第四百十二條 訴訟ヲ檢事ニ報知ス可キ場合ニ於テハ吟味ノ席ニテ其檢事ノ説ヲ聽ク可シ

第四百十三條 原告人又ハ被告人ノ一方ニテ證書ヲ出スコトナク他ノ一方ノ證書ノミニ據リ裁判ヲ言渡シタル時ハ其證書ヲ出サ、ル者其裁判ノ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四百十四條 裁判言渡ノ後掛リ裁判役ハ訟書類ヲ書記局ニ送シ之ヲ送シタル證トシテ當テ簿冊ニ手書シタル姓名ヲ塗抹ス可シ

第四百十五條 代書師ハ訟書類ヲ書記局ヨリ取戻ス時簿冊ノ端ニ其姓名ヲ手書ス可シ但シ代書師ノ姓名ノ手書ハ書記官其訟書類ヲ送シタルノ證トス可シ

○第七章 裁判言渡ノ事

第四百十六條 裁判ハ裁判役中可トスル者ノ數多キニ從ヒ即時ニ之ヲ為ス可シ然レ裁判役ハ言渡ヲ為ス前ニ其會議ノ室ニ退キテ評議ヲ為シ又ハ後ノ吟味ノ日迄裁判ノ言渡ヲ延ハスコトヲ得可シ

第四百十七條 裁判役中其説ノ二箇以上ニ分ル時ハ最モ多數ノ説ノ裁判役多數ノ説ノ裁判役中ノ一方ニ合同ス可シ然レ多數ノ説ヲ再ヒ算ヘタル後ニ非レハ必シモ合同スルニ及ハス

第四百十八條 可トスル者ノ數ト非トスル者ノ數ト均シキ時ハ別ニ裁判役一員ヲ呼ビ別ニ裁判役アラサル時ハ裁判役ノ代員ヲ呼ビ又裁判役ノ代員アラサル時ハ其裁判所附屬ノ代言人一員ヲ呼ビ代言人アラサル時ハ代書師一員



ヲ呼ビ再ヒ吟味ヲ爲ス可シ但シ此等ノ者ハ其任ヲ受ケタル順序ニ從ヒ之ヲ呼フ可シ

第百十九條 裁判所ヨリ原告及ヒ被告ニ其代書師ヲ出サス自カラ出席ス可キヲ言渡ス時ハ其出席ス可キ日ヲ言渡書ニ記ス可シ第十五條ニ記スル

第百二十條 指ヲ爲ス可ノ言渡書ニハ其指ヲ爲ス可キ事柄ヲ記ス可シ

第百二十一條 指ハ本人自カラ吟味ノ席ニテ之ヲ爲ス可シ○相當ニシテ且確証アル故障アリテ本人出席スルヲ能ハサル時ハ裁判所ヨリ特ニ任シタル裁判役書記官ト共ニ其家ニ至リ已レノ面前ニテ指ヲ爲サシム可シ 指ヲ爲ス可キ者隔遠ノ地ニ居ル時ハ其訴訟ヲ管スル裁判所ヨリ其居所ノ裁判所ニ於テ指ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ 何レノ場合ニ於テモ指ハ相手方ノ面前ニテ之ヲ爲シ又ハ已レノ代書師ヲシテ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ相手方ヲ呼出シタル上ニテ之ヲ爲シ又相手方代書師ヲ任シタルヲナキ時ハ指ヲ爲ス可キ日ヲ記シタル呼出書ヲ送り相手方呼出シタル上ニテ之ヲ爲ス可シ

第百二十二條 裁判所ヨリ其裁判言渡ヲ執行フニ付キ猶豫ノ期限ヲ許スフヲ得可キ場合ニ於テハ其裁判言渡書ヲ以テ其猶豫ヲ許ス可シ但シ其言渡書ニハ猶豫ヲ許スノ趣意ヲ附記ス可シ

第百二十三條 其猶豫ノ期限ハ原告被告雙方ノ面前ニテ裁判言渡シタル時ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ算ヘ又一方ノ者抗辯シテ言渡シタル時ハ其言渡書ヲ送達シタル日ヨリ之ヲ算フ可シ

第百二十四條 負債者ノ相手方ニ非サル債主ノ要メニ因リ其負債者ノ財産ヲ賣拂フタル時又ハ其負債者家資分散ヲ爲シタル時又ハ其者抗辯シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル時又ハ其負債者禁錮セラレタル時又ハ負債者曾テ契約書ヲ以テ債主ニ拘ヒシ保證ノ額ヲ減シタル時ハ其負債者裁判言渡ヲ執行フノ猶豫ヲ得可カラズ然レモ其猶豫ヲ得タリト雖モ其効ナカル可シ

第百二十五條 負債者裁判執行ノ猶豫ヲ得タル時ト雖モ原告人ハ已レノ權利ヲ保全スル爲メノ所置ハ其効アルモノトス可シ

訴訟法 十二

第百二十六條 被告人ヲ禁錮スルノ刑段法律上ニ因リ定メタル場合ニ非レハ之ヲ言渡ス可ラス然レモ左件ニ付テハ裁判役ノ意ヲ以テ禁錮ヲ言渡スフヲ得可シ

第一 民事ニ管シテ三百フラン以上債額ヲ出サシムルヲ

第二 後見人及ヒ管財人ノ算計ノ殘額會社及ヒ公舎ノ支配又ハ總テ裁判所ヨリ任シタル財産支配ノ算計ノ殘額ヲ選サシムル事

第百二十七條 裁判役ハ前條ノ場合ニ於テ禁錮ノ言渡ノ如ク執行フフヲ已レノ定メタル時間猶豫ス可キ言渡ヲ爲スフヲ得可シ但シ其猶豫ノ時間後ニ至リテハ再ヒ言渡ヲ爲スフヲナク直ニ之ヲ禁錮ス可シ○其猶豫ハ訴訟ノ裁判言渡書ヲ以テ之ヲ許ス可シ且其言渡書ニ猶豫ヲ許スノ趣意ヲ附記ス可シ

第百二十八條 一方ノ者其相手方ニ債額ヲ拂フ可キ言渡書ニハ其額ヲ定メテ之ヲ附記シ又ハ相手方箇條書ヲ以テ其額ヲ定ム可キヲ附記ス可シ

第百二十九條 土地ノ收納物ヲ償還ス可キ言渡書ニハ最終ノ一年ニ付テハ物品ノ儘ヲ以テ償還ス可キヲ附記シ其前年ニ付テハ本年ノ買山ト其收納物ノ通債トニ注意シテ且其最近ノ地ノ市場ノ數年間ノ相場書ニ從ヒ其價ヲ備フ可キヲ附記シ若シ其相場書ノアラサル時ハ評價人ノ說ニ從ヒ之ヲ償フ可キヲ附記ス可シ○若シ最終ノ一年ノ收納物ヲ物品ノ儘ヲ償還スルヲ能ハサル時ハ前年ノ如ク償フ以テ之ヲ償フ可シ

第百三十條 總テ負訴訟ノ者ハ裁判ノ費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

第百三十一條 然レ夫婿ノ間又ハ半屬ノ親ト尊屬ノ親トノ間又ハ兄弟姉妹ノ間又ハ之レト同級ノ姻屬ノ親ノ間ニ於テハ裁判費用ノ全部又ハ一部ヲ互ニ消殺スルヲ得可シ又原告被告互ニ負訴訟ノ箇條アル時ハ裁判役ヨリ其裁判費用ノ全部又ハ一部ヲ互ニ消殺セシムルヲ得可シ

第百三十二條 代書師使吏其職限外ノ事ヲ爲シタル時及ヒ後見人管財人又ハ遺物ノ額ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル持債アル相続人又ハ其他財産ヲ支配スル者其財産ノ損害トナル可キ事ヲ爲シタル時ハ此等ノ者一身ノ名義ニ



テ裁判費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受テ且本人ニ債額ヲ拂フ可キ道理アル時ハ之ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受テ可シ但シ其時ノ模様ニ因リ代書師及ヒ使吏ハ定期ノ時間其職ヲ行フノ禁ヲ受テ又後見人及ヒ其他ノ者ハ其職任ヲ退ク可キノ言渡ヲ受テ可シ

第百三十三條 充許訟ノ代書師普テ其本人ノ為メ多數ノ金額ヲ前掛トナシ置キタルヲ裁判言渡ノ時證スル時ハ相手方ヨリ出ス可キ費用ノ償ヲ本人ニ渡サスシテ已レノ方ニ受取ル可キヲ求メテ得可シ○其代書師ニ其費用ノ償ヲ渡ス可キヲハ訴訟ノ裁判言渡書ヲ以テ之ヲ渡ス可シ但シ此場合ニ於テハ其代書師自己ノ名目ニテ相手方ヨリ其費用ノ償ヲ得ント求メ且裁判所ヨリ其言渡ノ如ク執行フ可キノ書ヲ受クルヲ得可シ若シ又其實用債ノ事ニ付キ代書師其本人ニ對シ訴訟ヲ爲ス可キノ道理アル時ハ別ニ之ヲ爲スヲ得可シ○  
第百三十四條 若シ至タル訴訟ニ添ヘ微ノ處置ニ付テノ訴訟ヲ爲シ且假ノ處置ニ付テノ訴訟ト至タル訴訟トヲ共ニ裁判シ得可キ手續ニ至リシ時ハ裁判役其二箇ノ訴訟ヲ共ニ裁決シテ一箇ノ言渡書ヲ記ス可シ  
第百三十五條 保證人ヲ立ルヲナク假ニ言渡ノ如ク執行フハ公正ノ證書及ヒ一方ノ者ノ許認シタル約束書アル時又ハ既ニ裁判ノ言渡ヲ受テ之ヲ控訴セサル時之ヲ言渡ス可シ 左件ニ於テハ假ニ言渡ノ如ク執行フニ付キ保證人ヲ立テ又ハ保證人ヲ立ルニ及ハサル言渡ヲ爲スヲ自由ナリトス

第一 封印ヲ爲ス事及ヒ之ヲ除ク事又ハ目錄ヲ記スル事

第二 至急ナル家屋ノ補理

第三 土地家屋等ノ借受ノ證書ナキ時又ハ其借受ケノ證書ノ期限ノ終リシ時其借主ヲ其土地又ハ家屋ヨリ退出セシムル事

第四 雙方互ニ相争フ物件ノ附托ヲ受クル者及ヒ負債者ノ財産ヲ抵償トシテ差押ヘタル時之ヲ預カル者

第五 保證人及ヒ保證人ヲ更ニ保證スル者ヲ承諾スル事

第六 後見人管財人及ヒ其他財産ノ支配人ヲ任スル事及ヒ此等ノ者ヨリ其選ヲ爲ナシムル事

第七 糞料

第百三十六條 若シ裁判役言渡ノ如ク假ニ執行フ可キヲ言渡サル時ハ其裁判所ニテ後ニ之ヲ言渡スヲ得ス但シ原告人又ハ被告入ハ控訴シテ假ニ之ヲ執行フ可キノ願ヲ爲スヲ得可シ

第百三十七條 裁判ノ費用ハ負訴訟ノ者債額ニ代ヘ之ヲ出ス可キノ言渡アル時ト雖モ其言渡ノ如ク假ニ之ヲ執行フ可カラズ

第百三十八條 裁判所ノ上席人及ヒ書記官ハ言渡アル毎ニ直十ニ其言渡書ノ正本ヲ記シテ姓名ヲ手署ス可シ又其言渡書ヲ記シタル聽訟ノ簿冊ノ端ニ其裁判言渡ニ出席シタル裁判役及ヒ檢事ノ姓名ヲ附記シ之ヲ附記シタル部  
分ニモ亦上席人及ヒ書記官其姓名ヲ手署ス可シ

第百三十九條 若シ書記官前條ニ記シタル如ク姓名ノ手署ヲ爲サハル前ニ裁判言渡書ノ寫ヲ原告人又ハ被告人ニ渡シタル時ハ賈造者ナリトシテ訴訟ヲ受テ可シ

第百四十條 檢事長及ヒ檢事ハ毎月言渡書ノ正本ヲ規テ前條ノ規則ヲ行フタルヤ否ヤヲ検査シ若シ規則ニ背キタルアル時ハ其事ヲ調書ニ記シテ相當ノ處置ヲ爲ス可シ

第百四十一條 裁判言渡書ニハ裁判役并ニ檢事ノ姓名及ヒ代書師ノ姓名原告及ヒ被告ノ姓名職業居所雙方論辨ノ趣意訴訟ノ事柄并ニ其事柄ニ法律ヲ當テ用フル箇條言渡ヲ爲スノ趣意及ヒ言渡ノ條件ヲ記ス可シ

第百四十二條 其裁判言渡書ハ原告及ヒ被告ノ雙方互ニ送達シタル身元書ニ記テ之ヲ記ス可シ故ニ雙方出席ノ上ノ裁判言渡書一通ヲ得ント欲スル者ハ雙方ノ姓名職業居所論辨ノ趣意訴訟ノ事柄及ヒ其事柄ニ法律ヲ當テ用フル箇條ヲ記セシ身元書ヲ相手方ノ代書師ニ送達ス可シ

第百四十三條 其身元書ノ正本ハ吟味掛リノ使吏二十四時間預リ置テ可シ

第百四十四條 相手方ノ代書師身元書ハ此條ニ記スル身元書ノ字數ニ付キ故障ヲ述ヘ又ハ訴訟ノ事柄并ニ其事柄ニ法律ヲ當テ用フル箇條ニ付キ故障ヲ述ヘント欲スル時ハ之ヲ使吏ニ述ヘ使吏其旨ヲ附記ス可シ



第四百十五條 一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送達シテ之ヲ呼出シタル上裁判所ノ上席人前條ニ記シタル故障ノ申述ヲ裁決ス可シ若シ上席人差支アルニ於テハ裁判役中ニテ最モ先ニ任ヲ受ケタル者之ヲ裁決ス可シ

第四百十六條 裁判言渡書ノ寫ノ首尾ニハ佛蘭西共和政治立國第十二年プロレル月ノ憲法ヲ以テ定メタル所ノ文詞ヲ記ス可シ之ヲ命ケテ裁判言渡ノ如ク執行

第四百十七條 總テ裁判所ノ言渡書ノ寫ハ之ヲ相手方ノ代書師ニ送達シタル上ニ非レハ其言渡ノ如ク執行ヲ可カラズ若シ此規則ニ背ク時ハ其言渡ノ効ナカル可シ又假ノ言渡ト確定ノ言渡トヲ問ハズ相手方ノ負訴訟トナル言渡書ノ寫ハ相手方ノ代書師ノミニ非ス亦其本人又ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ但シ其寫ニ代書師ニハ別ニ同上ノ寫ヲ送達シタル旨ヲ附記ス可シ

第四百十八條 代書師既ニ死去シ又ハ其職務ヲ行フヲ止メシ時ハ本人ニ言渡書ノ寫ヲ送達シタルヲ以テ足レリトス然レ共寫ニハ代書師ノ死去シタルヲ又ハ其職務ヲ止タルヲ附記ス可シ

○第八章 原告又ハ被告ノ一方抗傳シタル儘ニテ裁判ヲ言渡ス事及ヒ其言渡ニ付キ故障ヲ述フル事  
第四百十九條 若シ被告入代書師ヲ任スルヲナク又ハ其任シタル代書師吟味ノ爲メ定メタル日ニ出席セサル時ハ被告入ノ抗傳者タルヲ言渡ス可シ

第四百五十條 被告入ノ抗傳者ナクト言渡スルハ吟味ノ席ニテ使吏被告入并ニ代書師ノ姓名書ヲ讀ミ上ケタル上之ヲ爲ス可シ○此時原告入ノ訴フル所正シク且確證アリト見ユル時ハ其訟フル所ヲ許ス言渡ヲ爲ス可シ然レ裁判役ハ次ノ吟味ノ日其言渡ヲ爲ス可キ爲メ原告人ニ其證書類ヲ書記局ニ出ス可キヲ命スルヲ得可シ

第四百五十一條 一箇ノ訴訟ニ付キ被告入數人呼出ヲ受ケ其代書師ヲ任スル期日及ヒ其代書師ノ出席ス可キ期日ノ各異ナル時ハ其中ニテ最後ノ猶豫ノ期限ヲ得タル者其期日ニ至リ猶代書師ヲ任スルヲナク又ハ之ヲ任シタリト雖モ其出席ヲ爲サル時ニ非レハ何レノ被告入ニ付テモ抗傳ノ言渡ヲ爲ス可カラズ

第四百五十二條 抗傳ノ言渡ヲ受クル被告入數人ハ共ニ其言渡ヲ受ク可シ若シ原告入ノ代書師ノ求メニ因リ被告入各自ニ付キ抗傳ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其各自ノ言渡ノ費用ヲ裁判所費用中ニ加フ可カラズ其原告入ノ代書師自カラ之ヲ擔當ス可ク原告入ヨリ之ヲ取返ス可カラズ

第四百五十三條 被告入二人以上呼出ヲ受ケ其中抗傳ヲ爲ス者ト抗傳ヲ爲サル者トアル時ハ其抗傳ヲ爲ス者代書師ヲ任シ又ハ其代書師出席ヲ爲ニ至ル迄暫ク其裁判ヲ猶豫ス可キ言渡ヲ爲シ其言渡書ヲ別段任ヲ受ケシ使吏ヨリ抗傳者ニ送達ス可シ但シ其言渡シ書ニハ後ノ期日ニ至リ代書師ヲ任ス可キヲ又ハ代書師ノ出席ヲ爲ス可キヲ附記ス可シ○其日ニ至リシ時ハ訴訟ノ裁判ヲ爲シテ共ニ一箇ノ言渡書ヲ渡ス可シ但シ其時ニ至リ以前ノ抗傳者猶代書師ヲ任セス又ハ代書師ノ出席セサル時ハ其抗傳者後ニ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス

第四百五十四條 被告入ハ代書師ヲ任シタル上ニテ已レノ答辯書<sup>第七十七條</sup>出スヲナク其代書師ヲ任シテ原告入ノ代書師ニ招書所送ラジメ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ求メ其代書師猶ホ出席セサル時ハ被告入原告入ノ抗傳者タル言渡ヲ受クルヲ得可シ

第四百五十五條 被告入代書師ヲ任シ其代書師出席スト雖モ論辨ヲ爲サルニ因リ其被告入抗傳者トナリタル時ニ爲シタル裁判言渡ハ其代書師ニ其言渡書ヲ送達シタルヨリ八日ノ期限内ニ之ヲ執行フ可カラズ又代書師ヲ任シ其代書師出席セサル時ハ本人又ハ其住所ニ之ヲ送達シタルヨリ八日ノ期限内ニ之ヲ執行フ可カラズ但シ第四百三十五條記シタル如ク至急ノ場合ニ於テ八日ノ期限内ニ其裁判執行ヲ別段言渡シタル時ハ格別ナリトス 又裁判役其裁判執行ヲ遲延スルニ付キ損害アル可シト思量スルニ於テハ保證人ノ有無ヲ問ハズ故障ノ申述ニ管スルヲナク假ニ其執行ヲ爲スヲ言渡スヲ得可シ但シ其言渡ハ裁判言渡書ニ附記ス可シ

第四百五十六條 被告入代書師ヲ任セサル時ノ裁判言渡書ハ裁判所ヨリ任シタル使吏又ハ裁判所ヨリ特ニ定メタル被告入住所ノ裁判役一人ノ任セシ使吏之ヲ送達ス可シ又原告入ハ其言渡書ヲ得タル日ヨリ六月内ニ其言渡ノ如ク執行フ可ク若シ然ラサル時ハ其言渡書ヲ得タルヲナシト看做ス可シ



第五百五十七條 被告人ノ代書師出席ヲ爲サズ又ハ出席ヲ爲スト雖モ論辯ヲ爲サスシテ被告人抗傳者トナリテ裁判  
言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡書ヲ代書師ニ送達シタル日ヨリ八日以内ニ非レハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ許ス  
第五百五十八條 被告人代書師ヲ任セシテ抗傳者トナリ裁判言渡受ケタリ時其裁判執行至延滞間故障ヲ述フルコトヲ許ス  
第五百五十九條 代書師ヲ任セサル被告人ノ動産抵債トシテ差押之責擔又ハ其被告人禁錮シ又ハ以前ヨリ禁錮セラ  
タルヲ更ニ改メテ禁錮シ又ハ其不動産一箇又數箇抵債トシテ差押セテ被告人報知又被告人自カラ裁判費用拂又被告人  
裁判執行了知シテ分明ナル所爲ヲナシタル時其裁判言渡既ニ執行ヲタルト看做ス可シ然レ前數條ニ記シタ  
ル決定内後數條ニ記スル法式ニ備ヒ其裁判言渡ノ故障ヲ述フル時ハ其執行ヲ止ム可シ但シ故障ヲ申述フルニ管  
セズ假ニ其裁判言渡ノ如ク執行ヲ可トコト言渡シタル時ハ格別ナリトス

第五百六十條 被告人ノ代書師出席セズ又ハ出席スト雖モ論辯ヲ爲サスシテ被告人抗傳者トナリ裁判言渡ヲ受ケタ  
ル時ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ裁判言渡ヘノ願書ヲ送達シテ其故障ヲ述フ可シ

第五百六十一條 其願書ニハ裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル憑據ヲ記ス可シ但シ其裁判言渡ノ前既ニ被告人ノ答辯書  
ヲ送達シ置キタル時ハ其答辯書ヲ故障ヲ述フル憑據トシテ用ヒントスルコトヲ記スルノミニテ足レリトス此法式  
ニ背キタル故障申述ノ書ハ裁判ノ執行ヲ止ムルコトヲ得ス且原告人ノ代書師ハ被告人ノ代書師ニ答書ヲ送ルノ  
ニテ其他訴訟ノ手續トク其故障申述ノ書ヲ却還スルコトヲ得可シ

第五百六十二條 被告代書師ヲ任セシテ抗傳者トナリ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ手續ヲ經サル書ヲ以テ  
故障ヲ述又ハ負債ヲ拂フ可キ要決ノ書財產ノ抵債又ハ禁錮ノ請書又ハ其他總テ裁判執行ヲ命スル書ニ故障ノ旨  
趣ヲ附記シテ其故障ヲ述フルコトヲ得可シ但シ故障ヲ述フル者ハ其後八日以内ニ必ス代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ  
故障ヲ述フル願書ヲ更ニ出サシム可ク若シ其八日ノ期限ヲ過シタル後ハ故障ヲ述フルコトヲ許サズ原告人別ニ裁  
判執行ヲ得スシテ其執行ヲ繼キ爲ス可シ 被告人代書師任セシテ抗傳者トナリ裁判言渡ヲ受ケタル時原告  
人ノ代書師死去シ又ハ其職務ヲ行フコトヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ更ニ代書師ヲ任シタルコトヲ被告人

訴訟法 十五

ニ報知ス可シ但シ被告人ハ其送達ヲ得タル時ヨリ八日ノ期限内ニ代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ述フル願  
書ヲ更ニ出サシム可シ 何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判言渡ニ付キ一度故障ヲ述フルノ願書ヲ送  
達シタル後更ニ出シタル故障申述ノ憑據ヲ記スル書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラズ  
第五百六十三條 裁判所ノ書記局ニ簿冊ヲ設ケ置キ故障ヲ述フル者ノ代書師其簿冊ニ被告人ノ姓名並ニ己レノ姓名  
裁判言渡書及ヒ故障申述書ノ日附ト其申述ノ日附トヲ簡略ニ記ス可シ但シ其記シタル書ノ寫ヲ受取リタル時ニ  
非レハ其記録稅ヲ出スニ及ハス  
第五百六十四條 原告人又ハ被告中一方ノ者抗傳者トナリテ言渡サレタル裁判ヲ其訴訟ニ管セサル者ニ對シ執行ハ  
ントスル時ハ書記局ノ簿冊ニ故障申述ノ書ヲ記シタルコトヲナキ旨ヲ証シタル書記官ノ請合書ヲ渡スコトヲ必要トス  
第五百六十五條 一度差出シタル故障申述ノ書ヲ卻還スル言渡ニ付テハ更ニ故障ヲ申述フルコトヲ許サズ

辻 士 革 校

佛蘭西 訴訟法 一 終  
法律書



○第九章 訴訟ノ故障ヲ述フル事

○第一卷 外國人ノ立ツ可キ保證ノ事

第百六十六條 總テ外國人ハ主タル原告タルト原告ノ訴訟ヲ助クル者タルト問ハス被告ノ人ヨリノ要ヲ受クルニ於テハ總テ訴訟ノ故障ヲ述フル前ニ裁判所ノ費用及ビ被告ノ人ニ損失ノ債ヲ拂フ可キノ旨液ヲ受ケタル時之ヲ拂フ可キノ保證人ヲ立ツ可シ

第百六十七條 保證人ヲ立ツ可キ旨液當ニ幾許ノ金高ニ至ル迄其保證人ヲ立ツ可キヤヲ定ム可シ但シ外國人其金高ヲ官署ニ預ケ又ハ佛蘭西國內ニ於テ所有スル其不動産ヲ以テ保證ニ充ツルニ十分ナルヲ證スル時ハ別ニ保證人ヲ立ツルニ及ハス

○第二卷 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味ヲ受ケタルニ故障ヲ述ル事

第百六十八條 被告人訴訟ヲ管轄ス可キノ非サル裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ管轄ノ裁判所ニ出ントスルノ訴ヲ為スヲ得可シ

第百六十九條 其被告人ハ訴訟ヲ受ケルニ付テノ其他ノ故障ヲ述ヘ及ヒ答辨ヲ為ス前ニ前條ノ訴ヲ為ス可シ  
第百七十條 然レ訴訟ノ事柄ニ付キ被告人其呼出ヲ受ケシ裁判所ノ管轄ヲ受ケ可ラサルニ於テハ訴訟ヲ為シ始メタル後何レノ時ト雖モ管轄ノ裁判所ニ出ント訴フルヲ得可シ若シ本人之ヲ求メナル時ハ裁判所ノ職務ヲ以テ管轄ノ裁判所ニ出ツ可キヲ旨液ス可シ

第百七十一條 甲ノ裁判所ニ訴出シタル事柄ニ付キ既ニ乙ノ裁判所ニテ訴訟アル時又ハ甲ノ裁判所ニ訴出シタル事柄乙ノ裁判所ニテ現ニ為ス訴訟ノ事柄ニ附帯シタル時ハ乙ノ裁判所ニ出テ訴訟ヲ受ケ可キノ訴ヲ為スヲ得可シ  
第百七十二條 裁判所ノ管轄ノ異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味ノ故障ヲ述フル訴ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判

ス可ク之ヲ後ヨニ延シ又ハ主タル訴訟ト共ニ裁判スルヲ得ス

○第三卷 呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ書類ヲ取消ス可キ事

第百七十三條 總テ呼出狀又ハ裁判手續ノ書類ヲ取消サントスル訴ハ裁判所ノ管轄異ナルニ付キ其裁判所ノ吟味ヲ受ケルニ故障ヲ述フルヲ除クノ外總テ論辨ヲ為シ又ハ訴訟ニ付テノ故障ヲ述フル前ニ之ヲ為ス可シ但シ其後ニ至テハ之ヲ為スヲ得ス

○第四卷 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル事

第百七十四條 遺物相續人寡婦、離婚セラレシ婦、夫ト財産ヲ分テタル婦ハ遺物相續ノ始リシ日又ハ財産ノ共通ヲ解キタル日ヨリ財産ノ目録ヲ記スル為メ三月ノ猶豫ト執考ヲ為スタノ四十日ノ猶豫トヲ得テ其時間訴訟ノ猶豫ヲ求ムルヲ得可シ若シ又三月前ニ目録ヲ記シ終リタル時ハ其日ヨリ四十日ノ猶豫ノ期限ヲ算ス可シ 若シ三月内ニ目録ヲ記スルヲ能ハサルノ時ハ更ニ相當ノ猶豫ノ期限ヲ加ヘ且執考ヲ為ス為メ四十日ノ猶豫ヲ許ス可シ但シ此事ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ 遺物相續人ハ前ニ記シタル猶豫ノ期限ノ終リシ後ト雖モ通常ノ遺物相續人タル處置ヲ為サル時又ハ控訴ス可カラサル裁判旨液ニ因リ通常ノ遺物相續人ナリト定メラレシヲナキ時ハ尚目録ヲ記シテ且遺物ノ高ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特種アル遺物相續人トナルノ權アリ  
第百七十五條 保證人ヲ裁判所ニ呼出ス可キノ權アリト述フル者ハ主タル訴訟ノ日ヨリ八日內ニ其呼出狀送達ス可シ但シ保證人ノ住所ニ至ル迄ノ路程三「ミリヤメートル」毎ニ一日ヲ増ス可シ○若シ一箇ノ事ニ付保證人數人アル時ハ其保證人ノ中最遠ノ地ニ住スル者ニ其呼出狀送達ス可キ期日內ニ其他ノ保證人ニモ亦呼出狀送達ス可シタル期限內ニ其呼出狀送達ス可シ但保證人ノ保證人ヲ更ニ保證スル人ヲ呼出スノ期限モ亦之ニ準ス  
第百七十六條 保證人已レノ保證人ヲ呼出ス可キノ權アリト述フル時ハ其保證ノ訴ヲ受ケタル日ヨリ算ヘ前ニ記シタル期限內ニ其呼出狀送達ス可シ且執考ヲナス為メノ猶豫ノ期限內ニ呼出ヲ受ケタル時ハ其期限ノ終リシ日ヨリ保證人ニ呼出狀ヲ送達ス可キ期日ヲ算フ可シ



第百七十八條 如何ナル事柄ニ付テモ被告人ノ幼年ナルヲ又ハ其他ノ特權アル理由ヲ以テ口實ト爲シ其保證人ニ  
呼出狀ヲ送達スルニ付キ前ニ記シタル以外ノ猶豫ノ期限ヲ得可カラズ但シ主タル訴訟ノ裁判ハ其保證人其定例  
ノ終リシ後尙出席セスト雖モ之ヲ延延ス可カラズ唯其被告人ハ後ニ保證人ニ對シ訴ヲ爲スノ權アリ

第百七十九條 若シ被告人ノ其保證人ヲ呼出ス可キ期日被告人ノ出席ス可キ期日ト同時ナラサル時被告人其出席  
ス可キ期日ニ至ラサル前ニ其保證人ニ呼出狀ヲ送リタル旨ヲ已レノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ニ書面ヲ以テ報告  
セシメタルニ於テハ被告人抗辯者タルノ旨ヲ受ケタルナカル可シ 然レモ被告人保證人ニ呼出狀ヲ送達ス可  
キ期限ニ至リシ後保證人ニ呼出狀ヲ送リタルノ旨ヲ立テサル時ハ直ニ主タル訴訟ヲ裁判シ且被告人保證人ニ  
呼出狀ヲ送リタルト述フル所偽リナルノ證アルニ於テハ被告人原告人ニ損失ノ備ヲ拂フ可キノ旨ヲ受ク可シ

第百八十條 原告人被告人ノ保證人ヲ呼出スニ付キ猶豫ノ期限ヲ許ス可カラサル旨ヲ述フル時ハ其述フル所ヲ至  
急略味ノ法式ヲ以テ裁判ス可シ

第百八十一條 保證人ナリトシテ呼出ヲ受ケタル者ハ保證者ニ非サル旨ヲ述フルモト雖モ主タル訴訟ヲ審判ス  
ル裁判所ニ出テ可シ然モ其保證人ヲ其至當ノ裁判所ヨリ更ニ他ノ裁判所ニ出テシムルモ致ラズ主タル訴訟ヲ  
爲シタル事ヲ證書又ハ其他ノ證ニ因リ明ニ知リ得可キ時ハ保證人其至當ノ裁判所ニ出ルヲ得可シ

第百八十二條 物權又ハ書入質ノ權ノ爲メ端式ノ保證ニ付テハ保證人被告人ニ代テ其訴訟ヲ爲スヲ得可シ但シ  
裁判所ヨリ訴訟ニ付キ初度ノ旨渡ヲ爲ス前ニ被告人其訴訟ヲ免ル、コトヲ願フ時ハ之ヲ免ル、ヲ得可シ 然モ被  
告人訴訟ヲ免レタル時已レノ權利ヲ保全スル爲メ其訴訟ニ參スルコトヲ得可ク又原告人已ノ權利ヲ保全スル爲メ  
被告人ヲ其訴訟ニ參シ置カシム可キノ要メヲ爲スヲ得可シ

第百八十三條 通常ノ保證ニ付テハ保證人本人ニ代テ訴訟ヲ爲ス可カラズ唯其訴訟ニ參スルコトヲ得可シ

第百八十四條 主タル訴訟ト保證ト訴訟ト同時ニ裁判スルヲ得可キ時ハ共ニ之ニ裁判ス可ク然ラサル時ハ主タル  
原告人共ニ箇ノ訴訟ヲ各自ニ裁判ス可キ要メヲ爲スヲ得可シ此場合ニ於テハ主タル訴訟ノ裁判旨渡書

ニ保證ニ付テノ訴訟ヲ別ニ爲ス可キコトヲ記ス可シ但シ主タル訴訟ノ裁判旨渡ノ後保證ニ付テノ訴訟ヲ裁判ス可  
キ時ハ別ニ之ヲ裁判ス可シ

第百八十五條 端式ノ保證ニ付キ保證人ハノ裁判旨渡ハ原告人其本人ニ對シテ之ヲ執行フ可シ 此場合ニ於テハ本  
人訴訟ヲ免レタルト訴訟ニ參シタルト問ハス原告人ヨリ其本人ニ裁判旨渡書ヲ送達スルヲ以テ其裁判旨渡ヲ  
執行フニ足レリトス但シ其他別ニ訴訟ノ手續ヲ爲スニ及ハス ○然モ被告人ヨリ裁判ノ費用及ヒ原告人ハノ損失  
償ヲ拂フ可キ旨渡ハ原告人保證ニ對シテ之ヲ執行フ可シ 然モ保證ノ金高ヲ拂フ能ハサル時ハ本人其裁判費用  
ヲ償フ可シ但シ本人訴訟ヲ免レタル時ハ格別ナリトス 又裁判所ヨリ別段ノ旨渡アル時ハ本人ヨリ原告人ニ損失  
ノ償モ亦之ヲ拂フ可シ

第百八十六條 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル諸件ハ其訴訟ノ本案ニ付キ論辯ヲ爲ス前ニ共ニ同時ニ之ヲ述フ可シ

第百八十七條 遺物相續人寡婦又ハ離婚セラレシ婦或ハ夫ト財產ヲ分テタル婦ハ目錄ヲ記シ且熟考ヲ爲ス期限ヲ  
終リシ後ニ非ヤレバ其他ノ諸件ヲ述ヘテ訴訟ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ス

○第五卷 相手方ノ證書類ノ受取ル事

第百八十八條 原告人又ハ被告人其相手方ノ證書類ノ寫ノ送達ヲ得タル時 第六十五 又ハ相手方ヨリ之ヲ裁判所ニ  
出シタル時ヨリ三日内ニ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ書面ヲ送ラシメ相手方ノ用ヒタル證書類ノ正本ヲ受取  
ラント求ムルコトヲ得可シ

第百八十九條 相手方ノ證書類ノ受取ルニハ一方ノ代書師人ヨリ相手方ノ代書師ニ受取書ヲ送リテ之ヲ受取リ又  
ハ相手方ヨリ其證書類ヲ裁判所ノ書記局ニ預ケ一方ノ者書記局ヨリ之ヲ受取ル可シ但シ其證書類ハ別ニ正本ノ

ハ時又ハ正本ナシト雖モ相手方ノ承諾アル時ニ非ヤレバ之ヲ他所ニ携ヘ行フ可カラズ

第百九十條 相手方ノ證書類ノ受取リ之ヲ遲ス可キ期限ハ代書師ノ受取書ヲ以テ之ヲ定メ又ハ證書類ノ受取ル可  
コトヲ許シタル旨渡書ヲ以テ之ヲ定ム可シ若シ別段之ヲ定メタル時ハ三日内トス



第百九十一條 其期限、終リシ後代書師其受取タル證書類ヲ還ケル時ハ相手方ノ願書ニ因リ又ハ相手方ノ覺書ニ因リ其代書師直ニ其證書類ヲ還ス可ク若シ之ヲ還サレハ禁錮ヲ受テ可シトノ言渡ノ得可シ又其代書師ハ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ後其證書類ヲ還スヲ遲延シタル日毎ニ相手方ニ償トシテ三ツラシムルヲ得且相手方ノ願書及ヒ其言渡書付テノ費用ヲ拂フ可シ但シ其代書師ハ其償及ヒ費用ヲ後ニ本人ヨリ已レニ償還セシムルヲ得ス

第百九十二條 若シ代書師此言渡ニ付テ故障ヲ述フル時ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ但シ其代書師負訴訟ノ時ハ其訴訟ノ費用ヲ拂ヒ又ハ其時ノ景狀ニ從ヒ相當ノ償ヲ拂ヒ且相當ノ罰ヲ受テ可クノ言渡ヲ受テ可シ

○第十章 書類驗真ノ事

第百九十三條 私ノ書類ヲ認シムル事及ヒ驗真セシムル事アル時ハ此事ニ付テ原告人別ニ裁判役ノ允許ヲ得スシテ三日内ニ此事ニ付テ被告入ニ其書類ヲ認ムル證書ヲ出シタル為メ又ハ之ヲ認メザリト爲テシムル為メ裁判所ニ呼出狀ヲ送ルヲ得可ク被告入其證書類ノ姓名ノ手署ヲ認メタル時ハ之ヲ認ムルノ費用又ハ其驗真ヲ為スニ付テノ費用及ヒ其書類ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルノ費用ニ至ル迄皆原告人ノ負擔ニ可シ

第百九十四條 被告入其書類ヲ認メタル時ハ裁判所ヨリ原告人ニ被告入其書類ヲ認メタルトノ證書ヲ與フ可シ若シ被告入出席セタル時ハ其者抗傳者ナリトノ言渡ヲ受テ其書類ヲ認メタルト看做ス可シ

第百九十五條 原告人ヨリ被告入自カラ書類ニ姓名ヲ手署セシト述フル時ニ被告入手署セシトナシト述ヘ又ハ被告入書類ニ他人親族ヲ云フ又ハノ手署セシトノ言掛ヲ受テ其手署ヲ認メシト述フルニ於テハ裁判所ニテ證書又ハ鑑定人及ヒ證人ヲ以テ其姓名ノ手署ノ真否ヲ證テ可ク言渡ヲ為ス可シ

第百九十六條 其言渡書ニハ鑑定人三員ニテ其真否ヲ證テ可ク附記ス可シ但シ双方ノ者其鑑定人ニ任スルニ付協議セタル時ハ裁判所ヨリ之ヲ任ス可シ○又其言渡書ニハ其真否ヲ證スル為メ掛シ裁判役ノ姓名ヲ記シ且其證ニ付テタル證書ノ模様ヲ抄視シタル後之ヲ書記局ニ預ケ原告人又ハ其代書師ト書記官ト之ニ姓名ノ手署及ヒ

其手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可ク附記ス可シ但シ書記官ハ此等ノ諸事ヲ調書ニ記ス可シ

第百九十七條 掛シ裁判役又ハ鑑定人ニ付テ故障ヲ述フル時ハ此卷ノ第十四章及ヒ第二十一章ニ記シタル如ク處置ス可シ

第百九十八條 真否ヲ證セントスル書類ヲ書記局ニ預ケタルヨリ三日内ニ被告入書記局ニ至リ之ヲ受取リ檢視ス可シ但シ其書類ハ之ヲ他所ニ携ヘ行ク可ラス○被告入ハ其書類ヲ檢視スル時自カラ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シ又ハ其代書師或ハ名代人ヲシテ其横線ヲ畫シメ書記官其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第百九十九條 掛シ裁判役ノ言渡ニ因リ定メタル日ニ至リ先ニ手続ヲ為ス一方ノ者ヨリ其相手方ノ代書師ニ別段任テ受ケタル使吏ヲシテ呼出狀ヲ送達セシメ又代書師ヲ任セタル時ハ相手方本人ノ住所ニ其呼出狀ヲ送達セシメ雙方共ニ掛シ裁判役ノ面前ニ出席シ協議シテ真否ヲ證セントスル證書ヲ採用スルヲナシ又此事ニ付テ被告入出席セザル時ハ被告入ノ認メタルト看做ス可シ○其二箇中何レノ場合ニ於テ出席ヲ為セ、ル一方ノ者ニ別ニ招書ヲ送達スルヲテ掛シ裁判役ノ申立ニ從ヒ次ノ吟味ノ日ニ裁判所ヨリ其裁判ノ言渡ス可シ但シ其言渡ハ後ニ故障ヲ述フルヲ得可シ

第二百條 双方ノ者照徹ノ書類ヲ定ムルニ付テ協議セタル時ハ裁判役左ノ諸件ヲ照徹ト為スヲ許ス可シ

第一 證書人ノ面前ニテ記シタル證書ノ姓名ノ手署又ハ裁判役ト書記官トノ面前ニテ裁判ノ證書類ニ為シタル姓名ノ手署又ハ其事ニ付テ被告入タル者裁判役書記官證書人使吏ノ職務及ヒ其他ノ公務ヲ行ヒタルニ付テ書記シ且姓名ヲ手署シタル書類

第二 被告入ノ認メタル私ノ書類及ヒ其姓名ノ手署 但シ以前驗真ヲ為シテ被告入ノ記シタルモノナリト一定ノ書類ト雖モ被告入自カラ認メタル書類ハ照徹ノ書類ト為ス可ラス 被告入驗真スルノ證書ノ一部ノミヲ記シタルヲナシト述フル時ハ掛シ裁判役ヨリ其他ノ部分ヲ照徹ノ為メ用テ可クノ言渡ヲ



為ス可キ得可シ

第二百一節

照徴ニ用ヒントムル書類其公ケノ預リ人又ハ私ノ預リ人ノ手裏ニアル時ハ掛リ裁判役ヨリ別段定メタル日刻ニ至リ其書類ノ預リ人驗真ヲ為ス場所ニ之ヲ携ヘ來ル可キトテ言渡ス可シ但シ其公ケノ預リ人其言渡ニ背テ時ハ禁錮ノ受テ私ノ預リ人ハ借テ拂ヒ又別段ノ道理アル時ハ禁錮ノ言渡ヲ受テ可シ

第二百二條 照徴ニ用ヒントムル書類ヲ携ヘ來ルヲ得ル時又ハ其預リ人極テ隔遠ノ地ニアル時ハ裁判所ニテ掛リ裁判役ノ申立ノ上檢事ノ説ヲ聽クニ從テ其預リ人ノ居所又ハ其居所ニ近キ地ニテ其驗真ヲ為ス可キトテ言渡シ又ハ定リシ猶豫ノ期限内ニ裁判所ヨリ指示ス可キ方途ニテ其書類ノ裁判所ノ書記局ニ送ル可キトテ言渡ス可キ自由ナリトス

第二百三條 定メリシ猶豫ノ期限内ニ照徴ノ書類ヲ裁判所ノ書記局ニ送ル可キトテ言渡シタル時ハ公ケノ預リ人其書類ヲ送ル前ニ校正ヲ為シタル其寫ヲ記シ其預リ人ノ居所ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人其書類ノ正本ニ據テ其寫ヲ驗真シタル上其旨ヲ調書ニ記ス可シ○其預リ人ハ其寫ヲ正本ト等シク看做シテ其正本ノ還リ來ル迄之ヲ用テ可ク且其預リ人其寫ノ副本ヲ記シ之ニ調書ノ旨ヲ附記シテ何レノ人ニモ之ヲ渡ス可キ得可シ其預リ人ハ書類ノ驗真ニ付テ原告人ヨリ其費用ノ償ヲ得可シ但シ其費用ノ高ハ調書ヲ記シタル裁判役之ヲ定メ其調書ニ從ヒ原告人ヲシテ其費用ヲ償ハシムルノ言渡書ヲ記ス可シ

第二百四條 先ニ手續ヲ為ス一方ノ者ヨリ鑑定人ニ呼出狀ヲ送り掛リ裁判役ノ言渡書ニ定メタル日刻ニ至リ其定メタル場所ニ出テ掛リ為シテ其書類ヲ驗真ス可キ事ヲ要メ亦預リ人ニモ呼出狀ヲ送りテ其場所ニ出テ照徴ノ書類ヲ出ス可キトテ要ム可シ又一方ノ者ハ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ格書ヲ送ラシメ相手方ヲ驗真ノ席ニ呼出ス可シ○此等ノ諸件ハ之ヲ調書ニ記シ其調書中ニ預リ人ニ管シタル部分ヲ抽出シタル寫ト書類ノ驗真ノ言渡シタル書ヲ寫シテ預リ人ニ渡ス可シ

第二百五條 預リ人照徴ノ書類ヲ出シタル時掛リ裁判役ヨリ其預リ人常ニ其書類ヲ預リテ驗真ノ席ニ出テ且吟味

第四百九

ノ時毎ニ之ヲ出ス可キトテ言渡シ又ハ書記官ノ受取書ヲ得テ書記官ニ預ル可キトテ言渡ス可キ自由ナリトス○其預リ人書記官ニ其書類ヲ預ケタル時其者公ケノ預リ人ナルニ放テハ第二百三條ニ記シタル如ク其寫ヲ記シテ何ノ人ニモ之ヲ渡ス事ヲ得可シ但シ預リ人其職務ヲ行フノ權ヲキ地ニ於テ其驗真ヲ為ス時ト雖モ亦同一ナリトス

第二百六條 照徴ノ書類アラサシ時又ハ其書類アリト雖モ照徴ノ用ニ足ラザル時ハ掛リ裁判役ヨリ原告人出席ノ上又ハ原告人ヲ呼出シ尚出席ビサル上ニテ鑑定人ノ言ヲ行フ被告人ニ書取ラシムル言渡ヲ為シ其書取ヲ照徴ノ用ニ供ス可シ

第二百七條 照徴ノ書類ヲ鑑定人ニ渡シ又ハ被告人鑑定人ノ言ヲ行フ書取リ鑑定人摺ヲ為シタル後双方ノ者其意ヲ述ヘ及ビ願フ為シタル上其席ヲ退シ可シ但シ双方ノ述アル所ハ掛リ裁判役之ヲ調書ニ記ス可シ

第二百八條 鑑定人三員ハ書記官ニ於テ書記官ノ面前又ハ別段ノ言渡アル時ハ裁判役ノ面前ニテ共ニ書類ノ驗真ヲ為ス可シ若シ一日ニ其業ヲ終フルヲ能ハサル時ハ裁判役又ハ書記官ヨリ指示シタル日刻ニ之ヲ延ス可シ

第二百九條 掛リ裁判役ハ鑑定人ノ述フル所ヲ調書ニ附記シ鑑定人再ヒ摺ヲ為スニ及ハスシテ書記官照徴ノ書類ヲ預リ人ニ還シ其預リ人ハ嘗テ已ノ方ニ取置ケタル書記官ノ受取書ニ書記官ヨリ之ヲ已レノ方ニ還シタル旨ヲ記ス可シ 鑑定人ノ職務ヲ行フニ付キ其得可キ謝金ノ高ハ之ヲ調書ニ附記シ鑑定人ヨリ原告人ヨリ其謝金ヲ得ヒシム可キノ言渡書ヲ渡ス可シ

第二百十條 鑑定人三員ハ其説ヲ連名ノ書ニ記シ之ニ其趣意ヲ附記ス可シ但シ其鑑定人中ノ一員他ノ二員ト其説異ナルト雖モ二人ノ説ニ從テ可シ 若シ三員ノ説各異ナル時ハ其説ヲ記シタル書ニ各員其趣意ヲ記ス可シ然レモ甲ノ説ハ云々乙ノ説ハ云々タルヲ記ス可カラズ

第二百十一條 驗真ノ書類ヲ記シ又ハ姓名ノ記スルヲ等視セル人又ハ驗真ノ為スノ端緒ヲ知りタル人ハ證人トシテ之ヲ呼出ス可キ得可シ

第二百十二條 證人ノ説ヲ聽ク時被告ノ記シタル所ナシト述フル書類又ハ證人トシテ述フル書類ノ證人ニ示シ證



人ハ之ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シ其旨ヲ附記ス可シ若シ該人長横線ヲ畫スルコトヲ承諾セサル時ハ其旨  
ヲモ亦附記ス可シ但シ其他ノ規則ハ該人吟味ノ箇條ニ記シタル所ニ指テ可シ

第二百十三條 書類ヲ記シタルコト又ハ姓名ノ手署ヲ為シタルコトヲ述テ被告ハ其書類ヲ記シ又ハ手署ヲ為シ  
タルノ證アル時ハ裁判所ヨリ百五十フランノ罰金ヲ出シ且相手方ニ裁判ノ費用及ビ損失ノ償ヲ拂フ可キ言  
渡ヲ為シ若シ其言渡ニ從ハサル時ハ之ヲ禁錮スルコトヲ得可シ又其被告ハヨリ主タル訴訟ニ付キ相手方ニ損失ノ  
償ヲ拂ハシムル為メ其被告ハ禁錮スルノ言渡ヲ為スコトヲ得可シ

○第十一章 書類ノ質造タルコトヲ主タル訴訟ニ添ヘ訴フル事ハ其種類ニ依リテ異ナリ  
第二百十四條 訴訟ノ時間送達ヲ受ケ又ハ裁判所ノ書記局ニテ檢視シ又ハ一方ヨリ差出シタル書類ノ質造又ハ質造  
ナルコトヲ述ント欲スル者ハ之ヲ訴フルコトヲ得可シ但シ以前ノ訴訟ノ時既に其書類ノ驗査ヲ為シ其真正ナルノ言  
渡アリシ後ト雖モ更ニ之ヲ質造又ハ變造ナリト訴フルコトヲ得可シ然レモ一度既に質造又ハ變造ナリト訴ヘ其吟味  
ニ因リ質造又ハ變造ナラサルノ言渡アリシ時ハ格別ナリトス

第二百十五條 書類ノ質造タルコトヲ訴ヘント欲スル者ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ相手方其書  
類ヲ用ヒント欲スルヤ否ノ答ヲ得ント要ム可シ但シ其代書師ノ招書ニハ相手方其書類用フルニ於テハ其質造ノ  
訴ヲ為ス可キコトヲ附記ス可シ

第二百十六條 其時ヨリ八日以内ニ相手方其代書師ヲシテ此事ニ付テノ原告人ノ代書師ニ答書ヲ送ラシメ質造ナリ  
ト述テ書類ヲ用フルト否トヲ答フ可シ但シ其答書ニハ本人自カラ姓名ヲ手署シ又ハ別役公正ノ證書ヲ以テ任  
タル名代人姓名ヲ手署ス可シ且其名代人姓名ヲ手署シタル時ハ其任ヲ受ケタル公正ノ證書ノ寫ヲ答書ニ添テ送  
ル可シ

第二百十七條 此事ニ付テノ被告ハ其答ヲ為スコトノリ又ハ書類ヲ用ヒサルコトヲ答フル時ハ此事ニ付テノ原告人其  
代書師ヨリ被告ノ代書師ニ吟味ノ席ニ出席ス可ト招書ヲ送ラレモ其出席ノ上ニテ質造ナリト述ヘタル書類ハ

第二百十七條

被告ハ之ニ問合ヲ為シタル上ニテ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ得可シ但シ其原告人ハ其事ニ付ト已レノ相當ト思量スル  
道理ヲ述ヘ又其損失ノ償ヲ得可キノ要メヲ為スコトヲ得可シ

第二百十八條 若シ此訴ニ付テノ被告ハ其證書類ヲ用ヒント欲スルコトヲ答フル時ハ原告人其姓名ヲ手署シタル書  
又ハ別役公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ノ姓名ヲ手署シタル書ヲ書記局ニ出シテ其書類ノ質造ナルコトヲ訴フ可  
シ但シ原告人ハ其代書師ヨリ相手方ニ招書ヲ送ラシメ吟味ノ席ニ出ツ可キコトヲ要メ且其質造ノ訟ヲ為ス免許ト  
之ヲ吟味ス可キ掛リ裁判役ヲ任スル言渡トヲ得ンコトヲ願フ可シ

第二百十九條 被告ハ質造ノ訟ヲ為スノ允許ト掛リ裁判役ヲ任シタル旨トヲ記シタル言渡書ヲ原告人ヨリ受取  
リタル後三日以内ニ原告人ノ質造ナリト述ヘタル書類ヲ書記局ニ出シ且之ヲ出シタル旨ヲ記シタル書面ヲ三日内  
ニ原告人ニ送達ス可シ

第二百二十條 被告ハ前條ニ記シタル期限ニ其條ニ定メタル如ク行ハサル時ハ原告人第二百十七條ニ記シタル  
所ニ指テ質造ナリト述ヘタル書類ヲ棄却セシムル言渡ヲ得可ト為メ被告ハ之ヲ吟味ノ席ニ出テシム可シ又ハ  
ニ其書類ヲ預ル者アリテ原告人其者ヨリ其書類ヲ書記局ニ出サシメント欲スル時ハ已レノ費用ヲ以テ之ヲ為  
サシムルコトヲ得後ニ其費用ヲ被告ヨリ償ハシム可シ但シ裁判所ヨリ原告人ニ被告ハ其費用ノ償ヲ為ス可キ裁  
判執行書ヲ與フ可シ

第二百二十一條 質造ナリト述ヘタル書類ノ正本アル時ハ掛リ裁判役原告人ノ求メニ因リ被告ハ定期内ニ其正  
本ノ書記局ニ出ヌノ手續ヲ為ス可キコトヲ言渡シ其正本ノ公クノ預リ人ノ出ササル時ハ之ヲ禁錮シ私ノ預リ人  
之ヲ出ササル時ハ其財産ヲ抵償トシテ差押ヘ及ビ罰金ヲ出サシメ又格別ノ道理アル時ハ之ヲ禁錮ス可トノ言渡  
ヲ為スコトヲ得可シ

第二百二十二條 裁判所ニテハ掛リ裁判役ノ申立ニ從ヒ其正本ヲ出ヌヲ待バシテ質造ノ訴ノ繼續シ行フ可キノ言  
渡ヲ為スコトヲ得可シ又其正本ヲ出ヌコトヲ得ザル時又ハ其正本ヲ竊取セラレ及ビ失ヒタル證アル時ハ裁判所ニテ

第二百二十三條 裁判所ニテハ掛リ裁判役ノ申立ニ從ヒ其正本ヲ出ヌヲ待バシテ質造ノ訴ノ繼續シ行フ可キノ言  
渡ヲ為スコトヲ得可シ又其正本ヲ出ヌコトヲ得ザル時又ハ其正本ヲ竊取セラレ及ビ失ヒタル證アル時ハ裁判所ニテ



同當、裁判官應ヲ為スルヲ得可シ

第二百二十三條 正本ヲ出ス可キ期限ハ之ヲ有スル者ノ住所ニ其正本一 出ス可キノ言渡書ヲ送達シタルヨリ之  
ノ算ヲ可シ

第二百二十四條 被告人其正本ヲ出ス可キノ手續ヲ為ス可キ期限ハ其代書師原告人ヨリ之ヲ出ス可キ言渡書ノ送  
達ヲ俾タルヨリ之ノ算ヲ可シ若シ被告人其期限内ニ其正本ヲ出スニ付キ必要ノ手續ヲ為サ、ル時ハ原告人第  
二百十七條ニ記シタル如ク裁判官渡ヲ得ント求ムルヲ得可シ 被告人ハ其正本ヲ出ス可キ言渡書ノ送達ヲ得共  
罵ヲ定期内ニ其正本ノ預リ人ニ送達スルヲ以テ前ニ記シタル手續ヲ行フタリトス可シ但シ被告人ハ別ニ其言渡  
書ノ罵ヲ書記局ヨリ得ルニ及ハス

第二百二十五條 被告人原告人ノ言渡書ヲ記述ヘタル書類ヲ書記局ニ出シタル後其言ヲ招書ニ記シテ之ヲ原告人  
ノ代書師ニ送達シ其書類ノ模様ノ調書ヲ記スル時原告人裁判官ニ出席ス可キ事ヲ要ム可シ但シ其調書ハ招書ノ  
送達ヲ為シタルヨリ三日内ニ之ヲ記ス可シ 原告人ヨリ其言渡書ヲ記述ヘタル書類ヲ書記局ニ出シタル時ハ原  
告人被告人ニ調書ヲ記スル時出席ス可キノ要メヲ為シタル上ニテ其書類ヲ出シタルヨリ三日内ニ其調書記可シ  
第二百二十六條 價造ナリト述ヘタル書類ノ正本ヲ出ス可キノ言渡書ヲ為シタル時ハ前ニ記シタル定期内ニ其正本  
及ビ副本ノ模様ノ調書ヲ同時ニ記ス可シ但シ裁判官ニテハ其時ノ必要タルニ從ヒ其正本ヲ出スフ待テスシテモ  
ツ其副本ノ模様ノ調書ヲ記スル言渡書ヲ為シ後ニ正本ノ調書ヲ記スルヲ得可シ

第二百二十七條 調書ニハ其書類中ノ全録、旁書、書入及ヒ其他此類ノ諸件ノ記ス可シ○此調書ハ檢事及ヒ原告被告  
ノ面前又ハ別設公正ノ證書ヲ以テ任シタル其各代人ノ面前ニテ公ニ記シテ之ヲ記ス可シ○原告人原告人又  
ヘタル書類及ヒ其正本ハ樹リ裁判官檢事及ヒ原告被告之其姓名、手摺ニ代用スル線、蓋ス可シ若シ原告人又  
ハ被告人其事ヲ為スルヲ得ス或ハ之ヲ欲セサル時ハ其言ヲ記ス可シ○原告人又ハ被告、一方出席セサル時ハ抗辯  
者タルノ言渡書ヲ為シテ調書ニ取掛ル可シ

訴訟法 二一

第二百二十八條 價造ノ訴訟ノ原告人又ハ其代書師ハ訴訟ノ時間何時ニ限ズ其價造ナリト述ヘタル書類ノ書記局  
ニ至リ檢視スルヲ得可シ然レモ其書類ハ之ヲ他所ニ携ヘ行ク可ク直ニ之ヲ書記官ニ還ス可シ

第二百二十九條 調書ヲ記シタルヨリ八日內ニ原告人ヨリ被告人ニ書類ノ價造タル證據ヲ述フル辨論書ヲ送達ス  
可シ但シ其辨論書ニハ書類ノ價造又ハ變造ナルヲ證ス可キ事柄及ヒ其模様ヲ記ス可シ若シ原告人八日內ニ之ヲ  
為サ、ル時ハ被告人ヨリ原告人ニ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ムル招書ヲ送テ裁判官ヨリ其模様ニ因リ原告人ニ  
其價造ノ訴訟ヲ為ス可クヲサレ言渡書ヲ為スヲ願フヲ得可シ

第二百三十條 被告人ハ原告人ヨリ書類ノ價造タル證據ヲ述フル辨論書ノ送達ヲ得タルヨリ八日內ニ原告人ニ答  
辨書ヲ送ル可シ然ラサル時ハ原告人第二百十七條ニ記シタル如ク裁判官ヨリ書類棄却ノ言渡書ヲ得可キ為メ被告  
人ニ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ムル招書ヲ送ルヲ得可シ

第二百三十一條 其答書ヲ送リタルヨリ三日内ニ一方ノ者吟味ノ席ニ其相手方ノ出席ス可キ要メヲ為スルヲ得可  
シ裁判官ニテハ價造訴訟ノ證據全部又ハ一部ヲ取上ケ又ハ之ヲ棄却ス可シ○其價造訴訟ノ證據中一部ヲ取上ケ  
其他ノ一部ニ疑シキ所アル時ハ其疑ハシキ一部ヲ取上ケタル一部ニ合シ後ニ之ヲ取調フ可キヲ言渡ス可シ若  
シ其全部ヲ棄却シテ猶其中ニ取調フ可キ部分アル時ハ其部分ヲ主タル訴訟ニ合シテ取調フ可キヲ言渡ス可シ  
但シ此等ノ諸事ハ其證據ノ輕重ト其時ノ必要ト為ス所トニ從テ之ヲ為ス可シ

第二百三十二條 裁判官ノ言渡書ニハ原告人ニハ其述フル證據中裁判官ニテ取上ケタル所ヲ掛リ裁判官ノ面前ニ  
テ證書又ハ證人ヲ以テ證ス可キヲ記シ又被告人ニハ之ニ反シタル證ヲ立ツ可キヲ記シ且裁判官ノ職務ヲ以  
テ任シタル鑑定人三員ヲシテ原告人價造ナリト述フル書類ヲ驗真セシム可キヲ記ス可シ

第二百三十三條 裁判官ニテ取上ケタル價造訴訟ノ證據ハ其證ヲ立ツ可キヲ命スル言渡書ニ之ヲ記シ其棄却シ  
タル箇條ハ其證ヲ立ツルヲ得ス但シ鑑定人ハ原告人ノ價造ナリト述ヘタル書類ニ付キ其職務ノ為メ相當ト思  
量スル注意ヲ以テ裁判官ハ鑑定人ノ送フル所ヲ適宜ニ聽用スルヲ得可シ



第二百三十四條 證人ノ述アル所ヲ聽取スニ付テハ證人吟味ノ事ニ付ト後ニ記スル所ノ法式ニ循フ可シ但シ原告人ノ質造ナリト述ヘタル書類ヲ證人ニ示シ證人ハ之ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ若シ證人ノ欲セザル時ハ其旨ヲ記ス可シ 照徴ノ書類及ヒ其他鑑定人ニ示ス可キ書類ハ掛リ裁判役ノ意ニ從ヒ證人ニモ示シ之ヲ示ス可シ但シ證人ノ視タル時ハ前ニ記シタル如ク之ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ

第二百三十五條 證人證ヲ述フル時ニ當リ證書類ヲ出シタル時ハ掛リ裁判役ト證人ト之ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シタル後其證書ヲ證人ノ述フル所ヲ記シタル書ニ添ヘ置ク可シ又其證人ヨリ出シタル證書ヲ以テ原告人ノ質造ナリト述ヘタル書類ノ真偽ノ證ヲ立ツ可キ時ハ其證書ヲ知リタル他ノ證人ニ之ヲ示シ其證人ハ前ニ記シタル如ク之ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ

第二百三十六條 鑑定人其鑑定ヲ為スニ付テハ左ノ法式ニ循フ可シ  
第一 照徴ノ書類ハ双方協議シテ之ヲ定メ又ハ第二百條ニ記シタル如ク裁判役ヨリ之ヲ定ム可シ

第二 質造ノ訴ヲ為ス可キヲ允許シタル言渡書質造ナリト述ヘタル書類其模樣ノ調書質造ノ訴ヲ為ス可シ憑據ヲ取上ケ且鑑定人ヲシテ鑑定ヲナサシムルヲ命シタル言渡書照徴ノ書類アルニ於テハ其書類其照徴ノ書類ヲ書記官ノ受取リタル證書及ヒ照徴ノ書類ヲ定ムル言渡書ハ鑑定人ニ之ヲ渡ス可シ但シ鑑定人ハ其鑑定書ニ前ノ書類ヲ受取テ其取調ヲ為シタル旨ヲ附記シ別ニ其受取ノ調書ヲ記スルヲナカル可シ又其鑑定人ハ原告人ノ質造ナリト述ヘタル書類ニ其姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ 又證人其述フル所ヲ記シタル書ニ證書ヲ添ヘ差出シタル時ハ一方ノ者其證書ヲ鑑定人ニ示ス可キヲ求メ掛リ裁判役ハ之ヲ言渡ス可キヲ得可シ

第三 其他鑑定ノ規則ニ付テハ前章ニ記シタル法式ニ循フ可シ  
第二百三十七條 掛リ裁判役又ハ鑑定人ニ付テ故障ヲ述フル時ハ此章ノ第十四章及ヒ第二十一章ニ記シタル如ク之ヲ處置ス可シ

訴訟法 二下二

第二百三十八條 質造訴訟ノ吟味終リシ時ハ一方ノ代書師ヲシテ其担当方ノ代書師ニ證書ヲ送ラシメ裁判言渡ノ席ニ出ルヲ要ス可シ

第二百三十九條 質造ノ訴訟ニ因リ質造又ハ變造ノ証ヲ得タル時其首謀又ハ附從ノ猶生存シ且治罪法ノ規則ニ據ヒ其罪犯ヲ訴出ス可キヲ得可キ期限内ナル時ハ裁判官ノ上席人其犯人ニ對シテ引出状ヲ出シ且此事ニ付キ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ可シ

第二百四十條 前條ノ場合ニ於テハ質造票記ニ付キ刑事ノ言渡アルニ至ル迄質造ニ付テノ民事ノ訴訟ノ裁判ヲ暫ク延ス可シ

第二百四十一條 質造訴訟ノ裁判ヲ為シ其質造ノ書類ノ全部又ハ一部ヲ引裂キ又ハ塗抹シ又ハ之ヲ更改ス可キト言渡シタル時ト雖モ被告人法ニ適シテ其言渡ニ承服シタルヲ述ル迄ノ時間又ハ被告人ノ控訴シ又ハ終審ノ裁判ヲ取消ス可キト額出テ見合ヒ又ハ覆審院ニ訴出ス可キヲ得可キ期間ハ之ヲ引裂キ又ハ塗抹シ又ハ之ヲ更改スルヲ得可シ

第二百四十二條 質造訴訟ノ裁判言渡書ニハ其書類ヲ本人又ハ之ヲ出シタル證人ニ還ス可キヲ附記ス可シ但シ原告人ノ質造ナリト述ヘタル書類モ若シ質造タルノ裁判ヲ受ケた時ハ亦之ヲ還ス可シ又公ケノ預リ人ノ出シタル書類ハ親シク之ヲ預リ人ニ還シ又ハ裁判官ヨリ定メタル方法ヲ以テ書記官ヨリ其預リ人ニ送還ス可キヲ言渡ス可シ○其書類ヲ還ス可キトニ付テハ別ニ言渡ヲ為スニ及ハスト雖モ前件ニ記シタル期限ノ後ニ非ザレハ之ヲ還ス可キヲ得ス

第二百四十三條 又同上ノ期限内ニハ照徴ノ書及ヒ其他ノ書類ヲ還ス可キヲ延ス可シ但シ此等ノ書類ノ預リ人又管係アル者ノ額ニ因リ裁判官ヨリ此等ノ書類ヲ還ス可キト別段言渡ソタル時ハ格別ナリトス

第二百四十四條 書記官ハ必ス前數條ノ規則ニ據フ可シ但シ之ニ背キタル時ハ定期ノ時間其職ヲ行フノ禁ヲ受ケ且百フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡及ヒ一方ノ者ニ損失ノ償ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ケ又格別ノ道理アル時



ハ犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

第二百四十五條 證書類ノ書記局ニ預ルハ原告人ノ贋造ナリト述ヘタル書類ニ付テハ書記官別段裁判ヲ允許ヲ得スシテ其寫ヲ渡スコラス又書記局ニ預ルタル照徴ノ書類ノ正本並ニ其他ノ書類ノ正本及ビ贋造ナリト述ヘタルモノニ非ザル諸般ノ證書ヲ記シタル簿冊ニ付テハ書記官其寫ヲ求ムルノ理アル者ニ之ヲ渡ストテ得可シ但シ書記官ハ通常其書類又ハ簿冊ヲ預ル者ノ得可キ謝金ヨリ更ニ多分ノ謝金ヲ受クルトテ得ス○此條ニ記スル牙ノ規則ニ背キタル書記官ハ前條ニ背キ罰ヲ受ク可シ 書類ノ正本ヲ預ル者第二百三條ニ指ヒ其正本ニ代用ス可キ寫ヲ記シタル時ハ其預リ人ニ非サレハ其寫ノ副本ヲ人ニ渡ストテ得ス

第二百四十六條 贋造訴訟ノ原告人負訴訟トナリシ時ハ三百フランクヨリ少カラサル罰金ヲ拂ヒ且被告人ニ相當ノ損失ノ償ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

第二百四十七條 原告人書記局ニ書類贋造ノ訴狀ヲ出シ其訴ヲ為スノ允許ヲ得タル後自カラ其訴ヲ止メタル時又ハ負訴訟トナリタル時又ハ原告人其書類ノ贋造ナルコトヲ述フル證據及ビ確證ノアラサルニ因テ或ハ原告人前ニ記シタル訴訟ノ手續及ビ法或ヲ為サレハニ因テ裁判ヲ止ム可キコトヲ言渡シタル時ハ原告人同上ノ罰金ヲ拂フ可シ但シ其言渡書ノ如何ナルヲ問ハス且其言渡書ニ罰金ヲ拂フ可キコトヲ記シタルトナシト雖モ原告人必ス之ヲ拂フ可ク又原告人書類贋造ノ罪犯ヲ刑法裁判ヲ訴フルコトヲ述フル時ト雖モ其罰金ヲ拂ハサル可カラス

第二百四十八條 原告人贋造ナリト述ヘタル書類ノ全部又ハ其部ヲ裁判ヲニテ贋造ナリト言渡シタル時又其書類ヲ主タル訴訟ニ用フ可カラサルコトヲ言渡シタル時又ハ贋造ノ訴ヲ為ストテ裁判ヲニテ允許セザリシ時ハ原告人前條ノ罰金ヲ出スニ及ハス但シ裁判ヲニテ贋造ノ訴ヲ為ストテ允許セサル言渡書ニ如何ナル文詞ヲ記シタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第二百四十九條 書類贋造ノ訴訟ニ付キ原告被告互ニ和解シテ其訴ヲ止メント欲スルト雖モ其和解ノ旨ヲ檢察官ニ告知シ裁判ヲニテ之ヲ允許シタルニ非サレハ其和解ノ如何行フコトヲ得ス但シ檢察官ハ此事ニ付キ其相當ト思量スルコトヲ得可シ

量スルコトヲ裁判ヲニ申立ルコトヲ得可シ

第二百五十條 訴訟法ニ指ヒ言類贋造ノ民事訴ヲ為ス者ハ其贋造ヲ罪犯トシ更ニ之ヲ刑法裁判ヲニ訴フルコトヲ得可シ但シ民法裁判ヲニテハ原告人ノ贋造ナリト述ヘタル書類ニ管ヒス其民事ノ訴ヲ裁判シ得可シト思量シタル時ノ外刑法裁判ヲノ裁判アルニ至ル迄其民事ノ訴ノ裁判ヲ延ハス可シ

第二百五十一條 書類贋造ノ訴訟手續中ノ言渡又ハ駁定ノ裁判言渡ハ檢察官ノ説ヲ聽カスシテ之ヲ為スコラス

○第十二章 證人吟吟ノ事

第二百五十二條 原告人又ハ被告人證人ヲ以テ證セシメント欲スル諸件ハ別ニ論辨書又ハ願書ヲ添フルコトナク代書師ヨリ 代書師ニ送達スル短意書ニ箇條ヲ分テ之ヲ記ス可シ又相手方ニテハ三日内ニ其代書師ヨリ一方ノ代書師ニ其答書ヲ送ラシメ一方ノ者ノ短意書ニ記シタル所ヲ知ラスト述ヘ又ハ之ヲ認ム可シ若シ三日内ニ之ヲ為サレハ其諸件ヲ認メタルト看做ストテ得可シ

第二百五十三條 一方ニテ證人ヲ以テ證ヲ立ント欲スル諸事ヲ裁判ヲニテ不相當ナリト為ストナキ時相手方ニテ之ヲ知ラスト述フルニ於テハ證人ヲ以テ證ヲ立テレム可キコトヲ言渡ス可シ但シ法律上ニテ別段之ヲ禁シタル場合ハ格別ナリトス

第二百五十四條 又裁判ヲヨリ其相當ナリト思量スル諸事ニ付キ證人ヲ以テ證ヲ立テシム可キコトヲ其職務ヲ以テ言渡ストテ得可シ但シ法律上ニテ別段禁シタル場合ハ格別ナリトス

第二百五十五條 證人ヲ以テ證ヲ立テシム可キ言渡書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 證ヲ立ツ可キ諸件

第二 證人ノ證ヲ聽ク可キ掛リ裁判役 若シ證人ノ住所餘リ遠隔ナル時ハ別段定メタル裁判所ノ裁判役ノ面前ニテ證人其證ヲ述フ可キ言渡ヲ為ストテ得可シ

第二百五十六條 相手方ニテハ之ニ及シタル證ヲ立ルコト當然ナリトス但シ原告人及ビ被告人ノ證ヲ立ル期限ハ後



ノ數條ニ記スル所ニ指テ可シ

第二百五十七條 證人ヲ以テ證ヲ立テシム可キヲ言渡シタル其地ニ於テ證人其證ヲ述テ可キ時又ハ其地ヨリ三  
「リヤメートル」ノ距離内ニ於テ其證ヲ述テ可キ時ハ一方ノ代書師其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ八日以内ニ證人  
吟味ノ手續ヲ為シ始ム可シ若シ本人代書師ニ任セサル時ハ本人其送達ヲ得又ハ其住所ニ其送達ヲ得タル日ヨリ  
其八日ノ期日ヲ算テ可シ又其言渡書ヲ送達シタル一方ノ者モ亦同一ノ期日以内ニ其手續ヲ為シ始ム可シ若シ此規  
則ニ背ク時ハ證人ノ述ヘタル證ノ切ナル可シ○若シ證人ヲ以テ證ヲ立ル一方ニ許シタル言渡ヲ其相手方  
ニテ故障ヲ述フルヲ得可キ時ハ其故障ヲ述フルヲ得可キ期限ノ終リシ時ヨリ前ニ記シタル期日ヲ算テ可シ  
第二百五十八條 前條ニ記シタルヨリ更ニ隔リタル地ニ於テ證人吟味ノ手續ヲ為シ始ム可キ時ハ裁判所ノ言渡書  
ニ其手續ヲ為シ始ム可キ期日ヲ定ム可シ

第二百五十九條 一方ノ者定マリシ日刻ニ證人ヲ出席セシム可キ言渡書ヲ掛リ裁判役ヨリ得タル時ハ既ニ證人吟  
味ノ手續ヲ為シ始メタルト看做ス可シ○故ニ掛リ裁判役ハ双方ノ證人吟味ノ調書ニ双方ノ者其言渡書ヲ得ント  
求メタルニ因リ之ヲ渡シタル旨ヲ記ス可シ

第二百六十條 證人ノ呼出状ハ其證人又ハ其住所ニ送ル可シ○証人吟味ノ為ス場所ヨリ三「リヤメートル」内ニ住  
スル者ニハ吟味ヨリ少トモ一日前ニ呼出状ヲ送り更ニ隔リタル地ニ住スル者ニ付テハ三「リヤメートル」毎ニ  
一日ノ猶預ヲ加テ可シ○言渡書ノ中ニテ裁判所ヨリ證ヲ立ル一方ノ許シタル箇條ヲ記セシ部令ノ寫及ヒ掛リ裁判  
役ノ言渡書ノ寫ヲ本人ヨリ證人ニ送ル可シ但シ證人ニ此等ノ書類ヲ送達セサル時ハ其證人述ヘタル證ノ效ナカ  
ル可シ

第二百六十一條 相手方代書師ヲ任シタル時ハ一方ノ者ヨリ相手方代書師ノ住所ニ呼出状ヲ送り又之ヲ任セサル  
時ハ相手方本人ノ住所ニ呼出状ヲ送りテ其本人ニ證人吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ但シ其呼出状ハ證人ヲ  
吟味スル日ヨリ少トモ三日前ニ送ル可シ又其呼出状ニハ一方ノ者ヨリ出サントスル證人ノ姓名職業住所ヲ記  
ル可シ

ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其證人ノ述ヘタル證ノ效ナカル可シ

第二百六十二條 證人ハ双方本人ノ面前ト其在ラサル所トヲ問ハス各自ニ其證ヲ述テ可シ 各證人ハ其證ヲ述テ  
ル前ニ其姓名職業年齢居所ヲ述ヘ及ヒ本人ノ何級ノ血屬及ヒ姻屬ノ親タルト又ハ本人ノ從者僕婢タルトヲ述ヘ  
其後誠實ヲ言テ可キノ誓ヲ為ス可シ但シ此規則ニ背キテ證人ノ述ヘタル證ハ其效ナカル可シ

第二百六十三條 呼出テ受ケテ出席セサル證人ハ掛リ裁判役ヨリ本人ニ十「フラン」ヨリ少カラサル損失ノ價  
ヲ拂テ可キ言渡ヲ受テ可シ但シ其言渡ハ之ニ付キ故障ヲ述ヘ又ハ之ヲ控訴スルニ管セス之ヲ執行テ可シ○又其  
裁判役ヨリ其證人ニ前ノ言渡ト共ニ百「フラン」ヨリ少カラサル罰金ヲ言渡ス可キヲ得可シ 出席ヲ為ササル證人ハ  
其費用ニテ再ヒ出席ス可キノ呼出テ受テ可シ

第二百六十四條 再ヒ呼出テ受ケタル證人猶出席ヲ為ササル時ハ百「フラン」ノ罰金ヲ拂テ可キノ言渡ヲ受テ若シ  
之ヲ拂ハサル時ハ禁錮ヲ受テ可シ又掛リ裁判役ハ其證人ニ對シ引出状ヲ出ス可キヲ得可シ

第二百六十五條 證人預定ノ日ニ出席スルヲ欲ハサリシ道理ヲ辨明シタル時ハ掛リ裁判役其證人ヲシテ證ヲ述ヘ  
シメタル後其罰金及ヒ再ヒ呼出テ送リタル費用ヲ先ルス可キヲ言渡ス可シ

第二百六十六條 若シ證人預定ノ日ニ出席スルヲ欲ハサル可キ道理ヲ辨明シタル時ハ掛リ裁判役證人ニ相當ノ猶  
豫ヲ許シ又ハ自カラ證人ノ住所ニ至リ其述フル所ヲ聽ク可シ但シ猶豫ノ期限ハ證人吟味ノ期日ハ其見合セニ過  
ク可カラス○若シ證人ノ住所隔遠ナル時ハ掛リ裁判役其住所ノ裁判所ノ上席人ニ其證人ノ述フル所ヲ聽ク可キ  
ヲ托ス可シ但シ其上席人ハ自カラ之ヲ聽キ又ハ別段其事ヲ為ス可キ裁判役ヲ任ス可シ○其裁判所ノ書記官ヨ  
リハ證人吟味ノ調書ノ正本ヲ訴訟ヲ管スル裁判所ノ書記官ニ直ニ送達シ且同上ノ書記官ハ其裁判所ヨリ證人ヲ  
出シタル本人ヲシテ諸般ノ手續ノ費用ヲ償ハシム可キ書ヲ受取ル可シ

第二百六十七條 證人數人ノ述フル所ヨリ同日ニ聽キ終ルヲ得サル時ハ掛リ裁判役ヨリ定メタル日刻迄其中ノ者  
ノ吟味ヲ延ハス可シ但シ相手方本人ノ出席セサル時ト雖モ其本人及ヒ證人ニ更ニ呼出状ヲ送ルニ及ハス



第二百六十八條 本人ノ宗系ノ血屬及ヒ姻屬親又既ニ離婚シタル者雖モ其配偶者證人トシテ呼出ス可カラス  
第二百六十九條 證人吟味ノ調書ニハ之ヲ為シタル日刻及方本人及ヒ證人ノ出席ヲ為シタルト否トノ事證人其呼  
出状ヲ差出シタル事又吟味ヲ延シタル時ハ其延シタル日刻ヲ記ス可シ若シ此等ノ事ヲ記セサル時ハ其調書ノ効  
トカル可シ

第二百七十條 一方ノ者證人ニ付キ故障ヲ述ヘントスル時ハ證人ノ其證ヲ述フル前ニ之ヲ為ス可シ但シ故障ノ申  
述ハ説明ニシテ且其時ノ事柄ニ適當ス可キ疑ハシキ語ヲ用フ可カラス又證人ハ之ニ答ヘテ辯論スルコトヲ得可シ  
○證人ニ付テノ故障ノ申述及ヒ證人ノ答辨ハ之ヲ調書ニ附記ス可シ

第二百七十一條 證人ハ口上テ其證ヲ述フ可シ書面ヲ以テ之ヲ述フ可カラス○其述ヘタル所ハ之ヲ調書ニ記シテ  
證人ニ讀聞セ其記セシ如クニテ差支ナキヤラ問フ可シ但シ此等ノ法式ヲ行ハサル時ハ其調書効ナカル可シ○又  
此時證人ニ費用ノ償ヲ得ント求ムルヤ否ヲ問フ可シ

第二百七十二條 證人ハ其述ヘタル所ヲ記シタル調書ヲ讀聞セラレシ時已レノ相當ト思慮スル所ノ更改及ヒ増加  
ヲ述フルコトヲ得可シ但シ其更改及ヒ増加ハ之ヲ其調書ノ紙尾又ハ紙端ニ附記シテ又之ヲ讀聞セ且其讀聞セタル  
旨ヲモ附記ス可シ若シ此等ノ法式ヲ行ハサル時ハ其調書ノ効ナカル可シ

第二百七十三條 掛リ裁判役ハ自己ノ職務ニ因リ又ハ双方本人或ハ一方本人ノ願ニ因リ證人ノ述フル所ヲ明白ナ  
シムルニ相當ト思慮スル所ヲ問札シ其證人ノ答フル所ヲ書面ニ記シテ之ヲ讀聞カセ其後證人ヲシテ之ニ姓名ヲ  
手署セシメ若シ姓名ヲ手署スルコトヲ欲セス又ハ能ハサル旨ヲ述フル時ハ其旨ヲ附記ス可シ但シ其答書ニハ掛リ  
裁判役及ヒ書記官モ亦其姓名ヲ手署ス可シ若シ是等ノ法式ヲ行ハサル時ハ其答書ノ効ナカル可シ

第二百七十四條 調書中ニテ證人ノ述ヘタル所及ヒ後ニ其更改又ハ増加シタル所ヲ記シタル部分ハ證人裁判役書  
記官之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ證人手署スルコトヲ欲セス又ハ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ若シ此法式ヲ行ハ  
サル時ハ其調書ノ効ナカル可シ○證人其費用ノ償ヲ求ムル時ハ亦其費用ノ高ヲ附記シ若シ之ヲ求メサル時ハ亦

其旨ヲ附記ス可シ

第二百七十五條 其調書ニハ第二百六十一條第二百六十二條第二百六十九條第二百七十一條第二百七十二條  
第二百七十三條第二百七十四條ニ記シタル法式ヲ行ヒシ旨ヲ記シ裁判役書記官及方本人其末ニ姓名  
ヲ手署ス可シ若シ本人之ヲ為スコトヲ欲セス又ハ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ但シ此法式ニ循ハサル時ハ其調  
書ノ効ナカル可シ

第二百七十六條 本人ハ證人ノ其證ヲ述フル問辟ヲ答フルコトヲ得ス又且チニ證人ヲ問札スコトヲ得ス其問札ハ必ス  
掛リ裁判役ニ之ヲ為スコトヲ願フ可シ若シ本人此規則ニ背ク時ハ十フランノ罰金ヲ拂ヒ再犯ノ時ハ更ニ多キ罰  
金ヲ拂ヒ又ハ其訴訟ヲ止ム可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ其言渡ハ掛リ裁判役之ヲ為ス可シ○其言渡ハ控訴ヲ為シ  
又ハ故障ヲ述フルニ管セス之ヲ執行フ可シ

第二百七十七條 證人費用ノ償ヲ要ムル時ハ掛リ裁判役證人呼出状ノ副本ニ其旨ヲ附記シ其書ヲ以テ本人ヨリ其  
償ヲ得可キノ證ト為ス可シ但シ裁判役ハ調書ニモ亦其費用償フコトヲ附記ス可シ

第二百七十八條 證人吟味ノ言渡ニ別段ノ期限ヲ定メタルコトナキ時ハ双方共ニ最初證人ヲ吟味シタル時ヨリ八日  
内ニ其吟味ヲ終成ス可シ但シ其期限ノ後ニ證人ノ述フル所ハ其効ナシトス

第二百七十九條 然レ一方本人ヨリ證人吟味ノ期日ヲ延ス可キコトヲ願フ時ハ裁判所ヨリ其願ヲ許スコトヲ得可シ

第二百八十條 一方ノ本人證人吟味ノ期日ヲ延サントスル願ハ之ヲ掛リ裁判役ノ調書ニ記シ掛リ裁判役其調書ニ  
記シタル日ニ裁判所ニ申立ヲ為シタル上裁判所ニテ其願ヲ許ス可キコトヲ言渡ス可シ但シ其願ヲ為ス時双方ノ本  
人又ハ其代書師出席ヲ為シタル時ハ後ニ證人吟味ノ時出席ス可キノ呼出状又ハ招書ヲ送ルニ及ハス○證人吟味  
ノ猶豫ハ一度之ヲ許ス可ク再度許シタルト雖モ其効ナカル可シ

第二百八十一條 一箇ノ事柄ニ付キ證人五人以上ノ吟味ヲ願フタル者ハ克訴訟トナルト雖モ五人以上ノ證人ノ費  
用ヲ相手方ヨリ償ハシムルコトヲ得ス



第二百八十二條 相手方ノ證人既ニ證ヲ述ヘ終リシ後ハ其證人ニ付キ故障ヲ述フ可カラズ但シ證書ニ因テ其故障ヲ述フ可キノ證アル時ハ格別ナリトス

第二百八十三條 證人一方ノ者ノ再杖兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻族ノ親ナル時ハ相手方ヨリ其故障ヲ述フルコトヲ得可シ又一方ノ者ノ配偶者ノ生存スル時又ハ配偶者ノ生ミタル子ノ生存スル時ハ其配偶者ノ再杖兄弟ニ至ル迄ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ニ付キ其故障ヲ述フルコトヲ得可シ但シ其配偶者ノ子ヲ遺留メスシテ既ニ死去シタル時ハ其宗系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親其兄弟姊妹兄弟姊妹ニ付キ其故障ヲ述フルコトヲ得可シ又原告被告ノ一方ノ遺物相續ヲ為ス可キ權アル者及ヒ生存中ノ贈遺ヲ受クル者證人吟味ノ言渡ノ後本人ノ費用ニテ本人ト飲食ヲ為シタル者訴訟ニ管シタル諸事ニ付キ本人ニ請合書ヲ與ヘタル者本人ノ從者僕婢罪犯訴訟ノ被告人施禮又ハ加辱ノ利又ハ盜罪ニ付キ懲治ノ刑ヲ言渡サレタル者ニ付テハ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

第二百八十四條 故障ヲ受ケタル證人ト雖モ其述フル所ノ證ハ之ヲ聽リ可シ

第二百八十五條 滿十五歳ニ至ラサル者ノ述フル所ノ證ト雖モ之ヲ聽クコトヲ得可シ但シ裁判役其證人ノ述フル所ヲ相當ニ斟酌ス可シ

第二百八十六條 證人吟味ノ期限ノ終リタル時一方ノ者ヨリ調書ノ副本ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ相手方裁判ノ席ニ出ツ可キコトヲ招書ヲ以テ要ム可シ

第二百八十七條 證人ニ付キ故障ヲ述ヘタル事ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第二百八十八條 然モ訴訟ノ本案ヲ裁判シ得可キ手續トナリタル時ハ證人ニ付キ故障ヲ述ヘタル事ヲ其本案ト共ニ裁判ス可シ

第二百八十九條 證人ノ證ヲ述フル前ニ其證人ニ付キ故障ヲ述ヘタル時別ニ其故障ヲ述フルニ付テノ證書ヲ出シ、ルニ於テハ其事ニ付キ更ニ證人ヲ以テ證ヲ立ツ可キコトヲ述ヘ其證人ヲ指示ス可シ然ラサレハ證人ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ許サズ但シ故障ヲ受ケシ證人ニ損失ノ償ヲ拂フ可キ道理アル時ハ之ヲ拂フ可シ

第二百九十條 格別ノ道理アル時ハ裁判所ヨリ證人ニ付キ故障ヲ述フルニ付キ更ニ證人ヲ立シムルコトヲ言渡ス可シ又故障ヲ受ケシ證人ハ之ニ反シタル證ヲ立ツル為メ更ニ已レノ證人ヲ出スコトヲ得可シ此等ノ事ハ證人ノ至急吟味ノ法式ニ循テ之ヲ為ス可シ○證人ニ付キ故障ヲ述フル為メ更ニ出シタル證人ニ付キ故障ヲ述フルニハ必ス證書ヲ出ス可シ又其故障ヲ受ケシ證人其故障ナキ旨ヲ證スル為メ更ニ出シタル證人ニ付キ故障ヲ述フルモ亦之ニ等シトス

第二百九十一條 掛リ裁判役證人ニ付テノ故障申述ヲ允許シタル時ハ其證人ノ述タル證ヲ記シタル調書ヲ讀上ルルニ及バス

第二百九十二條 掛リ裁判役ノ過失ニ因リ證人吟味ノ取消トナリ又ハ其述フル所ノ取消トナリタル時ハ其裁判役ノ費用ヲ以テ更ニ之ヲ為ス可ク再々ノ證人吟味ノ期日ハ其再吟味ノ言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ數フ可シ但シ再吟味ノ時ハ本人ヨリ以前ノ證人ヲ出スコトヲ得可シ若シ其以前ノ証人ヲ出スコト欲ハサル時ハ裁判役以前吟味ノ時其證人ノ述タル所ニ注意ス可シ

第二百九十三條 代書師又ハ使吏ノ過失ニ因リ證人吟味ノ取消トナリタル時ハ再々其吟味ヲ為ス可カラズ然レ本

人ハ其代書師又ハ使吏ニ對シ費用ノ償ヲ要メ又其代書師使吏ノ懈怠明白ナル時ハ損失ノ償ヲ要ムルコトヲ得可シ但シ此等ノ事ハ掛リ裁判役ノ判斷ニ任ス可シ

第二百九十四條 一人又ハ數人ノ證人ノ述ヘタル所ヲ取消スト雖モ總テノ證人吟味ヲ取消ス可カラズ



佛蘭西 訴訟法第三  
法律書

權大内史其作麟祥 譯

○第十三章 裁判役自カラ訴訟ノ生シタル地ニ至リ検査スル事

第二百九十五條 裁判所ニテ必受ト思量スル時ハ裁判役中ノ一人訴訟ノ生シタル地ニ至リ検査スル言渡ヲ為ス  
ヲ得可シ然レモ鑑定人ノ申立ノミニテ十分ナル可キ時ハ原告又ハ被告ノ一方ヨリ別段願出シタル場合ノ外裁判所  
ヨリ裁判役ヲシテ其検査ヲ為サシムルコトヲ言渡ス可カラス

第二百九十六條 前條ノ言渡書ヲ以テ是迄ノ訴訟ノ吟味ニ管シタル裁判役中ノ一人ニ其検査ノ事ヲ任ス可シ

第二百九十七條 先ニ手續ヲ為ス一方ノ願ニ因リ掛リ裁判役其検査ヲ為可キ地ト日刻トヲ記シタル言渡書ヲ渡ス  
可シ但シ其言渡書ノ副本ヲ一方ノ代書師ヨリ他ノ一方ノ代書師ニ渡シタルヲ以テ他ノ一方ノ者ヲ検査ノ地ニ呼  
出ス書ト看做ス可シ

第二百九十八條 掛リ裁判役ハ調書ノ正本ニ検査ノ地ニ至リ其地ニ滞在シテ裁判所ニ還ル迄ノ日數ヲ記ス可シ

第二百九十九條 其調書ノ副本ハ先ニ手續ヲ為ス一方ヨリ他ノ一方ノ代書師ニ之ヲ送り其時ヨリ三日ノ後復タ已  
レノ代書師ヨリ他ノ一方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ裁判ノ席ニ出ツ可キコトヲ要ム可シ

第三百條 檢察官ハ自カラ訴訟ノ原告又ハ被告タル時ノ外検査ノ地ニ至ルニ及ハス

第三百一條 裁判役検査ノ地ニ至リ其地ニ滞在シテ裁判所ニ還ル迄ノ費用ハ其検査ヲ願ヒシ者ヨリ之ヲ出シテ書  
記局ニ附托シ置ク可シ

○第十四章 鑑定人ノ申立

第三百二條 鑑定人ヲシテ鑑定ヲ為サシム可キ事アル時ハ裁判所ノ言渡書ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ但シ其言渡書ニ  
ハ鑑定ヲ為ス可キ諸件ヲ詳明ニ記ス可シ

第三百三條 鑑定人ハ三員ヲ以定數トス但シ双方本人鑑定人一員ノミニテ十分ルコトヲ承諾シタル時格別ノ事  
ハ無クシ

訴訟法 二十七

第三百四條 鑑定人ヲシテ鑑定ヲ為サシム可キノ言渡ヲ為ス時双方本人鑑定人ヲ撰ムコトヲ協議シタルニ於テハ其  
言渡書ト共ニ鑑定人ヲ任スルノ書ヲ渡ス可シ

第三百五條 双方本人鑑定人ヲ撰ムコトヲ協議セサル時ハ其本人鑑定人ヲ為サシム可キ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ三  
日內ニ其鑑定人ヲ撰ム可キノ言渡ヲ受ク可シ然レモサレハ裁判所ヨリ鑑定人ヲ任シテ鑑定ヲ為サシム可シ鑑定人  
ヲシテ鑑定ヲ為サシム可キ言渡書ニハ掛リ裁判役ノ姓名ヲ記ス可シ但シ本人ノ協議シタル鑑定人又ハ裁判所ヨ  
リ任シタル鑑定人ハ掛リ裁判役ノ面前ニテ指詞ヲ述フ可シ又裁判所ヨリ鑑定人ニ其鑑定ヲ為ス地ノ治安裁判役  
ノ面前ニテ指詞ヲ為ス可キノ言渡ヲ為スコトヲ得可シ

第三百六條 前ニ記シタル定期內ニ相方本人互ニ協議シテ鑑定人ヲ撰ミタル時ハ其旨ヲ裁判所ニ申述フ可シ

第三百七條 前ニ記シタル定期ノ終リシ後先ニ手續ヲ為ス一方ノ者掛リ裁判役ノ言渡書ヲ得テ其互ニ撰ミタル鑒  
定人又ハ裁判所ヨリ任シタル鑑定人ニ掛リ裁判役ノ面前ニ出テ指詞ヲ述フ可キコトヲ要ム可シ但シ本人ハ其席ニ出  
ルニ及ハス

第三百八條 裁判所ヨリ任シタル鑑定人ニ非レハ本人ヨリ故障ヲ述フルコトヲ得ス但シ本人協議シテ撰ミタル鑑定  
人ト雖モ之ヲ撰ミタル後其未タ指詞ヲ為サ、ル前ニ本人ヨリ故障ヲ述フ可キ理由ノ生シタル時ハ格別ナリトス

第三百九條 本人鑑定人ニ付キ故障ヲ述ントスル時ハ鑑定人ノ任ヲ受ケタルヨリ三日內ニ其故障ヲ述フル理由ト  
其證書アルコト又ハ證人ヲ以テ證ヲ立ントスルコトヲ書面ニ記シテ其書面ニ姓名ヲ手署シ又ハ別段ノ名代人ヲシ  
テ其姓名ヲ手署シメ共書面ヲ鑑定人ニ送達ス可シ但シ其定期ヲ過クル時ハ本人鑑定人ニ付キ故障ヲ述フルコ  
トヲ得スシテ鑑定人ハ本人ノ送リタル呼出狀即チ第三百七條ニ記スル言渡書ニ記シタル期日ニ指詞ヲ為ス可シ

第三百十條 證人ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可キ理由アル時ハ又鑑定人ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

第三百十一條 鑑定人ニ付キ故障ヲ述フル訴訟ヲ為シ鑑定人之承諾セサル時ハ檢察官ノ説ヲ聽キタル上裁判所  
ニテ急速吟味ノ法式ヲ以テ裁判ス可シ又裁判役ハ其訴ニ付キ證人ヲ以テ證ニ立ツ可キコトヲ言渡ヲ得可シ但シ其



方法ハ證人ノ急速吟味ヲ爲スルニ付キ後ニ記シタル所ニ從テ可シ

第三百十二條 鑒定人ニ付キ故障ヲ述フル訴訟ノ裁判ハ控訴ヲ爲スニ管ヒス之ヲ執行ヲ可シ

第三百十三條 裁判後鑒定人ニ付キ故障ヲ述フル訴訟ヲ取上ケル時ハ其旨渡ト共ニ新クニ鑒定人一頁入ハ敷負ヲ任ス可シ

第三百十四條 裁判後鑒定人ニ付キ故障ヲ述フル訴訟ヲ取上ケル時ハ其訴訟ヲ爲シタル者相手方ニ相當ノ損失ノ償ヲ拂ヒ凡鑒定人ヨリ償ヲ取ル時ハ鑒定人ニモ亦其償ヲ拂フ可キノ旨渡ヲ受ク可シ但シ鑒定人償ヲ要メ之ヲ得タル時ハ鑒定人職務ヲ行フ可カラズ

第三百十五條 鑒定人ノ指ヲ述ヘタルコトヲ記シタル調書ニハ鑒定人ノ其職務ヲ行フニ付キ定メタル場所ト日刻トヲ附記ス可シ 双方ノ本人又ハ代書師ノ面前ニテ鑒定人皆ヲ述ヘ其調書ニ前ニ記シタル所ヲ附記シタルニ於テハ後ニ鑒定人其職務ヲ行フ特別般本人ニ呼出狀ヲ送ルニ及ハス若シ一方本人又ハ代書師ノ出席セザル時之ヲ爲シタルニ於テハ鑒定人ノ定メタル日刻ニ本人其場所ニ出ツ可キコトヲ他ノ一方ノ代書師ヨリ招書ヲ以テ要ム可シ

第三百十六條 若シ鑒定人其任ヲ受クルコトヲ承諾セス又ハ之ヲ承諾シタル後替ヲナス爲メ又ハ定マリシ日刻ニ鑒定ヲ爲ス爲メ出席セザル時ハ双方本人協議シテ其旨ニ從ヘ直チニ他ノ鑒定人ヨリ替ヲナシ然ラサレハ裁判所ヨリ之ヲ任ス可シ 指ヲ爲シタル後其職務ヲ行ハナル鑒定人ハ本人ノ爲シタル無益ノ費用ヲ償ヒ又格別ノ道理アル時ハ本人ノ損失ノ償ヲ爲ス可キコトヲ裁判所ヨリ旨渡ナル可シ

第三百十七條 鑒定人ヨリシテ鑒定ヲ爲シシム可キ旨渡書及ニ必要ノ書類ハ之ヲ鑒定人ニ渡シ本人ハ其相當ト思量スル所ヲ鑒定人ニ述フルコトヲ得可シ但シ本人ノ述ヘタル所ハ鑒定人ノ申立書中ニ附記ス可シ ○其申立書ハ争ハ生シタル場所又ハ鑒定人ノ定メタル場所ト日刻トニ於テ之ヲ記ス可シ 其申立書ハ鑒定人中ノ一頁之ヲ記シ其姓名ヲ手署ス可シ若シ鑒定人皆書記スルコトヲ知ラザル時ハ鑒定ヲ爲ス地ノ治安裁判所ノ書記官其申立書ヲ記シテ之ニ姓名ヲ手署ス可シ

第三百十八條 其申立書ハ鑒定人數頁ニテ一通ヲ記ス可シ但シ其鑒定人ノ中一頁ノ説他ノ二頁ト異ナル時ハ二頁ノ説ニ從テ可シ然レ其説ノ各相異ナル時ハ其各説ノ趣意ヲ記ス可シ然レ甲ノ説ハ乙ノ説ハ乙々々タルコトヲ記ス可カラズ

第三百十九條 鑒定人ノ申立書ノ正本ハ鑒定ヲ旨渡シタル裁判所ノ書記局ニ之ヲ納メ鑒定人ハ再ヒ指ヲ爲スニ及ハス ○其鑒定人ノ謝金ノ高ハ裁判所ノ上席人申立書ノ正本ノ末ニ之ヲ附記シ鑒定ヲ求メタル一方ノ者又裁判所ノ職務ヲ以テ鑒定ヲ爲ス可キコトヲ旨渡シタル時ハ其鑒定ヲ爲サシムル手續ヲ爲シタル一方ノ者ヲシテ其謝金ヲ出サシム可キ書面ヲ鑒定人ニ渡ス可シ

第三百二十條 鑒定人其申立書ヲ裁判所ニ納ムルコトヲ遅延シ又ハ之ヲ肯セザル時ハ勸解ノ法式ナク之ヲ三日内ニ裁判所ニ呼出シテ其申立書ヲ直チニ納ム可キコトヲ旨渡シ猶之ヲ納メザル時ハ其鑒定人ヲ禁錮ス可シ但シ其旨渡ヲ爲スニハ急速吟味ノ法式ニ從テ可シ

第三百二十一條 鑒定人ノ申立書ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ者之ヲ寫シテ相手方ノ代書師ニ送達シ相手方吟味ノ席ニ出ツ可キコトヲ招書ヲ以テ要ム可シ

第三百二十二條 裁判所ニテ鑒定人ノ申立書ヲ以テ訴訟ノ本案ノ模樣ヲ分明ニ知得スルヲ得ザル時ハ裁判所ノ職務ヲ以テ任シタル鑒定人一頁又ハ數頁ヲシテ再ヒ鑒定ヲ爲サシムル旨渡ヲ爲スコトヲ得可シ但シ其新クナル鑒定人ハ其相當ト思量スル所ヲ以前ノ鑒定人ニ問合ヌコトヲ得可シ

第三百二十三條 裁判後鑒定人ノ説ヲ非ナリトスル時ハ其説ヲ用フルニ及ハス  
○第十五章 訴訟本案ニ付キ本人問札ノ事

第三百二十四條 双方本人ハ訴訟ヲ爲ス時問何事ニ限ラス訴訟ノ本案ニ直切ニ管シタル箇條ニ付キ相手方本人ヲ問札ス可キコトヲ裁判所ニ願フヲ得可シ但シ此問札ノ爲メニ訴訟ノ手續又ハ裁判旨渡ヲ遅延スルコトナカル可シ

第三百二十五條 相手方ヲ問札ヤント願フ者ハ其問札ヲ願フ箇條ヲ記シタル願書ヲ出シ裁判所ノ吟味ノ席ニテ其



願ヲ允許スル言渡書ヲ得ルヲ必要トス但シ其間札ハ裁判所ノ上席人又ハ上席人ヨリ別段任シタル裁判役之ヲ爲ス可シ

第三百二十六條 相手方本人隔遠ノ地ニ住スル時ハ裁判所ノ上席人ヨリ其本人ノ住所ヲ管轄スル裁判所ノ上席人又ハ其住所ノ縣ノ治安裁判所ノ裁判役ニ其間札ヲ爲ス可キトヲ任スルヲ得可シ

第三百二十七條 掛リ裁判役ハ間札ノ任ヲ授ケタル上席人ノ言渡書ノ紙尾ニ間札ノ日刻ヲ附記ス可シ但シ一方本人ヨリ掛リ裁判役ノ言渡ヲ願フタル旨又ハ其言渡書ヲ相手方本人ニ渡シタル旨ヲ別段調書ニ記スルニ及ハス

第三百二十八條 相手方本人間札ノ席ニ出ルヲ得サル至當ノ故障アル時ハ裁判役其本人ノ居所ニ至リテ間札ヲ爲ス可シ

第三百二十九條 相手方ノ間札ヲ爲スヨリ以テ二十四時前ニ一方本人ノ願書ト裁判所ノ上席人又ハ間札ヲ爲ス可キ掛リ裁判役ノ言渡書及ヒ別段任シタル使吏ノ持参ス可キ呼出狀トヲ同時ニ相手方本人ニ送達シ又ハ其住所ニ送達ス可シ

第三百三十條 呼出ヲ受ケタル相手方本人間札ノ席ニ出タム又ハ出ルト雖モ答フルヲ肯セサル時ハ之ヲ簡略ニ調書ニ記シテ其間札ヲ受ク可キ簡條ヲ其者自ラ認メタルト看做ス可シ

第三百三十一條 相手方本人呼出ヲ受ケタル時出席ヲ爲サスニテ裁判言渡ノ前ニ出席シタル時ハ其時間札ヲ受ク可シ但シ此場合ニ於テハ皆テ掛リ裁判役ノ記トシ調書ノ費用及ヒ書類送達ノ費用ヲ一方本人ニ償ヒ後ニ克訴訟トナルト雖モ之ヲ取戻スヲ得ス

第三百三十二條 若シ呼出シテ受ケタル相手方本人間札ヲ受ク可キ日ニ至當ノ故障アルヲ認メタル時ハ裁判役其間札ノ爲メ更ニ他日ヲ定ム可シ但シ其日ニ更ニ呼出狀ヲ送達スルニ及ハス

第三百三十三條 間札ヲ受クル者ハ答書ノ下案ヲ讀ムヲナク且代官ノ助ナク一方ノ者ノ願書ニ記シタル簡條又ハ裁判役ヨリ其職務ヲ以テ間札シタル簡條ヲ自カラ答ヘ其答ハ詳明ニシテ其各簡條ニ適當ス可ク讓致屬署ノ幹

ヲ用フ可カラズ但シ間札ヲ願フタル一方ノ者ハ間札ノ席ニ出ツルヲ得ス

第三百三十四條 間札書ヲ終成シタル上ニテ之ヲ其本人ニ讀聞セ其述ヘタル所ニ誤リナク其記セシ如クニ相違ナキヤヲ問フ可シ若シ本人其述ヲ所テ添加スル時ハ其添加セシ所ヲ間札書ノ端又ハ紙尾ニ附記シテ之ヲ讀聞セ前ニ等シク相違ナキヤヲ問ヒ本人其間札書ト添加セシ所トニ姓名ヲ手署ス可シ若シ本人手署スルヲ知ラス又ハ手署スルヲ欲セサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第三百三十五條 相手方ノ間札書ヲ己レノ利益トシテ用ヒント欲スル一方ノ者ハ其間札書ヲ相手方ニ送達ス可シ然レ共及方共ニ其間札書ニ記シタル諸件ヲ別段書類ニ記ス可カラズ

第三百三十六條 公舎ノ管事務局ニ於テハ其間札ヲ受クル簡條ヲ答フル爲メ管事者一人ヲ任シテ委任狀ヲ與ヘ其書中ニ其者ノ述フル所ハ真正ナルヲ記ス可シ但シ別ニ其事ヲ記スルヲナキ時其者ノ述ヘタル所ハ管事務局ニテ之ヲ認メタルモノト看做スヘシ○又管事者其一身ノ事ニ附キ間札ヲ受クルアル時ハ裁判所ニ別ニ其間札ヲ爲シ其述フル所ニ相違ノ注意ヲ爲ス可シ

○第十六章 附帶ノ訴訟  
第九條以下數章ノ附帶ノ訴訟ト異ナリテ主タル訴訟

○第一條 附帶ノ訴訟  
第三百三十七條 附帶ノ訴訟ハ一方ノ代書師ヨリ附帶ノ訴訟ヲ爲ス憑據及ヒ其裁判所ニ願フ所ト證書願フ受取書ニ引替テ渡ス可キト又ハ裁判所ノ書記局ニ其證書類ヲ納ム可キトト記セシ招書ヲ相手方ノ代書師ニ送ルヲ以テ爲シ始ム可シ 附帶ノ訴訟ノ被告人ハ其代書師ヲシテ一方ノ代書師ニ答書ヲ送ラシム可シ

第三百三十八條 事件ニ付テノ附帶ノ訴訟ハ同時ニ之ヲ爲ス可シ但シ初メ附帶ノ訴訟ヲ爲シタル時他事ニ付キ更ニ附帶ノ訴訟ヲ爲ス可キ原由アリト雖モ之ヲ爲サスニテ後ニ之ヲ爲シタル時克訴訟ニ至ルト雖モ其費用ヲ相手方ヨリ償ハシムルヲ得ス 附帶ノ訴訟ヲ主タル訴訟ノ前ニ審判ス可キ道理アル時ハ先ニ之ヲ審判ス可シ又主タル訴訟ヲ書面ニ因テ吟味ス可キ言渡アル時ハ先ツ附帶ノ訴訟ヲ吟味シタル上主タル訴訟ヨリ先ニ之ヲ審判ス



可キヤ又ハ其訴訟ト同時ニ之ヲ審判ス可キヤヲ言渡ス可シ

○第二款 他人主タル訴訟ニ管渡スル事

第三百二十九條 他人主タル訴訟ニ管渡セントスルニハ其憑據ト其願ノ旨トヲ記シタル願書ヲ裁判所ニ出ス可シ但シ其願書ノ寫ト證書類ノ寫トヲ其者ノ代書師ヨリ及方ノ代書師ニ送ル可シ

第三百四十條 主タル訴訟ヲ審判シ得可キ權ニ至リシ時ハ他人ノ之ニ管渡シタルカ爲メ其審判ヲ遅延ス可ラス

第三百四十一條 主タル訴訟ヲ書面ニ因テ吟味ヲ爲ス可キ言渡アル時他人ノ之ニ管渡スルコトヲ一方本人ノ承諾ニ於テハ其他人ノ爲シタル訴訟ヲ先ツ吟味シテ其訴訟ヲ取上ク可キヤ否ヲ審判ス可シ

○第十七章 訴訟ヲ再起スル事及ヒ更ニ代書師ヲ任スル事

第三百四十二條 既に裁判ヲ爲シ得可キ手續ニ至リシ訴訟ハ一方本人ノ身分ノ替リタルコト又ハ其職務ノ止ミタルコト又ハ其死去シタルコト及ヒ其代書師ノ死去シタルコト其任ヲ退キタルコト其任ヲ退ケラレシコト定期ノ時間其職ヲ任メラレシコト因リ其裁判ヲ遅延ス可ラス

第三百四十三條 双方既に裁判所ニテ辯論ヲ爲シ始メタル時ハ其訴訟ヲ審判シ得可キ手續ニ至リシモノトス可シ又雙方互ニ吟味ノ席ニ於テ其願ノ旨ヲ述ヘタル時ハ既に辯論ヲ爲シ始メタルモノトス可シ 書面ニ因テ吟味ヲ爲ス訴訟ニ於テハ其吟味ノ手續ノ成就シタル時又ハ書願ヲ出シ且答書ヲ送ル可キ期限ノ終リシ時其訴訟ノ裁判スルコトヲ得可キ手續ニ至リシモノトス可シ

第三百四十四條 未タ裁判ヲ爲スコトヲ得可キ手續ニ至ラサル訴訟ニ於テハ一方本人ノ死去ヲ告知ニシ後ニ爲シタル訴訟ノ手續ハ其効ナカル可シ又代書師ノ死去シタルコト其任ヲ退キタルコト其任ヲ退ケラレシコト定期ノ時間其職ヲ任シタル時告知スルニ及ハスシテ其後ニ爲シタル訴訟ノ手續及ヒ裁判ハ亦皆其効ナカル可シ但シ更ニ代書師ヲ任シタル時ハ格別ナリトス

第三百四十五條 一方本人ノ身分ノ替リタルコト又ハ其職務ノ止ミタルコト又ハ其死去シタルコト其任ヲ退ケラレシコト定期ノ時間其職ヲ任シタル時ハ格別ナリトス

訴訟法(三)

ル可シ但シ原告人ノ身分ノ替リタルコト又ハ其死去シタル前ニ被告本人未タ代書師ヲ任セサル時ハ八日内ニ更ニ裁判所ニ出ツ可キノ呼出狀ヲ受ケ別ニ勸解ノ法式ヲ爲スニ及ハスシテ訴訟ニ取掛ル可シ

第三百四十六條 訴訟ヲ再起スルニ付テハ呼出狀又ハ更ニ代書師ヲ任スルニ付テハ呼出狀ハ此ニ卷ノ第一章ニ記シタル期限内ニ之ヲ相手方ニ送ル可シ但シ一方ノ代書師ノ姓名及ヒ裁判所ニ申立ヲ爲ス可キ掛リ裁判役アル時ハ其裁判役ノ姓名ヲモ亦其呼出狀ニ附記ス可シ

第三百四十七條 訴訟ヲ再起ハ一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送リテ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第三百四十八條 訴訟ヲ再起スルニ付キ呼出ヲ受ケタル相手方其再起ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其附帶ノ訴訟ヲ急速吟味ノ法式ヲ以テ裁判ス可シ

第三百四十九條 訴訟ヲ再起シ又ハ更ニ代書師ヲ任ス可キニ付キ呼出ヲ受ケタル相手方抗辯シタル時ハ裁判所ニテ訴訟ヲ再起シタルト看做ス言渡書ヲ渡シ以前ノ訴訟ニ付キ出シタル書類ヲ以テ吟味ノ手續ヲ爲ス可キコトヲ言渡ス可シ但シ抗辯者ハ其證書類ヲ差出シ又ハ其他ノ手續ヲ爲スニ付キ以前ノ訴訟ノ時得タル猶預ノ期限ヲ更ニ延スコトヲ得可ラス

第三百五十條 訴訟ヲ再起セントスル訴訟又ハ更ニ代書師ヲ任スルニ付テハ訴訟ノ時抗辯者ノ受ケタル裁判言渡書ハ別段任ヲ受ケタル使吏之ヲ送達ス可シ若シ又掛リ裁判役申立ヲ爲シタル時ハ其裁判言渡書ニ掛リ裁判役ノ姓名ヲ附記ス可シ

第三百五十一條 前條ノ裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フルノ訴ハ掛リ裁判役ヲ任シタル時ト雖ヒ裁判所吟味ノ席ニテ之ヲ爲ス可シ

○第十八章 本人其代書師及ヒ使吏等ノ所爲ヲ知ラヌト述フル事

第三百五十二條 代書師使吏等ハ本人ヨリ別段委任狀ヲ得ヌシテ提供自陳又ハ承諾ヲ爲シ又ハ相手方ノ此等ノ事ヲ爲シタルヲ承諾ス可ラス若シ之ヲ爲シタル時ハ本人之ヲ知ラヌト述フルコトヲ得可シ



第三百五十三條 代書師ノ所爲ヲ本人ノ知ラスト述フル許ハ其本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ノ姓名ヲ手署シタル書面ヲ是迄ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ書記局ニ出シテ之ヲ爲ス可シ但シ其書面ニハ本人其許ヲ爲ス憑據及ヒ其額ノ旨ト更ニ代書師ヲ任シタルトト附記ス可シ

第三百五十四條 是迄爲シタル訴訟ノ裁判言渡ノ未タアラサル中ニ本人ヨリ其代書師ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル時ハ別ニ呼出狀ヲ用フルトナク之ヲ述フル書ヲ本人ノ更ニ任シタル代書師ヨリ以前ノ代書師並ニ許ニ管スル總テノ代書師送達セシム可但シ其書ヲ送達シタルヲ以テ以前ノ代書師ニ呼出狀ヲ送リタルト等シク看做ス可シ

第三百五十五條 以前ノ代書師既ニ其職務ヲ行ハサル時ハ本人其代書師ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル書ヲ其代書師ノ任所ニ送リテ之ヲ裁判所ニ呼出ス可シ若シ以前ノ代書師既ニ死去シタル時ハ其書ヲ其代書師ノ遺物相續人ニ送達シ其相續人ヲ是迄ノ訴訟ヲ管スル裁判所ニ呼出シ且其旨ヲ更ニ任シタル代書師ヲシテ相手方本人ノ代書師ニ格書以テ告知セシム可シ

第三百五十六條 是迄主タル訴訟ヲ爲シタル裁判所ヨリ控訴シタル時ト雖モ本人其代書師ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル許ハ是迄ノ訴訟ヲ管シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ但シ本人ハ代書師ニ對シテ許ヲ爲ス旨ヲ主タル訴訟ノ相手方ニ告知シ其代書師ニ對シテノ訴訟ノ席ニ相手方ノ出ルルヲ要ム可シ

第三百五十七條 本人代書師ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル許ハ裁判言渡ニ至ル迄ハ主タル訴訟ハ手續及ヒ裁判ヲ延ス可シ若シ其時間ニ主タル訴訟ノ手續及ヒ裁判ヲ爲シタル時ハ其効ナカル可シ然レモ其訟ヲ述フル本人定期内ニ其裁判ヲ得ルノ手續ヲ爲サ、ル時ハ裁判所ヨリ其代書師ノ爲タル所ニ從ヒ主タル訴訟ヲ裁判ス可キ言渡ヲ爲スヲ得可シ

第三百五十八條 現在爲ス所ノ訴訟ニ管セサル證書ニ付キ本人其代書師使吏等ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル時ハ之ヲ其代書師又ハ使吏等ノ任所ヲ管轄スル裁判所ニ訴出ス可シ

第三百五十九條 本人其代書師使吏等ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル許ハ必ス之ヲ檢察官ニ告知ス可シ

第三百六十條 本人其代書師又ハ使吏等ニ對シ爲ス所ノ訴訟ヲ裁判所ニテ其許ノ如ク允許シタル時ハ本人ノ知ラスト述ベタル箇條ニ付テ裁判言渡ヲ取消シ其代書師又ハ使吏等ハ其本人及ヒ相手方本人ニ損失ノ償ヲ拂フ可キ言渡ヲ受ケ又ハ定期ノ時間其職ヲ罷ム可キ言渡ヲ受ケ又ハ其時ノ模様ニ因リ刑法裁判所ニ其犯罪ヲ訴出サレ可シ

第三百六十一條 右シ本人其代書師又ハ使吏等ニ對シ爲ス所ノ訴訟ヲ裁判所ニテ許ノ如ク允許セサル時ハ其訴狀ノ端ニ之ヲ允許セサル言渡ヲ附記シ其本人ハ代書師ト相手方本人トニ相當ノ損失償ヲ拂フ可キ言渡ヲ受ク可シ

第三百六十二條 既ニ裁判ヲ受ケシ事ノカ爲ス可キ定期ヲ過シタルトテモ得タル裁判言渡アル時本人其代書師又ハ使吏等ノ爲シタル事ヲ知ラスト述フル許ハ第五百五十九條ニ依リ裁判言渡ヲ既ニ執行ヒタルト看做ス可キ

日ヨリ八日ノ後ニ之ヲ爲ス可キラス

○第十九章 數箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中ノ一箇ニ定ム可キ付テノ訴訟

第三百六十三條 一箇ノ初告裁判ノ管轄ヲ受ケル二箇以上ノ治安裁判所ノ管轄相觸ル、時ハ其數箇ノ治安裁判所中何レノ裁判所ニテ審判ヲ受ク可キヤノ決定ヲ得キトテ其初告裁判所ニ訴出ス可シ 又二箇以上ノ治安裁判所ヲ管轄スル初告裁判所ノ異ナル時ハ控訴院ニ同上ノ訴ヲ爲ス可シ 又二箇以上ノ治安裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ異ナル時ハ覆審院ニ同上ノ訴ヲ爲ス可シ 一箇ノ控訴院ノ管轄ヲ受ケタル二箇以上ノ初告裁判所ノ管轄相觸ル時ハ其二箇以上ノ初告裁判所中何レノ裁判所ニテ裁判ヲ受ク可キヤノ決定ヲ得キトテ其控訴院ニ訴出ス可シ 又二箇以上ノ初告裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ異ナル時又ハ二箇以上ノ控訴院ノ管轄相觸ル、時ハ覆審院ニ其訴ヲ爲ス可シ

第三百六十四條 控訴院ニテハ二箇以上ノ初告裁判所ニ訴ヘタル書面ヲ視タル上本人願書ニ因リ其審判ヲ爲ス可キ初告裁判所ヲ定ムル許ニ付キ相手方ヲ呼出ス可キトテ其許スル言渡書ヲ渡シ且初告裁判所ニテ訴訟ヲ爲ス可キ暫ク延ス可キ言渡ヲ爲スヲ得可シ

第三百六十五條 此訴ニ付テノ原告人ハ控訴院ノ言渡書ヲ相手方代書師ノ任所ニ送達シテ其相手方本人ヲ呼出ス



可シ但シ此事ヲ爲スノ期限ハ控訴院ノ言渡ヨリ十五日内トス相手方本人ノ控訴院ニ出席ス可キ期限ハ裁判所ニ  
出席ス可キニ付テノ通常ノ期限ナリトス但シ其期限ハ双方代書師ノ住所ノ距離ニ從テ之ヲ算ス可シ

第三百六十六條 此訴ニ付テノ原告人前條ノ期限内ニ被告入ヲ呼出サ、時ハ別ニ言渡シト雖モ其訴ノ効ヲ失  
ス此事ニ付テノ被告人其訴出シタル初告裁判所ニテ主タル訴訟ヲ繼續シテ謀クコトヲ得可シ

第三百六十七條 此訴ニ付テノ原告人負訴訟トナル時ハ相手方ニ損失ノ債ノ爲ス可キ言渡ヲ受クルコトアル可シ  
○第二十章 裁判役一方ノ者ノ親族ナルニ付キ相手方ヨリ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サント述フル事

第三百六十八條 初告裁判所ノ裁判役中ニ一方ノ者ノ再從兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻屬ノ親三人アル時又ハ控訴  
院ノ裁判役中ニ同上ノ血屬又ハ姻屬ノ親三人アル時又ハ一方ノ者自カラ初告裁判所或ハ控訴院ノ裁判役ニシテ  
其初告裁判所ノ裁判役中ニ同上ノ親族一人アル時又ハ其控訴院ノ裁判役中ニ同上ノ親族二人アル時ハ相手方ヨ  
リ訴訟ヲ他ノ裁判所ニ移スヲ願出ルコトヲ得可シ

第三百六十九條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願ハ是迄ノ裁判所ニテ辯論ヲ始ムル前ニ之ヲ爲ス可シ又書面ニ因リ吟  
味ヲ爲ス時ハ其吟味ノ手續ノ終成スル前又ハ書類ヲ出シ且吞書ヲ送ル可キ期限三百四十條見合ヒノ終ル前ニ之ヲ爲ス  
可シ然ラザレバ裁判所ニテ其願ヲ爲スヲ許サス

第三百七十條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願ハ是迄裁判所ノ書記局ニ願書ヲ出シテ之ヲ爲ス可シ但シ其願書ニハ其  
訴ヲ爲スノ憑據ヲ記シ本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シクル名代人之二姓名ヲ手界マ可シ

第三百七十一條 其願書ヲ之ニ附加ス可キ證書類ト共ニ書記局ニ出シタル上ニテ裁判所ヨリ左件ヲ記シタル言渡  
書ヲ渡ス可シ

第一 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役ヲシテ定期内ニ同上ノ言渡書ノ副本ノ紙尾ニ其趣意ノ陳述ヲ記セシ  
ムル爲メ其裁判役ニ其副本ヲ送達ス可キ事

第二 檢察官ニ其言渡書ノ副本ヲ送達ス可キ事

訴訟法 三十二

第三 其言渡書ヲ以テ別段任シタル裁判役一人定日ニ至リ裁判所ニ申立ヲ爲ス可キ事

第三百七十二條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願書ノ副本及ヒ之ニ附加ス可キ證書類並ニ前條ニ記シタル言渡書ノ副  
本ハ之ヲ相手方ニ送達ス可シ

第三百七十三條 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス願ノ理由ヲ自認シ又ハ之ヲ自認セスト雖  
モ初告裁判所ヨリ其願ノ如ク允許シタル時ハ同シ控訴院ノ管轄ヲ受クル他ノ初告裁判所ニ其訴訟ヲ移シ又控訴  
院ニ付テハ最近ノ三箇ノ控訴院中ノ一ニ之ヲ移ス可シ

第三百七十四條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル願ヲ爲シ其願ノ如ク允許セラレザル者ハ五十ヲランゾヨリ少  
カサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ相手方ノ爲メニ損失アル時ハ其損失ヲ償フ可キ言渡ヲ受ク可シ

第三百七十五條 他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル願ヲ爲シ裁判所ヨリ其訴ノ如ク允許シ且相手方控訴ヲ爲サ、  
ル時又ハ控訴ヲ爲スト雖モ負訴訟トナリシ時ハ是迄ノ訴訟ヲ新ナル裁判所ニ移シテ相手方ニ呼出狀ヲ送り以前  
ノ裁判所ニテ爲シタル手續ニ從ヒ其訴訟ヲ繼續ス可シ

第三百七十六條 何レノ場合ニ於テモ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移ス可キ言渡ヲ控訴シタル時ハ其言渡ノ執行ヲ暫止可  
キ

第三百七十七條 第三百九十二條第三百九十三條第三百九十四條第三百九十五條ノ規則ハ前條ニ記シタル控訴ノ  
場合ニ適シテ之ヲ用フ可シ

○第二十一章 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル事

第三百七十八條 左ノ理由アル時ハ裁判役ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

第一 裁判役双方又ハ一方ノ再從兄弟ニ至ル迄ノ血屬又ハ姻屬ノ親ナル時

第二 裁判役ノ婦一方ノ者ノ同上ノ親ナル時又ハ裁判役一方ノ者ノ婦ノ同上ノ親ナル時但シ此ニ箇中何  
レノ場合ニ於テモ婦ノ生存シタル時又ハ既ニ死去シタルト雖モ其子アル時ニ限ル可シ○又婦死去シテ  
其子ナキ時ト雖モ本人ノ妻ノ父及ヒ妻ノ兄弟並ニ本人ノ婚ハ訴訟ヲ裁判ス可カラス 死去シタル婦ニ



付テノ規則ハ離婚ヲ受ケタル婦ニ于アル時通シテ之ヲ用フ可シ

第三 裁判役其婦及ヒ其夫婦ノ尊屬又ハ卑屬ノ血屬及ヒ姻屬ノ親及方本人ノ間ニ起リタルニ等シキ訴訟ヲ現ニ爲ス時

第四 此等ノ者一方本人ノ自カラ裁判役タル裁判所ニテ訴訟ヲ爲ス時 同上ノ者一方本人ノ債主又ハ負債者ナル時

第五 當時ヨリ前五年内ニ此等ノ者ト一方本人又ハ其配偶者又ハ其宗系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親トノ間ニ刑事ニ管シタル訴訟アリシ時

第六 裁判役其婦其宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親ト一方本人トノ間ニ民事ニ管シタル訴訟アリテ其本人其原告ナルニ於テハ現ニ爲ス所ノ訴訟ノ前ニ其訴訟ヲ爲シ始メタル時 又以前ノ訴訟既ニ終リタルト雖モ當時ヨリ前六月内ニ終リシ時

第七 裁判役一方本人ノ後見人後見人ノ監察者管財人遺物相續人贈遺ヲ受ケタル者主長帝ニ同一ノ食料ニテ共ニ飲食ヲ爲スルナル時 裁判役訴訟ヲ爲ス一方タル會社及ヒ建造物ノ支配人ナル時 一方本人裁判役ノ遺物相續人ナル時

第八 裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ニ付キ一方本人ニ旁聴ヲ爲シ又ハ書面ヲ與ヘタル時 裁判役現ニ爲ス時ノ訴訟ニ付キ管テ裁判ヲ爲シタルトアリシ時 裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ニ付キ管テ裁判ヲ爲シタルトアリシ時 裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ニ付キ管テ裁判ヲ爲シタルトアリシ時 裁判役現ニ爲ス所ノ訴訟ニ付キ管テ裁判ヲ爲シタルトアリシ時

第九 裁判役ト一方本人トノ間ニ甚シキ嫌隙アル時 現ニ爲ス所ノ訴訟ノ始マリシ後又ハ當時ヨリ前六ヶ月内ニ裁判役ノ方ヨリ口上又ハ書面ニテ一方本人ヲ譴毀罵詈又ハ脅迫シタル時

第三百七十九條 裁判役一方本人ノ後見人ノ親族又ハ其管財人ノ親族ナル時又ハ訴訟ヲ爲ス一方タル會社及ヒ建造物ノ社中ノ者或ハ其支配人ノ親族ナル時ハ其裁判役ニ付キ故障ヲ述フ可カラズ但シ其後見人管財人支配人社中ノ者自カニ訴訟ニ管係アル時ハ格別ナリトス

第三百八十條 裁判役故障ノ申立ヲ受テ可キ原由アルトテ自カラ知ル時ハ裁判役會議ノ室ニテ其由ヲ述ヘ其室ニ會議シタル他ノ裁判役等其裁判役訴訟ノ裁判ニ管シ可キヤ否ヤヲ決定不可シ

第三百八十一條 檢察官訴訟ニ管ス可キ時裁判役ニ付キ故障ヲ申述フ可キニ等シキ原由アルニ於テハ其檢察官ニ付キ又故障ヲ述フルトテ得可シ但シ檢察官訴訟ノ主タル本人タル時ハ之ニ付キ故障ヲ述フルトテ得ス

第三百八十二條 裁判役ニ付キ故障ヲ述ヘントスル者ハ吟味ノ席ニテ辯論ヲ始ムル前ニ其故障ヲ述フ可シ又書面ニ因リ吟味ヲ爲ス時ハ其手續ヲ終成スル前又ハ書類ヲ出シ答書ヲ送ル期限ノ終ル前ニ之ヲ爲ス可シ但シ故障ヲ述フル原由其後ニ生シタル時ハ格別ナリトス

第三百八十三條 土地ノ検査證人ノ吟味及ヒ其他ノ所為ヲ任セラレシ裁判役ニ付キ故障ヲ述フルトハ左ノ時ヨリ三日内ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ

第一 原告被告ノ面前ニテ同上ノ事ヲ爲ス可キ言渡ヲ爲シタル時ハ其言渡ノ日ヨリ

第二 一方ノ者抗辯シテ同上ノ言渡ヲ受ケ其言渡ニ付キ故障ヲ述ヘタル時ハ之ヲ述フルトテ得可キ八日ノ期限ノ終リヨリ

第三 一方ノ者抗辯シテ同上ノ言渡ヲ受ケ其言渡ニ付キ故障ヲ述ヘタル時ハ裁判所ニテ其故障ヲ申述フ許サレタルトテ言渡シタル日ヨリ但シ其言渡ニ付キ故障ヲ述フル者再ヒ抗辯シタル時モ亦同一ナリトス

第三百八十四條 裁判役ニ付キ故障ヲ述ヘントスルニハ其憑據ヲ記シタル書面ヲ書記局ニ出シ其書ニハ本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人其姓名ヲ手署ス可シ但シ其公正ノ證書ハ故障ヲ述フル書面ニ附加ス可シ

第三百八十五條 書記官ハ裁判役ニ付キ故障ヲ述フル書面ノ正本ヲ受取タルヨリ二十四時間ニ其副本ヲ裁判所ノ上席人ニ渡シ上席人ノ申立ト檢察官ノ述フル所トニ因リ裁判所ヨリ其言渡ヲ爲ス可シ但シ故障ノ申立ヲ取上ケ



サル時ハ其申立ヲ許サ、ルコトヲ言渡シ若シ其申立ヲ取上ル時ハ左件ヲ言渡入可シ

第一 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役ヲシテ別段定メタル定期内ニ詳明ニ己レノ趣意ヲ辨セシムル為メ其言渡書ヲ其裁判役ニ送達スル事

第二 檢察官ニ其言渡ヲ送達スル事 其故障ノ申立ヲ取上ル言渡書ニハ別段任シタル裁判役ノ申立ヲ為ス可キ期日ヲ附記ス可シ

第三百八十六條 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役ハ其故障ヲ述フル書面ノ正本ノ紙尾ニ己レノ趣意ノ陳述ヲ附記シテ之ヲ書記局ニ出ス可シ

第三百八十七條 裁判役及ヒ檢察官ニ言渡書ヲ送達ス可キ言渡ノ日ヨリ後ハ總テ其他ノ言渡及ヒ土地ノ檢査證人ノ吟味等ノ廢置ヲ暫ク止ム可シ然レ一方本人ヨリ此等ノ廢置ヲ急速ニ為ス可ク之ヲ遲延スル時ハ損害アル可キコトヲ述フル時ハ其者其代書師ヲシテ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメテ之ヲ吟味ノ席ニ呼出シ裁判役ニ於テハ其時ノ景狀ニ從ヒ是迄ノ裁判役ニ非サル裁判役ヲシテ此等ノ廢置ヲ為サシム可キコトヲ言渡ス可シ

第三百八十八條 故障ノ申立ヲ受ケタル裁判役其申立ノ諸件ヲ承諾シ又ハ其裁判役之ヲ承諾セスト雖モ故障ノ申立ニ付テ確證アル時ハ其裁判役土地ノ檢査證人ノ吟味等ヲ為ス可カラサル言渡ヲ受テ可シ

第三百八十九條 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル者其故障ヲ述フル證據ノ證書並ニ其證ノ端緒トナル可キ書面ヲ出ササル時ハ裁判役ニテ裁判役ノ陳述ヲ調ヘタル上其故障ノ申立ヲ許サスト言渡シ又ハ證人ヲ以テ證ヲ立テシムルコトヲ言渡ス可シ

第三百九十條 裁判役ニ付キ故障ヲ述フルト雖モ裁判役ニテ其申述ヲ取上ケス又ハ取上タル上ニテ之ヲ許サヘル時ハ其申述ヲ為シタル者百フランノ少カラサル罰金ヲ出シ且格別ノ道理アル時ハ裁判役ニ損失ノ償ヲ拂フ可キ言渡ヲ受テ可シ但シ裁判役其損失ノ償ヲ得タル時ハ其訴訟ノ審判ニ管スルコトヲ得ス

第三百九十一條 裁判役ニ付テノ故障ノ申述ヲ允許セサル言渡ハ初告裁判役ニ於テ終審ノ裁判ヲ為ス可キ事ニ管スル時ト雖モ之ヲ控訴スルコトヲ得可シ然レ其申述ヲ為シタル者土地ノ檢査證人ノ吟味等ノ廢置ヲ急速ニ為スル必要ニシテ控訴院ノ裁判ヲ待タス此等ノ廢置ヲ為ス可キ旨ヲ述フル時ハ其者其代書師ヲシテ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメテ之ヲ吟味ノ席ニ呼出シ初告裁判役ニ於テハ其時ノ景狀ニ從ヒ是迄ノ裁判役ニ非サル裁判役ヲシテ此等ノ廢置ヲ為サシムルノ言渡ヲ為ス可キコトヲ得可シ

第三百九十二條 裁判役ニ付キ故障ノ申述ヲ為シタル者初告裁判役ノ言渡ヲ控訴院ニ控訴セント欲スル時ハ其言渡ヨリ五日内ニ初告裁判役ノ書記局ニ控訴ヲ為ス書面ヲ出ス可シ但シ其書面ニハ證據タル證書類ヲ既ニ其書記局ニ納メタル旨ヲ附記ス可シ

第三百九十三條 初告裁判役ノ書記官ハ裁判役ニ付キ其裁判役ニ故障ヲ申述ヘタル書面ノ寫其裁判役己レノ趣意ヲ述ヘタル書ノ寫初告裁判役ノ言渡書ノ寫控訴院ニ控訴ヲ為ス書面ノ寫及ヒ諸國裁判役ノ書記局ニ出シタル證書類ヲ控訴人ノ求メニ從ヒ其費用ヲ以テ三日内ニ控訴院ノ書記官ニ送達ス可シ

第三百九十四條 控訴院ノ書記官ハ此等ノ書類ヲ受取リタルヨリ三日内ニ其書類ヲ控訴院ニ示シ控訴院ニテ其裁判ヲ為ス可キ期日ヲ定メ裁判役中一人ヲ其掛リ裁判役ト為シ其掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ述フル時トニ從ヒ吟味ノ席ニテ裁判言渡ヲ為ス可シ但シ其言渡ノ席ニハ双方本人ヲ呼出スニ及ハス

第三百九十五條 控訴院ノ言渡ヲ為シタルヨリ二十四時内ニ控訴院ノ書記官ハ其言渡ヲ受取タル書類ヲ初告裁判役ノ書記官ニ送達ス可シ

第三百九十六條 控訴人ハ初告裁判役ノ言渡ヨリ一月内ニ控訴院ノ言渡書ヲ相手方ニ送達シ又控訴院ニテ未タ其訴ヲ裁判セサル時ハ其旨ト其裁判ヲ為ス可キ期日トヲ記シタル控訴院ノ書記官ノ受合書ヲ相手方ニ送達ス可シ然ラサレハ裁判役ニ付テノ故障ノ申立ヲ許サヘル初告裁判役ノ言渡ヲ假ニ執行ヲ可シ但シ其假ニ執行フタル諸件ハ後ニ控訴院ニ於テ初告裁判役ノ言渡ヲ取消シタル時ト雖モ其効アリトス

○ 第二十二章 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止スルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消ト為ス事



第三百九十七條 總テ訴訟ノ手續ハ被告人其代書師ヲ任セサル時ト雖モ原告人三年ノ時間之ヲ停止シタルニ因リ之ヲ取消ス可シ 原告人訴訟ヲ再起シ又ハ更ニ代書師ヲ任スルヲ得キアル時ハ此三年ノ期限ニ六月ノ時間ヲ増ス可シ

第三百九十八條 官府公舎幼者ト雖モ前條ニ記シタル期限間其訴ヲ停止スル時ハ其訴ノ手續ノ取消ヲ受ク可シ但シ此等ノ者ハ其支配人及ヒ其復見人ニ對シ損害ノ償ヲ得可キ訴ヲ為スルヲ得可シ

第三百九十九條 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止スルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消スルハ被告人ヨリ別段願出ルニ非レハ之ヲ為ス可カラス但シ被告人其願ヲ為ス前ニ原告又ハ被告其訴訟ニ付キ法ニ適シタル證書ヲ記シタル時ハ其訴訟ノ手續ヲ取消ス可カラス

第四百條 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止シタルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消ス可キヲ被告人ヨリ願出ツル時ハ被告人其願書ヲ已レノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ニ送達セシム可シ但シ原告人ノ代書師既ニ死去シ又ハ定期ノ時間其職ヲ罷メラレ又ハ其職ヲ退ケラレシ時ハ格別ナリトス

第四百一條 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止シタルト雖モ其訴訟ヲ為スノ權ヲ失フナク唯其訴訟ノ手續ヲ取消ス可シ但シ原告及ヒ被告ハ取消シトナリタル訴訟手續ノ書類ヲ以後ノ訴訟ニ付キ用フルヲ得ス 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止シタルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消トナリタル時ハ總テ其訴訟ノ費用ヲ拂フ可キ言渡ヲ受ク可シ

○第二十三章 原告人故テ其訴訟ヲ止ムル事  
第四百二條 原告人故テ其訴訟ヲ止ムルハ本人又ハ名代人ノ姓名ヲ手署シタル書面ヲ其代書師ヨリ被告人ノ代書師ニ送ルヲ以テ之ヲ為ス可シ但シ被告人ノ之ヲ承諾スルヲモ亦同一ノ格式ニ循フ可シ

第四百三條 被告人原告人ノ訴訟ヲ止ムルヨリ承諾シタル時ハ双方共ニ總テ其訴訟ヲ為ス前ト同一ノ景狀ニ復シタル事ヲ承諾シタルト為ス可シ 又此場合ニ於テハ原告人總テ訴訟ノ費用ヲ拂フ可キノ約ヲ為シタルト為ス可シ若シ原告人其拂方ヲ肯セサル時ハ被告人ノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ニ招書ヲ送り原告人ヲシテ裁

判所ニ出席セシメタル上又ハ之ヲ呼出シ猶出席セサル上ニテ裁判所ノ上席人其費用ノ高ヲ書面ニ記シ其紙尾ニ原告人之ヲ拂フ可キ言渡ヲ附記ス可シ 初告裁判所ノ上席人此言渡ヲ為シタル時ハ原告人其言渡ニ付キ故障ヲ述ヘ又ハ控訴院ニ控訴スルニ管セズ之ヲ執行フ可シ又控訴院ノ上席人其言渡ヲ為シタル時ハ原告人其言渡ニ付キ故障ヲ述フルニ管セズ之ヲ執行フ可シ

○第二十四章 急速吟味ノ格式  
第四百四條 左ノ諸件ハ急速吟味ノ格式ヲ以テ訴訟ノ手續ヲ為シ之ヲ審判ス可シ

第一 治安裁判所ヨリ初告裁判所ノ控訴

第二 一方ニテ相手方ノ争ハサル證書ヲ有スル時ハ金高ノ幾許ナルヲ問ハス人權ノミニ付テノ訴訟

第三 證書ナシト雖モ千ノラソニ過キサル事ニ付テノ訴訟 全上人權ノミニ付テノ訴訟

第四 假ノ訴訟及ヒ速ナルヲ要スル訴訟

第五 家屋及ヒ土地ノ賃貸又ハ年金ノ拂方ニ付テノ訴訟

第四百五條 急速吟味ノ格式ヲ用フ可キ諸件ハ呼出ノ定期ノ終リシ後一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師迄言ヲ送ルニシテ其他訴訟ノ手續及ヒ格式ナク吟味ノ席ニテ直ニ裁判ス可シ

第四百六條 附帶ノ訴訟及ヒ他人ノ訴ニ干渉スル訴訟ハ其代書師ヨリ願書ヲ出シテ之ヲ為ス可シ但シ其願書ニハ其願ノ旨及ヒ其願ノ趣意ノミヲ記ス可シ

第四百七條 證人ヲ吟味ス可キ時ハ證人ヲ立ツ可キ諸件ヲ預メ簡條書ニ記スルニ及ハス唯其吟味ヲ為ス可キ言渡書ニ其事柄ヲ附記シ且ツ證人ヲ吟味ス可キ日刻ヲ附記ス可シ

第四百八條 證人吟味ヨリ少クトモ一日前ニ其證人ニ呼出狀ヲ送ル可シ

第四百九條 一方本人ヨリ證人吟味ノ猶豫ヲ得ント訴フル時ハ其訴ヲ直チニ裁判ス可シ

第四百十條 初告裁判所ノ言渡ヲ上控訴院ニ控訴ス可カラサル時ハ證人吟味ノ證書ヲ別段記スルニ及ハス唯言渡



書ニ證人ノ姓名ト其述ヘタル證ノ大旨トヲ記ス可シ

第四百十一條 初告裁判所ノ言渡ヲ控訴院ニ控訴スルヲ得キ時ハ證人ノ指詞本人ノ血屬姻屬ノ親及ヒ婢僕從者タルノ中述ヘ並ニ一方本人其證人ニ付キ故障ヲ述ヘタル時ハ其申述及ヒ其證人ノ述ヘタル證ノ大旨ヲ記シタル調書ヲ作ル可シ

第四百十二條 證人隔遠ノ地ニ在ル時又ハ裁判所ニ出ル差支アル時ハ此初告裁判所ヨリ其證人所在ノ地ノ諸國裁判又ハ治守裁判所ニ證人吟味ノ事ヲ委スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ證人吟味ノ諸件ヲ書面ニ記シ且其調書ヲ記ス可シ

第四百十三條 急遽ノ證人吟味ヲ爲ス時左ノ法式ヲ爲スニ付テハ此卷ノ第十二章ノ規則ニ倍フ可シ 證人ヲ呼出スノ言渡ヲ爲ス趣意書ヲ寫テ其證人ニ送ル事 證人ノ姓名書ヲ相手方ニ送ル事 呼出ヲ受ケテ出席セサル證人ニ罰金及ヒ其他ノ刑ヲ言渡ス事 雙方本人ノ配偶者及ヒ其宗系ノ血屬姻屬ノ親ヲ證人ト爲スヲ許ササル事 相手方ヨリ一方ノ證人ニ付キ故障ヲ述フル事其故障ノ申述ヲ裁判スル方法證人ノ間ハ證人ノ得可キ謝金 呼出ヲ受ケルニ付キ謝金ヲ得可キ證人ノ自費 滿十五歳以下ノ者ノ述フル證ノ證ヲ聽キ得可キ事

○第二十五章 商法裁判所ノ訴訟

第四百十四條 商法裁判所ノ訴訟ハ代書師ナクシテ之ヲ爲ス可シ

第四百十五條 商法裁判所ノ訴訟ハ此卷ノ第二章ニ記シタル法式ニ倍ト呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲シ始ム可シ

第四百十六條 呼出狀ヲ受ケテヨリ裁判所ニ出ツル迄ノ時間ハ少ナクトモ一日トス

第四百十七條 急遽ニ裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ商法裁判所ノ上席人呼出狀ヲ送りタル翌日又ハ之ヲ送りタル日内ニ被告入ヲ裁判所ニ出席セシメ及ヒ其動産ヲ低價トシテ是押ヘシムルノ允許ヲ原告人ニ與フルヲ得可シ又其上席人ハ其時ノ模様ニ因リ原告人ヲシテ其是押ヘタル被告入ノ動産ヲ還ス可キ保證人ヲ立シメ又ハ其被告入ノ動産ヲ自カラ還シ得可キノ證ヲ立テシムルヲ得可シ○其上席人ノ言渡ハ故障ヲ述ヘ又ハ控訴院ニ控訴ス

ルニ管セス之ヲ執行フ可シ

第四百十八條 海上貿易ニ管シタル訴訟ニ付キ住所ナキ者アル片又ハ出帆セントスル船ノ船長ニ必要ナル器具食料修理ニ管スル事ニ付キ其訴訟ヲ爲ス時及ヒ其他至急ニシテ假ニ爲ス可キ事ニ付キ訴訟ヲ爲ス時ハ其裁判所ノ上席人ノ言渡ナクシテ原告人ヨリ被告入ニ呼出狀ヲ送り其翌日之ヲ裁判所ニ出席セシメ又ハ其日内ニ出席セシ

メ若シ被告入出席セサル時ハ裁判所ニテ之ヲ抗傳者ナリトシテ即時ニ其訴訟ヲ裁判スルヲ得可シ

第四百十九條 被告入ニ宛テ其在ル所ノ船中ニ送りタル呼出狀ハ法ニ違シタルモノトス

第四百二十條 原告人ハ被告入ノ住所ノ裁判所又ハ契約ヲ爲シ商品ヲ引渡シタル地ノ裁判所又ハ拂方ヲ爲ス可キ地ノ裁判所ニ被告入ヲ呼出スル自由ナリトス

第四百二十一條 双方本人ハ自カラ出席シ又ハ別段ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ヲ出ス可シ

第四百二十二條 双方本人出席ヲ爲シ初メ吟味ノ日ニ確定ノ裁判アラサル時ハ裁判所ノ管轄地内ニ住所ナキ者其地内ニ別段住所ヲ擇ミ設ク可シ 一方ノ者其住所ヲ擇ミタルハ之ヲ吟味ノ調書ニ記ス可シ又其住所ヲ擇マサル時ハ相手方ヨリ一方ノ者ニ送達ス可キ書類ヲ裁判所ノ書記局ニ出シ置クヲ得可シ但シ確定ノ裁判言渡書ト雖モ亦同一ナリトス

第四百二十三條 原告人タル外國人商業ノ訴訟ニ付テハ負訴訟トナル時出ス可キ訴訟ノ費用及ヒ被告入ニ拂フ可キ損失債ノ保証ヲ立ツルニ及ハス但シ商法裁判所ノアラサル地ニ於テ民法裁判所ニ商業ニ付テノ訴訟ヲ爲シタル時モ亦同一ナリトス

第四百二十四條 訴訟ノ事柄ニ付キ商法裁判所ノ管轄ヲ受クカラサル時ハ一方ノ者ヨリ他ノ裁判所ニ訴出ツ可キヲ別ニ願フナシト雖モ商法裁判所ニテ他ノ裁判所ニ訴フ可キヲ言渡ス可シ 其他ノ原由ニ付キ商法裁判所ノ裁判ヲ受ケサル申立ハ總テ辯論ヲ始ムル前ニ之ヲ爲ス可シ

第四百二十五條 商法裁判所ニ於テハ其裁判ヲ受ケサル申立ヲ却還スル言渡書ヲ以テ其本案ノ裁判ヲモ亦言渡ス



ヲ得可シ 然其言渡書ヲ二箇條ニ分チ其一ハ裁判所ノ管轄ノ事ニ付テノ言渡ヲ記シ又一ハ本案ニ付テノ言渡ヲ記ス可シ 如何ナル場合ニ於テモ尚法裁判所ノ言渡書ノ中其管轄ノ權ヲ記シタル箇條ハ控訴院ニ控訴スルヲ得可シ

第四百二十六條 尚法裁判所ニテ裁判ヲ受ク可キ者ノ寡婦及ヒ遺物相續人ハ訴訟ノ再起ニ因リ又ハ新タル訴訟ニ因リ尚法裁判所ニ呼出サル可シ但シ其寡婦及ヒ遺物相續人タルノ身分ニ付キ争アル時ハ民法裁判所ニテ之ヲ裁判シ其身分ノ分明トナリタル上ニテ其訴訟ノ本案ヲ尚法裁判所ニテ裁判ス可シ

第四百二十七條 一方ノ者尚法裁判所ニ出シタル證書ヲ相手方ニテ認メスト述ヘ又ハ廢造ナル旨ヲ述ヘタル時一方ノ者猶其證書ヲ用ヒントスルニ於テハ其裁判所ヨリ其證書ニ付テノ争ノ裁判ヲ受可キ為メ民法裁判所ニ出ツ可キヲ言渡シ本案ノ裁判ヲ暫ク延ス可シ 然其争アル證書訴訟ノ箇條中一箇ノミニ管シタル時ハ尚法裁判所ニテ其他ノ箇條ノ裁判ニ取掛ルヲ得可シ

第四百二十八條 尚法裁判所ニテ一方ノ者ノ願ニ因リ又ハ裁判所ノ職務ヲ以テ公ケノ吟味ノ席又ハ裁判役會議ノ室ニテ相手方本人ヲ親シク吟味ス可キ言渡ヲ為スヲ得可シ若シ本人ニ相當ノ差支アル時ハ其吟味ヲナス為メ其裁判所ノ裁判役一人又ハ治安裁判役ヲ別段其掛リトシテ任スルヲ得可シ但シ此等ノ掛リ裁判役ハ本人ノ述フル所ヲ調査ニ記ス可シ

第四百二十九條 其計畫證書簿ノ檢視ヲナス為メ判斷人ノ必要ナル時ハ双方本人ノ述フル所ヲ聽キカメテ之ヲ和解セシム可キ判斷人一員又ハ三員ヲ任ス可シ但シ其判斷人双方本人ヲ和解セシムルヲ得サル時ハ已レノ説ヲ裁判役ニ述フ可シ 遺言又ハ商品ヲ檢査シ又ハ評價ス可キ時ハ鑑定人一員又ハ三員ヲ任ス可シ 双方本人吟味ノ席ニテ判斷人及ヒ鑑定人ヲ任スルヲ協議セサル時ハ裁判所ヨリ之ヲ任ス可シ

第四百三十條 判斷人及ヒ鑑定人ニ付キ故障ヲ述フルハ其者ヲ任シタルヨリ三日内ニ之ヲ為ス可シ  
第四百三十一條 判斷人及ヒ鑑定人ノ申立書ハ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

訴訟法

第四百三十二條 裁判所ヨリ證人ヲ以テ證ヲ立テシム可キヲ言渡ス時ハ證人急遽吟味ノ事ニ付テ記シタル規則ニ從フ可シ但シ控訴院ニ控訴スルヲ得可キ訴訟ニ付テハ書記官證人ノ述フル所ヲ書云ニ記シ證人及ヒ其名ヲ手署ス可シ若シ證人其手署ノ欲セサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第四百三十三條 尚法裁判所ノ言渡書ヲ記スル法式ニ付テハ第四百一十一條及ヒ第四百十六條ノ規則ニ從フ可シ  
第四百三十四條 原告人出席セサル時ハ裁判所ヨリ原告人抗辯者タルヲ言渡シ被告人ニ其訴訟ヲ免ルル可シ 被告人出席セサル時ハ裁判所ヨリ被告人抗辯者タルヲ言渡シ原告人ノ哀ムル所正シクシテ確證アリト認メ費スル時ハ其求メノ如ク允許ス可シ

第四百三十五條 被告人抗辯シタル時ノ裁判言渡書ハ裁判所ヨリ別段任シタル使吏之ヲ被告人ニ送達ス可シ但シ其言渡書ニハ原告人其裁判所所在ノ邑内ニ住ルナキニ於テハ其地内ニ住ル者ヲ擇ミタル旨ヲ附記ス可シ若シ之ヲ擇ミタルヲ記セサル時ハ其言渡書ノ効ナカル可シ 其言渡書ヲ送達シタルヨリ一日ノ後ニ其言渡ノ如ク執行フヲ始ム可シ但シ相手方其言渡ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其執行ヲ止ム可シ

第四百三十六條 一方ノ者言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ八日ノ後ニ至リテハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ許ス  
第四百三十七條 被告人裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル書ニハ其故障ヲ述フル憑據ヲ記シ法律ニテ定メタル期限内ニ原告人ヲ呼出スヲ附記ス可シ但シ被告人裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル書ハ原告人ノ別段擇ミタル住所ニ送達ス可シ

第四百三十八條 裁判所ノ言渡ヲ執行フ時ニ當リ被告人其言渡ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其言渡ヲ使吏ノ調査ニ記スルヲ因リ其執行ヲ止ム可シ但シ其故障ヲ述フル者ハ三日内ニ原告人ニ呼出狀ヲ送り更ニ其故障ヲ述フ可シ 但シ其期限ヲ過ス時ハ被告人故障申述ノ効ナカル可シ

第四百三十九條 一方ノ者相手方ノ争ハサレ證書ヲ有スル時又ハ以前既ニ裁判言渡アリテ相手方之ヲ控訴ス可キヲナシ時ハ尚法裁判所ニテ現ニ為ス所ノ裁判ヲ控訴スルニ管セス保證人ヲ立テシムルヲテクシテ假ニ其言渡ノ



加シ執行ヲ得可シ其他ノ場合ニ於テハ一方ノ者ヲシテ保證人ヲ立テシメ又ハ自カラ十分ナル資本アルノ證ヲ立テシメスシテ假ニ其言渡ノ如ク執行ヲ得ス

第四百四十條

一方ノ者ハ控訴ヲ為シタル相手方裁判所所在ノ地ニ住スルニ於テハ其相手方ノ住所ニ書面ヲ以テ保證人ヲ立タルヲ告知シ若シ然ラザルハ第四百二十二條ニ備ヒ其相手方ノ權ミタル住所ニ書面ヲ以テ告知シ

且相手方ニ定リシ日刻ニ書記局ニ至リテ保證人ノ證書類ヲ他所ニ携ヘ行クヲナク其場所ニテ檢視ス可キ旨ヲ要ム可シ若シ相手方其保證人ニ付キ故障ヲ述フル時ハ一方ノ者其相手方ニ其争ヲ裁判スル席ニ出ツ可キヲ要可シ

第四百四十一條

控訴ヲ為シタル相手方前條ニ記シタル日刻ニ書記局ニ出テサル時又ハ保證人ニ付キ故障ヲ述ヘサル時ハ保證人書記局ニ其保證ヲ為ス可キ旨ヲ證ス可シ若シ相手方其保證人ニ付キ故障ヲ述フル時ハ曾テ一方ヨリ相手方ニ送リタル書ニ記シタル日ニ其裁判ヲ為ス可シ但シ何ノ場合ニ於テモ其裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ又ハ控訴ヲ為スヲニ管セス其言渡ヲ執行ヲ可シ

第四百四十二條

商法裁判所ハ其裁判言渡ノ執行ニ管シタル事ヲ管轄セス

佛蘭西 法律書 訴訟法三

辻 士 革 校

佛蘭西 法律書 訴訟法第四

櫻木内史英作註釋 譯

○第三卷 控訴院千八百六十二年四月十七日決定同司七〇三三

○第一章 控訴及ヒ其手續

第四百四十三條 千八百六十二年五月三日如左改ム控訴ヲ為ス可キ期限ハ二月内アリトス但シ其期限ハ原告被告

雙方共ニ初告裁判所ニ出席シテ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡書ヨリ一方本人又ハ其住所ニ送達シタル日ヨリ之

ヲ教フ可シ一方ノ者抗傳シテ諸國裁判所ノ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得サレニ

至リシ日ヨリ之ヲ教フ可シ然ル控訴ノ被告入曾テ初告裁判所ヨリ得タル言渡書ヲ控訴ノ原告人ニ送達シ其被

告人後ニ控訴ヲ為ス可キ旨ヲ別段其言渡書ニ附記セサルト雖モ二月ノ後ニ至リ其原告人ノ主タル控訴ヲ為ス間

何時ニ限ラズ其被告入附帶ノ控訴ヲ為スヲ得可シ

第四百四十四條 前條ニ記シタル二月ノ期限ヲ過クル時ハ控訴ヲ為スヲ得ス又如何ナル者邑、公舎、會社、坊者、治産

中ニト雖モ其期限ノ後ニ至テハ控訴ヲ為スノ權ヲ失ヒ唯己レノ支配人及ヒ後見人ニ對シテ償ヲ得ントスル訴ヲ

為スヲ得可シ但シ幼者ニ付テハ其後見人ノ監察者初告裁判所訴訟ニ自カラ管セサリシ時ト雖モ其裁判所ノ言

渡書ヲ監察者ト後見人トニ送達シタル日ヨリ其期限ヲ教フ可シ

第四百四十五條 千八百六十二年五月三日如左改ム佛蘭西本國外住スル者ハ控訴ヲ為スニ付キ初告裁判所ノ言渡

書ノ送達ヲ得タルヨリ二月ノ期限ノ上更ニ第七十三條ニ記シタル被告入呼出ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ

第四百四十六條 千八百六十二年五月三日如左改ム公務ノ任ヲ受ケタルニ因リ佛蘭西ノ本國外又ハアルゼリノ

地外ニ在ル者ハ控訴ヲ為スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ二月ノ期限ノ上更ニ八月ノ猶豫ノ期

限ヲ得可シ又航海ノ為メ外國ニ在ル海客ニ付テモ同上猶豫ノ期限アリトス

第四百四十七條 控訴ヲ為ス可キ期限ノ經過ハ初告裁判所ニテ負訴訟トナリシ者ノ死去シタル日ヨリ之ヲ止可シ

其期限ハ第六十一條ニ記シタル法式ヲ以テ死者ノ住所ニ初告裁判所ノ言渡書ヲ更ニ送達シタル時ヨリ再ヒ之ヲ

算ヘ始ム可シ但シ死者ノ遺物相續人目錄ヲ記シ熟考ヲ為ス可キ期限ノ終ラサル前ニ更ニ其言渡書ヲ送達シタル

時ハ其期限ノ終ル時ヨリ再ヒ控訴ノ期限ヲ算ヘ始ム可シ初告裁判所ノ言渡書ヲ死者ノ住所ニ更ニ送達スルニ

ハ遺物相續人ノ各自ノ姓名及ヒ身分ヲ記スルヲナク其連名宛ヲ以テ之ヲ為スヲ得可シ



第四百四十八條 初告裁判所ニテ贖造ノ證書ニ據リ裁判言渡ヲ為シタル時又ハ一方ノ者其相手方ノ為メニ已レノ證書ヲ陰藏セラレ之ヲ差出スヲ得サルニ因リ初告裁判所ニテ負訴訟トナリシ時ハ後ニ其相手方其證書ノ贖造ナルヲ自認シタル時又ハ裁判所ニテ其贖造ナルヲ證シタル時又ハ相手方ノ陰藏シタル證書ヲ取返シタル時ヨリ控訴ノ期限ヲ算フ可シ但シ相手方ノ陰藏シタル證書ヲ取返シタル時ハ之ヲ取返セシ日ヲ證明スルヲ得可キ證書アルヲ必要トス

第四百四十九條 假ニ執行フ可キモノニ非サル初告裁判所ノ言渡ノ控訴ハ其言渡ノ日ヨリ八日內ニ之ヲ為ス可カラズ若シ其期限內ニ為シタル控訴控訴院ニテ之ヲ取上ケサル可シ但シ猶控訴ヲ為サント欲スル者ハ之ヲ為シ得可キ期限內ニ更ニ控訴ヲ為スヲ得可シ

第四百五十條 假ニ執行フ可キモノニ非サル初告裁判所ノ言渡ハ前條ニ記スル八日ノ期限間其執行ヲ延ハス可シ第四百五十一條 訴訟ノ本案ニ管セサル預審ノ裁判言渡ノ控訴ハ確定ノ言渡ノ後其確定ノ言渡ノ控訴ト共ニ之ヲ為ス可ク且其控訴ノ期限ハ確定ノ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ數フ可シ但シ其預審ノ言渡ノ執行ヲ受タル時後ニ控訴ヲ為スヲ得可キ旨ヲ斷リ置カスト雖モ控訴院ニテ其控訴ヲ取上ケ可シ 本案ニ管ス可キ預審ノ言渡ノ控訴ハ確定ノ言渡ノ前ニ之ヲ為スヲ得可シ又假ニ執行フ可キ言渡ニ付テモ確定ノ言渡ノ前ニ其控訴ヲ為スヲ得可シ

第四百五十二條 訴訟ヲ吟味シテ確定ノ裁判ヲ為スヲ得可キニ至ラシムル手續ニ付テノ言渡ヲ本案ニ管セサル預審ノ言渡トス 裁判所ニテ確定ノ裁判言渡ヲ為ス前證書ヲ以テ證ヲ立ツル專書類ノ驗典ヲ為ス事又ハ其他本案ニ管スル吟味ノ手續ニ付キ為シタル言渡ヲ本案ニ管スル預審ノ言渡トス 第四百五十三條 始審ノ裁判言渡ヲ為ス可キ訴訟ニ付キ初告裁判所ニテ為シタル裁判言渡ハ終審ノ言渡ナリト記シタル時ト雖モ之ヲ控訴スル事ヲ得可シ 終審ノ裁判言渡ヲ為ス可キ訴訟ニ付キ初告裁判所ニテ為シタル裁判言渡ハ終審ノ言渡ナリト記スルヲナク又ハ始審ノ言渡ナリト記シタル時ト雖モ其言渡ヲ控訴ハルヲ得ス

第四百五十四條 初告裁判所ノ管轄ヲ受ケタルコトニ管シタル訴訟ニ付テハ其裁判所ニテ終審ノ裁判言渡ヲ為ス時ト雖モ言渡ヲ控訴スルヲ得可シ

第四百五十五條 初告裁判所ニテ一方ノ者抗辯シテ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其者初告裁判所ニ其言渡ニ付テノ故障ヲ述フルヲ得可キ時間控訴院ニ控訴ヲ為スヲ許サス

第四百五十六條 控訴書ニハ法律ニテ定メタル定期內ニ相手方ヲ控訴院ニ呼出ス旨ヲ記シ之ヲ其相手方本人又ハ其住所ニ送達ス可シ若シ其法式ヲ行ハサル時ハ其書面ノ効ナカル可シ

第四百五十七條 確定ノ裁判又ハ本案ニ管スル預審ノ裁判言渡ノ控訴ヲ為ス時ハ其裁判言渡ノ執行ヲ止ム可シ但シ別段法律上ニ定メタル場合ニ於テ假ニ其言渡ノ如ク執行フ可キコトヲ定メタル時ハ格別ナリトス 初告裁判所ニテ終審ノ裁判言渡ヲ為ス可カラサル事件ニ付キ誤テ終審ノモノナリト記シタル言渡書ノ執行ヲ止ムル為メニハ控訴ヲ為ス者相手方ヲ定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴院ニ呼出シ其吟味席ニテ其執行ヲ止ム可キノ言渡受ク可シ 初告裁判所ニテ終審ノ言渡ヲ為スコトヲ得可キ場合ニ於テ其言渡ヲ終審ノモノナリト記セス又ハ始審ノモノナリト記シタル時ハ控訴ノ被告入其代書師ヲシテ控訴ノ原告人ノ代書師ニ證書ヲ送ラシメ之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出シテ其初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可キノ言渡ヲ受ケルヲ得可シ

第四百五十八條 若シ初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可キ場合ニ於テ之ヲ言渡サハル時ハ控訴ノ被告入其代書師ヲシテ原告人ノ代書師ニ證書ヲ送ラシメ其原告人ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出シ控訴ノ裁判言渡ノ前ニ初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可キノ言渡ヲ受ケルヲ得可シ

第四百五十九條 別段法律上ニ定メタル場合ニ非スシテ初告裁判所ヨリ其言渡ヲ假ニ執行フ可キコトヲ言渡シタル時ハ控訴ノ原告人定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴ノ被告入ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出シ其執行ヲ止ム可キノ言渡ヲ受ケルヲ得可シ但シ其原告人定期ヨリ更ニ短キ時間ニ其被告入ヲ呼出ス可キ願書ヲ控訴院ノ上席次ニ出シタルノミニシテ其書面ニ被告入ニ送ルコトヲ直其上席人ヨリ初告裁判所言渡執行ヲ止メシム可カラズ



第四百六十條 前數條ニ記シタル場合ノ外ハ控訴院ヨリ初告裁判所ノ言渡ノ執行ヲ禁シ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス之ヲ止ム可キノ言渡ヲ為ス可カラズ若シ此規則ニ背キ控訴院ニテ為シタル言渡ハ其効ナカル可シ

第四百六十一條 初告裁判所ニテ書面ニ因リ吟味ヲ為シタル訴訟ノ執行言渡ト雖モ之ヲ控訴スル時ハ書面ヲ用ヒス直チニ控訴院ノ吟味ノ席ニ其控訴ヲ為ス可シ但シ控訴院ニテ格別ノ道理アルト思量スル時ハ再ヒ書面ニ因テ之ヲ吟味ス可キヲ言渡ス可シ

第四百六十二條 控訴ノ被告人代書師ヲ任シタルヨリ八日以内ニ控訴ノ原告人ハ初告裁判所ノ言渡ニ承服セサルニ憑據ヲ書面ニ記シテ被告人ニ送達シ其被告人ハ其後八日以内ニ答辯書ヲ送ル可シ但シ其他ノ手續ナク原告人ヨリ被告人ニ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ス可シ

第四百六十三條 急速吟味ノ法式ヲ以テ為シタル裁判言渡ノ控訴ハ一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ルノミニテ其他ノ手續ナク之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ上告ス可シ又控訴ノ被告人定期内ニ其代書師ヲ任セサル時ハ通常ノ法式ヲ以テ為シタル裁判言渡ノ控訴ニ付テモ亦同一ナリトス

第四百六十四條 控訴ノ時ハ嘗テ初告裁判所ニ送ルルヨリ更ニ新ナル訴訟ヲ為ス可カラズ但シ義務ヲ互ニ消殺スルニ付キ新ナル訴訟ヲ為シ又ハ主タル訴訟ノ助トシテ新ナル訴訟ヲ為スルハ之ヲ許ス 又一方ノ者ハ初告裁判所ノ言渡ノ後相手方ヨリ得可キ息銀年金ノ額家屋ノ賃債及ヒ其他ノ附加シタル諸件ヲ得ント欲スルヲ控訴院ニ訴フルヲ得可シ

第四百六十五條 前條ニ記シタル場合ニ於テ一方ノ者控訴院ニ新ナル訴訟ヲ為サントスルニハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其新ナル訴訟ヲ為スノ道理ヲ記シタル趣意書ヲ送達セシメテ之ヲ為ス可シ 又一方ノ者以前初告裁判所ニ差出シタル趣意書ノ條件ヲ更改セント欲スル時モ亦其更改ヲ為ス道理ヲ記シタル趣意書ヲ相手方ニ送達ス可シ 初告裁判所又ハ控訴院ニ嘗テ出シタル憑據書及ヒ答辯書ト同一ナル書面ヲ更ニ控訴院ニ出シタル時ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラズ 既ニ一度出シタル書面ニ記セシ憑據及ヒ答辯ト新ニ送ル憑據

及ヒ答辯トヲ相混シテ記シタル書面ヲ控訴院ニ出シタル時ハ其書面中ニテ新ノニ送ル憑據及ヒ答辯ヲ記シタル部分ノミニノ費用ヲ裁判費用中ニ加フ可シ

第四百六十六條 原告被告ノ受ケタル裁判言渡ヲ取消サント訴フル權アル者ニ非レハ原告被告ニ非サル者控訴ニ管涉スルヲ許サズ

第四百六十七條 控訴院ノ裁判後數頁ニ三箇以上ノ説アル時ハ最も寡數ノ裁判役他ノニ箇ノ説中ノ一箇從フ可シ

第四百六十八條 控訴院ニテ一箇ノ説ヲ非トスル者ノ數ト可トスル者ノ數ト均シキ時ハ其説ヲ決ス可キ為メ其訴訟ニ管セサル裁判役一頁ヲ其受任ノ順序ニ從ヒ呼迎ヘ又ハ奇數ヲ以テ數頁ヲ呼迎ヘ其訴訟ヲ更ニ吟味シ又書面ニ因リ吟味ヲ為ス可キ時ハ掛リ裁判役ヲシテ更ニ其申立ヲ為サシム可シ 控訴院ノ裁判役皆其訴訟ノ吟味ニ管シ其説ノ決セサル時ハ之ヲ決スル為メ先ニ登級シタル順序ヲ以テ法律家ニ三頁ヲ呼迎フ可シ

第四百六十九條 控訴ノ定期ノ時間停止シタルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消ト為スニ至リシ時ハ再ヒ其控訴ヲ為スルヲ得スレテ初告裁判所ノ言渡ヲ裁判ヲ控訴タル事ノカアリトス

第四百七十條 前數條ニ記シタル規則ヲ除クノ外初告裁判所ノ規則ヲ控訴院ニ通シ用フ可シ

第四百七十一條 治安裁判所ノ言渡ノ控訴ヲ為ス者負訴訟トナル時ハ五フランノ罰金ヲ言渡サル可ク又初告裁判所又ハ商法裁判所ノ言渡ノ控訴ヲ為ス者負訴訟トナル時ハ十フランノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百七十二條 控訴ノ上控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ確定シタル時ハ其初告裁判所ニテ其言渡ヲ執行フ可シ又控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ハ其控訴院又ハ控訴院ヨリ別段指定メタル初告裁判所ニテ原告被告ノ間ニ其言渡ヲ執行フ可シ但シ初告裁判所ヨリ言渡シタル禁錮又ハ不動産ノ差押ヲ取消ス可キ控訴院ノ言渡

ノ執行及ヒ其他別段法律上ニ其執行ノ管轄ヲ定メタル諸件ハ各其管轄ノ初告裁判所ニテ之ヲ取扱可シ

第四百七十三條 訴訟ノ本案ニ管スル預審ノ言渡ノ控訴ヲ為シ控訴院ニテ其言渡ヲ取消シタル時其本案ヲ裁判スルヲ得可キ手續ニ至リシニ於テハ控訴院ニテ其本案ヲモ亦一通ノ言渡書ヲ以テ同時ニ裁判ス可シ 又控訴院



ニテ初告裁判所ノ確定ノ裁判言渡ヲ法式ニ背キケルト為シテ之ヲ取消シ又ハ其他本案ニ非サル事ニ付キ之ヲ取消シタル時ハ控訴院ニテ其本案ヲモ亦裁判ス可シ

○第四章 裁判言渡ヲ取消サントスル為メノ異常ノ方法 (千八百六十六年四月十七日法律第二十七日布告)

○第一章 原告及ヒ被告ニ非サル者ヨリ裁判取消ヲ訴フル事  
第四百七十四條 人自カラ呼出ヲ受ケス又其各代人呼出ヲ受ケスレテ已レノ權利ノ害トナル可キ裁判言渡アル時ハ其言渡ヲ取消ト為ス可キトテ訴フルヲ得可シ

第四百七十五條 原告及ヒ被告ニ非サル者裁判所ノ言渡ヲ取消ス可キトテ主タル訴訟ト為シテ願出ントスル時ハ嘗テ其言渡ヲ為セシ裁判所ニ願出ツ可シ 又甲ノ裁判所ニテ為ス所ノ訴訟ニ付キシノ裁判所ノ言渡ヲ取消ス可キトテ附帶ノ訴訟トシテ願出ントスル時甲ノ裁判所其言渡ヲ為セシ乙ノ裁判所ト同等又ハ上等トルニ於テハ其訴訟ヲ為ス所ノ裁判所ニ願書ヲ出シテ其取消ヲ訴フ可シ

第四百七十六條 其訴訟ヲ為ス甲ノ裁判所其言渡ヲ為セシ乙ノ裁判所ヨリ下等ナル時ハ其言渡ヲ他人ヨリ取消トシテ願出附帶ノ訴訟トシテ主タル訴訟トシテ其言渡ヲ為セシ乙ノ裁判所ニ提出ス可シ  
第四百七十七條 前條ノ場合ニ於テ其訴訟ヲ裁判ス可キ裁判所 甲ノハ其時ノ景狀ニ從ヒ其本案ノ裁判ヲ為シ又ハ之ヲ猶豫スルトテ得可シ

第四百七十八條 裁判ヲ往タル事ノカアル言渡ニ因リ不動産ヲ拋棄ス可キ裁判アル時ハ他人ヨリ其言渡ヲ取消ヲ訴ヘタルニ管ヒス之ヲ其原告ト被告トノ間ニ執行ヲ可シ但シ其言渡ヲ執行ト雖モ他人ヨリ取消ヲ願フタル訴ノ害トナルコトヲ可シ 其他場合ニ於テハ裁判所ニテ其時ノ景狀ニ從ヒ其言渡執行ヲ止ムルトテ得可シ  
第四百七十九條 原文及ヒ被告ニ非ナル者裁判言渡ヲ取消ヲ訴ヘ其訴ノ負訴訟トナリタル時ハ五十五ヲランコヨリ少カラザル罰金ヲ言渡ナレ又別段ノ道理アル時ハ損害ノ償ヲ言渡サレ可シ

○第二章 教領ノ願書頂新取トナリシ者第四百八十條ニ配列シタル條件ヲ申述テ裁判言渡シノ取消ヲ願  
第四百八十條 初告裁判所及ヒ控訴院ニテ原告被告双方ノ面前ニテ為シタル終審ノ裁判言渡アル時及ヒ一方ノ者抗傳ノ時ナシタル終審ノ裁判言渡シテ既ニ故障ヲ述フルコトヲ得サルニ至リシ時ハ一方ノ者ノ願ニ因リ左ノ諸件ニ付キ其言渡ヲ取消トナスコトヲ得可シ

第一 相手方ノ本人ノ詐偽アル時

第二 裁判言渡ノ前又ハ裁判言渡ノ時欠ク可カラサル法式ヲ欠キシ時但シ其法式ヲ欠キタルニ因リ本人其言渡ノ取消ヲ願フ可キ時其定期ヲ過シタルニ於テハ格別ナリトス

第三 本人ヨリ訴出サシル事柄ニ付キ裁判言渡アリシ時

第四 本人ノ訴出シタルヨリ更ニ餘分ノ事ニ付キ裁判言渡アリシ時

第五 本人ノ訴タル箇條中ノ一箇ヲ裁判言渡ニ遺脱シタル時

第六 同シ裁判所ニテ同シ双方本人ノ間 同シ事柄ニ付キ二箇ノ終審ノ裁判言渡ノ互ニ遺脱シタル時

第七 一箇ノ裁判言渡書中ニ錯誤シタル事アル時

第八 檢察官ニ報フ知ス可キ場合ニ於テ其報知ヲ為サスシテ檢察官ヨリ權利ノ保護ヲ受ク可キ者ノ負訴訟ヲナリシ時

第九 裁判言渡ノ後其裁判ニ用ヒタル證書ヲ相手方ニテ屢追ナリト白認シ又ハ裁判所ニテ屢追ナリト言渡シタル時

第十 相手方ノ隠藏シタル至重ノ證書類ヲ裁判言渡ノ後ニ取返シタル時

第四百八十一條 官邸公舎幼者ハ之ニ代テ訴ヲ為ス者ノアラサシ時又ハ其代人アリシト雖モ法ニ違ヒテ其訴ヲ為サリシ時ハ其言渡ヲ受ケタル裁判ノ取消ヲ訴フルコトヲ得可シ

第四百八十二條 裁判言渡書中ノ一箇條ノミニ付キ取消ヲ訴ルコトヲ得可キハ其箇條ノミヲ取消ト為スコトヲ得可シ



但シ他ノ箇條其一二箇條ニ属シタルトナル時ハ格別ナリトス

第四百八十三條 千八百六十二年五月三日如左改ム教懐ノ願書ハ丁年者ニ付テハ其本人又ハ其住所ニ裁判言渡書

ノ送達ヲ得タル日ヨリ二月内ニ相手方ニ對シテ裁判所ニ出席ヲ要ムル呼出状ト共ニ之ヲ其相手方ニ送達ス可シ

第四百八十四條 千八百六十二年五月三日如左改ム効者ニ付テハ其丁年ニ至リシ後其本人又ハ其住所ニ裁判言渡

書ノ送達ヲ得タル日ヨリ其二月ノ期限ヲ數フ可シ

第四百八十五條 千八百六十二年五月三日如左改ム効者ニ付テハ其丁年ニ至リシ後其本人又ハ其住所ニ裁判言渡

書ノ送達ヲ得タル日ヨリ其二月ノ期限ヲ數フ可シ

第四百八十五條 千八百六十二年五月三日如左改ム公務ノ任ヲ受ケタルニ因リ佛蘭西本國又ハアルゼリノ地ニ

在サル者ニ付テハ其裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ二月ノ期限ノ外更ニ八月ノ期限ヲ増ス可シ 航海ノ為

メ同上ノ地ニ在ラサル海客ニ付テモ亦之ニ等シトス

第四百八十六條 千八百六十二年五月三日如左改ム佛蘭西本國外ニ居住スル者ニ付テハ其裁判言渡書ノ送達

ヲ得タル日ヨリ二月ノ期限ノ外第七十三條ニ記シタル呼出ノ期限ヲ増ス可シ

第四百八十七條 裁判言渡ヲ受ケタル者其取消ヲ願フ可キトニ付キ其効條ニ定メル期限内ニ死去シタル時ハ其親

續人其取消ヲ願フ可キ期限ヲ第四百四十七條ニ記シタル期限ヨリ數可但シ其方法モ又同ニ記シタル所ニ從フ可シ

第四百八十八條 證人ノ屢造ナルト又ハ新タニ證書ヲ見出シタル日又ハ新タニ證書ヲ見出シタル日ヨリ二月ノ期限ヲ數

ヲ出ス時ハ相手方ニテ證書ノ屢造又ハ詐偽ヲ自認シタル日又ハ新タニ證書ヲ見出シタル日ヨリ二月ノ期限ヲ數

フ可シ但シ證書ヲ見出シタル場合ニ於テハ之ヲ見出シタル日ヲ證明ス可キ證書アルトテ必要トス

第四百八十九條 二箇ノ裁判言渡ノ互ニ齟齬シタル時ハ後ノ言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ二月ノ期限ヲ數フ可シ

第四百九十條 教懐ノ願書ハ裁判言渡ヲナシタル裁判所ニ之ヲ差出シ以前ノ裁判役之ヲ裁判スルヲ得可シ

第四百九十一條 裁判言渡ヲ為シタルモノニ非サル裁判所ニテ為ス所ノ訴訟ノ時間係争方ヨリ出シタル其裁判言

渡書ヲ一方ノ者教懐ノ願書ヲ以テ取消サント願フ時ハ其裁判言渡ヲ為シタル裁判所ニ其願書ヲ出ス可シ但シ此

迄ノ訴訟ヲ裁判ス可キ裁判所ハ其時ノ景狀ニ從ヒ其訴訟ヲ裁判シ又ハ之ヲ備後スルトテ得可シ

第四百九十二條 裁判言渡ヨリ六月内ニ教懐ノ願書ヲ出ス時ハ相手方ノ代書師ノ住所ニ呼出状ヲ送り六月以後ニ

於テハ相手方本人ノ住所ニ其呼出状ヲ送ル可シ

第四百九十三條 主タル訴訟ヲ裁判ス可キ裁判所即チ其地ノ境域ヲ以テ定メテ附帶ノ訴ヘトシテ教懐ノ願書

ヲ出ス時ハ一方ノ者ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其旨ヲ告知スル格書ヲ送ルノミニテ足レリトス然レ裁判言

渡ヲ為シタルモノニ非サル裁判所ニテナス所ノ主タル訴訟ノ附帶ノ訴トシテ教懐ノ願書ヲ出ス時ハ其裁判言渡

ヲ為セシ裁判所ニ相手方本人ノ出席ヲ要ムル呼出状ヲ其本人ニ送可シ

第四百九十四條 官ノ利益ノ為メ契約ヲ為ス者ノ外何人ヲ問ハス教懐ノ願書ヲ出ス前ニ罰金ノ預備トシテ三百

ランクノ金高ト相手方ヘノ損失價ノ預備トシテ百五十ランクノ金高ト官署ニ納メ置ク可シ但シ相手方ヘ損

失價ノ預備トシテ更ニ多量ノ金高ト官署ニ附托ス可キ道理アル時ハ格別ナリトス 一方ノ者抗辯シテ裁判言渡

ヲ受ケタル時又ハ一方ノ者證書ヲ出サスシテ裁判言渡ヲ受ケタル時後ニ教懐ノ願書ヲ出スニ付キ前ニ記シタル

金高ノ半ヲ官署ニ納メ又初告裁判所ノ裁判言渡ニ付キ其願書ヲ出ス時ハ前ニ記シタル金高ノ四分ノ一ヲ官署ニ

納サム可シ

第四百九十五條 教懐ノ願書ノ初二裁判言渡ヲナシタル初告裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ管轄地内ニテ少ク共十年

以来其職務ヲ行タル代官人三員ヘノ相談書ト金高ノ附托ヲ得タル官吏ノ受取書トヲ附記シテ相手方ニ送達ス可

シ 代官人ヘノ相談書ニハ三人共ニ教懐ノ願書ヲ出ス可キノ説ナル者ト言渡書ヲ取消ト為ス可キ憑據トヲ附ス

可シ然ラサレハ其願書ヲ取上ク可カラズ

第四百九十六條 裁判言渡ヨリ六月内ニ教懐ノ願書ヲ出ス時ハ曾テ其言渡ノ時代書師タリシ者更ニ別段委任ヲ受

クルノ書ヲ得ルトナクシテ當然猶其代書師タル可シ



第四百九十七條 敬慎ノ願書ヲ出スト雖后既ニ言渡シタル裁判執行ノ差支トナルトナク又其執行ノ猶豫ヲ許ス可  
カラス○不動産所有ノ權ヲ放棄ス可キノ言渡ヲ受タル者敬慎ノ願書ヲ出サントスルニハ其言渡ノ如ク既ニ執行  
ヒタル證書ヲ出ス可シ

第四百九十八條 總テ敬慎ノ願書ハ之ヲ檢察官ニ報知ス可シ

第四百九十九條 代官人ヘノ相談書ニ記シタル敬慎ノ願書ヲ出ス應據外ノ愚慮ハ吟味ノ席ニテ之ヲ辨論ス可ラス  
又書面ヲ以テ之ヲ述フ可カラス

第五百條 敬慎ノ願書ヲ却還スル時ハ其言渡ト共ニ其願書ヲ出シタル者ニ前ニ記シタル罰金ト相手方ヘノ損失ノ  
額トヲ拂フ可キトヲ言渡ス可シ但シ別段ノ道理アル時ハ相手方ニ更ニ多量ノ償ヲ拂フ可キトヲ言渡ス可シ

第五百一條 敬慎ノ願書ノ如ク名許スル時ハ以前ノ裁判言渡ヲ取消シ其言渡前ノ最状ニ復シテ附托シタル金高ヲ  
還シ且相手方ヲシテ其言渡ニ因リ得タル諸件ヲ還サシム可シ二箇ノ裁判言渡ノ互ニ阻礙タルニ付キ敬慎ノ願書  
ノ如ク名許シタル時ハ其二箇中初メノ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キトヲ言渡ス可シ

第五百二條 訴訟ニ附帶シタル二付キ為シタル裁判言渡ヲ敬慎ノ願書ニ因リ取消シタル後其訴訟ノ本案ハ其取  
消ヲナシタル裁判所ニテ裁判ス可シ

第五百三條 既ニ敬慎ノ願書ヲ出シテ取消ヲ訴タルト雖后取消スコトヲ得サリシ裁判言渡又ハ敬慎ノ願書ヲ却還ス  
ル裁判言渡又ハ敬慎ノ願書ノ如クニ因リ名許シタル後訴訟ノ本案ニ付キ為シタル裁判言渡ハ何人ヲ論セ入再ヒ  
敬慎ノ願書ヲ出シテ之ヲ取消サント訴フルトテ得ス若シ再ヒ之ヲ訴フルト雖后其効ナク且本人ハ言ヲ待タス初  
メノ願書ト後ノ願書トヲ出ストニ管シタル其代書師ニ於テモ又相手方ニ損失ノ償ヲカス可シ

第五百四條 二箇ノ裁判所ニ於テ同シ又方本人ノ間ニ同シ事柄ニ付キ為シタル終審ノ裁判言渡ヲ互ニ阻礙スル時  
ハ覆審院ニ訴出ツ可シ但シ此場ニ於テハ覆審院ノミニ用フ可キ法式ヲ以テ訴ヲ為シ且之ヲ裁判入可シ  
見合セ

○第三章 裁判役不正ノ裁判ヲ為シタルニ因リ損失ヲ受ケタル時其裁判ヲ取消シ其償ヲ得ントスルニ付  
テノ訴訟

第五百五條 左ノ場合ニ於テハ裁判言渡ヲ取消シ裁判役ヨリ償ヲ求ムルコトヲ得可シ

第一 裁判役訴訟ノ時間又ハ裁判言渡ノ時詐偽及ヒ受賄ノ疑アル時

第二 裁判言渡ヲ取消シ裁判役ヨリ償ヲ求ムルコトヲ得可キトヲ法律上ニ於テ別段定メタル時

第三 裁判役ノ法ニ背キタル處置ヲ為シタルニ因リ本人ヘノ損失償ヲ擔當ス可キトヲ法律上ニ於テ別段定  
メタル時

第四 裁判役ノ裁判ヲ為ストテ肯セザル時

第五百六條 裁判役本人ノ願ニ答フルコトヲ肯セヌ又ハ既ニ裁判ヲ為レ得可キ手續トナリシ訴訟及ヒ其手續ニ至ラ  
ントスル訴訟ノ裁判ヲ終ル時ハ裁判ヲ為ストテ肯セザルノ答アリトス

第五百七條 裁判役裁判ヲ為ストテ肯セザル時ハ治安裁判役及ヒ商法裁判所ノ裁判役ニ付テハ本人ヨリ裁判役其  
裁判ヲ為ス可キトヲ願フ書ニ通テ互ニ少クトモ三日ヲ隔テ裁判所ノ書記官ニ送達シ其他ノ裁判役ニ付テハ此書  
ニ通テ互ニ少クトモ八日ヲ隔テ送達ス可シ但シ其送達ヲ為スノ求メテ受ケテ之ヲ為サ、ル使吏ハ定期ノ時間其  
職ヲ罷メラル可シ

第五百八條 此ニ通テ書ヲ送リタル後附裁判ヲ為サ、ル時ハ其裁判役ニ對シ償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第五百九條 治安裁判所商法裁判所初告裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ裁判役中ノ一人及ヒ控訴院ノ裁判役中ノ一人

又ハ重罪審院ノ裁判役中ノ一人ニ對シ本人ヨリ裁判言渡ヲ取消テ償ヲ求ムル訴ハ其管轄ノ控訴院ニ之ヲ為可シ

控訴院又ハ重罪審院及ヒ此等ノ裁判所中ノ一局ニ對シ本人ヨリ其言渡ヲ取消テ償ヲ求ムル訴ハ佛蘭西共和政  
治立國第十二年プロレアル月ノ憲法第一百一條ニ循ヒ大審院ニ之ヲ為ス可シ

第五百十條 然モ此訴ヲ為ス可キ裁判所ノ名許ヲ預メ得ルニ非レハ裁判役ニ對シテ償ヲ求ムルノ訴ヲ為ス可ラス



第五百一十一條 其訴ヲ為スニ付テハ本人又ハ公正ノ證書ヲ以テ任シタル名代人ノ姓名ヲ手署シタル願書ヲ出ス可  
レ但シ其公正ノ證書ハ其訴ヲ為スニ付テノ証書類アル時ハ其証書類ト共ニ願書ニ添テ之ヲ出ス可レ此公正ノ證  
書ヲ願書ニ添シテ各代人ノ為シタル訴ハ其効ナカル可レ

第五百一十二條 其願書ニハ裁判役ニ對シテ不敬ノ言詞ヲ用フ可カラス若シ之ヲ用ヒタル時ハ本人ニ相當ノ罰金ヲ  
言渡レ且其代書師ニ相當ノ罰又ハ相當ノ期間其職ヲ罷ム可キトテ言渡ス可レ

第五百一十三條 其願書ヲ取上ケタル時ハ本人ニ三百フランノ罰金ヲ言渡レ且別段ノ道理アル時ハ  
本人ヨリ裁判役ニ損失ヲ償フ可キトテ言渡ス可レ

第五百一十四條 其願書ヲ取上ケタル時ハ三日内ニ之ヲ裁判役ニ送達シ其裁判役ハ八日内ニ其答辨ヲ為ス可レ其  
裁判役ハ其訴訟ノ裁判ニ管ス可カラス又其訴訟ノ確定ノ裁判アル迄ハ其訴ヲ為シタル本人又ハ其宗系ノ親族及  
ヒ其配偶者ノ其裁判所ニテ為スル可キ總テノ訴訟ノ裁判ニ管スルヲ得ス若シ其裁判役ノ管シタル裁判言  
渡ハ其効ナカル可レ

第五百一十五條 裁判役ノ為シタル言渡ヲ取消シテ其裁判役ヨリ償ヲ求ム可キノ訴ヲ裁判所ニ取上ケタル時ハ其  
本人ノ代書師ヨリ其裁判役ニ招書ヲ送りテ其裁判役ノ吟味ノ席ニ出ツ可キトテ要ノ控訴院中其訴ヲ取上ケタル  
モノニ非ナル局ニテ之ヲ裁判ス可レ若シ控訴院ニ唯一局ノミナル時ハ其訴ヲ覆審院ノ命ニ最近ノ控訴院移スヘレ

第五百一十六條 其訴ヲ為シタル者員訴訟トナル時ハ三百フランノ罰金ノ言渡ヲ受ケ且別段ノ道理  
アル時ハ裁判役ニ對シテ損失ノ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ受ク可レ

第五卷 裁判言渡ヲ執行フ蓋千八百六十八年八月廿一日決定五月一日布告  
○第一章 保證人ヲ承諾スル事

第五百一十七條 保證人立ツ可キノ言渡ニハ一方ノ者ノ之ヲ立ツ可キ期限ト相手方ノ之ヲ承諾シ又ハ故障ヲ述フ可  
キ期限トヲ定ム可レ

第五百一十八條 一方ノ者保證人ヲ立ル時相手方ニ代書師ナキニ於テハ其本人又代書師アルニ於テハ其代書師ニ保  
證人ヲ立タル旨ヲ記シタル書面ト保證人其保證スル所ノ金高ヲ拂得可キ證書ヲ裁判所ニ預ケタル旨ヲ記シタ  
ル書面ト寫トテ送達ス可レ但シ保證人其保證スル所ノ金高ヲ拂得可キ證書ヲ出ス可キトテ別段法律上ニ定メサ  
ル時ハ格別ナリトス

第五百一十九條 相手方本人ハ裁判所ノ書記局ニ至テ一方ノ保證人證書ヲ檢視シ其保證人ヲ承諾スル時ハ其代書師  
ヲレテ一方ノ代書師ニ書面ヲ送ラレメ承諾ノ由ヲ告知ス可レ○此場合ト相手方ニテ定期内ニ保證人ニ付キ故障  
ヲ述ベタル場合トニ於テハ保證人書記局ニ至テ其保證スル所ノ金高ヲ相違ナク拂フ可キトテ證ス可レ但シ保證  
人ノ證スル所ハ別ニ裁判所ノ言渡ナクレテ之ヲ執行フ可ク若シ保證人其證スル所ノ如ク執行ハサルニ因リ之ヲ  
禁錮ス可キノ道理アル時ハ其別ニ言渡ナクレテ之ヲ禁錮スルヲ得可レ

第五百二十條 相手方定期内ニ一方ノ保證人ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其代書師ヨリ一方ノ代書師ニ證書ヲ送り吟  
味ノ席ニ出ツ可キトテ要ム可レ

第五百二十一條 保證人ニ付キ故障ヲ述フル訴ハ別ニ願書及ヒ其他ノ書面ヲ用フルトナク裁判所ニ於テ急遽吟味  
ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可レ但シ其裁判言渡ハ控訴ニ管セス之ヲ取行フ可レ

第五百二十二條 相手方ヨリ一方ノ保證人ニ付キ故障ヲ述フル訴ヲ為シタル上裁判所ニテ其保證人ヲ立ルトテ許  
シタル時ハ其保證人第五百十九條ニ記シタル如ク書記局ニテ其證ヲ述フ可レ

○第二章 損失償ノ高ヲ定ムル事

第五百二十三條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失ノ償高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナ  
ル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ請取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ  
之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲレテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可レ

第五百二十四條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失ノ償高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナ  
ル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ請取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ  
之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲレテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可レ

第五百二十五條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失ノ償高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナ  
ル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ請取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ  
之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲレテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可レ

第五百二十六條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失ノ償高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナ  
ル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ請取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ  
之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲレテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可レ

第五百二十七條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失ノ償高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナ  
ル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ請取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ  
之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲレテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可レ

第五百二十八條 裁判所ノ言渡書ニ一方ノ者相手方ヨリ得可キ損失ノ償高ヲ定メサル時ハ一方ノ者其高ノ幾許ナ  
ル可キヤヲ記シタル書面ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ且證書類ハ相手方ノ代書師ノ請取書ト引替テ之ヲ渡シ又ハ  
之ヲ書記局ニ差出シ相手方ヲレテ書記局ニ至リ之ヲ檢視セシム可レ



第五百二十四條 相手方ハ第九十七條及第九十八條ニ記シタル定期内ニ其受取タル一方ノ證書類ヲ還ス可キ若シ之ヲ還サズル時ハ右二條ニ記シタル罰ヲ受ク可シ又相手方ハ其定期後八日以内ニ己ノ至當ナリト思科セタル損失償高ヲ一方ニ提供ス可キ若シ其手續キヨクナレバ一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送りテ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要メ相手方其席ニテ一方ノ述ヘタル償高ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ一方ノ述ヘタル償高ニ付キ證據ナク且不當ナル時ハ格別ナリトス

第五百二十五條 相手方ノ提供シタル償高ニ十分ナリトノ裁判言渡アル時ハ一方ノ者相手方ノ提供ヲ為シタル日ヨリ以後ノ裁判費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

○第三章 利得ノ高ヲ定ムル事

第五百二十六條 利得ノ算選ヲ為ス可キ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判所ニテ言渡ヲ為ス他ノ算選ニ付キ後ノ數條ニ記シタル規則ニ循ヒ其算選ヲ為ス可シ

○第四章 算選之事

第五百二十七條 裁判所ヨリ任セラレシ算計人ハ之ヲ任シタル裁判所ニ其算選ノ訴ヲ受ケ後見人ハ其後見ヲ為ス地ノ裁判所ニ其算選ノ訴ヲ受ケ其他ノ算計人ハ其任所ノ裁判所ニ其訴ヲ受ク可シ

第五百二十八條 初告裁判所ニテ算選ノ訴ヲ取上ケタルニ因リ控訴院ニテ控訴ヲ為シ控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ハ以前訴ヘ出シタル初告裁判所ニ再ヒ其訴ヲ為シ又ハ控訴院ヨリ別後定メタル他ノ初告裁判所ニ其訴ヲ為ス可キ言渡ヲ受ケタル者ハ既ニ初告裁判所ニ算計書ヲ出レ其裁判言渡アリシ後控訴院ニテ控訴ヲ為シ控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ取消シタル時ハ控訴院ニテ其言渡ノ如ク執行ト又ハ控訴院ニテ以前裁判所ヲ為シタルヨリ更ニ他ノ初告裁判所ヲ別後指定メテ控訴院ノ言渡ヲ執行ハレム可シ

第五百二十九條 算選ノ訴ヲ為ス數人皆其權利ノ同一ナル時ハ代書師一人ヲ任ス可シ若シ其數人代書師ヲ担任スルニ付キ協議セサル時ハ代書師中ノ最モ先ニ其職ヲ得タル者ヲ探ム可シ但シ其數人ハ各自ニ代書師ヲ任スル

ヲ得可シトモ其代書師ヲ任シタル費用及ヒ其代書師ノ為シタル算選ノ為ス者各自ニ之ヲ擔當ス可シ  
第五百三十條 算選ヲ為ス可キノ言渡書ニハ算計書ヲ出ス可シ前記ノ定メタル裁判所ニ任ス可シ  
第五百三十一條 算計書ノ前書ト算選ヲ為ス可キ者ヲ任シタル證書及ヒ言渡書ノ記載及ヒ算選ノ言渡書ノ記載トヲ合シテ之ヲ六条ト定ム可シ若シ算選ノ費用ハ裁判費用中ニ加ヘ可キトス  
第五百三十二條 算選ヲ為ス者ハ其旅費及ヒ算計ノ證書類ノ送付料及ヒ給料算計書ノ送付料並ニ算計書ヲ裁判所ニ出シテ真正ナリト述フルニ付テノ費用ヲ相手方ノ代書師ニ償ハシムルコトヲ得可シ  
第五百三十三條 算計書ニハ現在ノ受取高ト算高トヲ記シ其算高ト記ス可シ但シ他人ヨリ取返ス可キ權アル諸件ハ別ニ分テ之ヲ記ス可シ  
第五百三十四條 算選ヲ為ス可キ者ハ掛リ裁判後ノ定メタル日ニ至リ相手方ニ公同ニ其本入ニ付シテ送り又代書師アル時ハ其代書師ニ招書ヲ送付テ出シタル日ニ至ラザラ算計書ヲ出シ之ヲ真正ト述ヘ又ハ其名代人ヲ任テ之ヲ出シテ真正ナリト述ヘシム可シ 算選ヲ為ス可キ者定期内ニ其手續ヲ為サズル時ハ裁判所ニテ別後定メタル金高ニ至ラズ其財産ヲ估價トシ差押ヘテ之ヲ賣ル又然ラズナラズ裁判所ニテ至當ト思フ時ハ禁錮ヲ言渡ス可シ

第五百三十五條 算計書ヲ出シテ真正ナリト述ヘタル後受取高ノ費用高ニ過キタル時ハ算選ノ訴ヲ為ス者其算計書ヲ別ニ承諾スルコトヲ相手方ヲ任テ其殘額ヲ拂ハシム可キノ裁判執行書ヲ送リ裁判所ヨリ得ル請求ムルコトヲ得可シ  
第五百三十六條 算選ヲ為ス可キ者算計書ヲ出シ真正ナリト述ヘタル後之ヲ相手方ノ代書師ニ送達シ又證書類ハ算選ヲ為ス可キ者ノ代書師ニ記シタル姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シテ一方ノ代書師ニ渡ス可シ若シ一方ノ代書師受取書ト引替ヘテ其證書類ヲ携ヘ歸リタル時ハ掛リ裁判所ノ定メタル期限内ニ之ヲ還ス可シ若シ期限内ニ之ヲ還サズル時ハ第九十七條ニ記シタル罰ヲ受ク可シ 算選ノ訴ヲ為ル者數人ニテ各其代書師ヲ任シタル時ト雖モ其權利ノ同一ナルニ於テハ其算計書及ヒ證書類ヲ其代書師中ノ最モ先ニ其職ヲ得タル者ニ送ル可シ又



其訴ヲ爲ス教人ノ權利各異ナル時ハ其代書師各人ニ此等書面ヲ送ル可シ 又訴訟ニ管スル債三數ハアリテ各其代書師アル時ト雖モ先ニ其職ヲ得タル者ノニ算計書及ヒ證書類ヲ送ル可シ

第五百三十七條 飲食品ヲ賣ル者工丁裁縫ノ授業師及ヒ此類ノ者ノ受取書ハ之ヲ算計ノ證書トシテ出シタルト雖モ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルニ及ハス

第五百三十八條 掛リ裁判役ノ定メタル日刻ニ至リ双方本人ハ其裁判役ノ面前ニ出席シテ互ニ辯論ヲ爲シ裁判役ハ之ヲ調査ニ記ス可シ若シ一方本人抗傳スル時ハ相手方其代書師ヲシテ一方ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ

第五百三十九條 双方本人掛リ裁判役ノ面前ニ於テ和解セサル時ハ其裁判役已ニ定メタル日ニ至リ吟味ノ席ニ申立ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ但シ双方本人ハ別ニ招書ヲ受取ララスト雖モ吟味ノ席ニ出ツ可シ

第五百四十條 算計ノ訴ヲ裁判スル言渡書ニハ受取高ト費用高トヲ記シ殘額アル時ハ其殘額ヲ定ム可シ

第五百四十一條 一旦定マリタル算計書ハ之ヲ更改ス可カラズ若シ双方本人其算計書ニ誤算又ハ詐偽アリト思フ時ハ更ニ此迄ノ裁判ヲ訴出ス可シ

第五百四十二條 若シ算計ノ訴ヲ爲ス者抗傳ヲ爲ス時ハ掛リ裁判役其定メタル日ニ至リ裁判ヲ申立ヲ爲シ其訴ヲ爲ス者ノ要ムル所確證アル時ハ相手方ヨリ其者ニ算計ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ但シ相手方ノ預リタル殘額アル時ハ其訴ヲ爲ス者別後之ヲ取還ス可キノ要メヲ爲スニ至ル迄相手方之ヲ保テ置キ別ニ其息銀ヲ拂ニ及ハス但シ後見人ノ算計ヲ爲ス時ノ外掛リ算計ヲ爲ス可キ者ハ其殘額ヲ保テ置クニ付テノ保證人ヲ立ツ可ク若シ保證人ヲ立テサル者ハ其殘額ヲ官署ニ附托ス可シ

○第五百四十三條 裁判費用ノ高ヲ定ムル事  
第五百四十三條 急速吟味ノ法式ヲ用ヒタル訴訟ニ付キテハ裁判費用ノ高ヲ其裁判言渡書ニ附記シテ連テ之ヲ定ム可シ

第五百四十四條 通常吟味ノ法式ヲ用ヒタル訴訟ニ付キテハ裁判費用ノ高ヲ定ムル方法ハ假リノ行政規則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム但シ其行政規則ハ訴訟法ト同日ニ之ヲ國中ニ行フ可ク且當時ヨリ連テモ三年内ニハ相當ノ更改ヲ爲レタル上法律議案ノ體裁ニ爲シ之ヲ議院ニ出シテ議定セシム可キモノナリ

○第六節 裁判言渡書及ヒ契約證書ノ如ク履行ハシムル事ニ付テノ總規則  
第五百四十五條 裁判言渡書及ヒ契約書類ハ國ノ法律ニ等シキ前書ヲ記シ且第五百四十六條ニ記シタル如ク司法官吏ヲシテ之ヲ執行ハシムル命令ヲ語ヲ其末ニ記シタルニ非レハ之ヲ執行フコト得ス

第五百四十六條 外國ノ裁判言渡書及ヒ外國官吏ノ記シタル契約證書ハ民法第百二十三條及ヒ第百二十八條ニ記シタル場合ニ於テ其ニ條ノ方法ヲ用フルニ非レハ佛蘭西ニ於テ之ヲ執行フ可カラズ

第五百四十七條 佛蘭西國中ノ裁判言渡書及ヒ佛蘭西官吏ノ記シタル契約證書ハ其言渡書ヲ記シ又ハ契約證書ヲ記シタル地ノ裁判言渡書ニ於テモ驗印又ハ別段ノ命令書ヲシテ全國中ニ之ヲ執行フ可シ

第五百四十八條 契約ヲ爲ス双方本人ニ非サル者ヨリ爲シタル故除ノ申立ヲ免ル、裁判言渡書及ヒ書入質ノ記入ヲ塗抹ス可キ裁判言渡書又ハ訴訟ニ管セサル者ヨリ訴訟ノ一方本人ニ含高ヲ渡ス可キノ裁判言渡書及ヒ其他總テ訴訟ニ管セサル者ヲシテ或事ヲ爲シレム可キ裁判言渡書ハ一方ノ抗傳シテ負訴訟トナリタル時其受テタル裁判言渡書ニ付キ故除ヲ述フ可キ期限ノ後又ハ負訴訟ノ者控訴ヲ爲ス可キ期限ノ後ト雖モ克許訴訟ノ本人ヨリ相手方ノ住所ニ裁判言渡書ヲ送達シタル日附ヲ附記シタル其本人ノ代書師ノ請合書ト負訴訟ノ者裁判言渡書ニ付キ故除ヲ述フルコト又ハ控訴ヲ爲スコトナキ言ヲ證スル書記官ノ請合書ト同上ノ裁判言渡書ニ添ヘテ訴訟ニ管セサル者ニ送達シタルニ非サレハ其者ヲシテ其言渡書ノ如ク執行ハシム可カラズ

第五百四十九條 前條ニ記シタル如ク負訴訟ノ者裁判言渡書ニ付キ故除ヲ述フルコト又ハ控訴ヲ爲スコトノ有無ヲ書記官ニ知ラシム可キカ爲ノ其故障ヲ述ヘ又ハ控訴ヲ爲ス者ノ代書師ハ第百六十三條ニ記シタル規則ニ循ヒ此等ノ事ヲ簿冊ニ登記シ置ク可シ



第五百五十條 双方相争ノ物ノ附托ヲ受クル者書入質ノ管轄者及ヒ其他訴訟ニ管セサル者ハ負訴訟ノ者故障ヲ述  
ヘ又ハ控訴ヲ爲スコトヲ簿冊ニ記シタルコトナキ旨ヲ書記官ノ證シタル受合書ヲ受取タル上ニテ其裁判言渡書ノ如  
ク執行ヲ可シ

第五百五十一條 一方ノ者負訴訟トナリ裁判言渡ヲ受ケタル後猶其言渡ノ如ク行ハサルニ因リ其動産又ハ不動産  
ヲ抵償トシテ差押ユルニハ必ス相手方其得可キ金高ノ定マリテ且確證アル可ク并ニ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ  
ノ書ヲ有スルコトヲ必要トス若シ其相手方ノ得可キモノ金高ニ非サル時ハ其動産又ハ不動産ノ差押ヲ爲シタル後  
相手方ニテ得可キ高ヲ定ムルニ至ル迄其他ノ手續ヲ猶豫ス可シ

第五百五十二條 負訴訟ノ者相手方ニテ價高ヲ定ムルコトヲ得可キ物件ヲ相手方ニ選サハルニ付キ禁錮ノ言渡ヲ受  
ケタルト雖モ相手方ニテ其價高ヲ定メタル後ニ非レハ其言渡ノ如ク執行ヲ可カラズ

第五百五十三條 商法裁判所ノ言渡書ヲ執行フニ付キ争ノ生シタル時ハ其執行ノ手續ヲ爲ス地ヲ管轄スル初言裁  
判所ニ之ヲ訴フ可シ

第五百五十四條 裁判所ノ言渡書又ハ契約證書ノ如ク執行フニ付キ生シタル争ヲ急速ニ裁判スル時ハ其執行ヲ爲  
ス地ノ裁判所ニテ假リニ其争ヲ裁判シ其後是迄ノ裁判所ニテ其確定ノ裁判ヲ爲ス可シ

第五百五十五條 裁判所ノ官吏其職務ヲ行フニ當リ不敬ヲ受ケタル時ハ其不敬ヲ爲シタル者ノ官命ニ抗ヒシ旨ヲ  
誹言ニ記シ治罪法ニ記シタル規則ニ從テ之ヲ處置ス可シ

第五百五十六條 克訴訟ノ者ヨリ裁判言渡書又ハ契約證書ヲ使吏ニ渡シタルノミニテ使吏ハ之ヲ執行ヲ可キノ證  
ヲ得タルモノトス但シ不動産差押及ヒ禁錮ノ言渡ヲ執行フニ付テハ使吏別ニ本人ヨリ其執行ノ爲メノ委任狀ヲ  
受クルコトヲ必要トス

◎第七章 負債者ニ人ヨリ物件ヲ渡スコトヲ其債主ノ差留ムル事

第五百五十七條 總テ債主ハ其負債者ニ人ヨリ物件ヲ渡スコトヲ其債主ノ差留ムル事

第五百五十八條 公私ノ證書共ニアラザル時ハ負債者住所ノ裁判所又時トシテハ負債者ニ物件ヲ渡スコキ者ノ住  
所ノ裁判所ニテ債主ノ願ニ應ジ其渡方差留ヲ爲スコキコトヲ許スコトヲ得可シ

第五百五十九條 公私ノ證書ヲ以テ證ト爲シ同上ノ渡方差留ヲ爲スコキ書面ニハ其證書並ニ渡方差留ヲ爲スコキ付  
テノ金高ヲ記スコシ又裁判所ノ許シニ因リ其差留ヲ爲スコキ時ハ其言渡書ノ寫ヲ差留書面ノ初ニ記入スコシ但シ其  
裁判所ノ言渡書ニハ渡方差留ヲ爲スコキ付テノ金高ヲ記入スコシ 債主同上ノ渡方差留ヲ爲セント願出ツル時其  
負債者ヨリ得可キ高ノ未定ナルニ於テハ裁判所ノ評價シテ定ム可シ 同上ノ渡方差留ノ書面ニハ其差  
留ヲ爲スコキ者其差留ヲ受クル者ト其住所ノ地互ニ異ナル時ハ其差留ヲ受クル者ノ住所ノ地ニ自カラ別段住所ヲ擇  
ミクル旨ヲ附記スコシ 此等ノ條件ヲ記セサル渡方差留ノ書面ハ其効ナカル可シ

第五百六十條 佛蘭西本國外ニ住スル者ヨリ物件ヲ負債者ニ渡スコトヲ債主ノ差留ムル書面ハ檢事ニ送達スコカラ  
ス其差留ヲ受クル者又ハ其住所ニ其書面ヲ送達スコシ第九十九條ノ  
第九項凡合

第五百六十一條 租稅受取人又ハ官金ヲ預リ或ハ支配スル者ヨリ物件ヲ負債者ニ渡スコトヲ債主ノ差留ムル書面ハ之  
ヲ受取ル爲メ別段定メタル者ニ之ヲ送り其者ニ之ヲ受取テ其正本ニ檢印ヲ爲シ若シ又其者檢印ヲ爲スコトヲ肯セ  
ル時檢事其檢印ヲ爲シタルニ非サレハ其効ナカル可シ

第五百六十二條 人ヨリ負債者ニ物件ヲ渡スコトヲ債主ノ差留ムル書面ニ姓名ヲ手署シタル使吏ハ其差留ヲ爲スコキ  
得タル時其差留ヲ爲スコキ本人ノ現ニ存在シタル證ヲ立ツ可キ要ヲ受ケタルニ於テハ必ス之ヲ立ツ可シ若シ此規則  
ニ背ク時ハ其職ヲ停止セラレ且損失ノ償ヲ爲スコシ

第五百六十三條 債主ノ物件渡方差留タルヨリ八日ノ定期ニ差留ヲ受ケタル者ノ住所ト債主ノ住所トノ間三  
リヤメートル毎ニ一日ヲ増加シ及ヒ債主ノ住所ト負債者ノ住所トノ間三リヤメートル毎ニ更ニ一日ヲ増加シ

タル期限内ニ債主ヨリ渡方差留ノ書面ヲ負債者ニ送リテ其差留ノ法ニ適シタルヤ否ヲ裁判スル處之申出スコシ  
第五百六十四條 前條ノ呼出ノ日ヨリ八日ノ定期ニ住所ノ距離ニ從テ日數ヲ増加シタル期限内ニ裁判所ノ使吏債



主ノ求メニ因リ差留ヲ受ケル者ニ負債者ヲ呼出シタル旨ヲ告知ス可シ但シ其差留ヲ受ケル者ハ其告知ヲ得ル前ニ負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述スルニ及ハス

第五百六十五條 若シ債主渡方差留ヲ為スノ法ニ適シタルヤ否ノ裁判ヲ願ハサル時ハ其差留ノ効トケル可シ又債主ヨリ差留ヲ受ケル者ニ同上ノ願ヲ為シタル旨ヲ告知スル前ニ其者ヨリ負債者ニ物件ヲ渡シタル時ハ其渡シタルノ効アリトス

第五百六十六條 同上ノ渡方差留ノ法ニ適シタルヤ否ノ裁判ヲ願フ前ニ原告被告預メ勸解ノ式ヲ為スニ及ハス

第五百六十七條 同上ノ渡方差留ノ法ニ適シタルヤ否ノ裁判ヲ願フ前ニ及ビ負債者其差留ヲ除去セント願フ訴ハ其負債者住所ノ裁判所ニ之ヲ為ス可シ

第五百六十八條 債主公正ノ證書ヲ有シ又ハ裁判所ニテ同上ノ渡方差留ヲ法ニ適シタルモノナリト為ス言渡書アルニホレハ差留ヲ受ケタル者ヲ裁判所ニ呼出シ其者シテ負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述セシム可カラス

第五百六十九條 第五百六十一條ニ記シタル官吏ハ負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述スル為メ裁判所ニ呼出ラ受ケルコトケル可シ但シ其官吏ハ負債者ニ渡ス可キ物件アルコトヲ證スル諸合書ヲ裁判所ニ出ス可ク又其物件ノ價高ノ定リタル時ハ其價高ヲ諸合書ニ附記ス可シ

第五百七十條 渡方差留ヲ受ケタル者ハ預メ勸解ノ式ヲ行フコトナク渡方差留ノ訴ヲ裁判所ニ出ス可キ裁判所ニ呼出ラ受ケル可シ若シ其者負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述シタル事ニ付キ争ハ生スル時ハ自己ノ住所治安裁判役ノ面前ニテ同上ノ陳述ト措トヲ為ス可シ但シ此場合ニ於テハ渡方差留ノ訴ヲ管スル裁判所ノ書記局ニ至リテ再ヒ措トヲ為スニ及ハス

第五百七十一條 渡方差留ヲ受ケタル者ハ其訴ヲ裁判所ニ出ス可キ裁判所ノ書記局ニ至リ其負債者ニ渡ス可キ物件ノ有無ヲ陳述シテ誓ヲ為ス可ク又事故アリテ其訴ヲ管スル裁判所ニ出席セサル時ハ自己ノ住所治安裁判役ノ面前ニテ同上ノ陳述ト措トヲ為ス可シ但シ此場合ニ於テハ渡方差留ノ訴ヲ管スル裁判所ノ書記局ニ至リテ再ヒ措トヲ為スニ及ハス

第五百七十二條 前條ニ記シタル陳述ト措トハ別段住シタル名代入ヲ出シテ之ヲ為サシムルコトヲ得可シ

第五百七十三條 渡方差留ヲ受ケタル者ノ陳述書ニハ其者ヨリ負債者ニ物件ヲ渡ス可キ原由其總高トヲ記シ又其總高ノ中既ニ一部分ヲ渡シタル時ハ再渡シタル高ヲ記シ又既ニ其總高ヲ渡シタル時ハ其渡シタル時ノ諸取證書ノ文面ヲ記シ或ハ既ニ之ヲ渡ス可キ義務ノ釋放ヲ得タル時ハ其釋放ヲ得タル原由ヲ記シ且何レノ場合ニ於テモ其渡方差留ヲ受ケタル旨ヲ記ス可シ

第五百七十四條 前條ノ陳述書ニ附加ス可キ證書類ハ其書ニ添へ置キ此等ノ書面ヲ書記局ニ納メ且之ヲ納メタル旨ヲ記シタル書面ヲ記シテ之ニ代書師ヲ任シタル旨ヲ附記シ其差留ヲ為シタル者ニ送達ス可シ

第五百七十五條 是迄差留ヲ受ケタル外更ニ他ノ差留ヲ受ケル時ハ之ヲ受ケタル者更ニ差留ヲ為ス者ノ姓名及又其者ノ釋メタル住所並ニ其差留ノ原由ヲ書面ニ記シテ是迄ノ差留ヲ為シタル者ノ代書師ニ送達ス可シ

第五百七十六條 差留ヲ受ケタル者ノ陳述書ヲ差留ヲ為ス者ヨリ争フコトナキ時ハ其差留ヲ受ケタル者及ビ差留ヲ為ス者其他ノ訴訟ノ手續ヲ為スニ及ハス

第五百七十七條 差留ヲ受ケタル者同上ノ陳述ヲ為マス又ハ陳述ヲ為スト雖モ前數條ニ記シタル如ク證ヲ立テタル時ハ其者差留ヲ為シタル者ノ述フル所ノ總高ヲ負ヒタルモノト看做ス可シ

第五百七十八條 動産ノ渡方差留ヲ受ケタル時ハ之ヲ受ケタル者其動産ノ詳細ナル目錄ヲ其陳述書ニ添フ可シ

第五百七十九條 債主ノ訴ヘタル渡方差留ヲ裁判所ニテ免許スル時ハ此卷ノ第十一章六百五十二條以下ニ記シタル如ク其渡方差留ヲ為シタル財産ヲ費押フテ其價高ヲ分派ス可シ

第五百八十條 官ヨリ與フル所ノ給料及ヒ扶助料ハ別段ノ法律又ハ規則及ヒ命令ニテ定メタル部分ノ外其渡方差留山可カラス

第五百八十一條 第一 法律ニ因リ渡方差留山可カラサルノ定メアル物件第五百九十一條見合



第二 裁判アリ許シタル養料

第三 贈遺ヲ為ス者抵償トシテ差押ニ可カラスト別段定メタル金高及ヒ物件但シ其者ノ隨意ニ贈遺ト為ス可キ財産定分ニ限ル可シ

第四 贈遺ヲ為ス證書ニ渡方ヲ差留ム可カラスト別段定メタルナシト雖モ養料トシテ與ヘタル金高此等ノ物ハ其渡方ヲ差留ム可カラス

第五百八十二條 前條ニ記シタル養料ト雖モ他ノ養料ノ訴ニ付テハ其渡方ヲ差留ムルヲ得可シ又前條ノ第三條四ノ記シタル物件ト雖モ其贈遺ヲ為シタル後ノ債主ヨリ其渡方ヲ差留ムルヲ得可シ但シ其差留ヲ為スニハ別段裁判アリ許シ得可キ且裁判アリ定ムル所ノ部分ノミニ限ル可シ

辻 士 章 校

佛蘭西 訴訟法四終

佛蘭西 訴訟法第五

種大内史其作麟祥 譯

○第八章 抵償トシテ動産ヲ差押フル事

第五百八十三條 負債者ノ動産ヲ抵償トシテ差押ヘントスルニハ其時ヨリ少ナクトモ一日前ニ負債者又ハ其住所ニ要決ノ書ヲ送ル可シ但シ裁判ノ如ク執行ヲ可キ證書ヲ未タ送達セサル時ハ之ヲ其要決ノ書ニ添ヘテ送ル可シ第五百八十四條 債主其差押ヲ為ス可キ地ノ邑内ニ住サル時ハ其差留ノ手續ノ終ル迄別段其邑内ニ住所ヲ擇ミタル旨ヲ要決ノ書ニ附記ス可シ但シ負債者ハ債主ニ送ル可キ書面ヲ其債主ノ別段擇ミタル住所ニ送達スルヲ得可シ

第五百八十五條 負債者ノ動産差押ヲ為ス使吏ハ証人二人ノ立會ニテ之ヲ為ス可シ但シ其證人ハ佛蘭西人ニシテ

丁年者ナル可キ且双方本人及ヒ使吏ノ杖兄弟ニ至ル迄ノ血屬又姻戚ノ親ナル可ラス 使吏ハ其差押ノ證書ニ証人ノ姓名職業住所ヲ記シ且其証人ハ調書ノ正本及ヒ副本ニ姓名ヲ手署ス可シ但シ差押ヲ訴ヘタル本人ハ差押ノ場所ニ出ルヲ許サス

第五百八十六條 前條ノ調書ヲ記スルニ付テハ呼出狀ヲ記ス法式ニ依リテ之ヲ可シ但シ負債者ノ住所ニ於テ動産差押ヲ為ス時ハ再度ノ要決ノ旨ヲ附記ス可シ

第五百八十七條 負債者居所ノ戸ノ閉テタル時ハ又ハ其戸ヲ開クヲ肯セサル時ハ使吏其戸前ニ番人ヲ置キ負債者ノ竊ニ動産ヲ運出スルヲ防キ即時ニ自カラ治安裁判役ノ所ニ至リ又其裁判役ノ在ラサル時ハ選卒長ノ所ニ至リ又選卒長ノ在ラサル邑ニ於テハ邑長ノ所ニ至リ又邑長ノ在ラサル時ハ其輔佐役ノ所ニ至リ此等ノ官吏ヲ伴ヒ來リ其面前ニテ其戸ヲ開キ又動産ヲ差押ヘタル順序符號並ニ鎖鑰ヲ用ヒタル動産ヲ開ク可シ 其立會ノ官吏ハ別ニ其調書ヲ記スルニ及ハス唯使吏ノ調書ニ姓名ヲ手署ス可シ但シ其使吏ハ動産差押ノ專ニ付テ調書一通ノミヲ記ス可シ

第五百八十八條 其調書ニハ差押タル物件ヲ詳細ニ記列シ若シ商賣品アル時ハ其種類ニ因リテ之ヲ度量ス可シ

第五百八十九條 金銀ノ器具ハ其種類ト性合ノ記號トヲ記シ且之ヲ秤ル可シ 第五百九十條 貨幣アル時ハ其高サト種類トヲ記シ使吏ヨリ之ヲ預ル可キ官署ニ納ム可シ但シ差押ヲ為ス者ト差押ヲ受ケタル者ト相協議シテ他ノ場所ニ其貨幣ヲ預ル可キ別段定メタル時ハ格別ナリトス

第五百九十一條 財産差押ヲ受クル者其場所ニ在ラステ家具類ヲ開クヲ拒ム者アル時使吏之ヲ開ク可キヲ立會ノ官吏ニ告グ可シ若シ書附類アル時ハ使吏此等ノ書面類ヲ一束ニ為シテ封印ヲ為ス可キヲ立會ノ官吏ニ求ム可シ



第五百九十二條 左ノ物件ハ之ヲ抵償トシテ差押ニ可カラズ

第一 用方ニ因テ不動産ナリト為ス物件民法第五百二十

第二 差押ヲ受クル者ノ為メニ必要ナル卧床及ヒ其家ニ在ル子ノ卧床並ニ差押受クル者現著スル衣服

第三 其者ノ職業ヲ為スニ必要ナル三百フランノ價ニ至ル迄ノ書籍但シ其書籍ヲ擇ムハ本人ノ意ニ任ス可シ

第四 學塾ノ人ニ致ヘ又ハ自カラ行フ為メニ必用ナル器具但シ其價三百フランノ價ニ至ル迄ニシテ且本人ノ擇ム所ヲ殘シ置リ可シ

第五 士卒ノ衣服及ヒ帶身ノ物但シ其物ハ兵則ト本人ノ等位トニ從フ可シ

第六 工丁ノ其自己ノ職業ヲ為スニ必要ナル器具

第七 本人及ヒ其家族ノ一月間用フルニ必用ナル粉子及ヒ其他ノ飲食品

第八 本人ノ擇ムニ任シ牛一頭又ハ羊三頭又ハ山羊二頭並ニ其獸類ノ一月間ノ飲食品及ヒ寢蓆ト為ス可シ  
ト蓄井ニ數坤類

第五百九十三條 前條ニ記列シタル物件ハ官ヨリ負フタル債ニ付テモ之ヲ抵償トシテ差押ニ可カラズ然レ差押ヲ

受ケタル者ノ為メ必要ナル飲食料ヲ給與シタル價高ヲ拂ハシムル為メ又ハ前條ノ物件ヲ製造シタル者及ヒ賣渡

シタル者ニ其價高ヲ拂ハシムル為メ又ハ此等ノ物件ヲ買入レ製造シ或ハ修復スル為メ金高ヲ貸シタル者ニ其價

ヲ為サシムル為メ又ハ此等ノ物件ヲ用ヒテ植付ヲ為シタル土地ノ借賃及ヒ収納物ヲ土地ノ所有者ニ納メシム

ル為メ又ハ此等ノ物件ノ屬シタル製造物風車水車榨水ノ借賃ヲ拂ハシムル為メ又ハ差押ヲ受クル者ノ家ノ借賃

ヲ拂ハシムル為メニハ此等ノ物件ト雖モ抵償トシテ差押ニ付テ得可シ 前條ノ第二ニ記シタル物件ハ如何ナ

ル種類ノ負債ノ償ハシムル為メト雖モ之ヲ差押ニ可カラズ

第五百九十四條 土地ノ植付ヲ為スニ必要ナル獸類及ヒ器具ヲ差押ヘタル時ハ治安裁判役差押ヲ為ス者ノ願ニ因

リ其土地ノ所有者并ニ差押ヲ受ケタル者ヲ呼出シテ其申述ヲ聽キタル上又ハ呼出シテ猶出席セザル上ニテ其土地ノ植付ヲ管掌スル者ヲ別段任ス可シ

第五百九十五條 前記シタル差押ノ調書ニハ其差押ル物件ヲ賣却フ可キ期日ヲ附記ス可シ

第五百九十六條 差押ヲ受ケタル者其物件ノ預リ人ヲ立テ其預リ人其預リタル物件ノ價ヲ償ヒ得可キ家産ヲ有スル證アリテ且其者差押ノ時直ニ自カラ其物件ヲ預ルラント述マルニ於テハ使吏其者ヲ其物件ノ預リ人為可シ

第五百九十七條 差押ヲ受ケタル者其物件ノ預リ人ヲ立テタルト雖モ其預リ人前條ニ記シタル家産ヲ有セス且前條ニ記シタル如ク即時ニ其物件ヲ預ル可キヲ述ヘサル時ハ使吏別ニ其預リ人ヲ任ス可シ

第五百九十八條 差押ヲ為ス者及ヒ其配偶者又ハ其再従兄弟ニ至ル迄ノ血縁及ヒ姻縁ノ親並ニ其僕婢ハ差押ヘタル物件ノ預リ人トナルコトヲ得ス然レ差押ヘテ受ケタル者其配偶者其血縁及ヒ姻縁ノ親及ヒ僕婢ハ自カラ其物件ノ預リ人トナルコトヲ承諾シ且差押ヲ為ス者モ亦之ヲ承諾シタル時ハ其物件ノ預リ人トナルコトヲ得可シ

第五百九十九條 差押ノ調書ハ直ニ其場所ニテ記シ同上ノ預リ人其正本并ニ副本ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ其預

リ人姓名ヲ手署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記シ且其副本一通ヲ預リ人ニ渡シ置ク可シ

第六百條 暴行脅迫ヲ為シテ同上ノ預リ人ヲ任スルコトヲ妨ケ又ハ差押タル物件盜取ル者ハ治罪法ニ記シタル如ク其罪犯ノ訴ヲ受ケ可シ

第六百一條 負債者ノ住所ニテ其物件ヲ差押ヘタル時ハ調書ノ正本ニ姓名ヲ手署ス可キ數人ノ姓名ヲ手署シタル

其副本一通ノ其場所ニテ差押ヲ受ケタル者ニ渡ス可ク又其者其場所ニテラサル時ハ己長又ハ其輔佐役及ヒ戸ノ

閉ナル時之ヲ開リニ付テ立會ヲ為シタル官吏ニ其副本一通ヲ渡シ置ク可シ但シ此等ノ官吏ハ其正本ニ捺印

ヲ為ス可シ

第六百二條 差押ヲ受クル者ノ住所外ニ於テ其在ラサル時差押ヲ為シタルニ於テハ同上ノ調書ノ副本ヲ其日ニ具

者ニ送達ス可シ但シ其者隔遠ノ地ニ在ル時ハ路程三リヤメートル毎ニ一日ヲ増ス可シ 此手續ヲ為マサル時ハ

其副本一通ノ其場所ニテ差押ヲ受ケタル者ニ渡ス可ク又其者其場所ニテラサル時ハ己長又ハ其輔佐役及ヒ戸ノ

閉ナル時之ヲ開リニ付テ立會ヲ為シタル官吏ニ其副本一通ヲ渡シ置ク可シ但シ此等ノ官吏ハ其正本ニ捺印

ヲ為ス可シ

第六百二條 差押ヲ受クル者ノ住所外ニ於テ其在ラサル時差押ヲ為シタルニ於テハ同上ノ調書ノ副本ヲ其日ニ具

者ニ送達ス可シ但シ其者隔遠ノ地ニ在ル時ハ路程三リヤメートル毎ニ一日ヲ増ス可シ 此手續ヲ為マサル時ハ

其副本一通ノ其場所ニテ差押ヲ受ケタル者ニ渡ス可ク又其者其場所ニテラサル時ハ己長又ハ其輔佐役及ヒ戸ノ

閉ナル時之ヲ開リニ付テ立會ヲ為シタル官吏ニ其副本一通ヲ渡シ置ク可シ但シ此等ノ官吏ハ其正本ニ捺印

ヲ為ス可シ



差押ヲ為ス者其副本ヲ送達シタル日ニ至ル迄ノ物件預リ人ノ謝金ヲ擔當ス可ク且其副本送達ノ日ヨリ差押ハタル物件ヲ賣拂フ可キ期限ヲ數フ可シ

第六百三條 預リ人ハ其預リタル物件ヲ自カラ用又ハ人ニ貸渡スルヲ得可キラス若シ此禁ヲ犯シタル時ハ其謝金ヲ得可キノ權ヲ失ヒ且差押ヲ為シタル人ニ損失ノ償ヲ拂フ可シ若シ之ヲ拂ハサルニ付テハ禁錮ヲ受ク可シ

第六百四條 預リ人ノ預リタル物件ニ入額ヲ生ズル時ハ其預リ人其入額ヲ算計ス可シ若シ之ヲ算計セサル時ハ禁錮ヲ受ケル可シ

第六百五條 賣拂ノ期日ニ至リ差押タル物件ヲ別段ノ差支トクシテ賣拂ハサル時ハ預リ人其職ヲ退カント求ムルヲ得可シ又賣拂ノ期日ニ至リ差支アリテ其賣拂ヲ為ササル時ハ差押ヲ為シタル時ヨリ二月ノ後ニ至リ預リ人其職ヲ退カント求ムルヲ得可シ但シ是迄ノ預リ人其職ヲ退キタル時ハ差押ヲ為シタル者更他預リ人任ス可シ

第六百六條 預リ人其職ヲ退カント欲スル時ハ差押ヲ為シタル地ノ初告裁判所ニ差押ヲ為シタル者ト之ヲ受ケタル者トヲ呼出シ至急吟味<sup>此至急吟味ハ前ニ記スル所ノ至急吟味トノ法式ヲ以テ其裁判ヲ為ス可シ但シ裁判所ニテ其退職ノ願ヲ許シタル時ハ雙方本人立會ノ上差押タル物件ヲ調書ト照合セテ取調フ可シ</sup>

第六百七條 預リ人其職ヲ退クノ訟ハ差押ヲ受ケタル者ノ故障ヲ述フルニ管ス之ヲ裁判ス可シ但シ其故障ヲ述フル所ハ至急吟味<sup>上</sup>ノ法式ヲ以テ別ニ裁判ス可シ

第六百八條 差押タル物件又ハ其一部ノ所有者ナリト述フル者ハ其旨ヲ其物件ノ預リ人ニ書面ヲ以テ告知シ且差押ヲ為シタル者ト之ヲ受ケタル者トニ其述フル所ノ對意ト其證據トヲ附記シタル呼出状ヲ送テテ其物件ノ賣拂ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ但シ此等ノ手續ヲ為ササル時ハ其述フル所ノ効ナカル可シ 其述フル所ハ差押ヲ為シタル地ノ裁判所ニテ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ 若シ其故障ヲ述フル者自訴訟トナル時差押ヲ為シタル者ノ損失アルニ於テハ其者損失ノ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第六百九條 差押ヲ受ケタル者ノ債主<sup>差押ヲ為ス債主トハ如何ナル緣由アルヲ問ハス其債主ノ物件ヲ賣拂フ要ニ他ノ債主ヲモフ</sup>ハ如何ナル緣由アルヲ問ハス其債主ノ物件ヲ賣拂フ

テ得ル價高ノ分派ヲ得ント要ムルヲ得可シ又其分派ヲ得ント述フル書面ニハ其緣由ヲ記シ之ヲ差押ヲ為シタル者ト使吏又ハ其他ノ賣拂ヲ為ス可キ官吏トニ送達シ且其分派ヲ要ムル者差押ヲ為ス地ニ住セサル時ハ別段其地ニ住所ヲ得サルコトヲ告知ス可シ但シ其他分派ヲ要ムル者此等ノ手續ヲ為ササル時ハ其分派ヲ要ムル書面ノ効ナク且使吏ニ對シ損失ノ償ヲ拂フ可キノ道理アル時ハ之ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

第六百十條 前ニ記シタル分派ヲ要ムル債主ハ差押ヲ受ケタル債主ヨリ得可キ物件アルノ言渡ヲ得可キ為メ其債主ニ對シ許ヲ為スノ外餘テ許ヲ為ス可カラス又差押ヲ為シタル債主及ヒ債主者ハ物件賣拂ニ因リ得タル價高ノ分派セントスル時其分派ヲ要ムル債主ノ之ヲ要ムル緣由ナキヲ述フルノ外其分派ヲ要ムル債主ニ對シ許ヲ為ス可カラス

第六百十一條 使吏差押ヲ為スタル時既ニ差押ヲ為シタル者アリテ其者物件ノ預リ人ヲ任シタルニ於テハ再ヒ其差押ヲ為ス可カラス然レ使吏ハ其預リ人ヨリ調書ヲ受取リ其調書ノ目錄ト物件トヲ照合セ其遺脱シタル物件ハ之ヲ差押ヘ以前差押ヲ為シタル者ニ繼テノ物件ヲ八日以内ニ賣拂フ可キヲ要ム可シ但シ其照合ノ調書アル時ハ賣拂ニ因リ得タル價高ノ分派ヲ得ント求ムルニ等シキ權アリト為ス可シ

第六百十二條 差押ヲ為シタル債主從價ニ記シタル期限内ニ其差押ヘタル物件ヲ賣拂ハサル時ハ裁判官渡ノ如ク執行ヲ可キ證書ノ有スル他ノ債主差押ヲ為シタル債主ニ賣拂ノ催促ヲ為シタル後別段其者ノ權ニ代ル可キノ許ヲ為サスシテ預リ人ヨリ調書ヲ受取リ其調書ノ目錄ト物件トヲ照合セ然レ後之ヲ賣拂フヲ得可シ

第六百十三條 負債者ニ其物件差押ノ書面ヲ送達シタル日ト賣拂ノ日トノ間ニハ八日ヨリ少カラサル數ヲ隔ツ可シ

第六百十四條 負債者ノ物件差押ノ書面ニ記シタル期日ヨリ更ニ他ノ日ニ賣拂ヲ為ス時ハ賣拂ヲ為スヨリ前一日ヲ隔テ別段其負債者ヲ呼出ス可シ但シ其負債者ノ住所ト賣拂ノ場所トノ間ニリヤマトハ毎二一ヨリ増ス可シ

第六百十五條 物件賣拂ニ因リ得タル價高ノ分派ヲ得ント要ムル債主ハ別段之ヲ其賣拂ノ場所ニ呼出ス可シ及ハス

第六百十六條 賣拂ノ前ニ為ス可キ照合ノ調書ニハ差押タル物件ヲ別段記列スルニ及ハス唯遺脱シタル物アル時



ハ之ヲ記ス可シ

第六百十七條 其賣拂ハ最近ノ市場ニ於テ其市場ノ常例ヲ日刺又ハ日曜日ニ之ヲ為ス可シ然レ裁判所ヨリ其時ノ  
模倣ニ因リ更ニ利益アル可キ他ノ場所ニ於テ其賣拂ヲ為スヲ許ス可シ○何レノ場合ニ於テモ其賣拂ヲ為  
スヨリ一日前ニ差押タル動産所在ノ地ニ報知ノ通知書一通ヲ貼附シ邑屬ノ門ニ其一通ヲ貼附シ其地ニ市場アル  
時ハ其市場又市場ナキ時ハ最近ノ市場ニ其一通ヲ貼附シ治安裁判所ノ官廳ノ門ニ其一通ヲ貼附シ總テ四通ヲ貼  
附ス可シ若シ又動産所在ノ市場ニ非サル所ニテ之ヲ賣拂フ時ハ其賣拂ヲ為ス場所ニモ更ニ一通ヲ貼附ス可シ○  
又新聞紙ヲ刊行スル都府ニ於テハ其賣拂ノ旨ヲ更ニ新聞ニ記入シテ之ヲ公ケニ為ス可シ

第六百十八條 貼附書ニハ賣拂ノ場所及ヒ日刺ノ物品ノ種類トヲ記可シ但各物品模倣ヲ詳細ニ記スルニ及ハス  
第六百十九條 使吏ハ貼附ヲ為シタルコトヲ書面ニ記シ其書面ヲ貼附書ノ寫ト共ニ差押ヲ受ケタル者ニ送達シテ其  
貼附ヲ為シタル旨ヲ證ス可シ

第六百二十條 十噸以下ノ海船川船並ニ船中又ハ其他ノ場所ニ備ヘタル水車及ヒ其他ノ動ク可キ建造物ヲ賣買ト  
為ス可キ時ハ此等ノ物件所在ノ港又ハ波戸場ニテ其賣買ヲ為ス可シ○其賣買ヲ為スニハ前條ノ如ク少クトモ四  
通ノ貼附書ヲ出シ且其物件所在ノ地ニ三日相繼テ三次ノ公告書ヲ出ス可シ但シ最初ノ公告ハ負債者ニ物件差押  
ノ書面ヲ送達シタルヨリ八日ノ後ニ非レハ之ヲ為ス可カラス○新聞紙ヲ刊行スル都府ニ於テハ其三次ノ公告ニ  
換ヘ賣拂前一月間ニ三次其賣買ノ旨ヲ新聞紙ニ記載ス可シ

第六百二十一條 三百フラン以上ノ價アル金銀器珠寶寶玉類ハ市場又ハ其物件所在ノ地ニ前條ニ記シタル四通  
ノ貼附書及ヒ三次ノ公告ヲ為サスシテ之ヲ賣拂フ可カラス但シ此等ノ物件ハ金銀器ニ付テハ其賣價ヨリモ更ニ  
低價ニ之ヲ賣拂フ可カラス又指環並ニ寶玉類ニ付テハ評價人ノ定メタル價ヨリモ更ニ低價ニ之ヲ賣拂フ可カラ  
ス○又新聞紙ヲ刊行スル都府ニ於テハ三次ノ公告ニ換テ其新聞紙ニ記載スルコトヲ前條ニ等シトス  
第六百二十二條 差押タル物件ノ價差押ヲ為スノ原由タル負債高ニ過クル時ハ其總高ト裁判費用ノ高トニ差ル迄

第六百二十三條

ノ外其物件ヲ賣拂フ可カラス

第六百二十三條 調書ニハ差押ヲ受ケタル者其賣拂ノ場所ニ立會ヲ為シタル有無ヲ記ス可シ

第六百二十四條 其物件ハ最高價ニ買受ケント為ス者ニ現金ニテ賣買ス可シ若シ其者現金ニテ之ヲ買受ケル  
能ハサル時ハ其者ノ引受ケヲ以テ即時ニ再上之ヲ賣買ニ為ス可シ一賣買ニ高價ニテ買受ケントセシ者若シ其價  
値後ノ賣買ノ價物ノ價賣ノ價ヨリ少クシテ時  
右ノ者ヨリシテ其價ノ不足ヲ價ハレムルコトヲ云フ

第六百二十五條 評價人及ヒ使吏ハ賣買ニテ得タル金高ヲ已レニ格當シ且其調書ニ買入人ノ姓名住址ヲ附記ス可  
シ但シ此等ノ官吏ハ買入人ヨリ其買入ノ金高ヨリ更ニ餘分ヲ受取可カラス若シ之ヲ受取ル時受取ノ罪受ク可シ

○第九章 現在土地ニ生スル所ノ收納物ヲ負債ノ抵償トシテ差押ユル事

第六百二十六條 現在土地ニ生スル所ノ收納物ノ差押ハ其成熟ノ時ヨリ前六週内ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス且  
其差押ヲ為スヨリ一日前ニ要法ノ書ヲ送ル可シ

第六百二十七條 同トノ差押ノ調書ニハ其地ノ名所有者ノ名其大ナキ位置並ニ其隣地ノ中少クトモ二方ノ所有者  
ノ名及ヒ收納物ノ種類ヲ記ス可シ

第六百二十八條 田野ノ看守人ハ第五百九十八條ニ記シタル者ニ非サル時ハ之ヲ差押タル收納物ノ紙リ人ト為  
可シ若シ其看守人其地ニ在サル時ハ差押ノ旨ヲ其者ニ別役報知スル書面ヲ送り且其地ノ邑長ニ其書面ノ副本ヲ  
渡シ置キ其正本ハ邑長之ヲ檢印ス可キ土地相隣レルニ箇ノ邑ニ跨リタル時ハ田野ノ看守人ニ非サル者一人ヲ  
任シテ其土地ノ收納物ノ預リ人ト為ス可シ又差押ノ調書ノ檢印ハ二箇ノ邑中ニテ其地ノ首屋アル邑ノ長之ヲ為  
シ若シ其首屋アラサル時ハ其土地ノ半ハ以上アル邑ノ長之ヲ為ス可シ

第六百二十九條 賣買ヲ為スヨリ少クトモ八日前ニ差押ヲ受ケタル者ノ家ノ門戸ト邑ノ官署ノ門戸若シ其官署ヲ  
ラサル時ハ官ノ告令書ヲ貼附ス可キ場所ト其地ノ首タル市場若シ其市場ナキ時ハ最近ノ市場ト治安裁判所ノ官  
廳ノ入口トニ賣拂ノ書面ヲ貼附シテ之ヲ公ケニ為ス可シ



第六百三十條 貼附書ニハ賣却ノ日判若所差押ヲ受ケタル者及ヒ之ヲ為シタル者ノ姓名居所土地ノ方積収納物ノ種類其地所在ノ邑ノ名ヲ記ス可シ但シ其他ノ事ハ之ヲ記スルニ及ハス

第六百三十一條 貼附書ニシタルトテ記スルニ付テハ此巻ノ第八條ニ記シタル如ク之ヲ為ス可シ

第六百三十二條 賣却ノ日曜日又ハ市ノ日ニ之ヲ為ス可シ

第六百三十三條 其賣却ノ其地ノ所在ノ所ニ於テ之ヲ為シ又ハ差押タル物件ノ半ハ以上アル邑ニ於テ之ヲ為ス可シ又賣却ノ其地ノ市場ニテ之ヲ為ス可シ若シ其市場アラサル時ハ最近ノ市場ニテ之ヲ為ス可シ得可シ

第六百三十四條 前記條ニ記シタル以外ノ事ニ付テハ此巻ノ第八章ノ規則ニ循フ可シ

第六百三十五條 賣却ニ付テ得タル金高ハ此巻ノ第一章ニ記シタル如ク之ヲ債主數人ニ分派ス可シ

○第六百三十五條 賣却ニ付テ得タル金高ハ此巻ノ第一章ニ記シタル如ク之ヲ債主數人ニ分派ス可シ

第六百三十六條 定款ノ元金ヲ貸シタル債主ハ不動産ヲ賣却シ或ハ讓渡シタル債トシテ得可キ年金又ハ其他ノ債トシテ得可キ年金ハ債主ニ非スシテ得可キ年金ノ渡方ヲ差留ムルハ其年金ノ種類ノ早生ノモノタルト無期ノモノタルトノ期ハ差留言渡ノ如ク執行ノ可キ證書ニ據テ之ヲ為ス可シ○其差留ヲ為スヨリサクトモ一日前ニ

差留者ハ其住居ニ要テ證書ヲ送ル可シ但シ其以前既ニ裁判言渡ノ如ク執行ノ可キ證書ヲ送リタルトナキ時ハ要テ證書ヲ送ル可シ

第六百三十七條 債主ヨリ年金ヲ渡ス可キ者ニ其渡方差留ヲ為スニハ書面ヲ送リテ之ヲ為ス可シ但シ其書面ニハ通常ノ注式ノ外年金ヲ設ケ定メシ證書ニ於テ高元金アルニ於テハ其元金債主ノ貸金ノ證書債主ノ姓名職

業居所年金ヲ得可キ權ノ賣却ヲ為ス可キ裁判所ノ代書師ノ家ニ債主ノ住所ヲ標シタル旨及ヒ渡方差留ヲ受ケタル者ニ其裁判所ニ出席シテ負債者ニ辨テ可キ年金ノ有無ヲ述テ可キ要ムル旨ヲ記ス可シ

第六百三十八條 負債者ニ物件渡方ノ差留ヲ受ケタル者ノ行フ可キ法式ニ付テ第五百七十一條第五百七十二條第五百七十三條第五百七十四條第五百七十五條第五百七十六條ニ記シタル規則ハ年金拂方ノ差留ヲ

受ケタル者ニモ亦通シテ用テ可シ 若シ年金拂方ノ差留ヲ受ケタル者其辨テ可キ年金ノ有無ヲ述ヘサル時ハ之ヲ述フルト雖モ相當ノ期限ヲ過ヒシ時又ハ其述フル所ノ證書ニ於テ之ヲ為ス可キ裁判所自渡ヲ受ケテ之ヲ為スル時ハ其時ノ模様ニ從ヒ其者年金ヲ拂フ可キノ義務ヲ免レタル證書ヲ立テサルニ因リ猶其義務アルノ旨渡ヲ受ケ又ハ其證書述ヘサルト或ハ之ヲ遲延シタルトニ因リ或ハ其遲延ノ為メ訴訟ノ手續ヲ為シタルトニ因リ債主ノ為メニ生シタル損失ヲ償フ可キノ旨渡ヲ受ケ可シ

第六百三十九條 佛蘭西本國内ニ住居セサル者ヨリ負債者ニ年金ヲ渡ス可キ債主ノ差留ル書面ハ其差留ヲ受ケル者又ハ其住所ニ送達ス可シ且其裁判所ニ出席ス可キ期限ニ付テハ第七十三條ノ規則ニ循フ可シ

第六百四十條 年金渡方差留ノ書面ヲ送リタル時ハ既ニ差留シ期限ニ至リシ年金並ニ債主數人ヘノ分派

第六百四十一條 債主ノ年金渡方差留ノ書面ヲ送リタル日ヨリ三日ノ定期ニ年金ヲ拂フ可キ者ノ住所ト差留ヲ為ス債主ノ住所トノ間五

五、リヤメートル毎二更二一日ヲ増加シタル期限内ニ差留ヲ為ス債主其差留ノ書面ヲ負債者ニ送リテ且釋賣ノ簡條書ヲ公ケニ為ス可キ日ヲ其負債者ニ告知可シ 年金ヲ拂フ可キ者佛蘭西本國外ニ住居スル時ハ其者ニ差留ノ書面ヲ送り裁判所ニ出席スルヲ要ムル期限ノ終リシ日ヨリ負債者ニ差留ノ書面ヲ送ル可キ期限ヲ數フ可シ

第六百四十二條 前條ニ定メタル如ク年金ヲ受取ル可キ負債者ニ差留ノ書面ヲ送ル可キ期限ノ終リタル後早ヤトモ十日内是クトモ十五日内ニ年金拂方差留ヲ為ス債主年金所得ノ權ノ賣却ヲ管スル裁判所ノ書記局ニ釋賣ノ簡條書ヲ出ス可シ但シ此簡條書ニハ差留ヲ為ス債主負債者差留ヲ受ケル者ノ姓名居所職業年金ノ種類其高元金

アルニ於テハ其高元金ヲ設ケ定メシ證書ノ日附並ニ大略其年金拂方ノ保證トシテ不動産ヲ書入質ト為ス可キ約束シ其書入質ノ事ヲ彼所ノ簿冊ニ記入シタル時ハ記入ノ大略差留ヲ為ス債主ノ代書師ノ姓名居所釋賣ヲ為スニ

付テノ簡條書主ノ附ケ直段



第六百四十三條 同上ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ出シタルヨリ早クトモ十日遅クトモ二十日以内ニ預定シタル日ニ於テ裁判所ノ吟味ノ席ニテ其箇條書ヲ讀ミ上ケテ之ヲ公ケニ爲シ且裁判所ヨリ之ヲ公ケニ爲シタルノ證書ヲ差替テ爲ス者ニ渡ス可シ

第六百四十四條 羅賣ノ箇條書ニ記スル諸件ニ付キ其管係アル者ヨリ申述ヲ爲シタル時ハ裁判役其申述ヲ箇條書ニ記入シテ直チニ其裁判ヲ爲シ且羅賣ヲ爲ス可キ日則チ定ム可シ但シ其箇條書ヲ公ケニ爲スト羅賣ヲ爲ストノ間、期日ハ少クトモ十日多クトモ二十日ナリトス。羅賣ノ箇條書ニ管係アル者ノ申述ニ付キ裁判所ヨリ官渡シタル裁判ハ之ノ其箇條書中賣主ノ附直段又ハ同上ノ申述ヲ記入シタル末ニ附記ス可シ

第六百四十五條 箇條書ヲ公ケニ爲シタル後羅賣ヲ爲ス可キ少ナクトモ八日前ニ其箇條書ノ投書四通ニ羅賣ノ日ヲ記入シテ其一通ヲ負債者ノ住所ノ門戸又ハ一通ヲ年金ヲ拂フ可キ者ノ住所ノ門戸又ハ一通ヲ裁判所ノ表門又ハ一通ヲ賣拂フ可キ地内ニテ最モ著シキ場所ニ貼附ス可シ

第六百四十六條 前條ニ記シタル期限内ニ全土ノ投書ニ記シタル所ヲ第六百九十六條ニ指シ諸般ノ裁判公告ヲ記ス可キ新聞紙ニ記入ス可シ

第六百四十七條 貼附ヲ爲シタル下及ヒ新聞紙ニ記入シタル下ハ第六百九十八條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル所ニ指シ其證ヲ立ツ可シ又第六百九十七條及ヒ第七百條ノ場合ニ於テハ前ニ記シタルヨリ更ニ多數ノ貼附ヲ爲シ及ヒ更ニ多數ノ新聞紙ニ記載シシノ其費用ヲ裁判所費用中ニ加フルコトヲ得可シ

第六百四十八條 第七百一條第七百二條第七百三條第七百四條第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第七百十條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百十四條第七百十五條第七百十六條第七百十七條第七百十八條第七百十九條第七百二十條第七百二十一條第七百二十二條第七百二十三條第七百二十四條第七百二十五條第七百二十六條第七百二十七條第七百二十八條第七百二十九條第七百三十條第七百三十一條第七百三十二條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條ニ記シタル事ハ其ノ如ク處置ス得ルノ權ヲ羅賣ト爲スニモ亦適シテ之ヲ用フ可シ

第六百四十九條 若シ買入人羅賣ノ箇條書ニ違背スル時ハ其者ノ引受ヲ以テ再ヒ其羅賣ヲ爲シ第六百二十四條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條ニ記シタル事ハ其ノ如ク處置ス可シ

訴訟法 五十四

可シ○然レモ再ヒ貼附ヲ爲スト羅賣ヲ爲ストノ間ノ期日ハ五日ヨリ少カラス十日ヨリ多カラサル可シ且第七百三十六條ニ記シタル報告ハ更ニ羅賣ヲ爲ス日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ爲ス可シ

第六百五十條 負債者羅賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ス前ノ訴訟ノ手續ヲ取消サント爲ス憑據ヲ述フルコトハ其箇條書ヲ公ケニ爲ス可キ日ヨリ少クトモ一日前ニ之ヲ爲シ又之ヲ公ケニ爲シタル後ノ訴訟ノ手續ヲ取消サント爲ス憑據ヲ述フルコトハ羅賣ノ日ヨリ少クトモ一日前ニ之ヲ爲ス可シ若シ其期限ヲ過コス時ハ其取消ノ憑據ヲ述フルコトヲ得ス○負債者ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ名書ヲ送ラシメテ裁判所ニ出席スルコトヲ要メ裁判所ニテ其取消ノ憑據ヲ裁判所可シ若シ裁判所ニテ其憑據ヲ却還スル言渡ヲ爲シタル時ハ直チニ羅賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ストニ取掛リ又ハ羅賣ヲ爲ストニ取掛ル可シ

第六百五十一條 年金拂方差留ノ訴訟ニ付キ一方ノ者抗辯シテ受ケタル裁判言渡ハ其者ヨリ故障ヲ述フルコトヲ得ス○羅賣ノ箇條書ヲ公ケニ爲ス前ノ訴訟ノ手續ニ付訴訟ノ本案又ハ附帶ノ事トシテ問ハス其取消ヲ求ムル憑據ノ裁判言渡ハ代書師其言渡書ノ送達ヲ受ケタルヨリ八日以内又代書師ナキ時ハ本人又ハ其住所ニ送達ヲ受ケタルヨリ八日以内ニ之ヲ控訴ス可シ若シ其定期ヲ過タル時ハ其控訴ヲ爲スヲ許サス○負債者ハ控訴ヲ爲ス時當テ諸國裁判所ニ於テ述ヘタルヨリ更ニ他ノ憑據ヲ述フルコトヲ得ス。控訴書ハ相手方ノ代書師ノ住所ニ送達シ又代書師ナキ時ハ相手方本人ノ本住所又ハ別段擇ミタル住所ニ送達シ又其一通ヲ初告裁判所ノ書記官ニ送呈シ書記官之ニ檢印ヲ爲ス可シ但シ控訴書ニハ初告裁判所ノ裁判言渡ニ服セサル條件ヲ記ス可シ第七百三十一條第七百三十二條見合

第六百五十二條 第一 訴訟ニ附帶スル事ヲ裁判スルニ非スシテ羅賣ノ箇條書ヲ公ニ爲シタル證書ヲ與フル言渡及ヒ羅賣ヲ爲ス可キ言渡

第二 箇條書ヲ公ケニ爲シタル後ノ訴訟手續ヲ取消サントスル憑據ニ付テノ言渡  
此等ノ言渡ハ控訴ヲ爲スヲ許サス第七百三十三條見合



第六百五十三條 債主二人ニテ年金拂方ヲ差留メタル時ハ其二人中先ニ差留ノ書面ヲ負債者ニ送達シタル者雖モ其手續ヲ為ス可シ又其二人同時ニ其送達ヲ為シタル時ハ其中先ニ裁判官渡ノ如ク執行ヲ可キノ證書ヲ得タル者其手續ヲ為ス可シ又其證書ヲ同時ニ得タル時ハ先ニ任ヲ得タル代書師ヲ用フル者其手續ヲ為ス可シ

第六百五十四條 年金ヲ得ルノ權ヲ羅賣ニ為シテ得タル金高ノ分派ハ此卷第六十一章ニ記スル如ク之ヲ為ス可シ但シ此規則ヲ以テ共和政治立國第七年七月十一日ノ法律前ノ書入債ノ權ヲ害ス可カラズ

第六百五十五條 第六百三十六條第六百三十七條第六百三十九條第六百四十一條第六百四十二條第六百四十三條第六百四十四條第六百四十五條第六百四十六條第六百四十七條第六百四十八條第六百四十九條第六百五十條第六百五十一條第六百五十二條第六百五十三條第六百五十四條第六百五十五條第六百五十六條第六百五十七條第六百五十八條第六百五十九條第六百六十條第六百六十一條第六百六十二條第六百六十三條第六百六十四條第六百六十五條第六百六十六條第六百六十七條第六百六十八條第六百六十九條第七百條第七百一條第七百二條第七百三條第七百四條第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第八百條第八百一條第八百二條第八百三條第八百四條第八百五條第八百六條第八百七條第八百八條第八百九條第九百條第九百一條第九百二條第九百三條第九百四條第九百五條第九百六條第九百七條第九百八條第九百九條第一千條第一千一條第一千二條第一千三條第一千四條第一千五條第一千六條第一千七條第一千八條第一千九條第一千十條第一千十一條第一千十二條第一千十三條第一千十四條第一千十五條第一千十六條第一千十七條第一千十八條第一千十九條第一千二十條第一千二十一條第一千二十二條第一千二十三條第一千二十四條第一千二十五條第一千二十六條第一千二十七條第一千二十八條第一千二十九條第一千三十條第一千三十一條第一千三十二條第一千三十三條第一千三十四條第一千三十五條第一千三十六條第一千三十七條第一千三十八條第一千三十九條第一千四十條第一千四十一條第一千四十二條第一千四十三條第一千四十四條第一千四十五條第一千四十六條第一千四十七條第一千四十八條第一千四十九條第一千五十條第一千五十一條第一千五十二條第一千五十三條第一千五十四條第一千五十五條第一千五十六條第一千五十七條第一千五十八條第一千五十九條第一千六十條第一千六十一條第一千六十二條第一千六十三條第一千六十四條第一千六十五條第一千六十六條第一千六十七條第一千六十八條第一千六十九條第一千七十條第一千七十一條第一千七十二條第一千七十三條第一千七十四條第一千七十五條第一千七十六條第一千七十七條第一千七十八條第一千七十九條第一千八十條第一千八十一條第一千八十二條第一千八十三條第一千八十四條第一千八十五條第一千八十六條第一千八十七條第一千八十八條第一千八十九條第一千九十條第一千九十一條第一千九十二條第一千九十三條第一千九十四條第一千九十五條第一千九十六條第一千九十七條第一千九十八條第一千九十九條

第六百五十六條 差押ヘタル金高又ハ物件賣拂ノ價高ヲ以テ債主數人ニ償フニ不足ナル時ハ一ヶ月内ニ負債者ト債主數人ト其價高ノ分派ヲ協議ス可シ

第六百五十七條 負債者ト債主ト定期内ニ協議セサル時ハ當テ賣拂ノ手續ヲ為シタル官吏八日內ニ已レノ得可キ謝金ヲ差引タル總賣拂金高ヲ官署ニ附托ス可シ但シ其金高ノ一部ヲ已レニ得ント求メシ者アル時ハ其求メノ受ケタル儘ニテ之ヲ官署ニ預ケ置ク可シ○同上ノ官吏ノ得可キ謝金ノ高ハ裁判役ノ證書ノ正本ニ記シ定メタル所ニ從フ可ク亦其副本ニモ其高ヲ記ス可シ

第六百五十八條 裁判所ノ書記局ニ分派ノ簿冊ヲ設ケ置キ差押ヲ為シタル債主ノ求メニ因リ又其債主ノ求メヲ為サ、ル時ハ他ノ債主ノ求メニ因リ裁判所ノ上席人ヨリ掛リ裁判役ヲ任シテ其旨ヲ其簿冊ニ登記ス可シ但シ債主ノ求ムル所ハ之ヲ簡略ニ簿冊ニ附記ス可シ

第六百五十九條 第六百五十六條及ヒ第六百五十七條ニ記シタル期限ノ終リシ後掛リ裁判役ノ言渡ニ從ヒ差押ヲ為シタル者ニ非サル債主ハ其證書ヲ出ス可キノ證書ヲ受ケ負債者ハ其證書ヲ受取テ之ヲ檢査ス可ク且別段ノ道

理アル時ハ其證書ニ付キ故障ヲ述フ可キ證書ヲ受ク可シ

第六百六十條 差押ヲ為シタル債主又ハ賣拂ヲ為シタル官吏ニ贖買金高ノ分派ヲ要メタル債主等ハ前條ノ證書ヲ受取リタルヨリ一月内ニ其證書類ト分派ヲ求メ且代書師ヲ任シタル旨ヲ記シタル書面トヲ掛リ裁判役ニ出ス可シ若シ之ヲ出サ、ル時ハ其分派ヲ得ルノ權ヲ失フ可シ

第六百六十一條 分派ヲ求ムル書面ニハ債主ノ特權アル旨ヲ附記ス可シ但シ土地又ハ家屋ノ所有者ハ其貸付ヲ得可キ特權ヲ行フニ付キ先ニ裁判ヲ受ク可キ為メ負債者並ニ債主ノ代書師中ニテ家モ先ニ其職ニ任シタル者ヲ掛リ裁判役ノ至急吟味條第八百六十一條ノ旨ニ出ス可シ

第六百六十二條 訴訟費用ノ債ハ土地又ハ家屋ノ所有者ノ得可キ貸付ヲ除クノ外他ノ貸高ノ債ヨリ先ニ之ヲ得可シ

第六百六十三條 前ニ記シタル定期ノ終リシ時又故人ノ債主皆其證書類ヲ出シタルニ於テハ其定期ニ至ラサル前掛リ裁判役其證書ノ紙尾ニ債主ノ證書ニ從ヒ分派ヲ為ス割合ヲ附記シ債主中ニテ其分派ノ手續ヲ求ムル者其代書師ヨリ他ノ債主並ニ負債者ニ證書ノ終成シタル旨ヲ告知シ且此等ノ者ニ二十五日內ニ其證書ヲ受取リ其證書ニ付キ故障ヲ述フ可キ旨ヲアル時ハ之ヲ述フ可キ旨ヲ要ム可シ

第六百六十四條 債主及ヒ負債者十五日ノ期限内ニ掛リ裁判役ヨリ其證書ヲ受取ラサル時ハ別ニ裁判官言渡ナクシテ此等ノ者其故障ヲ述フ可キノ權ヲ失フ可シ但シ此等ノ者於テハ此等ノ者ノ述フル所ヲ別段證書ニ附記スル及ハス

第六百六十五條 前條ニ記シタル者證書ニ付キ故障ヲ述ヘサル時ハ掛リ裁判役其證書ヲ終成シテ金高ノ分派ヲ決定シ故人ノ債主各其權利ノ正實ナル據ヲ為シタル上掛リ裁判役ヨリ書記官ニ此等ノ債主ニ金高ノ分派ヲ得ヘキ書面ヲ渡ス可キ旨ヲ言渡ス可シ

第六百六十六條 若シ證書ニ付キ故障ノ起ル時ハ掛リ裁判役ヨリ其故障ヲ裁判所吟味ノ席ニテ裁判ス可キ旨ヲ言渡シ債主中ノ一人其代書師ヲレテ他ノ債主ノ代書師ニ證書ヲ送ラシメ別ニ他ノ法式ナクシテ直チニ裁判吟味ノ席ニ出ツヘキ旨ヲ要ム可シ



第六百六十七條 故障ヲ述ヘタル債主故障ノ申述ヲ受ケタル債主有債者並ニ他ノ債主等ノ代書師中ニテ最モ先ニ職ニ任シタル者ノミ其吟味ノ席ニ出ゾ可シ但レ其訴訟ノ手續ヲ為シタル債主ハ其故障ヲ述ヘ又ハ故障ノ申述ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ吟味ノ席ニ呼出スニ及ハス

第六百六十八條 其裁判言渡ハ掛リ裁判後ヨリ申立ヲ為シ且檢察官其説ヲ述ヘタル上ニテ之ヲ為ス可シ

第六百六十九條 其裁判言渡ノ控訴ハ代書師ノ住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十日内ニ之ヲ為シ控訴書ヲ相手方ノ代書師ノ住所ニ送達ス可シ但レ其控訴書ニハ相手方ヲ控訴院ニテ呼出スニ並ニ初告裁判所ノ言渡ニ服セサル條件ヲ記ス可シ○其控訴ハ控訴院ニテ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ 第六百六十七條ニ記シタル敷人ニ非レハ其控訴ノ席ニ呼出ス可カラス

第六百七十條 控訴ヲ為サレ時ハ之ヲ為ス可キ期限ノ終リシ後又控訴ヲ為シタル時ハ控訴院ノ言渡書ヲ代書師ノ住所ニ送達シタル後掛リ裁判後第六百六十五條ニ記シタル如ク其調書ヲ終成スヘシ

第六百七十一條 調書ヲ終成シタルヨリ八日内ニ債主敷人掛リ裁判後ノ面前ニテ各其權利ノ正實ナル否ヲ為シタル上書記官ヨリ其債主ニ金高ノ分派ヲ得可キ書面ヲ渡ス可シ

第六百七十二條 負債ノ息銀ハ同上ノ調書ニ付故障ナキ時ハ其調書ヲ終成シタル日ヨリ之ヲ拂フニ及ハス又故障アル時ハ其裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ拂フニ及ハス又控訴ヲ為シタル時ハ控訴院ノ裁判言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十五日ノ後ニ至リテ之ヲ拂フニ及ハス

○第十二章 不動産ヲ抵償トシテ差押ル事

第六百七十二條 不動産ヲ抵償トシテ差押フルニハ先ツ負債者又ハ其住所ニ要決ノ書ヲ送ル可シ但シ其書ノ初メニ裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ旨ヲ記シタル證書ヲ不動産差押ヲ為スノ證據トシテ記入ス可シ○又其要決ノ書ニハ債主其差押ヲ當ル裁判所ノ管轄内ニ住セサルニ於テハ別段其管轄内ニ住マラズニ設ケタル旨ト負債者其債主其差押ナルニ於テハ不動産差押ヲ送達シテ可キ旨トヲ記スヘシ但シ不動産差押ノ場合ニ於テハ其要決ノ書ヲ届ケル

使吏證人ノ立合ヲ要セス唯其書ヲ届ケタル日ノ内ニ其地ノ邑長ヲシテ其正本ニ捺印ヲ為サシム可シ

第六百七十五條 不動産ノ差押ハ要決ノ書ヲ届ケタルヨリ三十日ノ後ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス若シ其債主負債者ニ要決ノ書ヲ届ケタルヨリ後九十日ヲ過テ猶ホ其差押ヲ為サル時ハ前條ノ法式ニ倂ヒ更ニ要決ノ書ヲ届ケスレテ其差押ヲ為ス可カラス

第六百七十五條 不動産差押ノ調書ニハ總テノ呼出狀ニ記ス可キ諸件 第六十一條 第一第二ノ外更ニ左件ヲ記ス可シ

第一 不動産差押ヲ為スノ證據タル裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キノ證書ノ大略

第二 使吏其差押ヲ可キ不動産ノ場所ニ到リシ事

第三 差押タル不動産ノ模倣則チ家屋ナレハ其所在ノ郡ノ各色ノ名街衢ノ各家屋ニ番号アル時ハ其番号又ハ番号ナキ時ハハットモ二方ノ隣人ノ姓名 又土地ナレハ其内ニ在ル建築物ノ模倣土地ノ種類其大概ノ方積之ヲ借受ケ耕作スル者アル時ハ其姓名不動産所在ノ郡及ヒ邑ノ名

第四 差押ヘタル不動産ノ地稅目錄ノ詳細ナル寫

第五 差押ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ名

第六 差押ヲ為ス債主代書師ヲ任シ其代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事

第六百七十六條 不動産差押ノ調書ハ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル前ニ不動産所在ノ邑長其捺印ヲ為ス可シ若シ又其差押タル不動産敷色ニ跨ル時ハ其邑長敷人其差押ノ調書ニテ各邑長ノ管轄地内ニ在ル不動産差押ヲ記シタル部分ニ捺印ヲ為ス可シ

第六百七十七條 不動産差押ノ了ハ其調書ヲ終成シタル日ヨリ十五日内ニ之ヲ負債者ニ報知ス可シ但シ負債者ノ住所ト差押ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ノ間ニ五里ヤメイト毎ニ更ニ一日ノ期日ヲ増スヘシ○其報知書ノ正本ハ之ヲ送達シタル地ノ邑長其日内ニ捺印ヲ為スヘシ

第六百七十八條 不動産差押ノ調書及ヒ報知書ハ其報知ヲ為シタルヨリ遑クトモ十五日内ニ書入所役所所在ノ郡



中ノ不動産ニ付キ各其後取ノ簿冊ニ登記ス可シ

第六百七十九條 書入貸ノ管轄者差押ノ調書ヲ受取リタル時直ニ之ヲ其簿冊ニ登記スルヲ得ケル時ハ其官吏其受取リタル調書ノ正本ニ其登記ヲ延スヘキ年月日時ヲ附記ス可シ若シニ箇ノ差押ノ調書ヲ登記スルヲ互ニ相觸ル、時ハ官吏ノ先ニ受取リタル調書ヲ先ニ登記ス可シ

第六百八十條 既ニ一度不動産差押ノ調書ヲ書入貸役所ノ簿冊ニ登記シタル後更ニ其不動産ニ付キ差押ノ調書ヲ登記セント願フ者アル時ハ書入貸ノ管轄者前ノ調書ノ日附ノ差押ヲ為シタル者及ヒ差押ヲ受ケタル者ノ姓名位氏職業其差押ノ訴ヲ管スル裁判所ノ名差押ヲ為シタル者ノ代書師ノ姓名其調書ヲ簿冊ニ登記シタル日附ヲ第二次ノ調書ノ端ニ附記シテ再度ノ登記ヲ行ハルヲ得ル可シ

第六百八十一條 債主ノ差押ヘタル不動産ヲ負債者ヨリ人ニ貸付シタルトナキ時ハ負債者其不動産管轄ノ時迄不動産ヲ占有スルヲ得ヘクシテ之ヲ裁判所ヨリ任テ受ケタル預リ人ト看做ス可シ但シ債主ヨリ別段裁判所ニ訴ヘ裁判所ニテ至急吟味ノ上負債者ニ其不動産ヲ占有スルヲ許サハル旨ヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス 又負債者其不動産管轄ノ時迄之ヲ占有スル時ト雖モ債主ハ別段裁判所ニ訴出シ至急吟味ヲ受ケタル上ニテ上席人ノ言渡書ヲ得其土地ニ生スル穀物ノ全部又ハ一部ヲ得ル又ハ樹果全部又ハ一部ヲ摘取シテ之ヲ賣拂フヲ得可シ 其賣拂ハ釋賣ノ法ヲ用ヒ又ハ其地裁判所上席人ノ定メタル方ヲ用ヒ又ハ其他裁判所上席人ノ定メタル法ヲ用ヒ且其定メタル期限内ニ之ヲ為ス可シ但シ其代金ハ之ヲ官署ニ預ク可シ

第六百八十二條 不動産差押ノ調書ヲ書入貸役所ノ簿冊ニ登記シタル後其不動産ヨリ得タル天然又ハ人工ノ利益又ハ其代金ハ之ヲ不動産ト共ニ差押ヘ後ニ不動産ヲ賣拂フタル代金ト共ニ書入貸ノ順序ニ從ヒ之ヲ債主分派スル第六百八十三條 不動産ヲ差押ヘラレシ負債者ハ樹木ヲ伐リ又ハ其不動産ヲ毀傷スヘカラス若シ其禁ヲ犯ス時ハ債主ニ損失ノ償ヲ為スヘク又其償ヲ為サハル時ハ禁錮ヲ受ケ可シ但シ刑法第四百條及ヒ第四百三十四條ニ記シタル刑ニ應マラレハキ罪ヲ犯シタル時ハ格別ナリトス

第六百八十四條 負債者ヨリ不動産ヲ貸借シタル者アリト雖モ負債者要決ノ書ヲ受取ル前ニ其貸借契約ノ日附定ナル者トナラサル時ハ債主ノ求メニ因リ又ハ不動産ノ釋賣ノ時買入ル、者ノ求メニ從ヒ其契約取消スルヲ得可シ

第六百八十五條 土地及ヒ家屋ノ借賃ハ差押ノ調書ヲ書入貸ノ簿冊ニ登記シタル時ヨリ之ヲ不動産ト共ニ差押ヘ書入貸ノ順序ニ從ヒ不動産ノ代金ト共ニ債主ニ分派ス可シ○賣拂ノ手續ヲ為ス債主又ハ他ノ債主ハ土地又ハ家屋ノ借主ニ其借賃ノ負債者ニ渡ス可カラサル書面ヲ送り共書面ヲ送りシテ以テ即チ其渡方差留ヲ為シタルノ効ヲ生ス可シ又其借主ハ債主共書入貸ノ順序ヲ以テ償ヲ得可キノ證書ニ從ヒ其借賃ノ債主ニ渡シ又ハ之ヲ金處ヲ預ル可キ官署ニ預クルニ非レハ其義務ヲ免ル、ト得ズ但シ其借賃ヲ官署ニ預クルハ本人ヨリ之ヲ官署ニ願フテ之ヲ為シ又シ債主ノ要メニ從テ之ヲ為ス可シ○若シ債主ヨリ同上ノ借主ニ借賃ノ渡方差留ヲ為サハル時ハ借主其借賃ノ負債者ニ渡シテ其義務ヲ免ル、ト得可ク負債者ハ裁判所ヨリ任セラレタル預リ人タルニ因リ其借賃ヲ債主ニ其還ス可キノ義務アリ

第六百八十六條 負債者ハ債主ノ其不動産差押ノ調書ヲ書入貸役所ノ簿冊ニ登記セシ時ヨリ其不動産ヲ人ニ賣拂ヒ又ハ贈與ス可カラズ但シ之ヲ賣拂ヒ又ハ贈與シタル時ハ別段裁判所ヨリ之ヲ取消ス可キノ言渡ナシト雖モ其効ナカル可シ

第六百八十七條 然レ其不動産ヲ買入レタル者不動産釋賣ノ為メ預定シタル日ヨリ前ニ管テ差押ヲ為セシ債主ト其他自己ノ書入貸ノ權ヲ管テ役所ノ簿冊ニ記入ロシメシ債主トニ拂フ可キ元金及ヒ息銀並ニ裁判所ノ費用ト相當ル金高ヲ官署ニ預ケ且其預ケタル旨ヲ債主等ニ報告スル時ハ其不動産ノ賣買契約ノ効アリトス

第六百八十八條 前條ノ如ク差押ヲ受ケタル不動産ヲ負債者ヨリ買入レタル者官署ニ預ケタル金高ヲ人ヨリ借受ケタル時ハ其貸主其賣拂ノ時既ニ役所ノ簿冊ニ書入貸ノ權ノ記入ヲ得タル債主等ニ次テ書入貸ノ權ヲ行フ可シ

第六百八十九條 差押ヲ受ケタル不動産ヲ負債者ヨリ買入レタル者ハ必ス其釋賣ノ日ヨリ前ニ官署ニ金高ヲ預ク可ク如何ナル口實アリト雖モ其預ケ方ノ猶豫ヲ許ス可カラズ



第六百九十條 不動産差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シタルヨリ遅クモ二十日以内ニ賣掛ノ手續ヲ為ス債主ノ調書ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ但シ其箇條書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 不動産差押ヲ為スノ憑據タル裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ證書ノ大略要決ノ書ノ大略差押ノ證書ノ大略並ニ其調書ヲ記シタル後ノ證書及ヒ言渡書ノ大略

第二 不動産ノ模様但シ差押ノ調書ニ記シタル所ニ等シカル可シ

第三 賣掛ニ付テノ箇條

第四 賣掛ノ手續ヲ為ス債主ノ附直投

第六百九十一條 債主ハ羅賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ納ムタルヨリ遅クモ八日ノ朔日ニ負債者ノ住所ト裁判所トノ間五リヤノ一トル毎ニ一日ヲ増加シタル期限内ニ負債者裁判所ニ出テ羅賣ノ箇條書ヲ檢視シ故障ノ時其旨ヲ述フ可ク且其箇條書ヲ讀上ケテ之ヲ公ケニ為ス時及ヒ羅賣ノ日ヲ定ムル時其席ニ立會フ可キノ招書ヲ負債者又ハ其住所ニ送ル可シ○但シ其招書ニハ箇條書ヲ公ケニ為ス日刻ト場所トヲ附記ス可シ

第六百九十二條 千八百五十八年五月二十一日左如ク改ム其債主ハ前條期限内ニ同上招書ヲ左ノ數人ニ送ル可シ

第一 差押ヘタル不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシ債主ニ付テハ其記入ニ付キ別段擇ミタル住所ニ招書ヲ送ル可シ○若シ其債主中ニ以前其不動産ヲ負債者ニ賣掛タル者アリテ其者併同内ニ居住シ別段住所ヲ擇ミタルコトナキ時ハ其現在ノ住所ニ招書ヲ送ル可シ但シ其者ヘノ招書ニハ其者羅賣ノ前ニ以前ノ賣掛契約ヲ取消シテ其不動産ヲ取還セントスルノ許ヲ為シ且其旨ヲ裁判所ノ書記局ニ報告スルニ非レハ羅賣ノ後ニ至リ其不動産ヲ買入レタル者ニ對シテ其許ヲ為スノ權ナカル可キ者ヲ附記ス可シ

第二 負債者ノ婦不動産ノ以前ノ所有者ノ婦幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後凡人ノ監察者負債者其母ノ妻又ハ父ノ姉妹幼者ノ下年ニ至リシ者上ニニ招書ヲ送ル可シ但シ此場合ニ於テハ羅賣ノ手續ヲ為ス債

第六百九十三條

主已レノ證書ニ因リ負債者ノ婚誓ヲ結ビタルコト又ハ後見ヲ為スコトヲ知り得タルコトヲ必要トス○此招書ニハ婦又ハ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケタル者其夫又ハ後見人ノ差押ヲ受ケタル不動産ニ付キ法律上ノ書入質ノ權ヲ保有セントスルニハ羅賣ノ言渡第七百二十二條ノ役所ノ簿冊ニ登記スル前ニ其法律上ノ書入質ノ權ヲ其役所ノ簿冊ニ記入スルコト必要ナル旨ヲ附記ス可シ○又其招書ノ寫一通ヲ不動産所在ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ檢事ニ送り其官吏ハ差押ヲ受ケタル不動産ニ付キ負債者ノ婦又ハ其後見ヲ受ケル者ノミノ為メ法律上ノ書入質ノ權ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入スルコトヲ求ム可シ

第六百九十三條 前二條ニ記シタル招書ヲ送達シタル最終ノ日ヨリ八日以内ニ其送達ヲ為シタル旨ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記セシ差押ノ調書ノ端ニ附記ス可シ 此旨ヲ附記シタル後ハ曾テ自己ノ書入質ノ權ノ記入ヲ得シ債主等皆承諾シタルニ非レハ差押ノ調書ノ登記ヲ塗抹ス可カラズ但シ其債主等之ヲ承諾セスト雖モ皆負訴訟トナリテ裁判所ヨリ其塗抹ヲ為ス可キコトヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第六百九十四條 羅賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ納ムタルヨリ早クモ三十日遅クモ四十日以内ニ曾テ定メタル日ニ裁判所吟味ノ席ニテ其箇條書ヲ讀上ケテ之ヲ公ケニ為ス可シ 此事ヲ為スヨリ前遅クモ三日以内ニ賣掛ノ手續ヲ為ス債主及ヒ負債者並ニ自己ノ書入質ノ權ノ記入ヲ得シ債主等ハ其箇條書ニ記シタル諸件ニ付キ故障アル時ハ之ヲ述ヘテ其書ノ末ニ其故障ノ旨ヲ附記セシム可シ若シ此定期ヲ過ス時ハ其故障ヲ述フルコトヲ許サス

第六百九十五條 負債者及ヒ債主等ニ送リタル招書ニ記セシ日ニ至リ裁判所ヨリ賣掛ノ手續ヲ為ス債主ニ羅賣ノ箇條書ヲ讀上ケテ之ヲ公ケニ為シタルノ證書ヲ渡シ其箇條書ノ末ニ附記シタル故障ノ申述ヲ裁決シテ羅賣ヲ為ス可キ日刻ヲ定ム可シ但シ其羅賣ノ日ト箇條書ヲ公ケニシタル日トノ間ニハ少クモ三十日多クモ六十日ノ猶豫アル可シ 裁判所ヨリ箇條書ヲ讀上ケテ之ヲ公ケニセシ旨ヲ記シタル證書ヲ賣掛ノ手續ヲ為ス債主ニ渡シ且故障ノ申述ヲ裁決スル言渡ハ之ヲ其箇條書ノ末ニ債主ノ附ケ直投又ハ故障申述ヲ記シタル次ニ附記ス可シ

第六百九十六條 羅賣ヲ為ス前平クモ四十日遅クモ二十日以内ニ賣掛ノ手續ヲ為ス債主ノ代書師ハ不動産所在



ノ州内テ刊行スル新聞紙ニ左件ヲ記シタル拔書ヲ記入ス可シ但シ其拔書ニハ其姓名ヲ手署ス可シ

第一 不動産差押ノ調書ノ日附及ヒ其調書ヲ書入質控所ノ簿冊ニ登記シタル日附

第二 負債者及ヒ差押ヲ為シタル債主並ニ其債主ノ代書師ノ姓名職業居所

第三 差押ノ調書ニ記シタル如キ不動産ノ模様

第四 差押ノ手續ヲ為ス債主ノ附ケ直段

第五 差押ノ訴ヲ管スル裁判所ノ名及ヒ差押ノ場所並ニ日附 又其拔書ニハ法律上ニテ其不動産ニ付キ

書入質ノ權アル者ハ差押ノ言渡ヲ役所ノ簿冊ニ記入スル前ニ其權ヲ役所ノ簿冊ニ記入スルヲ求ムルヲ

ノ必要ナル旨ヲ附記ス可シ 其他總テ其不動産差押ニ管シタル裁判手續ノ中公告ス可キ諸件ハ同上ノ

新聞紙ニ記入ス可シ

第六百九十七條 差押ノ手續ヲ為ス債主、負債者、又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシ債主中ノ一人

前條ニ記シタル新聞紙ニ記入シタル外更ニ他ノ新聞紙ニ差押ノ旨ヲ記入スルヲ相當ナリト思慮スル時ハ之ヲ差

押ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ上席人ニ願ヒ上席人ハ不動産ノ大切ナル時其願ヲ許ル可シ但シ上席人ノ許ヲ得タ

ル上新聞紙ニ記入スルニ付テハ費用ハ之ヲ裁判所費用ノ中ニ算入スルヲ得可シト雖モ其許ナキ時ハ本人自カラ

共費用ヲ擔當ス可シ○裁判所上席人ノ言渡ハ之ヲ取消サント訴フ可カラズ

第六百九十八條 新聞紙ニ同上ノ拔書ヲ記入シタルノ證ヲ立ルハ其拔書ヲ記シテ刊行シタル新聞紙一葉ヲ以テ之

為ス可シ但シ其新聞紙ニハ邑長ノ認メタル刊行者ノ手署セシ姓名アルヲ必要ナリトス

第六百九十九條 第六百九十六條ニ記シタル所ニ等シキ拔書ヲ貼附書ノ體裁ニ刊行シテ其條ニ記シタル期限内ニ

左ノ各所ニ貼附ス可シ

第一 負債者住所ノ門

第二 差押ヘタル建物ノ表門

第三 負債者住所ノ邑中ノ著シキ場所不動産所在ノ邑中ノ著シキ場所差押ノ訴訟ヲ管スル裁判所  
在ノ邑中ノ著シキ場所

第四 負債者住所ノ邑ノ官署ノ表門及ヒ不動産所在ノ邑ノ官署ノ表門

第五 此二箇ノ邑中ノ市場及ヒ此邑中ニ市場ノアヲサル時ハ其郡中ニテ最近ノ二箇ノ邑ノ市場

第六 差押ヘタル中ニ建造物アル時ハ其所在ノ地ノ治安裁判所ノ訟廳ノ入口若シ其建造物ナキ時ハ差押

ヘタル土地ノ半ハ以上アル地ノ治安裁判所ノ訟廳ノ入口

第七 負債者住所ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ表門、不動産所在ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ノ表門、差押

為ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ表門、使吏ハ貼附書一葉ニ記入シタル調書ヲ以テ法律上ニテ定メタル

場所ニ貼附ヲ為シタルヲ證ス可シ但シ其各箇ノ場所ハ委細ニ調書ニ記スルニ及ハス 其調書ハ貼附

ヲ為シタル地ノ各邑長之ニ捺印ス可シ

第七百條 不動産ノ種類ト重大トニ准シ前條ニ記シタル貼附書ノ外其數五百通ニ至ル迄ハ其費ヲ裁判所費用ノ中

ニ算入スルヲ得可シ

第七百一條 差押ヲ為スニ付テハ裁判所ノ費用ハ裁判役其高ヲ定ム可シ但シ其定メ高ヨリ餘分ハ之ヲ書入人ヨリ

償ハシムルヲ得ス○此規則ニ反シタル契約ハ如何ナル體裁タルヲ問ハス其効ナカル可シ 其裁判所費用ノ高

ハ差押ヲ為ス前ニ之ヲ公告シ且其高ヲ差押ノ言渡書ニ記入ス可シ

第七百二條 差押ノ為メ預定シタル日ニ至リ是迄差押ノ手續ヲ為シタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主ノ求メヲ以テ其差押ヲ為ス可シ

第七百三條 差押ノ為メ預定シタル日ニ至リ是迄差押ノ手續ヲ為シタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ

簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ其他自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ



預定シタル日ヨリ後十五日ヨリ早キヲナク六十日ヨリ遅キヲナカル可シ 此言渡ハ之ヲ取消サント訴フルヲ得ス  
第七百四條 前條ニ循ヒ更ニ羅賣ノ期日ヲ定メタル時ハ其期日ヨリ少クトモ八日前ニ第六百九十六條及ヒ第六百  
九十九條ニ記シタル如ク其旨ヲ新聞紙ニ記入シ及ヒ貼附ヲ為シテ之ヲ公告ス可シ

第七百五條 羅リニテ價ヲ附クルルハ裁判所吟味ノ席ニテ買ハントスル者ノ代書師之ヲ為ス可シ 羅賣ヲ始ムル  
ト同時ニ各大概一分時間燃へ續ク可キ小蠟燭數箇ヲ相繼テ點ス可シ 羅リニテ若干ノ價ヲ附ケタル者アル後更  
ニ高價ヲ附クル者アル時ハ縱令其高價ヲ附ケタル効ナキ言渡アル時ト雖モ先ニ價ヲ附ケタル者買入ノ義務ヲ  
免ル可シ

第七百六條 羅リニテ若干ノ價ヲ附クル者アリテ蠟燭三箇ノ盡キタル後猶更ニ高價ヲ附クル者ナキ時ハ其者買入  
ヲ為スヲ得可シ蠟燭三箇ノ既ニ盡キタル後猶羅ニテ價ヲ附クル者ナキ時ハ羅賣ノ手續ヲ為シタル債主己レノ  
附直段ニテ買入ル可キ言渡ヲ受ク可シ 最初ノ蠟燭三箇中一箇ノ燃ル間ニ羅リニテ價ヲ附クル者アリテ其後  
更ニ二箇ノ燃ル間更ニ高價ヲ附クル者ナキ時ハ其者買入ヲ為スヲ得可シ

第七百七條 最モ高價ヲ附ケタル代書師ハ其日ヨリ三日内ニ其書入ヲ為ス本人ノ姓名ヲ裁判所ノ書記局ニ陳述シ  
且其本人ノ買入ヲ為スヲ承諾シタル旨ヲ陳述ス可シ又然ラサレハ其名代ノ權ヲ任セラレタル證書ヲ差出シ其  
證書ヲ本人ノ姓名陳述書ニ添へ置ク可ク若シ代書師此等ノ手續ヲ為ササル時ハ自カラ買入人タル可キノ言渡ヲ  
受ク可シ但シ此規則ハ第七百一十一條ノ規則ノ差支トナルヲナカル可シ

第七百八條 何人ニ限ラズ買入人ノ附直段ヲ更ニ少クトモ六分一ヲ増シタル價ヲ其買入ノ時ヨリ八日內ニ己レ  
ノ代書師ヲシテ申述ヘシムルヲ得可シ  
第七百九條 買入人ノ附直段ヨリ更ニ高價ヲ附クル者ハ羅賣ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ述マル書  
面ヲ出ス可シ其書面ニハ高價ヲ附クル者代書師ヲ任シタル旨ヲ記ス可ク本人其書面ヲ出シタル上ハ羅賣スル  
ヲ得ス又其書面ハ三日內ニ買入人ノ代書師及ヒ羅賣ノ手續ヲ為シタル債主ノ代書師並ニ負債者ニ代書師アル時

ハ其代書師ニ送達ス可シ但シ負債者ニ代書師ナキ時ハ本人又ハ其住所ニ別段其書面ヲ送達スルニ及ハス 其書  
面ニハ十五日ノ期日ノ終ル後裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キノ要メヲ記ス可ク其他ノ手續ヲ要スルヲナシ 此再々  
ノ羅賣ノ期日ハ第六百九十六條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル所ニ循ヒ之ヲ公告ス可シ 若シ以前ノ買入人ヨ  
リ更ニ高價ヲ附クル者前項ニ記シタル定期内ニ其高價ヲ附クル旨ヲ記シタル書面ヲ前項ノ數人ニ送達セサル時  
ハ羅賣ノ手續ヲ為シタル債主又ハ其他自己ノ書入簿ノ簿冊ニ記入セシメタル債主又ハ負債者同上ノ  
定期ノ終リヨリ三日内ニ更ニ高價ヲ附クル者アリテ其旨ヲ報知スルヲ得可シ若シ此書面送達ノ手續ヲ為ササル時  
ハ買入人ヨリ更ニ高價ヲ附ケタル効ナカル可ク且其効ナキヲ付テハ別ニ裁判所ヨリ言渡ヲ為スニ及ハス  
第七百十條 預定シタル日ニ至リ更ニ再々ノ羅賣ヲ為ス可シ但シ何人ニ限ラズ其羅賣ニ管涉スルヲ得可シ○此羅  
賣ノ時最初ノ買入直段ニ六分一以上ヲ増セシ價ヲ附ケタル者ヨリ更ニ高價ヲ附クル者ナキニ於テハ最初ノ直段  
ニ六分一以上ヲ増セシ價ヲ附ケタル者其買入人タル可シ若シ其者己レノ附ケ直段ノ代金ヲ拂フヲ註ハスシテ更  
ニ羅賣ヲ為スニ至ルアル時ハ其附ケ直段ト更ニ羅賣ヲ為シタル時ノ買入人ノ附ケ直段ト相異ナレハ高價己レ  
ニ相當ス可シ 最初買入直段ヨリ更ニ六分一以上ノ高價ヲ附ケタル者アルニ付テ再々羅賣ヲ為シタル後ハ猶更  
ニ高價ヲ附クル者アリト雖ヒ三次ノ羅賣ヲ為スヲ許サス

第七百十一條 代書師ハ羅賣ノ訴訟ヲ管スル裁判所ノ官賣ノ為メ價ヲ附ケ買入人トナルヲ得ス若シ其買入ヲ為  
スヲアリト雖モ其効ナク且債主等へ損失ノ償ヲ為ス可シ 又代書師ハ負債者ノ為メ又ハ代金ヲ拂フヲ註ハサル  
ノ分明ナル人ノ為メ價ヲ附ケ買入人トナルヲ得ス若シ其買入ヲ為スルノ前項ニ同シク其効ナク且  
債主等へ損失ノ償ヲ為ス可シ 又羅賣ノ手續ヲ為セシ者ノ代書師ハ自カラ買入人トナルヲ得ス若シ買入人ト  
ナルト雖モ其効ナカル可ク且總テノ者ニ對シテ損失ノ償ヲ為ス可シ

第七百十二條 羅賣ノ言渡書トハ第六百九十九條ニ記シタル羅賣箇條書ノ寫ニシテ其言渡書ニハ總テ裁判所言渡書ニ  
記ス可キ前書ト末文ノ語トヲ記シ且負債者ニ此言渡書ヲ受取次第其不効産ヲ買入人ニ引渡ス可ク若シ之ヲ為サ



ルニ於テハ禁鋼ヲ受ク可キ旨ヲ附記ス可シ

第七百十三條 買入人難賣ノ言渡書ヲ得ントスルニハ難賣ノ手續ニ付テノ通常ノ費用ヲ債主ニ拂フテ債主ノ之ヲ  
受取リタル證書ト既ニ難賣ノ箇條書ノ如ク諸事ヲ執行ヒタルノ證書トヲ裁判所ノ書記局ニ出ス可シ○此等ノ證  
書ハ難賣言渡書ノ正本ニ添へ置キ且之ヲ其言渡書ノ寫ノ末ニ寫ス可シ○若シ買入人其買入ノ日ヨリ二十日內ニ  
此等ノ證書ヲ出ササル時ハ其者買入ノ効ヲ失ヒ其者ノ引受ヲ以テ再ヒ難賣ヲ為ス可シ第七百三十三條以下見合セ但シ此規則  
ハ債主等ノ其者ヨリ償ヲ得ル為メニ更ニ他ノ手續ヲ為スハ差支トナルヲナカレ可シ

第七百十四條 難賣ノ手續ニ付テ別段ノ費用ハ其賣拂代金中ヨリ最モ先ニ其償ヲ得ルノ特權アリトス但シ此專ヲ  
為スニハ別段裁判所ノ言渡アルヲ必要ナリトス

第七百十五條 第六百七十三條第六百七十四條第六百七十五條第六百七十六條第六百七十七條第六百七十八條第  
六百九十九條第七百九十一條第七百九十二條第七百九十三條第七百九十四條第七百九十五條第七百九十六條第七百九十七條第七  
百九十八條第七百九十九條第七百條第七百零一條第七百零二條第七百零三條第七百零四條第七百零五條第七百零六條第七百零七條第七百零八條第七百零九條第七百一十條第七百一十一條第七百一十二條第七百一十三條第七百一十四條第七百一十五條第七百一十六條第七百一十七條第七百一十八條第七百一十九條第七百二十條第七百二十一條第七百二十二條第七百二十三條第七百二十四條第七百二十五條第七百二十六條第七百二十七條第七百二十八條第七百二十九條第七百三十條第七百三十一條第七百三十二條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條第七百四十三條第七百四十四條第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條第七百四十八條第七百四十九條第七百五十條第七百五十一條第七百五十二條第七百五十三條第七百五十四條第七百五十五條第七百五十六條第七百五十七條第七百五十八條第七百五十九條第七百六十條第七百六十一條第七百六十二條第七百六十三條第七百六十四條第七百六十五條第七百六十六條第七百六十七條第七百六十八條第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條第七百七十三條第七百七十四條第七百七十五條第七百七十六條第七百七十七條第七百七十八條第七百七十九條第七百八十條第七百八十一條第七百八十二條第七百八十三條第七百八十四條第七百八十五條第七百八十六條第七百八十七條第七百八十八條第七百八十九條第七百九十條第七百九十一條第七百九十二條第七百九十三條第七百九十四條第七百九十五條第七百九十六條第七百九十七條第七百九十八條第七百九十九條第七百條

第七百十六條 難賣ノ言渡書ハ負債者又ハ其住所ノミニ之ヲ送達ス可シ 難賣ニテ不動産ヲ買入タル者ノ求メニ  
因リ曾テ差押ノ旨ヲ書入賣後所ノ簿冊ニ登記シタル端ニ難賣言渡書ヲ略記ス可シ

第七百十七條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム難賣ニテ不動産ヲ買入タル者ハ其不動産ニ付キ以前之  
ノ所有セシ負債者ニ過クル權利ヲ得可カラズ 同上ノ買入人ハ以前負債者ニ不動産ヲ賣リタル者ヨリ其未タ代  
金ヲ受取ラサルニ因リ其賣拂ノ契約ヲ解除セントスルノ訴ヲ受クルヲナカル可シ但シ以前ノ賣主令度其不動産  
ヲ難賣ニ為ス前ニ以前ノ賣主ノ契約ヲ解除セントスル書ヲ裁判所ノ書記局ニ出シ時ハ格別ナリトス 不動

至ノ以前ノ賣主令度其難賣ヲ為ス前ニ其訴ヲ為ス時ハ暫ク難賣ヲ差ハス可ク且裁判所ニテハ難賣ノ手續ヲ為レ  
タル債主又ハ其他自巳ノ客入貨ノ權ヲ後所ノ簿冊ニ記入セシ債主ノ求メニ從ヒ以前ノ賣主其賣拂ノ契約ヲ解除  
セントスル訴ヲ落着セシム可キ期限ヲ定ム可シ 是迄難賣ノ手續ヲ為シタル債主ハ其賣拂ノ契約ヲ解除セント  
スル訴ニ參スルヲ得ヘシ 其賣拂契約ヲ解除セントスル訴訟其定期内ニ落着セサル時ハ其不動産ノ難賣ニ取  
掛ル可シ但シ確證アリテ且重大ナル事故ニ因リ裁判所ヨリ其訴ヲ落着セシメサルニ因リ其不動産ヲ難賣ト為  
ハ格別ナリトス 若シ以前ノ賣主定期内ニ賣拂契約ヲ解除スル訴ヲ落着セシメサルニ因リ其不動産ヲ難賣ト為  
シタル時ハ其賣主以前ノ賣主ヨリ訴訟ヲ受クルヲナカル可シ但シ以前ノ賣主ハ其賣拂ノ證書ヲ以テ證ト為シ難  
賣代金中ヨリ其權利ノ順序ニ從ヒ償ヲ得ントスルヲ得ヘシ 難賣ニテ不動産ヲ買入タル者難賣ノ言渡書ヲ書  
入賣後所ノ簿冊ニ登記セシメタル上ハ其不動産ニ付キ債主等ノ有スル客入貨ノ權ヲ落着セシメタルト為ス可クシテ  
債主等ハ唯其代金ヲ得ントスルヲ得ルヲ得ヘシ○又法律上ニテ書入貨ノ權ヲ有スル債主書入人ノ難賣ノ言渡  
書ヲ後所ノ簿冊ニ登記セシムル前ニ自己ノ書入貨ノ權ヲ後所ノ簿冊ニ記入セシメサル時ハ裁判所ノ言渡ニテ債  
主ノ償ヲ得ヘキ順序ヲ定ムル場合ニ於テハ第七百五十四條ニ記シタル定期内ニ自己ノ證書ヲ差出サレハ他ノ  
債主ヨリ先ニ其難賣代金中ヨリ償ヲ得可キノ特權ヲ失フ可ク又第七百五十一條及第七百五十二條ニ依リ債主  
等協議シテ償ヲ得ヘキ順序ヲ定ムル場合ニ於テハ其順序ノ確定スル前ニ自己ノ證書ヲ差出シテ其權利ヲ辨セサ  
レハ同上ノ特權ヲ失フ可シ



第十三章 不動産差押ニ付キ附帯ノ訴

權大内史採依麟祥 譯

第七百十八條 惣テ不動産差押ノ訴ニ附帯シタル訴ヲ為ス者ハ其證據ト其願言トヲ記シタル招書ヲ已レノ代書師ヨリ相平方代書師ニ送ラシメテ之ヲ為スヘレ○又代書師ヲ任セサル人ニ對シテ此訴ヲ為スニハ第七百二十六條ニ記シタル場合ノ外總テ距離ノ割合ヲ以テ日數ヲ増スヲナク八日內ニ裁判所ニ出席ス可キノ呼出狀ヲ本人ニ送ル可シ但シ此訴ニ付テハ和解ノ法式ヲ為スニ及ハス○此訴ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味レ且之ヲ裁判スヘレ○此訴ノ裁判言渡ハ必ス檢察官ノ申立ヲ聽キタル上ニ非レハ之ヲ為ス可カラズ

第七百十九條 若レ一人ノ負債者ニ屬スル二箇ノ不動産ノ差押ヲ債主二人ニテ同一ノ裁判所ニ訴ヘ其差押ノ調書ヲ後所ノ簿冊ニ登記セシメタル時ハ其債主中ノ一人ヨリ其二箇ノ差押ヲ合同セント訴ヘ其訴ヲ得タル上先ニ差押ヲ為シタル債主其合同シタル差押ノ手續ヲ繼續シテ為スヘレ○然レ其合同ノ訴ハ既ニ釋賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局ニ出シタル後之ヲ為スヲ許サス○若レ二人ノ債主同時ニ差押ノ訴訟ヲ為シ始メタル時ハ其二人ノ債主ノ代書師中ニテ最モ古キ證書ヲ有スル者其合同シタル差押ノ手續ヲ為シ若シ又其證書ノ日附相同キ時ハ先キニ其職ニ任セラレタル代書師其手續ヲ為ス可シ

第七百二十條 第二次ノ不動産差押ノ調書ヲ後所ノ簿冊ニ登記セシムル為メ差出シタル時其差押ノ調書ニ記スル所ノ不動産第一次ノ差押ノ調書ヲ記スル所ノ不動産ヨリ更ニ多分ナルニ於テハ第二次ノ差押ノ調書ニ記スル所ノ中ニテ以前ノ差押ヨリ更ニ多分ナル不動産ノミヲ差押ユル旨ヲ後所ノ簿冊ニ登記シ第二次ノ差押ヲ為ス債主ヨリ其由ヲ第一次ノ差押ヲ為シタル債主ニ報告シ其二箇ノ差押既ニ同一ノ訴訟手續ニ至リレ時ハ第一次ノ差押ヲ為シタル債主其二箇ノ差押ヲ合同シテ手續ヲ繼續スヘレ若シ又其二箇ノ差押ホタ同一ノ訴訟手續ニ至ラサル時ハ第一次ノ差押ノ手續ヲ暫ク延引シ第二次ノ差押ヲ之ト同一ノ手續ニ至ラシメタル上ニテ第一次ノ差押ト合同

レテ其訴訟手續ヲ繼續ス可シ

第七百二十一條 前條ノ場合ニ於テ第一次ノ差押ヲ為シタル債主第二次ノ差押ヲ為シタルノ報告ヲ得テ猶其二箇ノ差押ヲ合同シテ手續ヲ繼續スルコトヲ為サ、ル時ハ第二次ノ差押ヲ為シタル債主ノ代書師ヨリ第一次ノ差押ヲ為シタル債主ノ代書師ニ招書ヲ送り第一次ノ債主ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續セシムルコトヲ得可シ

第七百二十二條 又第一次ノ債主密カニ負債者ト謀リテ不正ノ處置ヲ為シ又ハ詭欺ヲ行ヒ又ハ懈怠シタル時ハ第二次ノ債主之ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續セシムルコトヲ得ヘレ但シ第一次ノ債主密カニ負債者ト謀リテ不正ヲ行ヒ又ハ詭欺ヲ為シタル時ハ第二次ノ債主ニ相當ノ損失償ヲ為スヘレ 第一次ノ債主訴訟ノ法式ヲ為サス又ハ定期內ニ其手續ノ書類ヲ記マサル時ハ之ヲ懈怠ナリトス

第七百二十三條 第二次ノ差押ヲ為ス債主第一次ノ差押ヲ為ス債主ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續セント訴ヘ其訴訟トナル時ハ其訴訟ノ費用ヲ自カラ擔當ス可キ言渡ヲ受ク可シ 第二次ノ差押ヲ為ス債主第一次ノ差押ヲ為ス債主ニ代テ差押ノ手續ヲ繼續ス可キ言渡ヲ得タル時ハ第一次ノ債主其手續ヲ為スニ必要ナル證書類ヲ第二次ノ債主ニ渡シ其受取書ヲ取り置クヘレ但シ第一次ノ債主ハ不動産釋賣ノ後ニ非レハ代金中ヨリ其訴訟ヲ為シタル費用ノ償ヲ得可カラズ又其後ニ非レハ買入人ヨリ其費用ノ償ヲ得ヘカラス

第七百二十四條 若レ一人ノ債主ノ調書ノ記入ヲ後所ノ簿冊ヨリ塗抹シテ之ヲ取消シタル時ハ他ノ債主等其差押ノ調書ヲ後所ノ簿冊ニ登記シタル順序ヲ問ハズ其中ニテ最モ先キニ手續ヲ為ス債主其差押ノ手續ヲ為スコトヲ得

第七百二十五條 債主負債者ノ財産ナリトシテ差押ヘタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ他人已ノ財産ナリトシテ其差押ヲ免レシメントスルノ訴ハ差押ヲ為シタル債主ト負債者トニ對シテ之ヲ為ス可ク且債主中最初ニ其書入費ノ權ヲ後所ノ簿冊ニ記入セシメタル者ニ對シテ其訴ヲ為シ又ハ其者ノ別後釋ミタル住所其訴ヲ為ス旨ヲ報告ス可シ 若シ負債者別後代書師ヲ任セサル時ハ其住所ト裁判所所在ノ地トノ間五ミリヤメートル毎ニ其出席ノ日數ニ一



日ノ猶豫ヲ増スヘレ但レ佛蘭西本國外ニ在ル者ニ付キ別ニ其猶豫ノ期限ヲ増スナカレ可シ

第七百二十六條 前條ニ記シタル訴ノ書面ニハ其訴ヲ為スノ憑據タル證書ノ大略ヲ附記シ且其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シタル旨ヲ記シタル書面ノ文ヲ附記ス可シ

第七百二十七條 若シ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ノミニ付キ他人同上ノ訴ヲ為シタル時ハ其訴ニ管ヒス其他ノ部分ノ釋賣ニ取掛ル可シ○然レ裁判所ニテ其差押ニ管ヒアル者ノ求ニ從ヒ其差押ヘタル財産ノ全部ノ釋賣ヲ暫ク猶豫スルノ訴ヲ為スコトヲ得可シ 裁判所ノ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ニ付キ他人ノ訴ニ從ヒ其差押ヲ免スルノ言渡ヲ為シタル時ハ是迄釋賣ノ手續ヲ為シタル債主釋賣ノ箇條書ニ記シタル附ケ直段ヲ變スルコトヲ得ヘシ

第七百二十八條 不動産釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為ス以前為シタル訴訟ノ手續ノ本案又ハ法式ニ付キ其手續ヲ取消サントスル憑據ハ其箇條書ヲ公ケニ為スヨリ遑クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出スヘシ 裁判所ニテ其取消訴ノ如ク允許レタル時ハ其効ヲ失ハサル最終ノ手續ヨリ以後ノ手續ヲ更ニ全ク為シ改ム可シ但レ以後手續ヲ為シ改ムル期限ハ取消ヲ言渡シタル確定ノ裁判ノ日ヨリ之ヲ算フヘシ 若シ又裁判所ニテ同上ノ取消ノ訴ヲ却還シタル時ハ之ヲ却還スル言渡書ヲ以テ第六百九十五條ニ依リ釋賣ノ箇條書ヲ讀上ケ且公ケニ為スノ書面ヲ與フヘシ

第七百二十九條 不動産釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタル後ノ訴訟ノ手續ヲ取消サントスル憑據ハ釋賣ヨリ遑クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出スヘシ 釋賣ヲ為ス為メ預定シタル日ニ至リ釋賣ニ取掛ル前ニ同上ノ取消ノ憑據ヲ裁判所ニ裁判所ニテ其取消ノ訴ノ如ク允許シタル時ハ釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタルノ言渡ヨリ後ノ訴訟ノ手續ヲ取消ト為シ其言渡ヨリ後ノ手續ヲ更ニ全ク為シ改ムヘキコトヲ言渡シ且釋賣ノ期日ヲ改ムヘシ 若シ又裁判所ニテ全上ノ取消ノ訴ヲ却還シタル時ハ更ニ釋賣ニ取掛ルヘシ

第七百三十條 元ノ裁判言渡ハ控訴スルコトヲ許サス  
第一 一人ノ債主ノ為メ差押ノ手續ニ付キ他ノ債主之ニ代ラントスルノ訴ヲ裁判シタル言渡 但レ是迄

訴訟法 第六十三

差押ノ手續ヲ為シタル債主密カニ負債者ト謀リテ不正ノ處置ヲ為シ又ハ詭偽ヲ行フタルニ因リ他ノ債主之ニ代ラント訴ヘタル時ハ格別ナリトス

第二 不動産差押ニ付キ附帶ノ訴ヲ別段裁判スルコトヲク唯釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為スノ書面ヲ與フル言渡又ハ再度ノ釋賣ノ前後ヲ問ハス釋賣ノ言渡

第三 釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタル後ノ手續ヲ取消サントスル訴ヲ裁判シタル言渡

第七百三十一條 總テ前條ニ記シタル以外ノ言渡ヲ控訴ス可キ期限ハ代書師其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内トス又代書師ナキ時ハ本人ノ真ノ住所又ハ別段擇ミタル住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内トス若シ此定期限ヲ過タル時ハ其控訴ノ効ナカレ可シ 第七百二十五條ニ記シタル訴ノ裁判言渡ヲ控訴スル時ハ同上ニ依リヤメートル毎ニ控訴ノ定期ニ一日ヲ増ス可シ 控訴ヲ為シタル時ハ控訴院ニテ之ヲ十五日内ニ裁判ス可シ○控訴ノ時一方ノ者抗辯シテ更ニ受ゲタル裁判言渡ハ故障ヲ述ルコトヲ許サス

第七百三十二條 控訴ヲ為ス書フ之ヲ相手方代書師ノ住所ニ送達シ若シ代書師ナキ時ハ相手方本人ノ真ノ住所又ハ其別段擇ミタル住所ニ送達シ且同時ニ初告裁判所ノ書記官ニ送達シテ書記官之ニ捺印ス可シ 負債者ハ控訴院ノ吟味ノ席ニテ既ニ初告裁判所ニ申述ヘタルヨリ更ニ他ノ憑據ヲ述フ可カラズ 控訴ヲ為ス書ニハ其控訴ヲ為スノ趣意ヲ記ス可シ 此條ニ記スル法式ヲ行ハサル時ハ控訴ノ効ナカレ可シ

第七百三十三條 若シ釋賣ノ不動産買入レタル者釋賣ノ箇條ノ如ク執行ハサル時ハ其買主ノ引受  
第七百三十四條 若シ釋賣ノ言渡書ヲ以テ以前ニ買入人引受ヲ以再ヒ釋賣ヲ為ス可キノ訴ヲ為ス者アル時ハ其訴ヲ為ス者其買入人釋賣ノ箇條ヲ行ハサル旨ノ受合書ヲ裁判所ノ書記官ヨリ受取ル可シ 若シ其買入人裁判所ノ書記官ヨリ同上ノ訴人ニ其受合書ヲ渡サントスルコトニ付キ故障ヲ述ル時ハ一方ノ者ノ求メニ從ヒ裁判所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ



第七百三十五條 此書記官ノ受合書ノミヲ以テ證ト爲シ別ニ其他ノ手續又ハ裁判ヲ要スルコトナク以前ニ等シキ諸件ヲ記シタル貼附ヲ爲シ且新聞紙ニ記入ヲ爲ス可シ又釋賣ノ言渡書ヲ渡シタル後ニ買入人ノ引受ヲ以テ更ニ釋賣ヲ爲ス可キノ許ヲ爲ス者アル時ハ債主ノ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書面ト要決ノ書トヲ其買入人ニ送達シタルヨリ三日ノ後ニ同上ノ貼附及ヒ記入ヲ爲ス可シ又其貼附書及ヒ新聞紙ノ記入ニハ是迄ノ買入人ノ姓名居所其買入ヲ爲サントシタルニ付テノ附ケ直段サラニ釋賣ノ手續ヲ爲ス者ノ附ケ直段以前ノ箇條書ニ箇ヒ更ニ釋賣ノ爲ス可キ定日等ノ諸件ヲ附記ス可シ更ニ貼附及ヒ新聞紙ノ記入ヲ爲ス日ト更ニ釋賣ヲ爲ス日トノ間ニ少クトモ十五日多クトモ三十日ノ日數ヲ隔ツ可シ

第七百三十六條 更釋賣ヲ爲スヨリ遅クトモ十五日期ニ是迄ノ買入人ノ代書師ニ更ニ釋賣ヲ爲ス日刻ヲ報告シ且負債者ノ代書師ノ住所ニ同様ノ報告ヲ爲シ若シ又負債者ニ代書師ナキ時ハ其本人ノ住所ニ其報告ヲ爲ス可シ第七百三十七條 更ニ爲ス所ノ釋賣ハ第七百三十三條ニ箇ヒ之ヲ延ハスコトヲ得可シ但シ之ヲ延ハスニハ其釋賣ノ手續ヲ爲ス者ヨリ之ヲ許ルコトヲ必要トス

第七百三十八條 若シ是迄ノ買入人釋賣ノ箇條ノ如ク執行ヲ可キノ證ト更ニ爲ス所ノ釋賣ノ費用トシテ裁判所上席人ノ定メタル金高ヲ官署ニ預ケタルノ證トヲ立ル時ハ更ニ爲ス所ノ釋賣ニ取掛ル可カラズ

第七百三十九條 第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條ニ記列シタル法式及ヒ定期必ス之ニ循フ可シ若シ之ニ背ク時ハ其各條ニ記シタル諸件ノ効ナカル可シ更ニ爲ス所ノ釋賣ノ手續ヲ取消サントスル憑據ハ第七百二十九條ニ記シタル如ク之ヲ許出シ且之ヲ裁判ス可シ更ニ釋賣ノ手續ヲ爲ス時一方ノ者ノ抗辯シテ受テタル裁判言渡ハ故障ヲ述フ可カラズ又其手續ヲ取消サントスル憑據ノ裁判言渡ハ第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ記シタル法式ニ箇ヒ其定期内ニ控訴ヲ爲スヲ得可シト雖モ其他ノ裁判言渡ハ控訴ヲ爲ス可カラズ更ニ爲ス所ノ釋賣ハ第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第七百十條ノ規則ヲ通シ用ユ可シ第七百四十條 是迄ノ買入人ハ其附ケ直段ト更ニ爲ス所ノ釋賣ニテ得ル所ノ代金トノ差ヲ必ス償フ可ク若シ之リ

償ハサル時ハ禁錮ヲ受ク可シ但シ其附ケ直段ヨリ更ニ多分ノ代金ヲ得タル時ト雖モ是迄ノ買入人ハ其餘分ヲ已レノ所得ト爲スコトヲ得ス其餘分ハ之ヲ債主ニ屬ス可ク若シ債主皆既ニ其償ヲ得タル時ハ之ヲ負債者ニ屬ス可シ第七百四十一條 若シ附帶ノ許ニ因リ又ハ其他相當ノ事故アルニ因リ更ニ爲ス所ノ釋賣ヲ延ハシタル時ハ第七百四十二條ニ期シタル定期内ニ更ニ貼附ヲ爲シ且新聞紙ニ記入ス可シ第七百四十二條 若シ負債者其契約ノ如ク執行ハサルニ於テハ債主不動産差押爲メ別段定リタル法式ヲ行ハスニテ其負債者ノ不動産ヲ賣却フ可キ旨ヲ其債主ト負債者ト間ニ約定ヲ爲シ置キタルト雖モ此ノ如キ約定ハ其効ナカル可シ

第七百四十三條 自己ノ財産ヲ隨意ニ取扱フコトヲ得可キ丁年者ノ不動産ヲ相對ヲ以テ賣却フ時ハ之ヲ裁判所ニテ釋賣ト爲ス可カラズ若シ裁判所ニテ之ヲ釋賣ト爲スト雖モ其効ナカル可シ又既ニ不動産ヲ差押ヘ且差押ノ謂書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル時其差押ニ管係アル者皆自己ノ財産ヲ隨意ニ爲スコトヲ得可キ丁年者ナルニ於テハ幼者ノ不動産賣却ニ付キ第九百五十八條第九百五十九條第九百六十條第九百六十一條第九百六十二條第九百六十四條第九百六十五條ニ記シタル法式ヲ証書人ノ面前又ハ裁判所ニテ其差押ヘタル不動産釋賣ト爲サント許フルコトヲ得可シ其差押ニ管係アル者トハ第六百九十二條ニ記シタル如ク債主ニ拍賣ヲ送達スル前ハ差押ノ手續ヲ爲シタル債主ト負債者ト自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等トヲ指シ言フ 相連接シタル不動産ノ一部分ノミヲ差押ヘタル時ハ負債者其餘ノ部分モ亦共ニ釋賣ト爲ス可キノ許フルコトヲ得可シ

第七百四十四條 親族會議ノ許諾ヲ別段得タル後見人如キ又ハ遺産ノ管財人ノ補佐ヲ受ケタル既ニ後見ヲ免レシ幼者其他法律上テ人ノ財産ヲ支配可キ者 此等ノ者ハ前條第二項ニ記シタル許ヲ爲シ並其許ニ參スルコトヲ得可シ第七百四十五條 第七百四十三條ノ第二項及ヒ第七百四十四條ニ記シタル許ヲ爲サントスルニハ差押ノ許認ヲ管



日ノ猶豫ヲ増スヘシ但シ佛蘭西本國外ニ在ル者ニ付キ別ニ其猶豫ノ期限ヲ増スナカレ可シ

第七百二十六條 前條ニ記シタル訴ノ書面ニハ其訴ヲ為スノ憑據タル證書ノ大略ヲ附記シ且其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シタル旨ヲ記シタル書面ノ欠ヲ附記ス可シ

第七百二十七條 若シ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ノミニ付キ他人同上ノ訴ヲ為シタル時ハ其訴ニ管ヒス其他ノ部分ノ釋賣ニ取掛ル可シ○然レ裁判所ニテ其差押ニ管ヒアル者ノ求ニ從ヒ其差押ヘタル財産ノ全部ノ釋賣ヲ管ク猶豫スルノ訴ヲ為スヲ得可シ 裁判所ニテ債主ノ差押ヘタル財産ノ一部ニ付キ他人ノ訴ニ從ヒ其差押ヲ免スルノ言渡ヲ為シタル時ハ是迄釋賣ノ手續ヲ為シタル債主釋賣ノ箇條書ニ記シタル附ケ直接ヲ變スルヲ得ヘシ

第七百二十八條 不動産釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為ス以前ニ為シタル訴訟ノ手續ノ本案又ハ法式ニ付キ其手續ヲ取消サントスル憑據ハ其箇條書ヲ公ケニ為スヨリ遑クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出スヘシ 裁判所ニテ其取消訴ノ如ク允許レタル時ハ其効ヲ失ハサル最終ノ手續ヨリ以後ノ手續ヲ更ニ全ク為シ改ム可シ但シ以後手續ヲ為シ改ムル期限ハ取消言渡シタル確定ノ裁判ノ日ヨリ之ヲ算フヘシ 若シ又裁判所ニテ同上ノ取消ノ訴ヲ却達シタル時ハ之ヲ却達スル言渡書ヲ以テ第六百九十五條ニ依リ釋賣ノ箇條書ヲ讀上ケ且公ケニ為スノ書面ヲ與フヘシ

第七百二十九條 不動産釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタル後ノ訴訟ノ手續ヲ取消サントスル憑據ハ釋賣ヨリ遑クトモ三日前ニ必ス之ヲ訴出スヘシ 釋賣ヲ為ス為メ預定シタル日ニ至リ釋賣ニ取掛ル前ニ同上ノ取消ノ憑據ヲ裁判所ニ裁判所ニテ其取消ノ訴ノ如ク允許シタル時ハ釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタルノ言渡ヨリ後ノ訴訟ノ手續ヲ取消ト為シ其言渡ヨリ後ノ手續ヲ更ニ全ク為シ改ムヘキヲ言渡シ且釋賣ノ期日ヲ改ムヘシ 若シ又裁判所ニテ全上ノ取消ノ訴ヲ却達シタル時ハ更ニ釋賣ニ取掛ルヘシ

第七百三十條 元ノ裁判言渡ハ控訴スルヲ許サス  
第一 一人ノ債主ノ為メ差押ノ手續ニ付キ他ノ債主之ニ代ラントスルノ訴ヲ裁判シタル言渡 但シ是迄

調約法 六十三

差押ノ手續ヲ為シタル債主密カニ負債者ト謀リテ不正ノ處置ヲ為シ又ハ詭偽ヲ行フタルニ因リ他ノ債主之ニ代ラント訴ヘタル時ハ格別ナリトス

第二 不動産差押ニ付キ附帶ノ訴ヲ別段裁判スルヲナク唯釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為スノ書面ヲ與フル言渡又ハ再度ノ釋賣ノ前後ヲ問ハス釋賣ノ言渡

第三 釋賣ノ箇條書ヲ公ケニ為シタル後ノ手續ヲ取消サントスル訴ヲ裁判シタル言渡  
第七百三十一條 總テ前條ニ記シタル以外ノ言渡ヲ控訴ス可キ期限ハ代書師其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日

内トス又代書師ナキ時ハ本人ノ真ノ住所又ハ別段擇ミタル住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内トス若シ此定期限ヲ過タル時ハ其控訴ノ効ナカレ可シ 第七百二十五條ニ記シタル訴ノ裁判言渡ヲ控訴スル時ハ同上ニ依リリヤメートル毎ニ控訴ノ定期ニ一日ヲ増ス可シ 控訴ヲ為シタル時ハ控訴院ニテ之ヲ十五日内ニ裁判ス可シ○控訴ノ時一方ノ者抗辯シテ更ニ受テタル裁判言渡ハ故障ヲ述ルヲ許サス

第七百三十二條 控訴ヲ為ス書ヲ之ヲ相手方代書師ノ住所ニ送達シ若シ代書師ナキ時ハ相手方本人ノ真ノ住所又ハ其別段擇ミタル住所ニ送達シ且同時ニ初告裁判所ノ書記官ニ送達シテ書記官之ニ捺印ス可シ 負債者ハ控訴院ノ吟味ノ席ニテ既ニ初告裁判所ニ申述ヘタルヨリ更ニ他ノ憑據ヲ述フ可カラズ 控訴ヲ為ス書ニハ其控訴ヲ為スノ趣意ヲ記ス可シ 此條ニ記スル法式ヲ行ハサル時ハ控訴ノ効ナカレ可シ

第七百三十三條 若シ釋賣ノ不動産買入シタル者釋賣ノ箇條ノ如ク執行ハサル時ハ其買主ノ引受  
第七百三十四條 若シ釋賣ノ言渡書ヲ渡ス以前ニ買入人引受ヲ以再ヒ釋賣ヲ為ス可キノ訴ヲ為ス者アル時ハ其訴

ヲ為ス者其買入人釋賣ノ箇條ヲ行ハサル旨ノ受合書ヲ裁判所ノ書記官ヨリ受取ル可シ 若シ其買入人裁判所ノ書記官ヨリ同上ノ訴人ニ其受合書ヲ渡サントスルヲ付キ故障ヲ述ル時ハ一方ノ者ノ求メニ從ヒ裁判所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ



第七百三十五條 此登記官ノ受合書ノミヲ以テ證據ト爲シ別ニ其他ノ手續又ハ裁判ヲ要スルコトナク以前ニ等シキ諸件ヲ記シタル貼附ヲ爲シ且新聞紙ニ記入ヲ爲ス可シ又羅賣ノ旨渡書ヲ渡シタル後ニ買入人ノ引受ヲ以テ更ニ羅賣ヲ爲ス可キノ訴ヲ爲ス者アル時ハ債主ノ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書面ト要決ノ書トヲ其買入人ニ送達シタルヨリ三日ノ後ニ同上ノ貼附及ヒ記入ヲ爲ス可シ又其貼附書及ヒ新聞紙ノ記入ニハ是迄ノ買入人ノ姓名居所其買入ヲ爲サントシタルニ付テノ附ケ直段サラニ羅賣ノ手續ヲ爲ス者ノ附ケ直段以前ノ箇條書ニ備ヒ更ニ羅賣ノ爲ス可キ定日等ノ諸件ヲ附記ス可シ更ニ貼附及ヒ新聞紙ノ記入ヲ爲ス日ト更ニ羅賣ヲ爲ス日トノ間ニ少クトモ十五日多クトモ三十日ノ日數ヲ隔ツ可シ

第七百三十六條 更羅賣ヲ爲スヨリ遅クトモ十五日前ニ是迄ノ買入人ノ代書師ニ更ニ羅賣ヲ爲ス日刺ヲ報告シ且負債者ノ代書師ノ住所ニ同様ノ報告ヲ爲シ若シ又負債者ニ代書師ナキ時ハ其本人ノ住所ニ其報告ヲ爲ス可シ

第七百三十七條 更ニ爲ス所ノ羅賣ハ第七百三十三條ニ備ヒ之ヲ延ハスコトヲ得可シ但シ之ヲ延ハスニハ其羅賣ノ手續ヲ爲ス者ヨリ之ヲ許ルコトヲ必要トス

第七百三十八條 若シ是迄ノ買入人羅賣ノ箇條ノ如ク執行フ可キノ證據ト更ニ爲ス所ノ羅賣ノ費用トシテ裁判所上庸人ノ定メタル金高ヲ官署ニ預ケタルノ證據ト立ル時ハ更ニ爲ス所ノ羅賣ニ取掛ル可カラス

第七百三十九條 第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條ニ記列シタル法式及ヒ定期必ス之ニ循フ可シ若シ之ニ背ク時ハ其各條ニ記シタル諸件ノ効ナカル可シ更ニ爲ス所ノ羅賣ノ手續ヲ取消サントスル證據ハ第七百二十九條ニ記シタル如ク之ヲ許出シ且之ヲ裁判ス可シ更ニ羅賣ノ手續ヲ爲ス時一方ノ者ノ抗擧シテ受テタル裁判言渡ハ故障ヲ述フ可カラズ又其手續ヲ取消サントスル證據ノ裁判言渡ハ第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ記シタル法式ニ循ヒ其定期内ニ控訴ヲ爲スヲ得可シト雖モ其他ノ裁判言渡ハ控訴ヲ爲ス可カラズ更ニ爲ス所ノ羅賣ハ第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條ノ規則ヲ通シ用ユ可シ

第七百四十條 是迄ノ買入人ハ其附ケ直段ト更ニ爲ス所ノ羅賣ニテ得ル所ノ代金トノ差ヲ必ス償フ可ク若シ之リ

償ハサル時ハ禁錮ヲ受ク可シ但シ其附ケ直段ヨリ更ニ多分ノ代金ヲ得タル時ト雖モ是迄ノ買入人ハ其餘分ヲ已レノ所得ト爲スコトヲ得ス其餘分ハ之ヲ債主ニ屬ス可ク若シ債主皆既ニ其償ヲ得タル時ハ之ヲ負債者ニ屬ス可シ

第七百四十一條 若シ附帶ノ訴ニ因リ又ハ其他相當ノ事故アルニ因リ更ニ爲ス所ノ羅賣ヲ延ハシタル時ハ第七百四十二條ニ期シタル定期内ニ更ニ貼附ヲ爲シ且新聞紙ニ記入ス可シ

第七百四十二條 若シ負債者其契約ノ如ク執行ハサルニ於テハ債主不動産差押爲メ別段定リタル法式ヲ行ハスシテ其負債者ノ不動産ヲ賣拂フ可キ旨ヲ其債主ト負債者ト間ニ約定ヲ爲シ置キタルト雖モ此ノ如キ約定ハ其効ナカル可シ

第七百四十三條 自己ノ財産ヲ隨意ニ取扱フコトヲ得可キ丁年者ノ不動産ヲ相對テ以テ賣拂フ時ハ之ヲ裁判所ニテ羅賣ト爲ス可カラズ若シ裁判所ニテ之ヲ羅賣ト爲スト雖モ其効ナカル可シ又既ニ不動産ヲ差押ヘ且差押ノ調書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル時其差押ニ管係アル者皆自己ノ財産ヲ隨意ニ爲スコトヲ得可キ丁年者ナルニ於テハ幼者ノ不動産賣拂ニ付キ第九百五十八條第九百五十九條第九百六十條第九百六十一條第九百六十二條第九百六十四條第九百六十五條ニ記シタル法式ヲタテ証書人ノ面前又ハ裁判所ニテ其差押ヘタル不動産羅賣ト爲サント爲フルコトヲ得可シ其差押ニ管係アル者トハ第六百九十二條ニ記シタル如ク債主ニ拍賣ヲ送達スル前ハ差押ノ手續ヲ爲シタル債主ト負債者ト自己ノ書入債ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等トヲ指シ言フ相連接シタル不動産ノ一部分ノミヲ差押ヘタル時ハ負債者其餘ノ部分モ亦共ニ羅賣ト爲ス可キ旨ヲ許フルヲ得可シ

第七百四十四條 親族會議ノ許諾ヲ別段得タル後見人幼者又ハ法廷ノ禁ヲ受ケテ人ノ補佐ヲ受ケタル既ニ後見ヲ免レシ幼者其他法律上テ人ノ財産ヲ支配可キ者此等ノ者ハ前條第二項ニ記シタル訴ヲ爲シ並其許ニ參スルコトヲ得可シ

第七百四十五條 第七百四十三條ノ第二項及ヒ第七百四十四條ニ記シタル訴ヲ爲サントスルニハ差押ノ訴訟ヲ管



轉スル裁判所ニ願書ヲ差出ス可シ其願書ハ訴ヲ為ス數人ノ代書師皆之ニ姓名ヲ手署ス可シ 其願書ニハ債主ノ附テ直段ヲ附記ス可シ但シ其附テ直段ハ評價ノ用ヲ為ス可シ

第七百四十六條 同上ノ訴ノ裁判ハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ求ムル所トヲ聽キタル上ニテ之ヲ為ス可シ  
裁判所ニテ同上ノ訴ノ如ク名訴スル時ハ其願書ノ期日ヲ定メ証書人ノ面詰又ハ其裁判所ノ裁判役ノ面詰又ハ他ノ裁判所ノ裁判役ノ面詰ニテ願書ヲ為ス可キコトヲ言渡ス可シ其裁判言渡書ハ之ヲ負債者ニ送達スルニ及ハス又其言渡ニ付テ故障ヲ述ベ又ハ控訴ヲ為ス可キコトヲ許サス

第七百四十七條 若シ同上ノ裁判言渡ノ後ニ之ニ管保アル本人ノ死去シ又ハ家資分散ヲ為シタルニ因リ又ハ其他ノ事ニ因リ其身分ノ變スルコトアル時又ハ其管保アル本人ノ幼者又ハ遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル遺物相續人又ハ其他自己ノ財産ヲ隨意ニ為ス可キ能ハサル者タル時ト雖モ其裁判言渡ノ効ヲ失フコト大ナル可シ

第七百四十八條 同上ノ裁判言渡ヨリ八日內ニ管保差押ノ手續ヲ為シタル債主ノ求メニ從ヒ差押ノ調書ヲ書入質役所ノ簿冊ニ登記シ置キタル地ニ其言渡ノ簡略ニ附記ス可シ同上ノ言渡ノ場合ニ於テ第六百八十二條ニ記シタル如ク差押ヘタル不動産ノ利益ハ屬之ヲ差押ヘ置タ可但此規則ヲ以テ管保差押ノ手續ヲ為シタル債主第六百八十五條ニ記スル所ニ循ヒ土地又ハ家屋ノ借賃ヲ差押フルノ權ヲ害ス可カラズ 又同上ノ場合ニ於テ第六百八十六條ニ記シタル賣拂ノ禁制ノ如ク執行ヲ可シ

○第十四章 負債者ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣買ト為シテ得タル代金ヲ債主數人ニ分派スル順序  
第七百四十九條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ別段ニ事務ノ多端ナル裁判所ニ於テハ債主數人ノ排方ヲ得ル順序ヲ定ムル爲メ皇帝勅命ヲ以テ別ニ任リ受ケタル裁判役一人又ハ數人ヲ定メ置ク可シ○其掛リ裁判役ハ裁判役ノ補佐中ヨリ之ヲ選ミ少クトモ一年間多クモ三年間之ヲ任シ置ク可シ 其掛リ裁判役ノ不在ナル時又ハ事故アリテ差支アル時ハ裁判所ノ上席人ノ二代ル可キ他ノ裁判役ヲ任シ其旨ヲ別段書記局ニ設ケタル簿冊ニ記入ス可シ○皇帝ノ勅命書ヲ以テ任セラレタル掛リ裁判役又ハ上席人ヨリ任セラレタル掛リ裁判役ハ其裁

判所又ハ控訴院ノ上席人又ハ檢察長ノ受メニ從ヒ其定ム可キ任ヲ受ケシ債主ノ順序ノ目錄書ヲ差出ス可シ

第七百五十條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ別段ニ事務ノ多端ナル裁判所ニ於テハ債主數人ノ排方ヲ得ル順序ヲ定ムル爲メ皇帝勅命ヲ以テ別ニ任リ受ケタル裁判役一人又ハ數人ヲ定メ置ク可シ○其掛リ裁判役ハ裁判役ノ補佐中ヨリ之ヲ選ミ少クトモ一年間多クモ三年間之ヲ任シ置ク可シ 其掛リ裁判役ノ不在ナル時又ハ事故アリテ差支アル時ハ裁判所ノ上席人ノ二代ル可キ他ノ裁判役ヲ任シ其旨ヲ別段書記局ニ設ケタル簿冊ニ記入ス可シ○皇帝ノ勅命書ヲ以テ任セラレタル掛リ裁判役又ハ上席人ヨリ任セラレタル掛リ裁判役ハ其裁  
其買主定期内ニ此手續ヲ為サル時ハ其者ノ引受ケテ以テ其不動産ヲ再ヒ賣買ス可シ 其登記ヨリ後八日內ニ從前不動産差押手續ヲ為シタル債主數人共書入質ノ權ヲ後所ノ簿冊ニ記入セシメタル其目錄ヲ裁判所ノ書記局ニ出シ裁判所ニテ債主數人ノ債ヲ得可キ順序ノ調書ニ取掛ル可キ旨ヲ求メヨリ時宜ニ因リ別段掛リ裁判役ヲ任ス可キ旨ヲモ亦求ム可シ但シ從前不動産差押ノ手續ヲ為シタル債主同上ノ八日ノ期限内ニ此等ノ諸事ヲ求メザル時ハ其他ノ債主又ハ負債者又ハ難ニテ不動産ヲ買入レシ者ヨリ此等ノ諸事ヲ求ムルコトヲ得可シ  
時宜ニ因リ掛リ裁判役ヲ任ス可キ旨ヲ求メテ為ス者ハ裁判所ノ書記局ニ別段設ケ置キタル簿冊ニ其求ノ旨ヲ記入  
コシ上ニテ裁判所ノ上席人掛リ裁判役ノ任シタル旨其次ニ附記ス可シ

第七百五十一條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ前條ニ記シタル求メニ因リ別段任セラレタル掛リ裁判役ハ其任ヲ受ケタルヨリ八日內ニ又元兼任ヲ受ケタル掛リ裁判役ハ其求メヲ受ケタルヨリ三日內ニ管保自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等ヲ呼聚シ難賣ニテ得タル代金ヲ協議ノ上分派ノ順序ヲ定メシム可シ 其債主等ヲ呼聚ムルニハ裁判所ノ書記官裁判役ノ書翰ヲ郵便ニ托シ其債主等ノ佛蘭西國內ニ在ル真ノ住所ト共別段掛リタル住所トニ送ル可シ但シ其費用ハ前條ノ求メテ為ス者之ヲ出シ置ク可シ 差押ヲ受ケタル負債者及ヒ難ニテ不動産ヲ買入レタル者モ亦書翰ヲ以テ其叫出ヲ受ク可シ 叫出シノ書翰ノ達セシ日ト集會ノ日トノ間ニ少クトモ十日ノ期限ヲ隔ツ可シ 債主等協議シテ代金分配ノ順序ヲ定ムル時ハ裁判役共旨ヲ調書ニ記シテ其分配ヲ得可キ債主等ニ買入人ヨリ代金ヲ受取ル可キ書面ヲ渡スコトヲ言渡シ又其分配ヲ得可カラサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キコトヲ言渡シ可シ 其書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルニハ書記官ヨリ渡シタル裁判



役ノ言渡書ノ抜書ヲ書入貨役可ニ出ス可シ 集會ノ席ニ出テナル債主ハ二十五アラシメテ罰金ヲ言渡セル可シ  
第七百五十二條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ債主等一月内ニ協議セル時ハ裁判役共旨ヲ調書ニ記  
シ且出席ヲ為サ、ル債主ニ罰金ヲ言渡ス可シ○又裁判役ハ債主等ノ債ヲ得可順序ヲ定ムルコトヲ今ヨリ為シ始ム  
ル可キ旨ヲ言渡シ債主等ニ各共該書類ヲ差出サシムルノ呼出ヲ為スル別段使吏一人又ハ數人ヲ任シ共旨ヲ調  
書ニ記ス可シ但シ調書ノ中此事ヲ記シタル部分ハ別段之ヲ寫シ取リ又ハ債主等ニ送達スルニ及ハス

第七百五十三條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ債主ノ債ヲ得可順序ヲ定ムルコトヲ為シ始メタル時  
ヨリ八日内ニ債主等ノ別段擇ミタル任所又債主代書師ヲ任シタル時ハ其代書師ノ任所ニ各共該書類ヲ差出ス可  
キノ呼出狀ヲ送達シ且ツ差押ヲ受ケタル不動産ヲ賣テ賣拂ヒ尚其代金ヲ受取ラサル賣主アリテ共者別段所ヲ擇  
ムコトナク又ハ代書師ヲ任シタルノキ時ハ佛蘭西國內ニ在ル其真ノ任所ニ同上ノ呼出狀ヲ送達ス可シ 其呼出  
狀ニハ若シ債主四十日内ニ其證書ヲ差出サ、ル時ハ其債ヲ得可キノ權ヲ失フ可ト旨ヲ附記ス可シ 又羅ニテ不  
動産ヲ買入レタル者ノ代書師ニ債主等ノ債ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ヲ始マリシ旨ヲ告知ス可シ○若シ羅ニテ買  
入レタル者數人アル時ハ其數人ノ各代人タル代書師一人ヲ定メ其代書師ニ同上ノ告知ヲ為ス可シ 其呼出ノ手  
續ヲ為ス者債主等數人ニ其呼出狀ヲ送達シタル日ヨリ八日内ニ其呼出狀ノ正本ヲ裁判役ニ渡シ裁判役共呼出狀  
ヲ調書ニ附記ス可シ

第七百五十四條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ前條ノ呼出ヲ受ケタルヨリ四十日内ニ債主等各自  
ノ證書ヲ差出シ且其證書ヲ出シタル旨ヲ記シタル書面ニ其代書師ノ姓名ヲ白署セシメ且之ニ其債ノ債ヲ得可キ  
相當順序ヲ得ント欲スル願旨ヲ附記シテ亦之ヲ差出ス可シ○裁判役ハ其證書受取リタメテ調書ニ記入ス可シ  
第七百五十五條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ四十日ノ期限内ニ證書ヲ差出サ、ル債主ハ當然其債  
ヲ得可キ權ヲ失フ可シ○裁判役ハ即時ニ其公務ヲ以テ同上ノ債主其權ヲ失ヒタル旨ヲ調書ニ記シ既ニ差出シタ  
ル證書ニ從ヒ債主ノ債ヲ得可順序ヲ定ムル目錄ヲ記ス可シ○此ノ目錄ハ前ニ記シタル四十日ノ期限ノ終リシ

時ヨリ遅クトモ二十日内ニ之ヲ記ス可シ 其目錄ヲ記シ終リシ時ヨリ十日内ニ債主中順序ヲ定ムル手續ヲ為ス者  
其代書師ヲシテ證書ヲ出シタル債主ノ代書師及ヒ負債者ノ代書師ニ書面ヲ送ラシメテ其目錄ヲ記シ終リタル旨  
ヲ此等ノ者ニ告知シ且三十日内ニ其目錄ヲ檢視別段ノ道理アルニ於テハ故障ヲ述ヘ其故障ヲ調書ニ附記ス可  
キ旨ヲ告知ス可シ

第七百五十六條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ證書ヲ出シタル債主及ヒ負債者前條ニ記スル期限内  
ニ目錄ヲ檢視シテ其故障ヲ述ヘサル時ハ別ニ呼出又ハ裁判言渡ヲ受ケスシテ其故障ヲ述フル權ヲ失フ可シ  
第七百五十七條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ共ニ賣拂タル數箇ノ不動産ヲ各自別々ニ評價スル  
コト必要ナル時ハ掛リ裁判役訴訟人ノ願ニ因リ又ハ公務ヲ以テ評價人一人又ハ三人ヲ任スルコトヲ言渡シ且其權ヲ  
為ス可キ日ト共該ヲ述フ可キ期限トヲ定メ此等ノ諸事ヲ調書ニ記入ス可シ○共言渡ハ債主中順序ヲ定ムル手續  
ヲ為ス者ヨリ評價人ニ送達シ又評價人ノ權ヲ為シタル旨ヲ調書ニ記入シ評價人ノ說ヲ記シタル書面ヲ其調書ニ  
添ヘ買テ可シ但シ其評價人ノ說ヲ記シタル書面ハ之ヲ寫シ取リ債主等ニ送達スルニ及ハス 前ニ記シタル如ク  
共ニ賣拂タル數箇ノ不動産ノ債ヲ各自別々ニ評價スルコト必要ナル時ハ掛リ裁判役假ルニ債主ノ順序ヲ定ム  
ル目錄ヲ記スル時共評價言渡ス可シ

第七百五十八條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ債主中ニテ裁判役ノ記シタル債主順序ノ目錄ニ付キ  
故障ヲ述フル者ハ共申述ノ旨ヲ調書ニ記シ且其證據タル證書類ヲ出ス可シ共時掛リ裁判役ハ別段定メタル期  
日ニ裁判所吟味ノ席ニ出テ其裁判ヲ受テ可キコトヲ言渡シ且其吟味ノ席ニテ訴訟ノ手續ヲ為ス可キ代書師ノ別段  
任ス可シ 此場合ニ於テ掛リ裁判役ハ争ノ生シタル債ヨリ先ニ列次スル債ニ付テハ其債主ノ順序ヲ確定シテ羅  
賣代金中ヨリ債ヲ得可キ書面ヲ渡シ又争ノ生シタル債ヨリ後ニ列次スル債ニ付テモ其債主ノ順序ヲ確定スルコ  
ト得可シ但シ此場合ニ於テハ争ヲ受ケタル債主ノ權利ヲ保護スル為メ其役ニ列次スル債ノ中ヨリ相當ノ高ク除  
キ置ク可シ



第七百五十九條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 裁判役ノ定ムル債主ノ債ヲ得可キ順序ノ目録ニ付キ故障ヲ述ル者ナキ時ハ債主等共目録ヲ檢視シテ其故障ヲ述ルル爲メ定ムル定期ノ終リヨリ十五日内ニ裁判役其債主ノ順序ノ目録ヲ確定シ且債ヲ得ルヲ能ハサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルノ費用及ヒ債主ノ順序ヲ定ムル時ノ爲メノ費用ノ高ク定ム可シ但シ其費用ハ他ノ債ヨリ最モ先キニ費拂フ代金中ヨリ之ヲ償ハシムルヲ得可シ○又其裁判役ハ債ノ償ヲ得ルヲ能フ可キ債主等ノ費用ノ高ク定ム且此等ノ債主ニ費拂代金中ヨリ償ヲ得可キノ書面ヲ渡シ又償ヲ得ルヲ能ハサル債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スル費用ヲ差引ク可シ○又證ニテ買入レタル者ハ各債主等ニ渡ス可キ金高中ヨリ其債主ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹スル費用ヲ差引ク可シ

第七百六十條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 掛リ裁判役ノ定ムル債主ノ債ヲ得可キ順序ノ目録ニ付故障ヲ述ル者アル時ハ其故障ヲ受テタル債主ヨリ後ニ列次シタル債主等其故障ヲ述フ可キ三十日ノ定期ノ後八日内ニ互ニ協議シテ別段其代書師一人ヲ撰ム可シ若シ互ニ協議マサル時ハ債主等其債主中ニテ最後ノ債主ノ代書師ヲ其債主數人ノ名代人ト定ム可シ○是迄債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ爲シタル代書師ハ唯其手續ヲ爲シタルノミニテ其故障ヲ訴ニ管ス可キノ特權ヲシテス

第七百六十一條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 同上ノ故障ヲ述フル者アル時ハ別段任テ受テタル代書師ヨリ第七百五十八條ニ記シタル裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キヲ求ムル招書ヲ故障ヲ受テタル債主ニ言送ル可シ○其故障ヲ述フル訴訟ハ故障ヲ受テタル債主其權ノ憑據ヲ記シタル願書ヲ出シテ別ニ訴訟ノ手續ヲ要スルコトヲ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ又其裁判言渡書ニハ其訴訟ノ費用ノ高ク定ム可シ○若シ故障ヲ述フル債主及ヒ故障ヲ受クル債主更ニ證書ヲ出シテ欲スル時ハ同上ノ裁判所吟味ノ席ニ出ツルヨリ選クトモ三日前ニ其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シ且其旨ヲ證書ニ附記ス可シ○裁判所ニテハ債主ノ新クニ差出シタル證書ニ據リ其訴訟ヲ裁判ス可シ然レ別段至重ニシテ確証アル原告アル時ハ裁判所ヨリ債主等ニ更ニ他ノ證書ヲ出シテ可キ猶豫ノ期限ヲ許ルモノヲ得可シ但シ其猶豫ノ期限ヲ許ルモノ言渡ニハ裁判所吟味ノ期日ヲ定ム可ク且

其言渡ハ之ヲ寫取リ送達スルニ及ハス○其猶豫ヲ許ルシ又ハ許ルセサル言渡ハ之ヲ控訴スルヲ得ス

第七百六十二條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債主ノ債ヲ得可キ順序ニ付テノ訴訟ノ本案及ヒ附帶ノ事ニ管シタル裁判言渡ハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説トヲ聽キタル上ニテ之ヲ爲ス可シ 債主ノ債ヲ得可キ順序ニ付テノ訴訟ノ本案ニ管シタル裁判言渡書ハ其日ヨリ三十日内ニ一方ノ代書師ニ之ヲ送達ス可ク且其言渡ハ故障ヲ述フルヲ得ス○其言渡書ヲ控訴ス可キ定期ハ之ヲ代書師ニ送達シタル日ヨリ算フ可シ○其控訴ハ一方ノ代書師其言渡書ヲ送達ヲ得タル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲ス可シ但シ是迄訴訟ニ管シタル初告裁判所ト控訴ノ原告人ノ真ノ住所トノ間五ヨリヤメトトシ毎ニ猶豫ノ期限日ヲ増ス可シ○控訴ノ書面ハ其被告人ノ代書師ノ住所ニ送達シ又負債者被告人ニシテ其代書師ナキ時ハ其本人ノ真ノ住所ニ送達ス可シ○其控訴ノ書面ニハ其被告人ヲ呼出スルト原告人ノ控訴ヲ爲ス旨赴トヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其書面ノ効ナカル可シ 故障ヲ述ヘシ債主ノ得可キ金高及ヒ分配ス可キ金高ノ如何ナルヲ問ハス争ヒアル金高千五百ヲランク以上ナル時ニ非レハ同上ノ控訴ヲ許サス

第七百六十三條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 初告裁判所ノ言渡ヲ控訴シタル債主アル時其争アル債ヨリ更ニ後ニ列次ス可キ債主ノ代書師ヲ控訴院ニ呼出ス可キノ道理アルニ於テハ之ヲ呼出ス可シ 此場合ニ於テハ控訴院ニ呼出テ受ケタル同上ノ代書師ヨリ其憑據ヲ記シタル願書ヲ出スノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ爲スニハ及ハスシテ第七百六十一條ニ記シタル如ク控訴院ニテ其訴ヲ吟味ス可シ

第七百六十四條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 控訴院ニテ債主ノ順序ニ付テノ控訴ヲ裁判スルニハ檢察官ノ説ヲ聽ク可シ○其裁判言渡書ニハ裁判費用ノ高ク定ム可ク又其言渡書ハ一方ノ者之ヲ得タル日ヨリ十五日内ニ之ヲ相手方ノ代書師ニ送達ス可ク相手方ノ者之ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス○相手方ノ代書師覆審院ニ其言渡ノ取消ヲ訴出ス可キ期日ハ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ之ヲ算フ可シ

第七百六十五條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債主ノ順序ノ争ニ付キ初告裁判所ノ言渡ヲ控訴シタ



ルナキ時ハ其控訴ヲ爲ス可キ期限ノ終リシヨリ八日又其控訴ヲ爲シタル時ハ控訴院ノ言渡書ノ一方ノ若  
リ相手方ノ代書師ニ送達シタル日ヨリ八日內ニ掛リ裁判役第七百九條ニ循テ順序ノ争アリシ債主ニ其債  
リ後ニ列次ス可キ債ノ順序ヲ確定ス可シ 此時ヨリ後負債者ハ債主得ルコト能フ可キ順序債息銀ヲ拂フニ及ハス  
第七百六十六條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ債主ノ順序ニ付テノ訴訟ノ費用ハ釋費ニ因リ得タル  
代金中ヨリ之ヲ差引ク可カラス 然レ債主中ノ一人共相當ノ證書ヲ差出シタルト雖モ掛リ裁判役公務ヲ以テ其  
債主ノ債ヲ得可キ權利ヲ却還シタル時其債主後ニ裁判吟味ノ席ニ出テ已ノ權利ヲ申述ヘ外ニ其權利ニ付キ争テ  
爲ス者ナク裁判所ニテ其權利ヲ允許シタルニ於テハ其訴訟ノ費用ヲ已ノ債主得可キ債ト同一ノ順序ニ爲シテ釋  
費代金中ヨリ取戻スコトヲ得可シ 順序ノ争アル債主ヨリ後ニ列次ス可キ債主數人ノ代書師第七百六  
八ヨリ前ニ列次スル債主等ニ釋費代金ヲ分配シタル上猶餘リタル金高中ヨリ自己ノ爲シタル費用ノ債ヲ得可シ  
○同上ノ代書師ニ其費用ノ債ヲ許ルニ裁判言渡書ニハ債主ノ債ヲ得ルコト能ハサル債主又ハ負債者其代書師ノ權ニ  
代テ負訴訟ノ債主ヨリ代書師ノ費用高ニ當ル可キ金高ノ債ヲ得ント許コルコトヲ允許スル言渡ノ旨ヲ附記ス可シ  
○其裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キコトヲ記シタル書面ニハ前文ノ旨ヲ記シ且其言渡ノ爲ノ利益ヲ得可  
キ債主又ハ負債者ノ姓名ヲ記ス可シ 債主ノ順序ニ付テノ訴訟ノ時争テ爲ス者又ハ争テ受クル者其證書ヲ出ス  
コトヲ起ル時ハ縱令免訴訟トナルト雖モ其訴訟ノ費用ヲ債主得可キ言渡ヲ受ク可シ 債主ノ順序ニ付テノ訴訟ニ  
付キ裁判ノ費用ヲ相手方ニ債主得可キ言渡ヲ受ケタレ債主釋費代金中ヨリ已ノ債主ノ債ヲ得可キ順序ナル時ハ其  
者ノ得可キ金高中ヨリ相手方ニ債主得可キ裁判費用ノ高ヲ差引ク可シ但シ此事ハ債主ノ順序ヲ定ムルニ付テノ別  
段ノ規則ナリトス

第七百六十七條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ掛リ裁判役債主等ノ順序ヲ確定シタル言渡ヨリ三日  
內ニ其手續ヲ爲シタル者ノ代書師ヨリ他ノ債主又ハ釋費買入レタル者又ハ負債者ノ代書師ニ書面ヲ送リテ其言  
渡ノ旨ヲ報告ス可シ 債主中ノ一人又ハ買入人又ハ負債者同上ノ言渡ニ付キ故障ヲ述ヘントスル時ハ必ス其言  
渡ノ規則ナリトス

訴訟第六十八

波ヨリ八日內ニ之ヲ述ヘ且其時ヨリ更ニ八日內ニ裁判所休業ノ時ト雖モ其代書師ヨリ他ノ教人ノ代書師ニ報告  
ヲ送ラシメ裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キコトヲ要ム可シ但シ負債者代書師ヲ任セサル時ハ定例ノ吟味ノ其住所ニ  
送達ス可シ○此故障ヲ述フル時吟味シ及ヒ裁判スル方法並ニ其裁判言渡ノ控訴ヲ吟味シ及ヒ裁判スル方法ハ  
第七百六十一條第七百六十二條第七百六十四條ニ記スル所ニ循フ可シ

第七百六十八條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ債主ノ債ヲ得ルコト能ハサル債主又ハ負債者ハ債主ノ順  
序ニ付キ争アル時間ノ息銀ニ付キ負訴訟ノ債主ニ對シ債主得ントスル訴訟ヲ爲スコトヲ得可シ  
第七百六十九條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ掛リ裁判役ノ爲シタル債主ノ順序ヲ定ムル言渡ニ付  
キ故障ヲ述フルコトヲ得可カラス○期限ニ至リシ日ヨリ十日內ニ裁判所ノ書記官ハ是迄債主ノ順序ヲ定ムル手續  
ヲ爲シタル債主ノ代書師ニ其裁判言渡書ノ寫ヲ渡シ其代書師之ヲ書入管役所ニ出ス可シ○書入管ノ管轄者ハ掛  
リ裁判役ノ言渡書ヲ檢視シタル上債主ノ債ヲ得ルコト能ハサル債主等ノ書入管ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可シ

第七百七十條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ前條ノ定期內ニ裁判所ノ書記官ハ債主ノ債ヲ得可キ債主  
等各人ニ買入人又ハ金高預リ役所ヨリ其債ノ債主得可キ書面ヲ渡ス可シ 債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ爲シタル  
代書師ノ其費用ノ債ヲ得可キ書面ハ債主ノ債ヲ得ルコト能ハサル債主等ノ書入管ノ權ノ記入ヲ役所ノ簿冊ヨリ塗抹  
シタルノ受合書ヲ差出サレハ之ヲ渡ス可カラス○此受合書ハ債主ノ順序ヲ定ムル調書ニ添ヘ置ク可シ

第七百七十一條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ債主ノ債ヲ得タル債主等ハ各其得タル金高ノ受取書ヲ  
買入人ニ與ヘテ其書入管ノ權ノ記入ヲ塗抹スルコトヲ承諾ス可シ○書入管ノ管轄者ハ債主ノ債ヲ得可  
キ爲メ管テ裁判所ノ書記官ヨリ渡シタル書面ト其債主ノ金高請取書トヲ檢視シタル上其書入管ノ權ノ記入ヲ公  
務ヲ以テ次第ニ塗抹ス可シ 又其管轄者管テ自己ノ公務ヲ以テ爲シタル書入管ノ權ノ記入ハ其書入管ニ  
買入レタル者ヨリ債主又ハ負債者ニ其代金ヲ盡ク拂ヒタルノ證ヲ立テタル上ニテ之ヲ塗抹ス可シ

第七百七十二條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ負債者ノ不動產ヲ差押ヘテ釋費ト爲スヨリ更ニ他ノ

第七百七十二條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ負債者ノ不動產ヲ差押ヘテ釋費ト爲スヨリ更ニ他ノ



方法ヲ以テ其不動産ヲ賣拂フ時ハ債主中ノ一人又ハ其買入人ヨリ債主ノ債ヲ得可キ順序ヲ定メント訴フルヲ  
得可シ 又其訴ハ賣主ヨリモ之ヲ爲シ得可シト雖モ買入人ヨリシテ其代金ヲ拂ハシムルニ付テハ猶豫ノ期限内  
ニ之ヲ爲ス可カラヌ此場合ニ於テハ書入債ノ權ヲ濫用ス可キ爲メ定メタル法式ヲ行ハスシテ債主ノ順序ヲ定ム  
ルノ訴ヲ爲ス可カラヌ 其訴ヲ爲ス法式ハ此章中ニ記列スル所ニ等シカル可シ 法律上ノ書入債ノ權ヲ有スル  
債主民法第二百九十五條ニ定メタル定期内ニ其書入債ノ權ヲ行使シ簿冊ニ記入セシメタル時ハ其定期ヨリ三  
月内ニ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴アルニ非サレハ他ノ債主ヨリ先キニ其債ヲ得可キノ權ヲ行フヲ得ヌ但シ法律  
上ノ書入債ノ權ヲ有スル債主ハ第七百十七條ノ最終ノ一項ニ記シタル規則ニ循フ可シ

第七百七十三條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム負債者ノ不動産ヲ賣拂フタル方法ノ如何ナルヲ問ハ  
ス自己ノ書入債ノ權ヲ行使シ簿冊ニ記入シタル債主ノ數四人ヨリ少ナキ時ハ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可  
カラヌ 債主ノ順序ヲ定ムル訴ノ手續ヲ爲ス者ハ第七百五十條及第七百七十二條ニ記シタル定期ノ後ニ至リ  
第七百五十一條ニ記シタル法式ト定期トニ從ヒ債主等ヲシテ互ニ協議シテ其順序ヲ定ムルノ手續ヲ爲サシム可  
キ爲メ別段掛リノ裁判役ニ願書ヲ出シ若シ又別段掛リ裁判役アラサル時ハ裁判所ノ上席人ニ其願書ヲ出ス可シ  
債主等相協議シテ其順序ヲ定メサル時ハ裁判所ニテ訴ノ手續ヲ爲ス者ノ願ニ因リ債主等及ヒ其他ノ者ニ呼出狀  
ヲ送リ急速吟味ノ法式ヲ以テ其債主ノ順序ヲ定ム可シ但シ各債主及ヒ其他呼出ヲ受ケル者ノ憑據ヲ記シタル書  
面ヲ差出ヌコトノ外別段訴訟ノ手續ヲ爲スニ及ハス○此訴訟ハ裁判官渡書ハ債主及ヒ其他呼出ヲ受ケタル者ノ代  
書師ヲ任シタル時ハ其代書師ニ送達ス可シ 此裁判官渡ヲ控訴シタル時ハ第七百六十三條及ヒ第七百六十四條  
ノ如ク處置ス可シ

第七百七十四條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム負債者ノ不動産ヲ書入シタル者ハ書入債ノ權ノ記入  
ノ寫書ヲ得ルノ費用及ヒ其記入ヲ爲シタル債主等ニ報告民法第二百百ヲ爲スノ費用ノ債ヲ他人ヨリモ先キニ得  
可キノ特權アリ

第七百七十五條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム債主ハ負債者ノ他人ヨリ債ヲ得可キ權利ヲ保全ス可  
キ爲メ其負債者ノ書入債ノ權ヲ記入スルコトヲ得可シ但シ其負債者ノ相當ノ順序ヲ以テ人ヨリ債ヲ得タル金高ハ  
債主ノ順序ヲ定ムル前ニ既ニ自己ノ書入債ノ權ヲ記入シタル債主又ハ其前ニ自カラ債ヲ得可キノ權アル者ノ陳述  
シタル債主數人ニ之ヲ動産ニ等シク分派ス可シ

第七百七十六條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム債主ノ債ヲ得可キ順序ヲ定ムル訴訟ノ手續ヲ爲ス代  
書師第七百五十三條第七百五十五條ノ第二項第七百六十九條ニ記シタル法式ト定期トニ循ハサル時ハ別ニ裁判  
所ニ呼出ヲ受ケルコトナリ又別ニ裁判所ノ言渡ヲ受ケルコトナクシテ其訴訟ノ手續ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ○掛リ裁  
判役ハ債主又ハ其他關係アル者ノ願ニ因リ又ハ自己ノ公務ヲ以テ是迄ノ代書ヲ引易フルコトヲ言渡シ其言渡ヲ債  
主順序ノ調書ニ附記ス可シ○此言渡ハ之ヲ取消サント訴フルコトヲ許サズ又別段任セラレタル代書師第七百五十  
第七百五十八條及第七百六十一條ニ記シタル務ヲ行ハサル時ハ前項ニ記スル所ニ等シク他ノ代書師ト引易ヘラ  
ル可シ 同上ノ訴訟ノ手續ヲ爲スル權ヲ失ヒシ代書師ハ速カニ其代任ノ代書師ニ證書類ヲ引渡シ其受取書ヲ取  
リ置ク可シ且其權ヲ失ヒシ代書師ハ債主ノ順序ノ定マリタル後ニ非レハ其費用ノ債ヲ得可カラヌ

第七百七十七條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム負債者ノ不動産ヲ抵償トシテ差押ヘタル時其不動産  
ヲ變ニテ買入レタル者債主ノ債ヲ得ル順序ノ調書ヲ成就スル前ニ書入債ノ權ノ記入ヲ塗抹セント欲スル時ハ其  
不動産ノ代金ト既ニ拂期限ニ至リシ其息銀トヲ役所ニ預ケ可シ但シ其買入人ハ此事ヲ爲ス前ニ債主等ニ其代金  
ノ提供ヲ爲スニ及ハス 若シ又債主ノ債ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ニ取掛ラサル時ハ不動産ノ買入人第七百五十  
條ニ記シタル定期ノ終リシ後其手續ニ取掛ル可キコトヲ訴フ可シ○其買入人其訴ヲ爲スニハ代金ヲ預ケタル役所  
ノ受取書ヲ掛リ裁判役ニ差出シ且其代金ヲ預ケタルコトヲ法ニ適シタル書入債ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キ旨ト  
ノ言渡ヲ得ント欲スルコトヲ陳述スル書面ヲ差出ス可シ 第七百五十四條ニ記シタル債主等ノ其證書ヲ出ス可キ  
定期ノ終リシ時ヨリ八日內ニ同上ノ不動産買入人ハ其代書師ヲシテ債主等ノ代書師ニ證書ヲ送ラシ且負債者



ノ代書師ヲ任セサル時ハ其負債者ニ呼出狀ヲ送達セシメ此等ノ者ニ裁判所ニ出席シテ已レノ差出シ置キタル書  
面ヲ檢視シ若シ故障アラハ十五日内ニ之ヲ述フ可キヲ要ム可シ○若シ其十五日内ニ故障ヲ述フルコトナキ時ハ  
掛リ裁判所買入人ノ代金ヲ預ケタルノ法ニ違ヒタル旨ト總テノ書入債ノ權ノ記入ヲ塗抹シ其權ヲ有スル債主  
等ハ其代金中ヨリ償ヲ得可キ旨トテ言渡シ其言渡シ債主順序ノ調書ニ附記ス可シ○若シ又故障ヲ述フル者アル  
時ハ債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ運送スルコトナク其故障ノ裁判ヲ為ス可シ 又債主ノ償ヲ得ル順序ヲ定ムル手續  
ニ既ニ取掛リタル時ハ同上ノ不動産買入人ヨリ其代金ト息銀トヲ役所ニ預ケタル後前文ニ等シキ言渡シ得ント  
欲スル陳述ヲ債主順序ノ調書ニ附記シ其代書師ヲシテ之ニ姓名ヲ手著セシメ且代金ヲ預リタル役所ノ受取書ヲ  
差出ス可シ○然ル上ハ債主等ノ其證書ヲ出ス可キ期限ノ終リシ後前文ニ記スル所ノ如ク差置ス可シ 又負債者  
ノ不動産ヲ差押ヘテ之ヲ賣下ト為スヨリ更ニ他ノ方法ヲ以テ負債者ノ不動産ヲ賣下タル時其買入人一通リ書  
入債ノ權ノ記入ヲ捺捺スル法式ヲ行ヒタル上總テノ書入債ノ權及ヒ債主ノ特權ヲ全ク捺捺セント欲スルニ於テ  
ハ其不動産ノ代金ト息銀トヲ役所ニ預ク可シ但シ其買入人ハ此等ヲ為ス前ニ債主等ニ其代金ノ提供ヲ為スニ及  
ハス○其買入人其代金及ヒ息銀ヲ役所ニ預ケントスルニハ其實主ニ十五日内ニ總テノ書入債ノ權ノ記入ヲ塗抹  
シタル證書ヲ渡ス可キヲ要ス且其實主ニ已レノ役所ニ預ク可キ總金高ヲ告知ス可シ○其十五日ノ期限ヲ經タル後  
其買入人代金ト息銀トヲ役所ニ預ケ其時ヨリ三日内ニ買入人役所ノ受取書ヲ掛リ裁判所ニ出シテ債主ノ順序ヲ  
定ムル手續ニ取掛ル可キヲ願フ可シ○然ル上ハ其類ニ從ヒ前數項ニ記シタル如ク其順序ノ手續ニ取掛ル可シ  
第七百七十八條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク記シ買入人其代金ト息銀トヲ役所ニ預ケルコトニ付キ故障  
ヲ述フル者アル時ハ其者其證據ヲ債主ノ順序ノ調書ニ附記ス可シ若シ此證據ヲ為ササル時ハ其故障ヲ述ヘタル  
ノ効ナカル可シ○然ル上ニテ掛リ裁判所ハ其故障ノ裁判ヲ行ハズニテ受取書ヲ可キ言渡ス可シ 此事  
ニ付キ裁判所味ノ席ニ訴出スル者ハ其代書師ヲシテ其訴ニ管係アル他ノ者ノ代書師ニ證書ヲ送ラシメ其味  
ヲ受クルニ付キ各其證據ヲ記シタル願書ヲ出サシムルノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ為スニ及ハス但シ此場合ニ於テハ

第七百六十一條 第七百六十三條 第七百六十四條ニ記スル如ク差置ス可シ 同上ノ買入人ハ其手續ヲ為シタル費  
用ヲ代金中ヨリ差引ク可キノ言渡ヲ得可シ

第七百七十九條 千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム債主ノ償ヲ得可キ順序ヲ定ムル手續ヲ為ス間又公既  
ニ其順序ヲ確定シ債主ニ其償ノ償ヲ得可キ書面ヲ渡シタル後ニ買入人其代金ヲ拂フコトハサレニ因リ再ヒ不動  
産ヲ賣下ト為スアル時トモ債主ノ順序ヲ改メ定ムルノ手續ヲ更ニ為スニ及ハス○掛リ裁判所ハ再度ノ賣下  
ノ模様ニ隨テ債主ノ其償ノ償ヲ得可キ書面ヲ點易シテ再度ノ買入人ヨリ其償ノ償トシテ代金ヲ受取ル可キ書面  
ヲ債主等ニ渡ス可シ

○第十五章 負債者ヲ禁固スル事

第七百八十條 債主ハ負債者ノ其償ヲ償ハサルニ因リ之ヲ禁固ス可キノ裁判言渡書ヲ其判決ノ書ト共ニ負債者ニ  
送達シタル時ヨリ一日ノ後ニ非レハ其言渡ノ如ク禁固スルコトヲ得ス○此等ノ書面ハ其言渡書ヲ以テ別段任シタ  
ル使吏又ハ負債者所在ノ地ノ初告裁判所ノ上席人ノ別段任シタル使吏之ヲ送達ス可シ○其訴ヲ為シタル債主其  
言渡ヲ為シタル裁判所所在ノ邑内ニ住セサル時ハ別段其地ニ任所ヲ撰ミタル旨ヲ同上ノ書面ニ附記ス可シ

- 第七百八十一條 左ノ場合ニ於テハ負債者ヲ召捕フ可カラズ
- 第一 日出ノ前及ヒ日没ノ後
- 第二 法律ニ定メタル祭日
- 第三 寺院及ヒ禮拜堂ニテ拜神ノ式ヲ為ス時間
- 第四 官署ニテ官官會議シテ事務ヲ取扱フ時間
- 第五 如何ナル場所タルヲ問ハス人ノ住家内又ハ負債者自己ノ住家内但シ其地ノ治安裁判所負債者ノ自

第七百八十二條 又負債者訴訟ノ證人トナリテ懲治罪裁判所又ハ民法初告裁判所又ハ重罪審院又ハ控訴院ニ呼出



ヲ受テ往來自在ノ手形ヲ所持スル時ハ之ヲ召捕フ可カラス但シ其手形ハ負債者ヲ證人トシテ呼出シタル裁判所ノ裁判役檢察官ノ説ヲ聽キタル上ニテ之ヲ渡ス可シ○其手形ニハ其効アル可キ期限ヲ記ス可シ若シ其期限ヲ記セサル時ハ全ク其効ナシトス○負債者其手形ヲ所持スル間ハ其證人トナリテ裁判所ニ出ルノ日又ハ裁判所ニ往返スル時間之ヲ召捕フ可カラス

第七百八十三條 負債者禁錮ノ調書ニハ通常ノ呼出狀ニ記ス可キ諸件ノ外更ニ左件ヲ附記ス可シ

第一 再次ノ要決

第二 債主負債者ヲ禁錮セントスル地ノ邑内ニ住セサル時ハ別段其邑内ニ住所ヲ擇ミタル事

使吏其調書ヲ送達スル時ハ檢佐ノ為メ立合二人ヲ伴行ス可シ

第七百八十四條 一度負債者ニ要決ノ書ヲ送りケルヨリ滿一年ヲ過キタル後ハ別段注ヲ受ケタル使吏更ニ負債者ニ要決ノ書ヲ送達ス可シ

第七百八十五條 若シ負債者使吏ニ抗スル時ハ使吏其負債者ノ走脱ヲ防グ可キ為メ其門戸ニ番人ヲ置キ自カラ兵力ヲ借りニ赴ク可シ但シ此場合ニ於テハ負債者若シ犯罪ノ規則ニ從ヒ犯罪ノ罪ヲ受テ可シ

第七百八十六條 負債者至急吟味ヲ受ケント願フ時ハ其召捕ハレタル地ノ初告裁判所ノ上席人ノ面前ニ呼出ヲ受ケ上席人至急吟味ヲ為シテ之ヲ裁判ス可シ○又裁判所ノ聽訟期限外ニ召捕ハレタル時ハ負債者其上席人ノ家ニ呼出サル可シ

第七百八十七條 至急吟味ノ裁判言渡ハ使吏ノ調書ニ記入シテ即時ニ之ヲ執行ヲ可シ

第七百八十八條 負債者至急吟味ヲ受ク可キト願ハメ又ハ至急吟味ヲ願フト雖モ裁判所ノ上席人其願ヲ聞届ケサル時ハ負債者其地ノ獄舎ニ入レ若シ其地ニ獄舎ノアヲハル時ハ最近ノ獄舎ニ入ル可シ○負債者ヲ禁錮スル為メ法律上ニ定メ置キタル以外ノ場所ニ負債者ヲ連行キ又ハ受取リタル使吏及ヒ其他ノ者ハ法ニ背キテ人ヲ禁錮シタルノ罪ヲ受ク可シ

第七百八十九條 獄監ノ負債者ヲ受取リタル調書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 負債者召捕ノ言渡書

第二 債主ノ姓名住所

第三 債主獄舎ノアル邑内ニ住セサル時ハ別段其邑内ニ住所ヲ擇ミタル事

第五 債主負債者ノ養料ヲ少シトモ一ヶ月分官署ニ預ケタル事

第六 負債者禁錮ノ調書一通及ヒ獄監ノ負債者ヲ受取リタル調書一通ヲ負債者ニ渡シタル事

獄監ノ負債者ヲ受取リタル調書ニハ使吏其姓名ヲ手署ス可シ

第七百九十條 獄監ハ其簿冊ニ召捕ノ言渡書ヲ登記ス可シ○若シ使吏其言渡書ヲ獄監ニ示サ、ル時ハ獄監負債者ヲ受取リ之ヲ獄ニ入ル、トテ承諾ス可カラス

第七百九十一條 債主ハ獄メ負債者ノ養料ヲ官署ニ預ケ置ク可シ○若シ此迄負債者ヲ禁錮セシメタル債主其負債者ヲ放ス時更ニ他ノ債主猶之ヲ禁錮シ置カント為スニ於テハ以前ノ債主其預ケ置キタル負債者ノ養料ヲ取戻ス可カラス但シ後ニ其負債者ヲ禁錮セントスル債主ノ承諾ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第七百九十二條 負債者其債ヲ拂ハサルニ因リ債主ノ為メニ獄舎ニ禁錮セラレ其債主ノ放ヲ得タル時ニ至テ之ヲ禁錮セントスルヲ得可キ他ノ債主更ニ猶之ヲ禁錮シ置クヲ得可シ○又是迄罪ヲ犯シタルニ因リ獄ニ禁錮セラレタル者其罪ノ放ヲ受ケ且獄ヲ出ツ可キノ言渡ヲ得タル時其債主ハ猶之ヲ獄ニ禁錮シ置クヲ得可シ

第七百九十三條 是迄禁錮ヲ受ケタル負債者ヲ債主猶禁錮シ置カント欲スルニハ初メ之ヲ禁錮スル時ニ等シキ法式ヲ行フ可シ但シ此場合ニ於テハ使吏其立會人ヲ伴行スルニ及ハス又以前ノ債主曾テ負債者ノ養料ヲ預ケ置キタル時ハ猶之ヲ禁錮セント欲スル債主別ニ其養料ヲ出スニ及ハス 以前負債者ヲ禁錮セシメタル債主ハ其禁錮ヲ繼續セシメント欲スル債主ラシテ己レノ預ケ置キタル養料ノ平等ナル一部ヲ擔當セシムルヲ其獄舎ノ地ノ初告裁判所ニ訴フルヲ得可シ



第七百九十四條 債主前數條ニ定メタル法式ヲ行ハサル時ハ負債者其禁錮ノ言渡ヲ取消スノ訴ヲ為ス可シ  
但シ其訴ハ獄舎ノアル地ノ裁判所ニ之ヲ為ス可シ○若シ又負債ノ訴ノ本案ニ付キ其禁錮ノ言渡ヲ取消サントス  
ル時ハ其言渡ヲ執行フタル裁判所ニ其取消ノ訴ヲ為ス可シ

第七百九十五條 何ノ場合ニ於テモ負債者禁錮ノ言渡ヲ取消サントスル訴ヲ為スニハ裁判役ノ允許ヲ得タル上  
急速ニ之ヲ為シ特ニ任ヲ受ケタル使吏債主ノ別段擇ミタル住所ニ呼出狀ヲ送達ス可シ但  
シ其訴ハ裁判所ニテ檢察官ノ説ヲ聴キタル上急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第七百九十六條 如何ナル理由ニ付キ負債者禁錮ノ言渡ヲ取消シタルト雖モ之ヲ取消シタルニ因リ他ノ債主ノ猶  
其負債者ヲ禁錮シ置ク可キコトヲ取消ス可カラズ

第七百九十七條 禁錮ノ言渡ノ取消ヲ得タル負債者ハ其獄ヲ出テタルヨリ火クモ一日ノ後ニ非ケレハ同一ノ負債  
ニ付キ召捕ラル、コナカル可シ

第七百九十八條 負債者ハ其禁錮ヲ受ケン原由タル負債ノ金高ト召捕ノ費用ト獄監ニ預テ自由得ルコトヲ得可シ  
第七百九十九條 負債者禁錮ノ言渡ノ取消ヲ得タル時債主其負債者ニ損失償ヲ為シ可キノ言渡ヲ受ルコトアル可シ

第八百條 禁錮ヲ受ケタル負債者左ノ諸件因リ其自由得ルコトヲ得可シ

第一 禁錮ヲ為サシメタル債主ノ承諾及ヒ其禁錮ヲ繼續セシメントスル他ノ債主ノ時亦其債主ノ承諾

第二 禁錮ヲ為サシメタル債主及ヒ其禁錮ヲ繼續セシメントスル債主ニ負債ノ金高並ニ其息銀及ヒ訴訟ノ  
費用高禁錮ノ費用高並ニ債主ノ出セシ養料ヲ得ルコト又ハ之ヲ官署ニ預クル事

第三 負債者己ノ財産ヲ盡シ債主ニ拋棄スル事 民法第四百二十條  
第六十八條見合

第四 債主預メ負債者ノ養料ヲ預ケサル事

第五 負債者之十歳ノ齡ニ至リシ時但シ此場合ニ於テモ負債者「民法第四百二十五條  
第六十八條見合」ノ處ニアル時ハ  
格別ナリトス

第八百一條 債主其負債者ヲ自由ニ為スコトヲ承諾スル旨ハ公証人ノ面前ニテ之ヲ書面ニ記シ又ハ獄監ノ負債者ヲ  
受取ル書ヲ記シタル簿冊ニ之ヲ記入ス可シ

第八百二條 負債者別ニ裁判ノ言渡ヲ得シテ其負債ノ金高ヲ獄監ニ預クルコトヲ得可シ若シ獄監之ヲ受取ルコトヲ  
言ニアル時ハ負債者別段裁判所ノ允許ヲ得テ其獄監ヲ速ニ裁判所ニ呼出ス可シ但シ其呼出狀ハ別段任ヲ受ケ  
タル使吏之ヲ送達ス可シ

第八百三條 若シ債主負債者ノ養料ヲ預ケサル時ハ獄監其旨ヲ證スル諸合書ヲ負債者ニ渡シ負債者ノ自由ヲ得  
ル求ムル所ノ願書ニ添ヘ之ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シタル上別ニ債主ヲ呼出スコトヲ裁判所ニテ其自由ヲ得可  
キ旨ヲ言渡ス可シ 然レ債主負債者ノ養料ヲ預クルコトヲ遲延シタル場合ニ於テ負債者其自由ヲ得ント欲スル願  
ヲ為ス前ニ債主其養料ヲ預ケタル時ハ裁判所ニ於テ負債者ノ自由ヲ得ントスル願ヲ取上ケ可カラズ

第八百四條 債主ノ養料ヲ預ケサルニ因リ負債者其自由ヲ得タル時ハ債主其負債者ニ其自由ヲ得ル手續ニ付テ  
費用ヲ償ヒ又負債者之ヲ受取ルコトヲ肯メサル時ハ之ヲ裁判所ノ書記官ニ預ケ且預メ負債者ニ給ス可キ六ヶ月ノ  
養料ヲ預シタルニ非ケレハ債主其負債者ヲ再ヒ禁錮セシムルコトヲ得ス○債主一度自由ヲ得タル負債者ヲ再ヒ禁錮  
セント為スコト當テ要決ノ書ヲ送リタルヨリ一年内ナル時ハ更ニ禁錮ヲ為サシムルノ手續ヲ改メ為スニ及ハス

第八百五條 負債者自由ヲ得ノトモニ訴ハ其禁錮ヲ受ケタル獄舎所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ之ヲ為ス可シ○其  
訴ヲ為スニハ先ノ其旨ヲ裁判役ニ預テ裁判役ノ允許ヲ得タル上債主官署ニ呼出狀ヲ送達ス可シ又其訴  
ノ旨ヲ檢察官ニ報告シタル上別段ノ手續ヲ為スニ及ハス 遲延ク他ノ訴ヨリ最モ先キニ其訴ヲ裁  
判ス可シ

○第十六章 至急吟味ノ事

第八百六條 總テ至急ノ場合ノ時又ハ裁判言渡ヲ執行フ可キ證書ノ如ク執行シ又ハ裁判言渡書ノ如ク執行フコト  
付テノ故障ヲ裁判所可キ時ハ左ノ如ク之ヲ處置ス可シ



第八百七條 至急吟味ヲ願フ訴ハ裁判所ヨリ定メタル日刻ニ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ別段設ケル所ノ吟味ノ席ニテ之ヲ為スコ

第八百八條 若シ又別段至急ナルヲ要スルコトアル時ハ裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル可キ裁判役至急吟味ヲ願フ訴ヲ受ケタル一日内ニ其祭日タルヲ問ハズ別段刻限ヲ定メ被告ノ裁判所吟味ノ席ニ呼出シ又ハ其上席人又ハ其代員ノ住宅ニ之ヲ呼出ス可キコト原告人ニ許ス可シ但シ此場合ニ於テハ原告人其上席人又ハ其代員ノ允許ヲ得タル上其別段任シタル使吏ヲシテ被告人ニ其呼出狀ヲ送達セシムルニ非ザレハ其呼出ヲ為スコトヲ得ス

第八百九條 至急吟味ノ上ノ裁判言渡ハ訴訟ノ本案ノ害トナルコトナカル可シ○其裁判言渡ハ別ニ保證人ノ立ルコトヲ假ニ之ヲ執行ヲ可シ但シ裁判役ヨリ別ニ保證人ヲ立ツ可キコトヲ言渡シタル時ハ格別アリトス 同上ノ裁判言渡ハ抗辯者其故障ヲ述フルコトヲ得ス 同上ノ裁判言渡ニ服セサル者控訴ヲ為シ得可シコトヲ法律上ニテ允許シタル場合ニ於テハ其言渡ヨリ八日ノ期限ニ至ラサル内ト雖モ之ヲ為スコトヲ得可シ又一方ノ者其裁判言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十五日ノ後ニ至ル時ハ其控訴ヲ為スヲ許サス 其控訴ハ別段手續ヲ為スコトナク急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第八百十條 至急吟味ノ上ノ裁判言渡書ノ正本ハ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

第八百十一條 然レ極メテ切迫ナルコトアル時ハ裁判役其言渡書ノ正本ヲ以テ其言渡ノ如ク執行ヲ可トシ證書ト為スコトヲ言渡スヲ得可シ

第八百十二條 負債者債主ニ其債ヲ償還メント提供スル事及ヒ其借高ヲ官署ニ預ケル事

第八百十三條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百十四條 若シ債主負債者ノ提供シタル品物又ハ金高ヲ受取ルコトヲ承諾セザル時ハ負債者其義務ヲ免ルニ為シ民法第一千二百五十九條ニ記シタル法式ニ從ヒ其提供シタル品物又ハ金高ヲ官署ニ預ケルコトヲ得可シ

第八百十五條 提供シタル事又ハ官署ニ預ケタル事ノ法ニ適シタル言渡ヲ得ントスル訴又ハ此等ノ事ノ効ナカル可シトノ言渡ヲ得ントスル訴ハ主タル訴ヲ為スノ法式ヲ以テ之ヲ為スコシ若シ此等ノ訴附帶ノ訴トナル時ハ願書ヲ以テ之ヲ為スコシ

第八百十六條 提供シタル物件ヲ未ダ官署ニ預ケタル時提供ノ法ニ適シタルコトヲ定ムル言渡書ニハ若シ債主其提供シタル物件ヲ受取ルコトヲ肯セザルニ於テハ其物件ヲ官署ニ預ケ可キコトヲ附記ス可ク且其言渡書ニハ其物件ヲ官署ニ預ケタル日ヨリ以來債ノ息額ヲ出スコキ義務ノ止タルコトヲモ亦附記ス可シ

第八百十七條 負債者其意ニ因リ又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ其債ヲ償還スル為メ物件ヲ官署ニ預ケル前ニ其債主ノ債主其物件ヲ負債者ヨリ其債主ニ渡スコカラナルノ故障ヲ述ベタル時ハ負債者其故障受シタル儘ニテ之ヲ官署

附屬四 訴訟法第六 法律書 下篇 種々ノ訴訟手續 第一卷 千八百六十六年四月二十二日決定五月二日布告 權大内史其作辭譯

第八百十八條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百十九條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十一條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十二條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十三條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十四條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十五條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十六條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百二十七條 同ノ若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量ソタル高ト其性質トヲ記ス可シ

辻 士草 校



ニ預ケ且其故障ノ旨ヲ其債主ニ報告ス可シ

第八百十八條 提供及ビ官署ニ預ケルニ付キ前數條ニ記シタルヨリ以外ノ專民法ノ以テ之ヲ定ム民法第百一十七條以下見合

○第二章 土地又ハ家屋ノ所有者其債主ノ動産並ニ收納物ヲ質トシテ差押フル事及ビ他ノ地ヨリ來レル負債者ノ動産ヲ質トシテ差押フル事

第八百十九條 土地又ハ家屋ノ所有者ハ貸貸ノ證書ノ有無ヲ問ハス既ニ擔期限ニ至ルシ貸貸ヲ得ルノ條トシテ家屋又ハ家屋ノ爲メ設ケタル建物ノ中又ハ土地ノ中ニ在ル借主ノ動産並ニ收納物ヲ差押フルトテ得可シ但シ此差押ヲ爲スニハ先テ要決ノ書ヲ送リ其翌日ニ至リ別ニ裁判役ノ允許ヲ得ヌクテ之ヲ爲スコトヲ得可シ又土地及ビ家屋ノ所有者ヨリ之ヲ借受ケタル者其下々貸ヲ爲シタル時ハ其下々借ヲ爲シタル者ノ動産及ビ收納物ヲ差押フルトテ亦同様アリトス 又其所有者及ビ下々貸ヲ爲シタル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ願書ヲ出シ其允許ヲ得タルトシテ別ニ要決ノ書ヲ送ラス直ニ其動産又ハ收納物ヲ差押フルトテ得可シ 又此等ノ者ハ借主已レノ承諾ヲ得ヌシテ其家屋又ハ土地ニ具ヘタル動産ヲ他所ニ搬運スル時ハ其動産ヲ差押フルトテ得可シ且民法第百二十二條ニ依リ其地所ニ搬運シタル動産他人ノ手ニアルヲ取戻ヤント訴フル時ハ其動産ヲ質トシテ他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得可キノ特權ヲ有ス可シ

第八百二十條 家屋又ハ土地ノ所有者ハ其借受ケ人借賃ヲ拂ハサル時其償ヲ得ルカ爲メ下々借ヲ爲シタル者ノ其償ヲ受ケタル家屋又ハ土地ニ具ヘタル動産又ハ收納物ヲ質トシテ差押フルトテ得可シ但シ其下々借ヲ爲シタル者ハ既ニ正シク其借賃ヲ拂ヒタルノ證ヲ立ツル時ハ其差押ヲ免ルルコトヲ得可シ 雖モ契約ニ依ラス借賃ヲ前拂ニ爲シタルトテ述ヘ其差押ヲ免ルルコトヲ得ス民法第百二十五條見合

第八百二十一條 貸貸ノ償ヲ得可キ質トシテ動産ヲ差押フル事ハ負債ノ抵償トシテ動産ヲ差押フルト同様ノ法式ニ從テ可ク且其差押ヲ受ケタル者ヲ其動産ノ預リ人ト爲スコトヲ得可シ若シ又收納物ヲ差押フル時ハ前章第九章ノ規則ニ從テ可シ

第八百二十二條 凡ソ債主ハ其債ノ證書ヲ有シタル時ト雖モ初告裁判所ノ上席人又ハ治安裁判役ノ允許ヲ得タル上別ニ要決ノ書ヲ送ルニ及ハスシテ他ノ地ヨリ來レル負債者ヲ爲ル其邑内ニ在ル動産ヲ差押フルトテ得可シ

第八百二十三條 其差押ヘタル動産其差押ヲ爲シタル者ノ手元ニアル時ハ其者自ラ其預リ人ヲ定ム可シ

第八百二十四條 此章ニ記スル差押ノ法ニ適シタル言渡ヲ得タル上ニ非レハ其差押ヘタル動産ヲ賣拂フ可カラス  
○第八百二十一條ノ場合ニ於テハ差押ヲ受ケタル者又第八百二十三條ノ場合ニ於テハ差押ヲ爲シタル者又別ニ預リ人ニ定メタル時ハ其預リ人必ス其預ル所ノ動産ヲ引渡ス可シ若シ之ヲ引渡テ、ルニ於テハ禁錮ヲ受ケ可シ  
第八百二十五條 其他ノ諸件ニ付テハ動産ヲ抵償トシテ差押フル事及ビ其動産ノ賣拂ニ因リ得タル代金ヲ債主數人ニ分派フル事ノ爲メ上篇ニ記シタル所ニ從テ得可シ

○第三章 自己ノ所有ナリト述フル動産他人ノ手ニ在ルヲ取戻ヤントスル爲メ之ヲ差押フル事

第八百二十六條 自己ノ所有ナリト述フル動産他人ノ手ニ在ルヲ取戻ヤントスル爲メ之ヲ差押シトスル者ハ先ツ初告裁判所ノ上席人ニ願書ヲ差押シ其上席人ノ之ヲ允許スル言渡ヲ得タル上ニ非レハ其差押ヲ爲ス可カラス若シ兵隊等ヲ差出シテ允許ヲ得タルコトアリ其差押ヲ爲シタル時ハ之ヲ爲シタル本人並ニ使其相手方本人ニ損失ノ償ヲ爲ス可シ

第八百二十七條 前條ノ差押ヲ爲ス可キ允許ヲ得ントスル願書ニハ其差押シトスル動産ヲ簡略ニ記載ス可シ

第八百二十八條 裁判役ハ法律上ニ定メタル祭日ト雖モ同上ノ動産差押ヲ爲スコトヲ許ルヌコトヲ得可シ

第八百二十九條 一方ノ者他人ノ所有スル動産ヲ已レノ所有ナリト述ヘテ之ヲ取戻ス可キ爲メ差押ヲ爲サントスル時現ニ之ヲ有スル者其門戸ヲ開クコトヲ肯マス又ハ其差押ヲ承諾セザル時ハ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人ニ訴ヘ至感吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ケ可シ但シ其吟味ノ間ハ差押ヲ猶豫ス可シト雖モ其差押ヲ爲サントスル者其門戸ノ前ニ番人ヲ附ケ置ク可シ

第八百三十條 此章ニ記シタル動産差押ヲ爲スノ法式ハ上篇第八章ニ記シタル所ノ動産差押ヲ爲ス時ト同一



タル可シ

第八百三十一條 此章ニ記シタル動産差押ノ法ニ適シトシテノ言渡ヲ得ントスル訴ハ其差押ヲ受クル者ノ住所ノ地ヲ管轄スル初告裁判所ニ申出ス可シ若シ又既ニ為シタル主タル訴ヲ為サントスル時ハ此充其主タル訴訟ヲ吟味スル裁判所ニ其訴ヲ申出ス可シ

○第四章 負債者其債ノ償フカ為メ其不動産ヲ質押シタル時債主更ニ高價ニ之ヲ質押ハントスルヲ再ビ之ヲ質賣ニ為ス事

第八百三十二條 民法第二百八十三條ニ記シタル如ク負債者ノ不動産ヲ買入レタル者ヨリ其賣主ノ債主ニ送達ス可キ報告書並ニ民法第二百八十五條ニ記シタル如ク其債主同上ノ不動産ヲ更ニ高價ニ質押ハンカ為メ再ビ之ヲ質賣ニ為ス事ヲ訴フル旨ヲ其不動産買入人ニ報告スル書面ハ別段之ヲ相違スル使吏ヲ任ス可キヲ初告裁判所ノ上席人ニ願フタル上其上席人其使吏ヲ任ス可シ但シ其三通ノ報告書ハ買入人及ビ債主更ニ高價ニ賣ル可キ為メ再質賣ニ為サントスル訴ヲ為ス裁判所ニ於テ代書師ニ任シタル旨ヲ附記ス可シ 又債主其負債者ノ賣リ押シタル不動産ヲ再ビ質賣ニ為ス旨ヲ訴フル旨ヲ其買入人ニ報告スル書面ニハ其訴ヲ為ス債主ノ立ントスル保證人ハ姓名住所ヲ附記シ且ツ其買入人ヲシテ其保證人ヲ承諾セシムル旨ヲ三日内ニ其買入人ヲ裁判所ニ呼出ス旨ヲ附記ス可シ但シ其買入人其保證人ヲ承諾セザル時ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判所ニ為ス可シ○債主ヨリ不動産ノ買入人ニ送達スル同上ノ書面ハ其買入人ノ代書師ノ住所ニ送達シ且同上ノ保證人再度ノ質賣ヲ訴フル債主ノ保證人ヲ為ス可キ旨ヲ述フル書面ノ寫ト其保證人其保證スル所ノ金高ヲ償ヒ得可キ產業ヲ有スル證書ヲ裁判所ノ書記官ニ差出シタル旨ヲ記シ書面ノ寫ヲ前記シタル書面ニ添ヘテ買入人ノ代書師ニ送達ス可シ 再度ノ質賣ヲ為サントシテ訴フル債主民法第二百四十一條ニ循ヒ保證人ヲ立ルル旨ハハヤル時保證人ノ為メ金高ヲ官署ニ預ケ又ハ國債ノ證券ヲ官署ニ預ケタル時ハ前項ニ記シタル買入人ニ送達スル報告書ト共ニ其金高又ハ國債ノ證券ヲ官署ニ預ケタル證書ノ寫ヲ送達ス可シ 不動産ノ買入人債主ノ立タル保證人ヲ承諾セザル旨ヲ申述ヘ裁

判所ニテ其申述ノ如ク允許シタル時ハ債主再度ノ質賣ヲ為サントスル訴ノ効ナク買入人其不動産ノ已ニ保有ス可シ但シ此迄再度ノ質賣ヲ訴ヘタル者ヨリ更ニ他ノ債主別ニ其再度ノ質賣ヲ訴ヘタル時ハ特別ナリトス

第八百三十三條 債主中ノ一人前條ニ記シタル如ク負債者ノ不動産買入人ヲ裁判所ニ呼出ス旨ト其不動産ノ再度ノ質賣ニ為サントシテ記シタル書面ヲ其買入人ニ送達シタル時其再度ノ質賣ヲ訴フル債主又ハ不動産ノ買入人其訴ヨリ一月内ニ再度ノ質賣ノ手續ヲ為スコトヲ怠ルニ於テハ自己ノ權利ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等是訴ヲ為シタル債主ノ權ニ代テ再度ノ質賣ノ手續ヲ為スコトヲ訴フル得可シ但シ其權ニ代テ訴ヲ為シタル債主ハ是迄再度ノ質賣ヲ訴ヘタル者ヨリ更ニ他ノ債主其質賣ノ訴ニ干渉スルノ願書ヲ出シ其願書ハ其債主ノ代書師ヨリ是迄訴ヲ為シタル債主ノ代書師ニ送達セシム可シ 又再度ノ質賣ヲ為サントシテ訴ヘタル債主除キ負債者ノ買入人ト謀テ私曲ヲ為スコトアル時又ハ其債主ニ説諭懈怠アル時ハ自己ノ權利ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等是迄訴ヲ為シタル債主ノ權ニ代テ再度ノ質賣ノ手續ヲ為サントシテ訴フル得可シ 前ニ記シタル數箇ノ場合ニ於テ是迄再度ノ質賣ノ訴ヲ為シタル債主更ニ他ノ債主是迄訴ヲ為セシ債主ノ權ニ代テ再度ノ質賣ノ手續ヲ為スト雖モ再度ノ質賣ノ時ニ至リ別ニ買入ントスル者ナキ時ハ是迄訴ヲ為セシ債主其不動産買入ヲ自カラ擔當ス可シ但シ其債主ノ管テ立タル保證人ハ猶其保證ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第八百三十四條 (千八百五十五年三月二十三日廢ス) 民法第二百二十三條第百二十七條第百二十八條ニ記ス所ニ循ヒ書入質ノ權ヲ有スル債主其引當ト為シタル不動産質押ノ前ニ自己ノ權利ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入スルコトナキ時ハ其質押ヨリ後ニ至リ其質押證書ヲ其役所ノ簿冊ニ登記シタルヨリ違フトモ十五日内ニ其債主已ノ權利ヲ其役所ノ簿冊ニ記入シタル證ヲ立テサレハ民法第三篇第十八章第八節ニ記スル所ニ循ヒ不動産ヲ再度ノ質賣ニ為ス可キヲ訴フル得可シ 又不動産ニ付テ特權ヲ有スル債主ニ付テモ亦前項ニ記スル所ト同一ナリトス但此規則ヲ以テ民法第二百八條及第七百九條ニ因リ不動産ノ賣主又ハ遺物相續人ノ得可キ權利ヲ害スルコトナカレ可シ



第八百三十五條 前條ノ場合ニ於テ不動産ノ買入人ハ其買入ノ旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル後ニ自己ノ書質ノ權  
利ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシ債主等ニ民法第二百八十三條及二百八十四條ニ記シタル報告ヲ為スニ及ハ  
ス又如何ナル場合ニ於テモ此等ノ債主法式ニ備ヒ定期内ニ再度ノ糶賣ヲ為スヲ求メサル時ハ不動産買入人民法  
第二百八十六條ニ備ヒ其代金ヲ拂フノ義務アリトス

第八百三十六條 民法第二百八十七條ニ記シタル如ク再度ノ糶賣ヲ為スニハ其手續ヲ為ス債主左件ヲ記シタル  
附屬書ヲ刊刷セシム可シ

第一 不動産賣掛ノ可カラスノ證書ノ日附及ヒ大趣旨若シ又不動産ヲ交換シ又ハ贈遺ト為シタル時ハ其  
交換又ハ贈遺ノ證書ノ日附及ヒ大趣旨並ニ此等ノ證書ノ立合ヲ為シタル證書人ノ姓名及ヒ其他其證書  
ヲ記スルニ管シタル官吏ノ姓名

第二 不動産賣掛ノ價高若シ不動産ヲ交換シ又ハ贈遺ト為シタル時ハ管テ債主等ニ送リタル報告書  
ニ記セシ其不動産ノ價ノ積リ高

第三 糶賣ヲ為スニ付キ債主ノ附ケ直段

第四 不動産ノ以前ノ所有者ノ姓名職業住所買入人ノ交換或ハ贈遺ニ因リ得タル者ノ姓名職業住所是  
迄糶賣ノ手續ヲ為ス債主ノ姓名職業住所若シ又他ノ債主第二百三十三條ニ備ヒ其糶賣ヲ為ス債主ノ權  
ニ代リタル時ハ其代テ糶賣ノ手續ヲ為ス債主ノ姓名職業住所

第五 糶賣ニ為ス不動産ノ種類並ニ其位置

第六 糶賣ノ手續ヲ為ス債主ノ代書師ノ姓名居所

第七 糶賣ヲ許ヘ出シタル裁判所並ニ其糶賣ヲ為ス場所及ヒ日附

此等ノ諸件ヲ記シタル附屬書ハ糶賣ヲ為スヨリ少クトモ十五日前多クトモ三十日前ニ管テ其不動産ヲ所有セシ  
負債者ノ住所ノ門下第六百九十九條ニ記シタル場所トニ之ヲ貼附ス可シ 同上ノ期限内ニ第六百九十六條ニ記

シタル新聞紙ニ右ノ諸件ヲ記入シ且第六百九十八條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル如ク貼附ヲ為シタルトト新  
聞紙ニ記入シタルトトヲ證ス可シ

第八百三十七條 糶賣ノ手續ヲ為ス債主ハ糶賣ヲ為スヨリ少クトモ十五日前多クトモ二十日前ニ管テ不動産ヲ所  
有セシ負債者並ニ其買入人ニ定マリタル日附ニ其糶賣ノ場所ニ未テ立會ヲ為ス可キノ時出狀ヲ送達ス可シ又  
不動産ノ買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ之ヲ得タル者其糶賣ノ手續ヲ為シタル時又ハ是迄其糶賣ノ手續ヲ為シ  
タル者ニ代テ他ノ債主糶賣ノ手續ヲ為シタル時ハ此等ノ者ヨリ是迄其糶賣ノ手續ヲ為セシ債主ニ全上ノ呼出狀  
ヲ送達ス可シ 又同上ノ定期内ニ不動産ノ買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ之ヲ得タル者ハ其買入レノ證書又ハ  
交換或ハ贈遺ノ證書ヲ裁判所ノ書記局ニ納メ其證書ヲ以テ糶賣ノ言渡書ニ換用ス可シ 其糶賣ヲ許ヘタル債主  
ノ附ケ直段ヲ以テ糶賣ノ附ケ直段ト為ス可シ

第八百三十八條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改メ不動産糶賣ヲ許ヘタル債主ハ自カラ其糶賣ノ手續ヲ  
為シタルト他ノ債主之ニ代テ其手續ヲ為シタルトト問ハス其糶賣ノ為メ定メタル日ニ更ニ高價ニテ買入ントス  
ル者ノ出テ来テサル時ハ自カラ其不動産ヲ買入ル可シ 其糶賣ニ付テハ第七百一十一條第七百一十二條第七百一十三條第七  
百一十四條第七百一十五條第七百一十六條第七百一十七條第七百一十八條第七百一十九條第七百二十條第七百二十一條第七百二十二條第七百二十三條第七  
百二十四條第七百二十五條第七百二十六條第七百二十七條第七百二十八條第七百二十九條第七百三十條第七百三十一條第七百三十二條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條第七百四十三條第七百四十四條第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條第七百四十八條第七百四十九條第七百五十條第七百五十一條第七百五十二條第七百五十三條第七百五十四條第七百五十五條第七百五十六條第七百五十七條第七百五十八條第七百五十九條第七百六十條第七百六十一條第七百六十二條第七百六十三條第七百六十四條第七百六十五條第七百六十六條第七百六十七條第七百六十八條第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條第七百七十三條第七百七十四條第七百七十五條第七百七十六條第七百七十七條第七百七十八條第七百七十九條第七百八十條第七百八十一條第七百八十二條第七百八十三條第七百八十四條第七百八十五條第七百八十六條第七百八十七條第七百八十八條第七百八十九條第七百九十條第七百九十一條第七百九十二條第七百九十三條第七百九十四條第七百九十五條第七百九十六條第七百九十七條第七百九十八條第七百九十九條第八百條第八百零一條第八百零二條第八百零三條第八百零四條第八百零五條第八百零六條第八百零七條第八百零八條第八百零九條第八百一十條第八百一十一條第八百一十二條第八百一十三條第八百一十四條第八百一十五條第八百一十六條第八百一十七條第八百一十八條第八百一十九條第八百二十條第八百二十一條第八百二十二條第八百二十三條第八百二十四條第八百二十五條第八百二十六條第八百二十七條第八百二十八條第八百二十九條第八百三十條第八百三十一條第八百三十二條第八百三十三條第八百三十四條第八百三十五條第八百三十六條第八百三十七條第八百三十八條第八百三十九條第八百四十條第八百四十一條第八百四十二條第八百四十三條第八百四十四條第八百四十五條第八百四十六條第八百四十七條第八百四十八條第八百四十九條第八百五十條第八百五十一條第八百五十二條第八百五十三條第八百五十四條第八百五十五條第八百五十六條第八百五十七條第八百五十八條第八百五十九條第八百六十條第八百六十一條第八百六十二條第八百六十三條第八百六十四條第八百六十五條第八百六十六條第八百六十七條第八百六十八條第八百六十九條第八百七十條第八百七十一條第八百七十二條第八百七十三條第八百七十四條第八百七十五條第八百七十六條第八百七十七條第八百七十八條第八百七十九條第八百八十條第八百八十一條第八百八十二條第八百八十三條第八百八十四條第八百八十五條第八百八十六條第八百八十七條第八百八十八條第八百八十九條第八百九十條第八百九十一條第八百九十二條第八百九十三條第八百九十四條第八百九十五條第八百九十六條第八百九十七條第八百九十八條第八百九十九條第九百條第九百零一條第九百零二條第九百零三條第九百零四條第九百零五條第九百零六條第九百零七條第九百零八條第九百零九條第九百一十條第九百一十一條第九百一十二條第九百一十三條第九百一十四條第九百一十五條第九百一十六條第九百一十七條第九百一十八條第九百一十九條第九百二十條第九百二十一條第九百二十二條第九百二十三條第九百二十四條第九百二十五條第九百二十六條第九百二十七條第九百二十八條第九百二十九條第九百三十條第九百三十一條第九百三十二條第九百三十三條第九百三十四條第九百三十五條第九百三十六條第九百三十七條第九百三十八條第九百三十九條第九百四十條第九百四十一條第九百四十二條第九百四十三條第九百四十四條第九百四十五條第九百四十六條第九百四十七條第九百四十八條第九百四十九條第九百五十條第九百五十一條第九百五十二條第九百五十三條第九百五十四條第九百五十五條第九百五十六條第九百五十七條第九百五十八條第九百五十九條第九百六十條第九百六十一條第九百六十二條第九百六十三條第九百六十四條第九百六十五條第九百六十六條第九百六十七條第九百六十八條第九百六十九條第九百七十條第九百七十一條第九百七十二條第九百七十三條第九百七十四條第九百七十五條第九百七十六條第九百七十七條第九百七十八條第九百七十九條第九百八十條第九百八十一條第九百八十二條第九百八十三條第九百八十四條第九百八十五條第九百八十六條第九百八十七條第九百八十八條第九百八十九條第九百九十條第九百九十一條第九百九十二條第九百九十三條第九百九十四條第九百九十五條第九百九十六條第九百九十七條第九百九十八條第九百九十九條第一千條



諾ス可キト否トヲ裁判スル言渡ト共ニ之ヲ裁判シ又糶賣ヲ為ス法式ヲ取消サントスル訴ハ其糶賣ノ前ニ之ヲ裁  
判シ成可キ大ハ其糶賣ノ言渡ト共ニ其訴ヲ裁判ス可シ 負債者ノ糶賣ヲタル不動産ヲ債主更ニ糶賣ト為サント  
スルトニ付キ一方ノ者抗辯シテ受ケタル裁判言渡ハ後ニ其故障ヲ裁判所ニ訴フ可カラズ 不動産ノ買入人債主  
ノ立テタル保證人ヲ承諾ス可キト否トヲ裁判スル前ニ手續ヲ取消サントスル訴ニ付テノ裁判言渡及ヒ其保證人  
承諾ス可キト否トヲ定ムル裁判言渡並ニ糶賣ノ訴ヲ為シタル債主陰ニ負債者又ハ不動産買入人ト謀テ私曲ヲ為  
シタル時又ハ其債主ニ説偽アル時他ノ債主其債主ニ代テ糶賣ノ手續ヲ為サントスル訴ヲ裁判スル言渡ハ之ヲ控  
訴スルト得可ク糶賣ニ付テノ其他ノ裁判言渡ハ之ヲ控訴スルト得可ク負債者ノ糶賣ヲタル不動産ヲ債主糶  
賣ニ為シテ之ヲ買入ル者アル時又ハ其債主自カテ之ヲ買入レタル時更ニ之ヲ糶賣ニ為ス可カラズ 負債者ノ  
糶賣ヲタル不動産ヲ債主糶賣ニ為シ之ヲ買入レタル者アル時以前ノ債主ト前ナル買入人トニ付キ第七百十  
七條ノ規則ニ備ヒ其効ヲ定ム可シ但シ其糶賣ノ言渡ノ後其不動産ニ付テノ法律上ノ書入債ノ權ノ記入ヲ未タ添  
掃セサル時ハ隨意ノ糶賣ノ時ノ如ク之ヲ掃掃ス可シ且法律上ノ書入債ノ權利ヲ有スル債主ノ權ハ第七百七十二  
條ノ終項ニ記シタル如ク處置ス可シ

○第五章 證書類ノ寫書ヲ得ル手續又ハ證書類ノ更改セシムル手續

第百三十九條 證書人又ハ其他證書ノ簿冊ヲ預ル者其證書ニ管條アル本入又ハ其遺物相續人又ハ其代權人ニ其  
證書ノ寫書ヲ渡スルヲ肯セサル時ハ其寫書ヲ得ント願フ者初告裁判所ノ上席人ノ允許ヲ得タルト別ニ勸解ノ式  
ヲ行フトナク急速ニ其預リ人ノ裁判所ニ呼出シ其預リ人其寫書ヲ渡スルヲ肯セサルノ道理ナキ時ハ之ヲ渡ス可  
キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ肯セサルニ於テハ禁錮ヲ受ケ可シ

第百四十條 前條ノ裁判ヲ為スニハ急速吟味ノ法式ヲ用フ可シ且抗傳者故障ヲ申立テ又ハ負訴訟ノ者控訴ヲ為  
スニ管セス其裁判言渡ノ如ク執行ヲ可シ

第百四十一條 官署ノ簿冊ニ記セサル證書ノ寫書又ハ完全セサル證書ノ寫書ヲ得ント欲スル者ハ初告裁判所ノ

上席人ニ其願書ヲ差出ス可シ但シ此場合ニ於テハ證書類ヲ簿冊ニ登記スルニ付テノ別段ノ規則ノ如ク執行可シ  
第百四十二條 別段ノ道理アル時ハ前條ニ記シタル願書ノ末ニ裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ附記シ其言渡ニ從ヒ證  
書ノ寫書ヲ渡ス可シ且此場合ニ於テハ渡シタル寫書ノ末ニ其旨ヲ附記ス可シ

第百四十三條 前條ノ場合ニ於テ証書人又ハ證書ノ預リ人寫書ヲ渡スルヲ肯セサル時ハ之ヲ初告裁判所ノ上席  
人ニ訴出シ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受ケ可シ

第百四十四條 證書類最初ノ寫書此寫書ヲ以テ證明ト爲シ債主其負債者ノヲ失フタルニ因リ更ニ其寫書ヲ得ント  
欲スル者又ハ書ヲ受取リタル寫書ヲ納メ更ニ他ノ寫書ヲ得ント欲スル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書

面ヲ差出ス可シ○此願書ヲ為ス者ハ裁判所ノ上席人ノ允許ヲ得タル上ニテ定マリ日刻ニ其再度ノ寫書ヲ渡ス可キ

トテ證書人ニ要メ且其證書ニ管スル者ニ其寫書ヲ渡ス時立會ヲ為ス可キノ要ヲ為ス可シ但シ再度ノ寫書ニハ裁

判所上席人ノ言渡ノ旨ヲ附記シ若シ負債者既ニ其債ノ一部ヲ還シタル時ハ其殘高ヲ附記シ又ハ債主其代金ノ一

部ヲ他人ニ譲リ與ヘタル時ハ其譲リ與ヘタル貸金ノ高ヲ附記ス可シ

第百四十五條 前條ノ寫書ヲ渡スルニ付キ争ノ起ル時ハ之ヲ訴出シ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受ケ可シ

第百四十六條 訴ヲ為ス者己レノ管セサル證書類ノ寫書ヲ其訴訟ノ時間ニ得ント欲スル時ハ次手續ヲ為ス可シ

第百四十七條 前條ニ記シタル如ク他人ノ證書類ノ寫書ヲ得ル為メコトムビルソワルノ調書証書人等ニ願人ニ註

ル言渡ヲ得ント欲スル者ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其寫書ヲ得ルコトノ承諾ヲ得ント求ムル書ヲ送ラシメ

若シ其承諾ヲ得サル時ハ其代書師ヨリ彼代書師ニ裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キノ招書ヲ送ラシメ其他ノ手續ヲ為

スコトナク急速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ケ可シ

第百四十八條 前條ノ裁判言渡ハ抗傳者其故障ヲ申立テ又ハ之ニ服セサル者控訴ヲ為スニ管セス其言渡ノ如ク

執行ヲ可シ

第百四十九條 證書人又ハ證書類ノ預リ人ハコトムビルソワルノ調書又ハ對抗ノ調書ヲ記シ且必要ナル寫書ヲ渡

ス可キト否トヲ裁判スル言渡ト共ニ之ヲ裁判シ又糶賣ヲ為ス法式ヲ取消サントスル訴ハ其糶賣ノ前ニ之ヲ裁



ス可シ但シ其寫書ヲ渡ス可キヲ言渡シタル裁判所ニテ其裁判役中ノ一人又ハ其他ノ初告裁判所ノ裁判役一人  
又ハ前ニ記シタルモノニアラサル證書人ヲシテ此等ノ諸事ヲ為サシム可キヲ別段定メタル時ハ格別ナリトス  
第百五十條 何レノ場合ニ於テモ前數條ニ記シタル證書ニ管スル者ハ證書ヲ記スル時其立會ヲ為シ其相當ト思  
料スル所ヲ申述ヘテ之ヲ其調ニ記スルヲ得可シ

第百五十一條 證書ノ正本ヲ預カル者未ダ其正本ヲ記シタル謝金及ヒ費用ヲ受取ラサル時ハ其寫書ヲ得ント求  
ムル者ヨリ其寫書ノ謝金ト書テ其正本ヲ記シタル謝金及ヒ費用トヲ受取ラサル内ハ其寫書ヲ渡スヲ肯セサル  
ヲ得可シ

第百五十二條 寫書ヲ其正本ト對校ヒント欲スル者ハ其證書ノ預リ人ヲシテ其正本ヲ讀上ケシノ自カラ其寫書  
ヲ校檢ス可シ若シ其對校ヲ為ス者寫書ト正本ト差違アルヲ示シテハ調書ニ記シタル日ニ裁判所ノ上席人ニ  
至急吟味ヲ願上出席人其對校ヲ為ス可シ但シ此レカ爲メ證書ノ預リ人其正本ヲ持來ル可シ 調書ノ費用並ニ預  
リ人ノ其正本ヲ持來ル費用ハ對校ヲ願フ者之ヲ先拂ニ爲ス可シ

第百五十三條 裁判所ノ書記官及ヒ公ケノ簿冊ヲ預カル者ハ何人ニ限ラズ總テ願ヒ出ル者ニ相當ノ謝金ヲ得タ  
ル上ニテ證書ノ寫書ヲ渡ス可シ但シ此場合ニ於テハ別段裁判所ノ言渡ヲ要スルヲナシ若シ其書記官及ヒ公ケノ  
簿冊ヲ預カル者寫書ヲ渡スヲ肯セサル時ハ預リ人ニ損失ノ償ヲ拂フ可シ

第百五十四條 裁判言渡書ノ再度ノ寫書ハ 裁判言渡ノ如ク執行フ 其言渡ヲ為シタル裁判所ノ上席人ノ言渡アル  
ニ非サレハ同一ノ人ニシテ之ヲ渡ス可カラズ 公證人ノ記シタル證書ノ再度ノ寫書ヲ渡スヲニ付キ前ニ定メタ  
ル法式ハ裁判言渡書ノ再度ノ寫書ヲ渡スヲニモ亦通シテ用フ可シ

第百五十五條 身上證書ヲ改メント欲スル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ願書ヲ差出ス可シ

第百五十六條 其願ヲ吟味スルニハ別段掛リ裁判役ヲ任シ裁判所ニテ其掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説トヲ聽  
キタル上ニテ裁判ヲ為ス可シ○又裁判所ニ於テハ其時ノ模様ニ從ヒ身上證書ニ管係アル數人ヲ呼出ス可キヲ及

ヒ其以前ニ親族會議ヲ召集ム可キヲ言渡スヲ得可シ 身上證書ニ管係アル數人ヲ呼出ス可キ時ハ別ニ勸解ノ  
式ヲ為スヲナク呼出狀ヲ送達ス可シ 若シ又其管係アル數人ノ者既ニ訴訟ニ管シタル時ハ代書師ヨリ代書師ニ  
招書ヲ送ラシメテ其管係アル者ヲ呼出ス可シ

第百五十七條 簿冊ニ記シタル身上證書ハ之ヲ書キ改ム可カラズ身上證書ノ官吏ハ改更ノ言渡書ヲ受取タル後  
直ニ之ヲ簿冊ニ記入シ且改更ス可キ端ニ其旨ヲ附記ス可シ然ル上ハ其官吏改更シタル所ヲ記入セムシテ證書  
ノ寫書ヲ渡ス可カラズ若シ之ヲ渡シタル時ハ損失ヲ受ケル者ニ相當ノ償ヲ為ス可シ

第百五十八條 身上證書ヲ更改セント訴フル者ノ外別ニ其管係アル者ナキ場合ニ於テ其者裁判所ノ言渡ニ服セ  
ス控訴セント欲スル時ハ其言渡ヨリ三月内ニ控訴院ノ上席人ニ願書ヲ差出シテ控訴ヲ為ス可シ但シ控訴院ニ於  
テハ其願書ニ檢察官ノ説ヲ聽キタル上ニテ其裁判ヲ為ス可キ附記ス可シ

第百五十九條 民法第百十二條ニ記シタル場合ニ於テ裁判所ノ言渡ヲ得ント欲スル者ハ裁判所ノ上席人ニ願書  
ト其證書類トヲ差出シ上席人其願書ヲ受取リタル上別段定メタル日ニ申立ヲ為ス可キ掛リ裁判役ヲ任ス可シ但  
シ裁判言渡ヲ為スニハ檢察官ノ説ヲ聽ク可シ

第百六十條 民法第百二十條ニ記シタル如ク失踪者ノ財産ヲ假リニ所有ト為サントスル時モ亦前條ヲ手續ナシ  
○第百六十一條 婚姻シタル者訴訟ヲ為サント欲スル時裁判所ヨリ其訴訟ヲ為スノ允許ヲ受タル手續

第百六十二條 裁判所ノ上席人ニ願書ヲ差出シ其上席人ハ定メリシ日ニ夫ヲシテ其承諾ヲ為サハルノ趣意ヲ述ヘ  
シムル爲メ之ヲ裁判役會議ノ室ニ呼出ス可キヲ其婦ニ允許ス可シ

第百六十三條 裁判所ニテ夫ノ申立ヲ聽キタル上又ハ夫ノ出席セサル上ニテ檢察官ノ説ヲ聽キ婦ノ訴訟ヲ為ス  
ノ允許ヲ得ントスル訴ヲ裁判ス可シ



第百六十三條 夫失踪ノ思度ヲ受タル時又ハ夫ノ失踪ヲ公告シタル時訴訟ヲ為スノ允許ヲ得ント欲スル婦ハ裁判所ノ上席人ニ願書ヲ出シ其上席人ハ其旨ヲ檢察官ニ報告スルコトヲ言渡シ且定リシ日ニ申立ヲ為サシムル為メ掛リ裁判役ヲ任ス可シ

第百六十四條 沿岸ノ禁ヲ受ケタル者ノ婦ハ前條ニ記シタル法式ニ循ヒ訴訟ヲ為スノ允許ヲ願フ可シ但シ其婦ハ其願書ニ添ヘテ其夫ノ沿岸ノ禁ヲ受ケタル言渡書ヲ出ス可シ

○第八章 夫婦財産ヲ分ツ事

第百六十五條 婦其夫ト財産ヲ分ダントスル訴ヲ為スニハ先ツ裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ求ムル願書ヲ出シ其允許ヲ得タル上ニテ其訴ヲ為ス可シ○上席人ハ其允許ヲ為ス前ニ相當ノ説諭ヲ為スコトヲ得可シ

第百六十六條 裁判所ノ書記官ハ別段聽訟ノ室ニ具ヘ置キタル懸帖ニ遵延ナク左件ヲ記シタル婦ノ訴書ノ拔書ヲ記入ス可シ

第一 訴ノ日附

第二 夫婦ノ姓名職業住所

第三 婦ノ任シタル代書師ノ姓名住所但シ其代書師ハ訴ヲ為シタルヨリ三日内ニ書記官ニ其訴書ノ拔書ヲ記入可シ

ヲ出入可シ

第百六十七條 前條ニ記シタル訴書ノ拔書ハ商法裁判所ノ聽訟ノ室及ヒ初告裁判所ノ代書師取締人ノ役所並ニ証書人ノ役所ニ具ヘタル懸帖ニ記入ス可シ但シ之ヲ記入シタル旨ハ裁判所書記官ト代書師取締人役所ノ書記官ト証書人ノ役所ノ書記官トニテ之ヲ證ス可シ

第百六十八條 又前條ニ記シタル拔書ハ婦ノ求ニ從ヒ裁判所所在ノ地ニテ刊行スル新聞紙ニ記入ス可シ若シ又裁判所所在ノ地ニ新聞紙ナキ時ハ其州内ニテ刊行スル新聞紙ニ記入ス可シ 其記入ヲ為シタル旨ハ第百六十九條ニ記シタル如ク之ヲ證ス可シ

第百六十八條 總テ婦ノ權利ヲ保護スル為メノ言渡ヲ除クノ外夫婦財産ヲ分ツ訴ニ付キ前數條ニ記シタル法式ヲ行フクルヨリ一月ノ後ニ非レハ其裁判ノ言渡ヲ為ス可カラズ若シ其法式ヲ行ハサル時ハ夫又ハ其債主ヨリ婦ノ財産ヲ分ツ訴ヲ取消サント訴フルコトヲ得可シ

第百七十條 夫ノ債主アヲナル時ト雖モ夫ノ自認ヲ以テ婦ノ訴ノ如ク允許ス可キノ證ト為ス可カラズ

第百七十一條 夫ノ債主ハ婦ノ財産ヲ分ツ確定ノ裁判言渡アル時ニ至ル迄其代書師ヨリ婦ノ代書師ニ招書ヲ送シレメ婦ノ財産ヲ分ツ訴書及ヒ之ニ添フ可キ證書類ヲ受取ラント求ムルコトヲ得可シ又己レノ權利ヲ保護スル為メ夫婦ノ訴ニ管渉スルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ勸解ノ式ヲ為スニ及ハス

第百七十二條 夫婦財産ヲ分ツ裁判言渡書ハ其言渡ヲ為ツル裁判所ノ管轄地内ニ商法裁判所アル時ハ其商法裁判所ノ吟味ノ席ニテ公ケニ之ヲ讀上ケ且其言渡ノ日附之ヲ為シタル裁判所並ニ夫婦ノ姓名職業住所ヲ附記シタル其言渡書拔書ヲ懸帖ニ記入シ又夫ノ商人タルト否トヲ問ハス其住所ノ初告裁判所ノ聽訟ノ室ト商法裁判所ノ聽訟ノ室トニ一年間其懸帖ヲ掲ケ置ク可シ若シ其住所ノ地ニ商法裁判所ノアラサル時ハ其住所ノ邑ノ官署ノ公堂ニ掲ケ置ク可シ○又代書師取締人ノ役所及ヒ証書人ノ役所ノ懸帖ニ同上ノ言渡書ノ拔書ヲ記入ス可シ○婦ハ前ニ記シタル法式ヲ行ヒシ日ノ後ニ非レハ言渡書ノ如ク執行ヲ行フコトヲ取掛ル可カラズ然レモ同上ノ一年ノ期限ノ終ルヲ必スシメ待マニ及ハス 此條ノ規則ヲ以テ民法第四百四十五條ニ記シタル規則ノ害ヲ為ス可カラズ

第百七十三條 此章ニ記シタル法式ヲ行フタル上ハ前條ニ記シタル期限ノ終リシ後夫ノ債主其訴ニ管渉シテ財産ヲ分ツ言渡ヲ取消サント訴フルコトヲ得可シ

第百七十四條 婦是レ迄夫ト共通シタル財産ヲ分ダタル上其財産ヲ拋棄スル旨ハ其財産ヲ分ツ訴ヲ為シタル裁判所ノ書記官ニ之ヲ申出ス可シ

○第九章 夫婦居ヲ分ツ離婚ノ事

第百七十五條 夫婦互ニ居ヲ分ツトスル訴ヲ為サント欲スル者ハ其訴ヲ為ス原由ヲ簡略ニ記シタル願書ヲ其



佐所ノ初告裁判所ノ上席人ニ差出ス可シ又其訴ヲ為スニ付キテハ證書アル時ハ其證書ヲモ差出ス可シ  
第百七十六條 初告裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢視シタル上ニテ別段定メタル日ニ夫婦共ニ己レノ面前ニ出席  
ス可キトテ言渡ス可シ

第百七十七條 夫婦共ニ自ラ裁判所ノ上席人ノ面前ニ出席ス可ク代書師又ハ代官人ヲ伴行ス可カラズ

第百七十八條 裁判所ノ上席人ハ夫婦ヲ和解シタル為メ相當ト思料スル件ヲ討論シ若シ和解シタルを得  
タルハ双方和解スルヲ得タルニ因リ更ニ治安裁判役ノ面前ニ出テ勸解ノ式ヲ為スニ及ハス直ニ初告裁判所  
味ノ席ニ出ツ可キトテ許ルモ言渡ヲ為シ且其上席人ハ婦ニ自カラ訴ヲ為スヲ許ルモ言渡ヲ為シ且其婦ヨリテ及方  
協議シテ定メタル家屋又ハ其上席人ノ定タル家屋ニ仮リニ轉居マシムル旨トテ言渡シ又婦ノ日用品ヲ婦ニ渡ス  
可キ旨ヲ言渡ス可シ○婦ノ養料ヲ得テト求ムル訴ハ裁判所味ノ席ニ之ヲ為ス可シ

第百七十九條 夫婦居テ分テ訴ハ他ノ訴ト同様ノ法式ヲ以テ吟味シ檢察官ノ説ヲ聽キル上ニテ之ヲ裁判可シ  
第百八十條 夫婦居テ分テ訴ノ如ク允許スル裁判言渡書ノ寫ハ第百七十二條ニ記シタル如ク裁判所聽訟ノ室  
ト代書師取締役ノ役所ト證書人ノ役所トニ具ヘタル懸帖ニ記入ス可シ

第百八十一條 離婚ノ訴ハ民法ニ記シタル如ク之ヲ為ス可シ

○第十章 親族會議ノ決定

第百八十二條 若シ後見人トナル可キ者ヲ其在テアル所ニテ其職ニ任シタル時ハ親族會議中ヨリ別段積ミタル  
者其旨ヲ後見ノ職ニ任シタル者ニ報告ス可シ但シ其報告ハ親族會議ノ決定ヨリ三日内ニ之ヲ為ス可ク且其會議  
ノ場所ト後見ノ職ニ任シタル者ノ住所トノ間路程三リリノ内ニ其期限ニ一ヨリ増ス可シ

第百八十三條 親族會議ニ數説アル時ハ其各員ノ説ヲ調書ニ記ス可シ 後見人後見人ノ監察者會財人又ハ親族  
會議ノ各員ハ會議ノ決定ニ服マシテ裁判所ニ訴出スルヲ得可シ但シ其訴ハ會議員中ニテ其決定ヲ可ク  
トシタル者ニ對シテ之ヲ為ス可ク別段勸解ノ式ヲ為スニ及ハス

第百八十四條 其訴ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判可シ

第百八十五條 親族會議ノ決定ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ルノ必要ナル時ハ決定書ノ寫ヲ裁判所ノ上席人ニ差  
出シ其上席人ハ之ヲ檢察官ニ報告ス可キ旨ヲ言渡シ且別段定メタル日ニ申立ヲ為ス可キ旨ヲ掛裁判役任可シ

第百八十六條 檢察官前條ニ記シタル上席人ノ言渡書ノ未ニ其説ヲ附記シ又裁判所ニテ親族會議ノ決定ノ如ク  
允許スル言渡ハ檢察官ノ説ヲ記シタル次ニ之ヲ附記可シ

第百八十七條 若シ後見人又ハ其他親族會議ノ決定ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ント訴ヲ可キ者其決定ニテ定メ  
ル期限内ニ其訴ヲ為シタル時又ハ其決定ニテ別ニ期限ヲ定メタルトキハ十五日内ニ其者其訴ヲ為シ  
時ハ會議員中ノ者ヨリ後見人又ハ裁判所ノ允許ヲ得ント訴ヲ可キ者ニ對シテ訴訟ヲ為シ自カラ其允許ヲ乞フ可  
シ但シ後見人又ハ其他裁判所ノ允許ヲ得ント訴ヲ可キ者ハ己レノ受ケタル訴訟ノ費用ヲ擔當ス可ク幼者ヨリ之  
ヲ取還ス可カラズ

第百八十八條 親族會議ノ員中ニテ其決定ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ルヲ可キ者ハ其允許ヲ得ルノ訴  
ヲ為ス可キ者ニ裁判所外ニテ記シタル書面ヲ以テ其旨ヲ報告シ若シ其呼出テ受ケルコトナク裁判所ニテ允許ヲ為  
スノ言渡ヲ為シタル時ハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ

○第十一章 治産ノ禁ヲ受ル事

第百九十條 治産ノ禁ヲ受ケントスル訴ヲ為スニハ白癡癩疾狂疾ノ模樣ヲ記シタル願書ヲ初告裁判所ノ上  
席人ニ差出シ又之ニ添テ可キ證書類アル時ハ之ヲ添ヘテ差出シ且證人ノ姓名ヲ申述フ可シ

第百九十一條 裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢察官ニ送達シ且別段定メタル日ニ申立ヲ為シ可キ掛リ裁判役任可シ

第百九十二條 裁判所ニ於テハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説トヲ懸タル上ニテ民法第一編第十卷第二章第四  
款ニ記シタル如ク集會シタル親族會議ヲシテ治産ノ禁ノ訴ヲ受ケタル者ノ景狀ニ付キ其説ヲ述ヘンム可キトテ



言渡ス可シ

第八百九十三條 第八百九十條ニ記シタル願書ト親族會議ノ決定書トハ被告人ノ問糾ヲ為ス前ニ之ヲ被告人ニ送達シ置ル可シ 若シ被告人ノ問糾ト第八百九十條ニ記シタル願書トノミニテハ猶十分其景状ヲ了知スルヲ得スシテ證人ヲ以テ其景状ヲ了知スルヲ得可キ時ハ通例ノ式ニテ證人吟味ヲ為ス可キヲ裁判所ヨリ言渡ス可シ 若シ別段已ムヲ得ザル事情アル時ハ被告人ノ在ラザル所ニテ其證人吟味ヲ為ス可キヲ裁判所ヨリ言渡ス可シ得可シ但シ此場合ニ於テハ被告人ノ代理人其名代トシテ出席スルヲ得可シ

第八百九十四條 被告人治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケテ之ヲ服マヌシテ控訴スル時ハ是迄ノ原告人ニ對シテ其控訴ヲ為ス可シ 又其原告人又ハ親族會議ノ員中ノ者初告裁判所ノ言渡ニ服マヌシテ控訴スル時ハ是迄ハ被告人ニ對シテ其控訴ヲ為ス可シ 裁判所ヨリ別段補佐人民法第四百九十九條見合ヲ任シタル時被告人之ニ服マヌシテ控訴ヲ為ス時ハ是迄ノ原告人ニ對シテ其控訴ヲ為ス可シ

第八百九十五條 治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人其言渡ヲ控訴スルヲキ時又ハ控訴ヲ為スト雖モ自訴訟トナルキハ前章ニ記シタル規則ニ循ヒ其後見人並ニ後見人ノ監察者ヲ任ス可シ 此場合ニ於テハ民法第四百九十七條ニ循ヒ任シタル假リノ財産支配人其職ヲ止メ後見人ニ算計ヲ為ス可シ但シ其支配人自カラ後見ノ職ニ任シタル時ハ格別ナリトス

第八百九十六條 治産ノ禁ノ免ル、トテ願フ訴ハ治産ノ禁ノ訴ト同様ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ且之ヲ裁判ス可シ 第八百九十七條 裁判所ヨリ任シタル補佐人ノ立會ヲ得ザレハ訴訟ヲ為シ又ハ和解ヲ為シ又ハ金高ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取テ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動産ヲ賣拂ヒ及ビ附與シ又ハ書入債ト為ス等ノ諸事ヲ為ス可カラズ 禁ノ言渡書民法第四百九十九條見合ハ民法第五百一條ノ法式ヲ以テ之ヲ附屬ス可シ

○第十二章 負債者其債ヲ償フコト能ハサル時其財産ヲ拋棄スル事

第八百九十八條 民法第二百六十八條ニ記シタル如ク裁判所ノ言渡ニ因リ財産拋棄ヲ為スコトヲ得可キ負債者ハ

訴訟法 一八一

其拋棄ノ訴ヲ為シメル裁判所ノ書記局ニ其者ノ人ヨリ得可キ債務ト其負債トノ目録書及ビ商業ノ簿冊アルニ於テハ其簿冊並ニ其者ノ人ヨリ得ヘキ諸件ノ證書ヲ差出スヘシ

第八百九十九條 負債者ハ其任所ノ裁判所ノ前條ノ訴ヲ為ス可シ

第九百條 同上ノ訴ハ檢察官ニ報告ス可シ但シ其訴ヲ為シタルト雖モ裁判役此訴ニ管係アル者ヲ呼出シタル上總テ其他ノ訴訟ヲ全ク停止スヘキ旨ヲ言渡シタルニ非サレハ其他ノ訴訟ヲ停止ス可カラズ

第九百一條 財産拋棄ノ允許ヲ得タル負債者ハ其任所ノ商法裁判所聽訟ノ席ニ於テ自高出高シ其債主ヲ呼出シメル上ニテ其財産拋棄ノ旨ヲ更ニ再度申述ヘ若シ其負債者任所ノ地ニ商法裁判所アラザル時ハ其任所ノ邑ノ官署ニテ同上ノ申述ヲ為スヘシ但シ邑ノ官署ニ於テ其再度ノ申述ヲ為シタル時ハ邑長ノ姓名ヲ自署シタル使吏ノ調書ヲ以テ負債者再度ノ申述ヲ為シタル旨ヲ證ス可シ

第九百二條 若シ負債者既ニ其負債ノ為メニ禁錮ヲ受ケタル時其財産ヲ拋棄シテ負債ヲ免ル、ノ言渡ヲ得ザルニ於テハ負債者ヲシテ前條ノ如ク其再度ノ申述ヲ為サシムル為メ其負債者ノ禁錮ヲ放免スル旨ヲ其言渡書ニ附記スヘシ但シ此場合ニ於テ負債者ノ走脱ヲ防ク為メ相當ノ處置ヲ為スヘシ使吏ヲシテ其債主ヲ監察マシムルヲ云フ

第九百三條 負債者ノ任所ヲ管轄スル商法裁判所又ハ其裁判所ニ代テ職務ヲ行フ初告裁判所ノ聽訟ノ宣ノ邑ノ官署ノ會議ノ室トニ具ヘタル願書ニ其負債者ノ姓名職業居所ヲ記入ス可シ

第九百四條 負債者ニ財産拋棄ヲ允許スル言渡書ハ債主ニ負債者ノ動産及ビ不動産ヲ賣渡人トテ許シタルノ効アル書面ナリト看做スヘシ但シ其賣拂ヲ為ス方法ハ相續シタル財産ノ價高二至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ有スル遺物相續人ノ為メタル方法第九百八十六條以下見合ト同シカル可シ

第九百五條 外國人ヲテリヲナシノ罪アル者民法第二百五十九條見合セ詐偽アル倒産人盜罪又ハ偽テ金ヲ竊取スルノ罪ヲ犯セシ者算計ヲ為スヘキ者後見人財産ノ支配人財産ノ預り人ハ財産拋棄ヲ為シテ禁錮ヲ免ル可シ

第九百六條 此章ノ規則ハ方今ニ至ル迄別段更改シタルヲナキ商法ノ規則ノ書トナル可ラス



○第二章 遺物相續ヲ始ムルニ付テノ手續千八百六六年四月二十八日決定五月八日布告

○第一章 死者ノ財産ニ封印ヲ為ス事

第九百七條 死者ノ財産ニ封印ヲ為ス可キ事アル時ハ治安裁判役之ヲ為シ又其裁判役ニキサル時ハ其代人之ヲ為スヘシ

第九百八條 治安裁判役又ハ其代人其封印ヲ為スニ付テハ別段ノ印形ヲ用ヒ之ヲ預リ置ク可シ但シ其印紙ヲ被告裁判所ノ書記局ニ納メ置ク可シ

第九百九條 左ニ記列スル所ノ各人ハ死者ノ財産ニ封印ヲ為スヲ求ムルコトヲ得可シ

第一 死者ノ遺物財産ヲ得可キノ權アリト述フル者又ハ死者ト共通シタル財産ヲ得可キ權アリト述フル者

第二 裁判言渡ノ如ク執行フヘキ證書ヲ有スル死者ノ債主又ハ被告裁判所ノ上席人或ハ死者ノ財産所在ノ縣ノ治安裁判役ヨリ別段ノ允許ヲ得タル死者ノ債主

第三 死者ノ配偶者及ヒ其遺物相續人ノアラサル時ハ死者ノ同居人及其從者僕婢

第九百十條 死者ノ遺物財産ヲ得可キ權アリト述フル者又ハ死者ノ債主ハ幼年ナリト雖モ既ニ後見ヲ免レタルニ於テハ管財人ノ立合ナクシテ死者ノ財産ニ封印ヲ為スヲ求ムルコトヲ得可シ 若シ同上ノ者未ダ後見ヲ免レサル幼者ニシテ其後見人ナク又ハ其後見人不在ナル時ハ其幼者ノ親族ヨリ死者ノ財産ニ封印ヲ為スヘキコトヲ求ムルヲ得可シ

第九百十一條 左ニ記列スル場合ニ於テハ檢察官ノ求メニ因リ又ハ邑長若クハ其補佐役ノ日立ニ因リ又ハ治安裁判役ノ公務ヲ以テ死者ノ財産ニ封印ヲ為ス可シ

第一 幼者ノ後見人ナクシテ其親族ヨリ封印ヲ為スコトヲ求メサル時

第二 死者ノ配偶者又ハ其遺物相續人中ノ一人不在ナル時

第三 死者公ケノ書類又ハ官金ヲ預ル者タル時但シ此場合ニ於テハ死者預リタル物件ノミニ封印ヲ為ス可シ

第九百十二條 封印ハ財産所在ノ地ノ治安裁判役又ハ其代人ニ非レハ之ヲ為ス可ラス

第九百十三條 埋葬ノ前ニ封印ヲ為ササル時ハ治安裁判役其封印ヲ為ス可キノ求メヲ受ケタル日刻ト其求メ並ニ封印ヲ為スノ遲延シタル理由トヲ證書ニ附記ス可シ

第九百十四條 封印ヲ為スニ付テノ證書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 封印ヲ為シタル年月日時

第二 封印ヲ為スノ趣意

第三 封印ヲ為スコトヲ求ムル者アル時ハ其者ノ姓名職業住所並ニ其者封印ヲ為ス可キ財産所在ノ邑内ニ住セサル時ハ其邑内ニ別段其住所ヲ擇ミタル事

第四 又封印ヲ為スコトヲ求ムル者ナキ時ハ第九百十一條ニ記シタル官吏ノ公務ニ因リ又其求メ或ハ申立ニ因リ封印ヲ為シタル事

第五 封印ヲ為スコトヲ允許スル言渡アル時ハ其言渡ノ旨

第六 死者ノ財産ニ管係アル者封印ヲ為スコトニ付キ裁判所ニ出席シタル事及ヒ其者ノ陳述

第七 封印ヲ為シタル房屋卓子引出シノ箱櫃戸棚等ノ摸樣

第八 封印ヲ為ササル財産ノ簡略ナル記載

第九 封印ヲ為ス時其傷所ニ在ル者自カラ其財産中ノ一物ヲモ竊取シタルナク且他人ノ之ヲ竊取シタルヲ見タルコト又知リタルコトモナキ旨ノ類

第十 封印ヲ為スヲ求ムル者ヨリ其封印ヲ為ス財産ノ預リ人ヲ立テ其預リ人必要ナル身分ナル時ハ之ヲ

其預リ人卜定メタル事又其預リ人必要ナル身分ナラサル時或ハ其預リ人ナキ時ハ治安裁判役其公務ヲ

以テ別段其預リ人ヲ任シタル事



第九百十五條 封印ヲ為シタル錠ノ鍵ハ其封印ヲ除去スルニ至ル迄治安裁判所ノ書記官之ヲ預リ置キ其書記官ハ  
調書ニ其錠ヲ受取リタル旨ヲ記ス可シ此場合ニ於テハ裁判役並ニ書記官ハ其封印ヲ除去スル迄ハ其封印ヲ為シ  
タル財産所在ノ家屋ニ至ル可カラズ若シ此規則ニ背ク時ハ一時其職ヲ行フノ禁ヲ受クヘシ但シ此等ノ官吏別段  
其家屋ニ至ル可キノ求メテ受ケタル上又ハ初告裁判所ノ上席人ノ言渡アル上ニテ其家屋ニ至ル時ハ格別ナリトス  
第九百十六條 治安裁判役財産ニ封印ヲ為ス時遺囑書又ハ其他封印シタル書類ヲ見出シタルニ於テハ其外面ノ模  
様ト其印形ト並ニ其表書アルニ於テハ其表面トヲ證シ其立會人ト共ニ其封紙ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫  
レ且其封印アル書類ヲ初告裁判所ノ上席人ニ送呈ス可キ日判ヲ指示ス可シ但シ此等ノ諸件ハ調書ニ之ヲ記シ立  
會人之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ又立會人其姓名ノ手署ヲ為スヲ欲セサル時ハ其旨ヲ調書ニ附記ス可シ  
第九百十七條 治安裁判役ハ死者ノ財産ニ管係アル者ノ求メニ從ヒ財産ニ封印ヲ為ス前ニ遺囑書ヲ搜シテ之ヲ見  
出シタル時ハ前條ニ記シタル如ク處置ス可シ  
第九百十八條 預定シタル日判ニ至リ別段管係アル者ヲ呼出スニ及ハスレテ治安裁判役封印アル書類ヲ初告裁判  
所ノ上席人ニ送呈シ其上席人之ヲ受取リ其封印ヲ開キテ書類ノ模様ヲ檢査シ若シ其書類中ニ遺物相續ニ管スル  
モノアル時ハ之ヲ証書人ニ預クルトヲ言渡スヘシ  
第九百十九條 若シ封印ヲ為シタル書類其表書ニ因リ又ハ其他書面ノ證據ニ因リ死者ヨリ更ニ他ノ者ニ屬スヘシ  
ト思ハル、時ハ初告裁判所ノ上席人其者ヲ定期内ニ呼出シテ其書類ヲ開封スル時立會人ヲ為サレム可キ旨ハ言渡  
シ其預定シタル日ニ至リ其者ヲ呼出シタル上又ハ之ヲ呼出シテ猶出席セサル上ニテ其書類ヲ開封シ其書類死者  
ノ遺物ニ管セル時ハ初告裁判所ノ上席人其書ニ記シタル所ヲ知ラレムルトナク之ヲ同上ノ者ニ渡シ又ハ其書類  
ニ再ヒ封印ヲ為シ置キ同上ノ者ノ求メ次第早速之ヲ渡ス可シ  
第九百二十條 若シ又遺囑書ニ封印ナキ時ハ治安裁判役其遺囑書ノ模様ヲ檢査シ且第九百十六條ニ記スル所ノ規  
則ニ據リ

第九百二十一條 若シ死者ノ家屋門戸ヲ閉シタル時又ハ其財産ニ封印ヲ為スニ付キ妨アル時又ハ封印ヲ為ス前又  
ハ其間ニ故障ノ起ル時ハ初告裁判所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ○其至急吟味ヲ為ス為メニ  
暫ク封印ヲナストヲ猶豫シ治安裁判役其死者ノ家ノ内又ハ其外ニ番人ヲ備ヘ置キ直ニ其旨ノ初告裁判所ノ上席  
人ニ報告ス可シ 然レモ治安裁判役封印ヲ為スヲ猶豫スル時ハ損害アル可シト思量スルニ於テハ假リニ其旨渡  
ヲ為シ置キ後ニ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人ニ報告ス可シ  
第九百二十二條 財産封印ノ事又ハ其他ノ事ニ付キ治安裁判役ヨリ初告裁判所ノ上席人ニ報告シテ其決ヲ取ルヲ  
求ムル時ハ此等ノ事ニ付キ為シタル諸件及ヒ言渡シタル諸件ヲ治安裁判役ノ書シタル調書ニ記シ初告裁判所ノ  
上席人ハ其言渡ノ旨ヲ其調書ニ附記シタル所ニ姓名ヲ手署ス可シ  
第九百二十三條 既ニ遺物財産ノ目錄書ヲ成就シタル上ハ其財産ニ封印ヲ為スニ及ハス但シ其目錄書ニ付キ故障  
ヲ述フル者アリテ初告裁判所ノ上席人其財産ニ封印ヲ為ス可キトヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス 又目錄書ヲ  
記スル時間ニ封印ヲ為スヲ求ムル者アル時ハ未タ目錄書ニ記セサル物件ノニ封印ヲ為ス可シ  
第九百二十四條 若シ封印ヲ為スニ足ル可キ死者ノ財産ヲラサル時ハ治安裁判役財産ノアラサル旨ヲ調書記ス可  
シ 又死者ノ家ニ居ル者ノ用フル為メ必要ナル物件アル時又ハ封印ヲ為スヲ得サル物件アル時ハ治安裁判役此  
等ノ物件ヲ簡易ニ記列シタル調書ヲ記ス可シ  
第九百二十五條 人口二萬以上ノ邑ニ於テハ初告裁判所ノ書記局ニ死者ノ財産ニ封印ヲ為シタル旨ヲ順序ヲ逐テ  
登記スル簿冊ヲ設ケ置ク可シ但シ其簿冊ニハ其初告裁判所ノ管轄地内ノ治安裁判役封印ヲ為シタルヨリ二十四  
時内ニ報告スル順序ニ循ヒ左件ヲ記ス可シ

- 第一 死者ノ姓名住所
- 第二 封印ヲ為シタル裁判役ノ姓名住所
- 第三 其封印ヲ為シタル日



○第二章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述ル事

第九百二十六條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述フル事ハ封印ヲ為シタル調査ニ之ヲ附記シ又ハ治安裁判所ノ書記官ニ送達スル書面ニ記ス可シ

第九百二十七條 前條ノ故障ヲ述フル書面ニハ通例ノ呼出シ狀ニ記ス可キ諸件ノ外左件ヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其効ナカル可シ

第一 其故障ヲ述フル者其封印ヲ為シタル治安裁判所ノ管轄地内ニ住セサル時別段其地ニ住所ヲ擇ミテ事

第二 其故障ヲ申述フル理由ノ詳明ナル記載

○第三章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スル事

第九百二十八條 死者ノ埋葬ノ前ニ其財産ニ封印ヲ為シタル時ハ其埋葬ノ日ヨリ三日ノ後又其埋葬ノ後ニ其財産

ニ封印ヲ為シタル時ハ其封印ヲ為シタルヨリ三日ノ後ニ非レハ其封印ヲ除去シテ目錄ヲ記ス可カラズ若シ此規

則ニ背ク時ハ其封印除去ノ調査並ニ財産目錄ノ調査ノ効ナク且其調査並ニ目錄ヲ記シタル者及ヒ之ヲ記スル

ヲ求メタル者ハ死者ノ財産ニ管係アル者ニ對シ損失ノ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ別段急速ナルヲ必要

トスル場合ニ於テ初告裁判所ノ上席人同上ノ定期ニ管セシ封印ヲ除去ス可キヲ言渡シ且其急速ナルヲ必要

ナル旨ヲ其言渡書ニ附記シタル時ハ格別ナリトス○此場合ニ於テ封印ヲ除去スルニ立會ヲ可キノ權アル者其立

會ヲ為サ、ル時ハ初告裁判所ノ上席人其公務ヲ以テ別段其者ノ名代人タル可キ證書人一人ヲ任シ其證書人ヲシ

テ其封印ノ除去ヲ為ス時ト目錄ヲ記スル時トニ立會ヲ為サシム可シ

第九百二十九條 若シ死者ノ遺物相續人中ニ未タ後見ヲ免レサル幼者アルハ其幼者ノ後見人ヲ任シ又ハ其幼者

後見人ヲ免レタル後ニ非レハ死者ノ財産ノ封印ヲ除去ス可カラズ

第九百三十條 死者ノ財産ノ封印ヲ為サシムルノ權アル者ハ亦其除去ヲ求ムルノ權アリ但シ第九百九條ノ第三ニ

記シタル者ハ格別ナリトス

第九百三十一條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付テノ法式ハ左ノ如シ

第一 其除去ヲ求ムル事但シ之ヲ求ムル事ハ治安裁判所ノ調査ニ之ヲ記入ス可シ

第二 其除去ヲ為ス可キ日刺ヲ指示ス裁判所ノ官渡書

第三 死者ノ配偶者最近ノ遺物相續人遺囑ノ贈遺ノ管理若シ死者ノ財産ノ全部ヲ遺囑ヲ贈遺トシテ受ク

可キ者其財産ノ別段指定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者其財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故

障ヲ述フル者ニ其除去ノ時立會ヲ為ス可キノ呼出狀ヲ送達スル事

此等ノ管係アル者五ミソノ一以上ノ隔遠ノ地ニ住スル時其本人ヲ呼出スニ及ハス初告裁判所ノ上席人

其公務ヲ以テ此等ノ者ノ名代人トシテ任シタル證書人ヲ任シテ封印ヲ除去スル時ト目錄ヲ記スル時ト立會ヲ為サシム

可シ 封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ハ其別段指定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可シ

第九百三十二條 死者ノ配偶者最近ノ遺物相續人遺囑ノ管理若シ死者ノ財産ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ

者又ハ其財産ノ別段指定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者其財産ノ封印ヲ除去シ又ハ其財産目

録ヲ記スル日毎ニ自カラ立會ヒ或ハ其名代人ヲ任シテ立會ハシムルヲ得可シ 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ

付キ故障ヲ述フル者ハ自カラ出席スルト各自ノ名代人ヲ出ストロ問ハス其封印ヲ除去シ又ハ其財産ノ目錄ヲ

記スル初日ノミニ立會ヲ為スヲ得可ク其後ノ日ニ至テハ數人協議シテ其名代人一人ヲ出ス可シ若シ其數人名

代人一名ヲ擇ムヲ協議セサル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ之ヲ任ス可シ 又其數人ニ代テ封印ヲ除去シ又ハ目錄

ヲ記スル初日ニ立會アル者ノ内ニ其手續ニ管シタル初告裁判所ノ代書師アル時ハ其本人ヨリ受取リタル證書ニ

據テ其名代人タルノ權ヲ授カリタル旨ヲ證シ又公正ノ證書ヲ有スル債主ニ付キ故障ヲ述フル者ノ代書師中ニテ

最モ先キニ其職ニ任セラレタル者其除去ノ故障ヲ述フル者ノ名代人トナリテ常ニ其立會ヲ為シ若シ又債主皆

公正ノ證書ヲ有セサル時ハ私ノ證書ヲ有スル債主ノ代書師中ニテ最モ先キニ任テ受ケタル者其故障ヲ述フル者ノ名代人トナリテ常ニ其立會ヲ為ス可シ○其代書師中ニテ最モ先キニ任テ受ケタル者ヲ定ムルハ封印ヲ除去



シ又ハ目録ヲ記スル初日ニ之ヲ為ス可シ

第九百三十三條 封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ノ中一人ノ權利ト異ナリ又ハ他ノ者ノ權利ト金

ク反シタル時ハ其一人自カラ封印除去ノ時立會ヲ為シ又ハ已レバ費用ヲ以テ其各代人一頁ヲ出ス可シ

第九百三十四條 自己ノ負債者ノ權利ヲ保護スル為メ封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ハ其封印除去ノ初日ト雖

モ立會ヲ為ス可キ得ヌ又其後ノ日ニ於テモ數人共同ノ名代人ヲ撰ムニ管涉スルコトヲ得ヌ

第九百三十五條 死者ノ財産ヲ共通シタル其配偶者死者ノ遺物相續人死者ノ遺囑ノ管理若シテ死者ノ全部ヲ遺

囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者又ハ其財産ノ別段指定ノサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者ハ相協議シテ證書

一人又ハ二人ヲ撰ミ且評價人一人又ハ二人ヲ撰ム可シ若シ又此等ノ者協議セサル時ハ其時ノ撰議ニ因リ初告

裁判所ノ裁判彼其公務ヲ以テ證書人一人又ハ二人或ハ評價人一人又ハ二人ヲ任ス可シ○評價人ハ治安裁判後ノ

面前ニテ撰ヲ為ス可シ

第九百三十六條 封印除去ノ調書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 其封印除去ノ日附

第二 封印ノ除去ヲ求メタル者ノ姓名職業其真ノ住所其別段擇ミタル住所

第三 封印ノ除去ヲ許ルル言渡書ノ六略

第九百三十一條ニ記シタル呼出狀ノ大略

第五 管係アル數人ノ出席ヲ為シタル事及ヒ其申述ヘタル諸件

第六 證書人或ハ評價人ヲ撰ミ又ハ之ヲ任シタル事

第七 封印ニ變更シタル事ナキ時ハ其封印ヲ直正ナリト認ムル事若シ又封印ニ變更シタル事アル時ハ其

變更シタル撰議但シ其變更シタルコトヲ認ムル時ハ其旨ヲ訴ヘ出ス可シ

第八 隱匿シタルノ疑アル物件ヲ探索スル訴ヘ並ニ其探索ノ上其物件ヲ見出シタルヤ否ノ事及ヒ其他裁

封印ノ除去ノ調書

第九百三十七條 封印ハ目録ヲ記スルニ從テ次第ニ之ヲ除去ス可シ但シ此場合ニ於テハ其度毎ニ再ヒ封印ヲ為シ

置テ可シ

第九百三十八條 同種類ノ物件ハ之ヲ合同シ其順序ヲ逐テ次第ニ目録ニ記入ス可シ但シ此場合ニ於テハ其度毎ニ

再ヒ封印ヲ為シ置テ可シ

第九百三十九條 死者ノ財産中ニ其遺物ニ非ヌシテ他人ニ屬ス可キ物件又ハ管領アル時ハ之ヲ其真ノ所有者ニ還

ス可シ若シ又即時ニ之ヲ還ス事ヲ得ヌシテ別段其撰議ヲ管領ノ置テコトノ必要ナル時ハ封印ノ調書ニ之ヲ記入ス

可シ之ヲ目録ニ記入ス可カラヌ

第九百四十條 若シ封印ヲ除去スル前又ハ之ヲ除去スル間ニ封印ヲ為ス可キノ理由消散スル時ハ別段目録ニ其封

印ヲ為シタル財産ヲ記入スルコトヲ許シテ其封印ヲ除却ス可シ

○第四章 死者財産ノ目録書

第九百四十一條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去セント求ムルコトヲ得可キ者ハ亦其財産ノ目録記スルコトヲ求ムルコトヲ得可

第九百四十二條 其目録ハ在ノ數人ノ立會ニテ之ヲ記ス可シ

第一 死者ノ配偶者

第二 死者ノ最近ノ遺物相續人

第三 死者ノ遺囑贈遺ノ證書アル時ハ其遺囑贈遺ノ管理若

第四 死者ノ財産ヲ生存中ノ贈遺トシテ受ケタル者又ハ死者ノ財産所有ノ權或ハ其財産ノ入領所得ノ權

ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ケタル者又ハ其別段指定ノサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ケタル者五

リアノトトハ距離内ニ住スル時ハ之ヲ呼出シタル上又ハ呼出シテ出席セサル上若シ此等ノ者ノ中

ニテ五ミリアノトト以外ノ場所ニ住スル者數人アル時ハ其中ノ出席セサル者ノ名代人トシテ之ヲ報告



判所ノ上席人ヨリ證書人一人ヲ任ス可シ

第九百四十三條 死者ノ財産ノ目録ニハ通例證書人ノ面前ニテ記スル所ノ書面ニ記ス可キ諸件ノ外更ニ在件ヲ記ス可シ

第一 目録ヲ記スルヲ求ムル者立會ノ為メ出席ヲ為ス者出席ヲ為サ、ル者其出席セサル者ノ名代入タル證書人評價人等ノ姓名職業住所並ニ出席ヲ為サ、ル者ノ名代入タル可キ證書人ヲ任スル裁判所ノ上席人ノ言渡ノ旨

第二 目録ヲ記スル地ノ名

第三 財産ノ模様並ニ其真正ナル評價

第四 金銀器ノ種類性合量目

第五 貨幣ノ種類分量

第六 書面類ハ初メト終リトニ番號ヲ附シ證書人一人其書面類ニ姓名ノ手書ニ代用ナル横線ヲ畫シ又高業ニ管シタル簿冊アル時ハ其模様ヲ證明シ又其各葉ニ番號ヲ附シ且横線ヲ畫シ又其紙ニ刻白アラハ其刻白ニ線ヲ引ク可シ

第七 死者ノ人ヨリ物件ヲ得可キ權利ノ證書及ヒ人ニ物件ヲ渡ス可キ義務ノ證書ノ模様  
第八 目録ヲ記スル前ニ物件ヲ預リタル者又ハ其物件アル家屋ニ住スル者決シテ其物件ヲ竊取シタルヲナク又他人ノ之ヲ竊取シタルヲ兄知シタルトナキ旨ヲ證スル為メ其目録ノ成就スル時為シタル旨

第九 別段道理アル時ハ動産及ヒ書面類ヲ管保アル諸人ノ協議シテ定メタル者ニ預クルト又之ヲ協議セタル時ハ初告裁判所ノ上席人ノ任シタル者ニ之ヲ預クル事

第九百四十四條 若シ目録ヲ記スル時ニ故障ヲ申述アル者アル時又ハ夫婦共通ノ財産或ハ死者ノ遺物財産ノ支配及ヒ其他ノ事ニ付ト求メテ為ス者アリテ其他ノ者其求メテ承諾セサル時ハ證書人双方本人ヲシテ初告

裁判所ノ上席人ニ訴出シ至急吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ケシメ又證書人初告裁判所所在ノ縣内ニ住スルニ於テハ其証書人自カラ初告裁判所ノ上席人ニ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受ク可キヲ求ムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其上席人其言渡ノ旨ヲ目録ノ調書ノ末ニ附記ス可シ

辻 士章 校

佛蘭西 訴訟法七終 法律書

佛蘭西 訴訟法第八 法律書

權大内史眞作麟祥 譯

○第五章 動産賣拂ノ事

第九百四十五條 民法第八百二十六條ニ循ヒ遺物財産中ノ動産ヲ賣拂フ可キ時ハ第五卷第八章ニ記シタル法式ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可シ

第九百四十六條 其賣拂ハ遺物財産ニ管保アル者ノ求メニ因リ初告裁判所ノ上席人ノ言渡ニ循テ官吏之ヲ為可シ

第九百四十七條 目録ヲ記スル時立會ヲ為ス可キ權アル者五ミリアノトハノ距離内ニ住居シ又ハ別段住所ヲ擇ミタル時ハ動産賣拂ノ時之ヲ呼出ス可シ但シ其呼出狀ハ別段擇ミタル住所ニ送達ス可シ

第九百四十八條 若シ動産賣拂ノ事ニ付故障ノ起ル時ハ初告裁判所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ假リニ之ヲ裁判ス可シ

判ス可シ

第九百四十九條 動産ノ賣拂ハ其所在ノ場河ニテ之ヲ為ス可シ但シ之ニ反シタル言渡アル時ハ格別ナリトス

第九百五十條 動産ノ賣拂ハ立會ヲ為ス可キ者ノ出席シタルト否トヲ問ハス之ヲ為ス可シ但シ出席ヲ為サ、ル者



アリト雖モ之カ為ノ別役其名代人呼出スニ及ハス

第九百五十一條 動産買拂ヲ求ムル者ノ出席シタルト否トハ調書ニ之ヲ記ス可シ

第九百五十二條 若シ遺物ノ動産買拂ニ管シタル者丁年者ナラハナク其者皆出席シテ故障ノ起ルナク且外テ  
共賣拂ニ管スル者ナキ時ハ前數條ニ記シタル法式ヲ用フルニ及ハス

○第六章 幼者ニ属スル不動産ヲ賣拂フ事

第九百五十三條 幼者ニ属スル不動産ヲ賣拂フ可キノ言渡ヲ為スニハ其不動産ノ種類ト其大略ノ價トヲ記シタル  
親族會議ノ決定アルヲ必要トス。又幼者丁年者ト其不動産ヲ共通シテ所有シ且丁年者其賣拂ヲ許フル時ハ必ス  
シモ幼者ノ親族會議ノ決定アルヲ必要トセス。○此場合ニ於テハ此卷ノ第七章ニ記スル所ノ法式ヲ以テ其賣拂  
ヲ為ス可シ

第九百五十四條 裁判所ニテ親族會議ノ決定ヲ許可スル時ハ其裁判所ノ裁判役一員ノ面前又ハ別役任ヲ受ケタル  
證書人一員ノ面前ニ於テ其賣拂ヲ為ス可キ言渡ヲ為ス可シ。若シ其不動産數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ在ル時ハ其  
賣拂ノ許ヲ受ケタル裁判所ヨリ其各所ノ裁判所ノ管轄地ニテ其賣拂ノ事ヲ引受ク可キ證書人ヲ任シ又ハ其各地  
ノ裁判所ニ其賣拂ノ事ヲ托スル書面ヲ送ル可シ

第九百五十五條 賣拂ノ言渡書ニハ各不動産ノ附直段ト其賣拂ノ箇條トヲ記ス可シ。○其附直段ハ幼者ノ親族會議  
ノ決定又ハ其不動産所有ノ證書又ハ其不動産ノ貸貸ノ公正ノ證書又ハ口附ノ體カナル貸貸ノ私ノ證書又ハ此等  
ノ貸貸ノ證書ナキ時ハ地稅目錄ニ據テ之ヲ定ム可シ。然レモ裁判所ニテハ其時ノ模様ニ因リ不動産ノ全部又ハ一  
部ノ評價ヲ為サシムルヲ得可シ。其評價ハ不動産ノ種類ト大小トニ因リ裁判所ヨリ評價人一員又ハ三員ヲ任シ  
テ之ヲ為サシム可シ

第九百五十六條 裁判所ヨリ不動産ノ評價ヲ為ス可キ言渡シタル時ハ其評價人其裁判所ノ上席人ノ面前又ハ  
其上席人ノ別役任シタル治安裁判役ノ面前ニテ言渡ヲ為シタル上其評價書ヲ記ス可シ但シ其評價書ニハ不動産ニ

付テノ諸件ヲ妥細ニ記入スルニ及ハス唯評價ノ大旨ノミヲ記入ス可シ。其評價書ハ之ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム  
可キ別ニ其寫ヲ渡スニ及ハス

第九百五十七條 不動産ノ賣買ノ箇條書ニ從テ之ヲ為ス可シ但シ其箇條書ハ代書師之ヲ裁判所ノ書記局ニ  
納ム可シ若シ又證書人ノ面前ニテ其賣買ヲ為ス可キ時ハ其證書人其箇條書ヲ記シテ已ニ役所ニ納ム可シ  
其賣買ノ箇條書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 賣買ヲ許ル言渡書ノ大略

第二 不動産所有ノ證書ノ大略

第三 不動産種類並ニ其所在ノ地一團トアリタル不動産ノ名其不動産ノ方柄ノ大略其双方ノ隣家ノ名

第四 賣買ヲ為スニ付テノ附ケ直段及ヒ賣買ノ箇條

第九百五十八條 賣買ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局又ハ證書人ノ役所ニ納ムタル後左件ヲ記シタル貼附書印刷ス可

第一 賣買ヲ許ル言渡ノ大略

第二 不動産ヲ所有スル幼者其後見人後見人ノ監察者ノ姓名職業住所

第三 賣買ノ箇條書ニ記シタル如キ不動産ノ模様ノ記載

第四 各不動産ノ賣拂ニ付テノ附直段

第五 賣買ノ日刻及ヒ場所並ニ其賣買ヲ證スル證書人ノ姓名住所又ハ其賣買ヲ為ス裁判所ノ名且何レノ  
場合ニ於テモ賣主ノ代書師ノ姓名

第九百五十九條 賣買ヨリ少クトモ十五日前多クトモ三十日前ニ第六百九十九條ニ記シタル場所ニ貼附書ヲ出シ

且雜費ヲ證スル證書人ノ役所ノ門戸ニ其貼附書一通ヲ出シ同條ニ記シタル如キ其貼附書ノ高ノミナラズ且其貼附書ノ

第九百六十條 前條ニ記シタル期限内ニ其貼附書ノ寫ヲ第六百九十六條ニ記シタル所領紙ニ記シタル且不動産所有

ノ地ニ非サル即ニ於テ其賣買ヲ為ス時ハ其賣買ヲ為ス即中ノ別役任シタル所領紙ニモ亦之ヲ記入ス可シ此等ノ



ノ事ヲ為シテ其ハ第六百九十八條ニ記シタル如ク之ヲ證ス可シ

第九百六十一條 贈與ニ為ス不動産ノ種類ト大キトニ准シ第六百九十七條及第七百條ニ記シタル如ク其贈與ノ旨ヲ更ニ公ケニ為ス可シ

第九百六十二條 幼者ノ後見人ノ監察者ハ民法第四百五十九條ニ記シタル如ク贈與ノ時立會ヲ為シ、呼出ヲ受ル可シ但シ之カ為メ贈與ノ日刻ト場所ト一月前ニ其監察者ニ報告シ且其者ニ贈與ノ時出席ノ有無ヲ問ハス贈與ヲ為ス可キ旨ヲ報告シ置ク可シ

第九百六十三條 贈與ヲ為ス時其會場ノ附ケ直段ニテ賣入レントスル者ナリ時ハ裁判所ニ願書ヲ出シ裁判所ニ於テハ其附ケ直段ヨリ更ニ下直ニテ再ビ之ヲ贈與ニ出ス可キ旨ヲ裁判所會議ノ室ニテ言渡ス可シ但シ其再度ノ贈與ヲ為ス可キ期限ハ裁判所ノ言渡ニ因リ之ヲ定ムル所ニシテ初度ノ贈與ノ時ヨリ十五日以内ナルヲナカス可シ 其再度ノ贈與ヨリ少クとも八日前ニ前數條ニ記スル如ク再ビ之ヲ附ケ為シ且新聞紙ニ記入シテ之ヲ公ケニ為ス可シ

第九百六十四條 第七百一條第七百五條第七百六條第七百七條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條ニ記シタル條件ハ此章ニモ亦適用シ之ヲ可シ 然レモ證書人其贈與ヲ證スル時ハ別後代書師、世話ヲ要スルヲ如何ナル人ト雖モ其贈與ノ為ス可シ得可シ 證書人ノ面前ニテ贈與ヲ為ス時若シ買入人其代金ヲ直ニ拂フヲ能ハサルニ因リ買入人引定ニテ更ニ贈與ヲ為ス可キ旨ヲ證書人ヨリ買入人贈與ノ箇條ノ如ク履行ハサル旨ヲ證スル受合書ヲ渡ス可シ然ル上ハ初度ノ贈與ノ調書ヲ以テ更ニ贈與ヲ為スノ證據ト為スル之ヲ裁判所ノ書記司ニ納ム可シ

第九百六十五條 贈與ヲ為シタルヨリ八日以内ニ如何ナル人ト雖モ第七百八條第七百九條第七百十條ニ記スル所ノ

法式ノ期限トニ從テ其買入直段ヨリ更ニ其六分一ヲ増シタル價ニテ買入レント求ムルヲ得可シ 前項ノ求ムニ因リ復テ贈與ヲ為シタル後ハ其不動産ヲ更ニ復テ贈與ニ為ス可カラズ

○第七章 遺物財産ノ分派及ク贈與

第九百六十六條 民法第八百二十三條及八百三十八條ニ記シタル場合ニ於テ裁判ノ手續ヲ經テ遺物財産ノ分派ヲ為ス可キ時ハ遺物相續人中ニテ最モ先ニ手續ヲ為ス者其訴ヲ為ス可シ

第九百六十七條 同時ニ其訴ヲ為シタル者二人トシテ裁判所ノ書記官ヲシテ最モ先キニ呼出狀他ノ遺物相續人ヲ呼出シ、正本ニ檢印ヲ為シシタル者其訴ヲ為スノ權アリ但シ其檢印ヲ為シタル日刻ヲ附記シ置ク可シ

第九百六十八條 二人以上ノ幼者ノ權利相續ル、將其各自ノ後見人ヲ任スル規則ハ第八百八十二條以下ノ數條ニ備フ可シ

第九百六十九條 別段ノ道理アル時ハ遺物財産ノ分派ヲ願フ訴ヲ裁判スル言渡ヲ以テ民法第八百二十三條ニ備テ掛リ裁判役一員ト證書人一員トヲ任ス可シ 若シ分派ノ手續ヲ為ス間ニ掛リ裁判役又ハ證書人其手續ヲ為スニ故障アル時ハ裁判所ノ上席人訴人ノ願ニ因リ其代人ヲ任スルノ言渡ヲ為ス可シ但シ其言渡ハ之ニ付テ故障ヲ述ルルコトヲ以テ之ヲ行ハス可シ

第九百七十條 財産分派ヲ為シ得可キ公ケテ、分派ノ訴ヲ裁判スル言渡ヲ以テ其分派ヲ為ス可キコトヲ言渡シ又然ルハ、贈與ヲ為ス可キコトヲ言渡ス可シ但シ其贈與ハ第九百五十五條條ニ裁判役ノ面前又ハ證書人ノ面前ニテ之ノ為ス可シ 裁判所ニテ分派ヲ言渡シタルト贈與ヲ言渡シタルトヲ問ハス幼者ノ其訴ニ管係アル時ハ雖モ前ノ評價ヲ為シタルハルヲナリ且ニ其分派又ハ贈與ニ取掛ル可キ旨ヲ言渡シ得可シ但シ贈與ヲ為ス可キ時ハ第九百五十五條條ニ備テ裁判所ニテ其附ケ直段ヲ定ム可シ

第九百七十一條 若シ裁判所ニテ評價ヲ為シ得可キコトヲ言渡ス時ハ評價人一員又ハ三員ヲ任シ其評價人第九百五十六條ニ記シタル如ク措ヲ為ス可シ 評價人ヲ任スルノ及ビ其申立ハ第三百二條以下ノ數條ニ記シタル規則ニ備



之ヲ為スコシ 評價人ノ申立書ニハ評價ヲ為シタル大旨ヲ簡略ニ記スコク分派シ又ハ贈與・為スコト財產ノ  
模様ヲ交細ニ記スルニ及ハシ 分派ヲ許セタル者ハ其代書師ヨリ他ノ者ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ他ノ者ニ評價  
人ノ申立書ヲ承諾スルヲ求ム可シ

第九百七十二條 其贈與ニ付テハ前章ニ記シタル規則ニ備フ可シ但シ贈與ノ簡條書ニハ左件ヲ加フ可シ

第一 贈與手續ノ許ヲ為ス者ノ姓名住所職業及ヒ其代書師ノ姓名住所

第二 共ニ贈與ヲ為ス者ノ姓名住所職業及ヒ其代書師ノ姓名住所

第九百七十三條 贈與ノ簡條書ヲ裁判所ノ書記局又ハ証書人ニ預ケタルヨリ八日內ニ贈與手續ノ許ヲ為ス者其代  
書師ヲシテ與ニ贈與ヲ為ス者ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ其贈與ノ簡條書ヲ檢視ス可キトテ要ム可シ 若シ其贈  
與ノ簡條書ニ付テ故障ノ起ル時ハ別段簡條書ヲ出スニ及ハス唯一方ノ代書師ヨリ他ノ一方ノ代書師ニ招書ヲ送リ  
裁判所ニ出席スルヲ要メタル上裁判所吟味ノ席ニテ之ヲ裁判ス可シ 其裁判所ノ言渡ハ第七百三十一條及ヒ  
第七百三十二條ニ記シタル規則ト定規トニ備フ之ヲ控訴スルヲ得可シ 贈與ノ簡條書ヲ檢視ス可キトテ一方  
ヨリ他ノ一方ニ要メタル後ノ手續ニ管シタル故障ニ付テ前項ニ記シタルヨリ以外ノ裁判言渡ハ之ヲ控訴スルヲ  
得ス又之ニ付テ故障ヲ起フルヲ得ス 若シ贈與ヲ為ス時其附テ直段ニテ買入レントスル者キ時ハ第九百  
六十三條ニ記スル如ク設置ス可シ 同人ニ限ラズ贈與ヲ為シタルヨリ八日內ニ第七百八條第七百九條第七百十  
條ノ規則ニ備フ其價ノ六分ノ一ヲ増シテ買入レント要ムルヲ得可シ 其價ヲ増シテ買入レントスルノ効ハ幼  
者ノ不約産賣時ト同一ナリトス

第九百七十四條 不約産賣ニシテ各其評價ヲ為シタル時其各不動産ヲ分派ス可カラサルノ申立書アリト雖モ  
其申立書數額ニ至ニ見合マタルニ因リ不動産ノ全部ヲ分派スルヲ得可キ模様タル事分明ナルニ於テハ之ヲ贈  
與ニ為スニ及ハス

第九百七十五條 死者ノ不動産ニ付キ之ヲ得可キ數人ノ權利既ニ定マリタル時其不動産ノ分派ノ許フルニ於

テハ評價人其評價ヲ為シ民法第四百六十六條ニ記スル如ク其不動産ヲ區分シ且其管係アル者評價人ノ申立書ヲ  
承諾シタル上ニテ第九百六十九條ニ記シタル如ク別段任ヲ受ケタル掛リ裁判役又ハ証書人ノ面前ニテ其區別シ  
タル不動産ヲ圖引ニ為スコシ

第九百七十六條 其他ノ場合ニ於テ殊ニ裁判役ニテ評價人ヲシテ申立ヲ為サシムルヲナク不動産ノ分派ヲ為スコ  
キヲ言渡シタル時ハ贈與手續ノ許ヲ為シタル者共ニ分派ヲ為ス者ヲシテ別段定メタル日ニ掛リ証書人ノ面前  
ニ出テシムル招書ヲ送リ其面前ニテ民法第四百二十八條ニ記シタル如ク各相續人其為スコキ算計及ヒ返還ヲ為  
シ分派ス可キ財產ノ全部ト各人ニ分派ス可キ部分トヲ定メ分派ノ前ニ先キニ引取ル可キ物アル時ハ之ヲ引取リ  
又相續人中ヨリ他ノ相續人ニ引渡スコキ物アル時ハ其物ヲ定ム可シ 又贈與ヲ為シタル後數人ニ分派ス  
可キ部分ヲ言渡シタル時ハ其為スコキ贈與ノ代金ヲ遺物財產ノ全部ト相混同ス可キ時ハ亦前項ト同一ナリトス

第九百七十七條 贈與證書人ハ其補佐ヲ為ス證書人又ハ證人ノ立會ナクシテ自カラ其分派ノ事ヲ為スコシ若シ分  
派ノ許ニ管係アル者其代書人ヲ伴行シタル時ハ其代書人ニ與テ可キ謝金ヲ財產分派ノ費用ト為スコカラス其本  
人ノ費用ト為スコカス 民法第四百三十七條ノ場合ニ於テハ證書人分派ニ付テノ故障ト管係アル數人ノ申立アル  
所ト別ニ調書ヲ記シ其調書ヲ裁判所ノ書記局ニ藏メ置ク可シ 若シ掛リ裁判役分派ニ管係アル數人ヲ裁判所  
吟味ノ席ニ出アシムルヲ言渡シタル時ハ其數人ノ出席ス可キ日ヲ指定メタルヲ以テ即チ其數人ニ呼出狀ヲ送  
達シタルニ等シキ効アリトス 故ニ掛リ裁判役ノ面前又ハ裁判所吟味ノ席ニ其管係アル數人ヲ別段呼出ス書面  
ヲ送達スルニ及ハス

第九百七十八條 民法第四百二十九條第四百三十條第四百三十一條ニ備フ證書人其分派ス可キ財產ノ全部ヲ定メ  
且遺物相續人中ノ一人ヨリ他ノ者ニ返還ス可キ物及ヒ其中ノ一人分派ノ前ニ先キニ引取ル可キ物ヲ定メタル上  
遺物相續人皆丁年ニシテ其中一人ヲ換テ不動産ヲ區分セシメントシ其一人其務ヲ承諾シタルニ於テハ其物其不  
動產ヲ區分ス可シ若シ然ラサルニ於テハ別ニ手續ヲ為スコシ及ハスシテ證書人其分派ニ管係スル數人ヲ掛リ裁判



役ノ面前ニ出テシメ掛リ裁判役評價人ヲ任ス可シ

第九百七十九條 不動産ヲ區分スル為メ遺物相續人中ニテ別ニ振テ受ケタル者又ハ別段任テ受ケタル評價人ハ其不動産ヲ區分シテ其申立書ヲ記ス可シ但シ其申立ハ證書人之ヲ受取テ此迄為シタル諸事ヲ記シタル調書ノ末ニ記入ス可シ

第九百八十條 不動産ヲ區分シ且裁判所ニテ其區分ニ付ノ争ヲ裁判セシ後是迄分派ノ手續ヲ為シタル者共ニ分派ヲ受ケル者ヲシテ別段定メタル日ニ證書人ノ役所ニ出席セシムル招書ヲ送リ此等ノ者ヲシテ其調書ヲ成就スル時立會ハシメ且其讀上ヲ聽カシメ又其者ヲシテ已ト共ニ其調書ニ姓名ヲ手著セシム可シ

第九百八十一條 分派ノ手續ヲ為ス者ハ證書人ヨリ分派ノ調書ノ寫ヲ受取リ裁判所ニ其允許ヲ得テ願フ可シ又裁判所ニテハ掛リ裁判役ノ申上ヲ聽キタル上當テ管係アル諸人中ニ調書ヲ成就スル時立會ヲ為サベリシ者アルニ於テハ此等ノ諸人ヲ皆呼出シテ其分派ノ允許ヲ為ス可シ但シ其管係アル者ノ中ニ檢單ノ保護ヲ受ケ可キ者アルルハ裁判所ニテ檢事ノ説ヲ聽ク可シ

第九百八十二條 分派ノ調書ヲ允許スル言渡書ニハ掛リ裁判役又ハ證書人ノ面前ニテ區分シタル不動産ヲ關列ニ為ス可キヲ記ス可シ但シ掛リ裁判役又ハ證書人ハ關列ノ後其區分シタル部分ヲ引渡ス可シ

第九百八十三條 裁判所ノ書記官及ヒ證書人ハ分派ニ管係アル者ノ求メニ循ヒ分派ノ調書ノ全部又ハ一部ノ寫書ヲ渡ス可シ

第九百八十四條 幼者又ハ其他民権ヲ行フ可カラサル者其他人士共通シテ所有スル不動産ヲ分派シ又賣買ト為スニ付テハ亦前條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

第九百八十五條 共ニ不動産ヲ所有スル者又ハ共ニ不動産ヲ相續人可キ者皆テ年ニシテ民権ヲ行フヲ得可キ且自ラ立會ヲ為シ又ハ名代人ヲシテ立會ヲ為サシムル時ハ別段裁判ノ手續ヲ経テ分派ヲ為シ始メタル時ト雖モ分派ヲ止メ相協議スル所ニ循ヒ隨意ニ分派ヲ為スヲ得可シ

○第八章 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權

第九百八十六條 遺物ヲ相續ス可キノ權アル者其相續ヲ為スヲ承諾スル前ニ民法ニ循ヒ遺物財産中ノ動産ヲ賣拂ント欲スル時ハ其相續ヲ為ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面ヲ出ス可シ 其賣拂ハ動産賣拂ノ定例ニ循ヒ粘附ヲ為シ及ヒ公ケニ為シタル上ニテ官吏之ヲ為ス可シ

第九百八十七條 遺物財産中ノ不動産ヲ賣拂フ可キ時ハ遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權アル相續人其相續ヲ為ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面ヲ出ス可シ但シ其願書ニハ其不動産ノ模様ヲ簡略ニ記載ス可シ ○裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢察官ニ送達シ其説ト掛リ裁判役ノ申立トヲ聽キタル上ニテ不動産賣拂ヲ許ス可シ且其附ケ直段ヲ定ムル言渡ヲ為シ又ハ其賣拂ヲ為ス前裁判所ヨリ任シタル評價人ヨリ任シタル評價人ヲ檢視セシメ其評價ヲ為サシム可キ旨ヲ言渡ス可シ 裁判所ヨリ任シタル評價人ヨリ任シタル評價人ヨリ任シタル評價人ノ申立書ヲ許ス可シ且檢察官ノ申立ヲ聽キタル上ニテ不動産ノ賣拂ヲ許ス言渡ヲ為ス可シ

第九百八十八條 前條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ第九百五十三條以下數條ニ記シタル規則ニ循ヒ不動産ヲ賣拂フ可シ 第七百一條第七百二條第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第七百十條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百十四條第七百十五條第七百十六條第七百十七條第七百十八條第七百十九條第七百二十條第七百二十一條第七百二十二條第七百二十三條第七百二十四條第七百二十五條第七百二十六條第七百二十七條第七百二十八條第七百二十九條第七百三十條第七百三十一條第七百三十二條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條第七百四十三條第七百四十四條第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條第七百四十八條第七百四十九條第七百五十條第七百五十一條第七百五十二條第七百五十三條第七百五十四條第七百五十五條第七百五十六條第七百五十七條第七百五十八條第七百五十九條第七百六十條第七百六十一條第七百六十二條第七百六十三條第七百六十四條第七百六十五條第七百六十六條第七百六十七條第七百六十八條第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條第七百七十三條第七百七十四條第七百七十五條第七百七十六條第七百七十七條第七百七十八條第七百七十九條第七百八十條第七百八十一條第七百八十二條第七百八十三條第七百八十四條第七百八十五條第七百八十六條第七百八十七條第七百八十八條第七百八十九條第七百九十條第七百九十一條第七百九十二條第七百九十三條第七百九十四條第七百九十五條第七百九十六條第七百九十七條第七百九十八條第七百九十九條

第九百八十九條 同上ノ特權アル遺物相續人其遺物中ノ動産及ヒ人ヨリ年金ヲ得可キノ權ヲ賣拂フ可キ時ハ此等ノ諸件ヲ賣拂フニ付テノ定例ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可シ若シ其特權アル相續人其定例ニ循ハスシテ賣拂ヲ為ス時ハ其特權ヲキ通常ノ遺物相續人ナリト看做ス可シ



第九百九十條 遺物財産中ノ動産ヲ賣拂フテ得タル代金ハ第六百五十八條以下數條ニ記スル規則ニ循ヒ債主數人ニ之ヲ分派ス可シ

第九百九十一條 又不動産賣拂因リ得タル代金ハ債主特權及ヒ書入質權ノ順序ニ從ヒ債主數人ニ之ヲ分派ス可シ

第九百九十二條 死者ノ債主及ヒ其他遺物財産ニ管係アル者遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權アル相續人ヲシテ保證人ヲ立テシメント欲スル時ハ其相續人又ハ其住所ニ其旨ヲ求ムル招書ヲ送ル可シ但シ其招書ハ裁判手續ノ法式ヲ用ヒサル書面タル可シ

第九百九十三條 此招書ヲ送達シタルヨリ三日ノ期限ト特權アル相續人ノ住所ト裁判所所在ノ邑トノ間三ミリアメートル毎二一日ヲ増シタル期限トノ内ニ其相續人保證人ヲ立ルニ付テノ法式第五百十七條以下見合ヒニ循ヒ裁判所ノ書記局ニ其保證人ヲ立テタル旨ヲ申出ス可シ

第九百九十四條 若シ死者ノ債主又ハ其他遺物ノ財産ニ管係アル者特權アル相續人ノ立テタル保證人ヲ承諾セスシテ故障ヲ述フル時ハ其債主又ハ其他遺物ニ管係アル數人ノ代書師中ニテ最モ先キニ其任ヲ受タル者其數人ノ名代人タル可シ

第九百九十五條 同上ノ特權アル遺物相續人ノ為ス可キ算計ニ付テハ第五百二十七條以下數條ノ規則ニ循フ可シ

第九百九十六條 同上ノ特權アル遺物相續人死者遺物財産中ヨリ己レノ貸シタル財産ヲ取還サントスルノ道理アル片ハ遺物相續人ニ對シテ其訴ヲ為ス可シ若シ又其特權ヲ有スル相續人ノ外更ニ他ノ相續人ナキ時又ハ相續人數人アルト雖モ皆同上ノ特權ヲ有スル者ニシテ且其數人皆死者ノ遺物財産中ヨリ己レノ貸シタル財産ヲ取還サントスル訴ヲ為ス可キ時ハ其訴ト被告人タル可キ遺物管財人一員ヲ別段裁判所ヨリ任ス可シ但シ其管財人ヲ任スル法式ハ遺物相續人ノ虧欠シタル財産ノ管財人ヲ任スルト同一タル可シ

第九百九十七條 夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル事遺物ノ財産ヲ拋棄スル事婦ノ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ事民法第九百九十七條夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル事又ハ遺物ノ財産ヲ拋棄スル事ハ夫婦財産ノ共通ヲ解除シ民法第九百九十七條

第四百五 又ハ遺物相續ヲ始ムル地ヲ管轄スル初告裁判所ノ書記局ニ之ヲ届ケ其届ケノ旨ヲ民法第七百八十四條ニ記シタル簿冊ニ登記シ又民法第四百五十七條ニ循テ之ヲ處置スヘシ其他別段ノ法式ヲ為スニ及ハス 又民法第四百五十八條ニ記スル場合ニ於テ婦ノ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ可キ時ハ先ツ其旨ヲ裁判所ニ聲ヒ裁判所ノ席ニテ其賣拂ヲ許可スル言渡ヲ得タル上之ヲ為ス可シ 其他ノ手續ニ付テハ第九百五十五條第九百五十六條及ヒ其以下數條ノ規則ニ循フ可シ

○第十章 遺物相續人ノ虧欠シタル財産ノ管財人ノ事

第九百九十八條 遺物財産ノ目錄ヲ記シ且熟考ヲ為スタメノ定期内ニ民法第七百九十九條見合ヒ遺物相續ヲ求ムル者出テ未ラス又ハ人ノ知ル所ノ遺物相續人又ハ遺物ヲ相續スヘキ者アリト雖モ此等ノ者皆其遺物ノ財産ヲ拋棄シタル時ハ之ヲ遺物相續人ノ虧欠セシ財産ト為シ民法第八百二十二條ニ循ヒ其財産ノ管財人ヲ任ス可シ

第九百九十九條 若シ遺物相續人ノ虧欠シタル財産ノ管財人二人以上ヲ任シタル時ハ最モ先キニ任ヲ受ケタル管財人一人其職ニ任シ其他ノ者ハ其職ヲ止ムヘシ但シ此事ニ付テハ別段裁判所ノ言渡ヲ得ルニ及ハス

第一千條 其管財人ハ遺物財産ノ目錄ナキ時ハ最初ニ其目錄ヲ記シテ其遺物財産ノ模様ヲ證明シ且第九百四十一條以下數條ト第九百四十五條以下數條トニ記シタル規則ニ循ヒ動産ヲ賣拂フ可シ

第一千一條 又其管財人不動産又ハ人ヨリ年金ヲ得ルノ權利ヲ賣拂ハントスルニハ第九百八十六條以下數條ノ規則ニ循フ可シ

第一千二條 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ為ス者ノ為メ前ニ記シタル規則ハ相續人ノ虧欠シタル遺物財産ノ管財人ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第三卷 第八百六十年四月二十九日決定五月九日布告

○一章 判斷人ノ事

第一千三條 何人ニ限ラス其自由ニ為スヲ得ヘキ權利ニ付判斷人ノ判斷ニ任カスル契約ヲ為スヲ得可シ



第一千四條 衣食住ノ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ得ヘキ事夫婦其財産及ビ住居ヲ分ツ事離婚ノ事人ノ身分ニ管  
シタル事其他總テ檢察官ニ報告スヘキ事ニ付テハ判断人ノ判断ニ任スル契約ヲ為スコカラス

第一千五條 判断人ノ判断ニ任カスル契約ハ双方擇ミタル判断人ノ面前ニテ之ヲ調書ニ記シ又ハ證書人ノ面前ニテ  
之ノ公正ノ書面ニ記シ又ハ双方ノ姓名ヲ手署シタル私ノ證書ニ之ニ記ス可シ

第一千六條 同上ノ契約書ニハ双方ノ争フ所ノ事件ト判断人ノ姓名トヲ記スヘシ若シ之ヲ記セサル時ハ其契約書ノ  
効ナカル可シ

第一千七條 同上ノ契約書ハ別段期限ヲ定メサル時ト雖モ其効アリトス但シ此場合ニ於テハ判断人其契約書ヲ記レ  
タル日ヨリ三月ノ間其職務ヲ行フノ權アリトス

第一千八條 判断人其職務行時間之ヲ擇ミタル諸人皆協議シタル上ニ非レハ其判断人ノ職ヲ止ム可カラス

第一千九條 判断ヲ受ク可キ者及ビ判断人其判断ノ手續ヲ為スニ付テハ裁判所ノ為メ定メタル期限ト法式トニ據テ  
可シ但シ判断ヲ受ク可キ双方ノ者別段ノ期限及ビ法式ヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第一千十條 双方ノ者判断人ノ判断ニ任カスルノ契約ヲ為ス時又ハ其契約ヲ為シタル後ニ其判断ノ控訴ヲ為サ  
ル旨ヲ定メ置クコトヲ得可シ 初告裁判所ノ言渡ニ服セスレテ之ヲ控訴スル旨又ハ其言渡ヲ取消サントスル旨  
百八十條 判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲ為シタル上ハ其判断人ノ言渡ヲ確定ノモノト為シ更ニ之ヲ控訴スル  
コトヲ得ス

第一千十一條 判断人其吟味ヲ為ス手續ニ付テハ書類又ハ其調書ハ各判断人之ヲ記ス可シ但シ双方本人判断人中ニ  
テ別段定メタル一人ニ此等ノ書類ヲ記スルコトヲ任シタル時ハ格別ナリトス

第一千十二條 双方ノ者判断人ノ判断ニ任カスル契約ハ左件ニ因テ其効ヲ失フ可シ  
第一 判断人中ノ一人ノ死去スル事其職ニ任スルコトヲ肯セサル事其職ニ任シタル後他好ニ列ル事判断人  
ニ差支アル事但シ双方本人又ハ後ニ殘リタル判断人隨意ニテ其事故アル判断人ニ代ヘテ更ニ他ノ判断

人ヲ任スルコトヲ定メタル時又ハ判断人中ノ一人ニ事故アリト雖モ後ニ殘リタル判断人ノミニテ判断ヲ  
為スコキコトヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第二 契約書ニ定メタル期限ノ終ル事又ハ其期限ヲ定メタルナキ時ハ三月ノ時間ノ經過シタル事  
第三 判断人二人ナル時其二人ノ説互ニ相異ナルト但シ其二人ニテ其兩説ヲ決定シタル旨ヲ別ニ判断

人一人ヲ擇ムコトヲ得可キ時ハ格別ナリトス  
第一千十三條 判断ヲ受ク可キ者ノ中一人死去スルト雖モ其相續人皆丁年ナル時ハ判断人ノ判断ニ任カスル契約ノ  
効アリトス但シ其相續人目録ヲ記シ且執考ヲナス為メノ期限間ハ判断人ノ吟味及ビ判断ヲ猶豫ス可シ

第一千十四條 判断人其職務ヲ行ヒ始メタル上ハ其職ヲ止ム他好ニ至ル可カラス○又双方本人判断人ノ判断ニ任カ  
スル契約ヲ結ビタル後起リタル原因アルニ非レハ其判断人ニ付キ双方本人ヨリ故障ヲ述フ可カラス

第一千十五條 双方本人ノ中一方ヨリ他ノ一方ノ書類ノ廢棄タルト述ヘタル時又ハ其他何事ニ限ラズ犯罪ニ管シ  
タル附帯ノ訴ノ起リタル時ハ判断人双方ノ者ヲテ裁判所ニ訴出マシメ其訴ノ裁判言渡アリシ時ヨリ判断人高  
ス可キ期限ヲ算フ可シ

第一千十六條 双方本人ハ判断人ノ判断ニ任カスル契約ノ期限ノ終ル時ヨリ火クトモ十五日目前ニ其職務書及ビ證書  
類ヲ判断人ニ出シ判断人ハ此等ノ書類ニ據リテ其判断ヲ為スコシ 判断書ハ各判断人之ニ姓名ヲ手署ス可シ若  
シ又判断人ノ數二人ヨリ多クシテ其中ノ半以下ノ者判断書ニ姓名ヲ手署スルコトヲ肯マサル時ハ他ノ判断人其言

ヲ判断書ニ記シ置キ其判断書ハ各判断人皆其姓名ヲ手署シタルト同一ノ効アリトス 判断人ノ判断書ハ批准者  
ヨリ故障ヲ述フ可カラス

第一千十七條 判断人二人ニシテ其説互ニ相異ナル時別ニ他ノ判断人一員ヲ擇ムコトヲ得可キニ於テハ双方其説ノ異  
ナル旨ヲ本人等ニ言渡シテ別ニ他ノ判断人一員ヲ擇ム可シ若シ又之ヲ擇ムコトヲ協議マサルニ於テハ其言ヲ調書

ニ記シ判断書ヲ執行ヲ言渡スコキ初告裁判所ノ上席人其別段ノ判断人一員ヲ擇ム可シ但シ双方本人ノ中一方ヨ



ノ別段ノ判断人一人ノ旨ヲ擇ム可キ旨ヲ其裁判所ノ上席人ニ願フ書面ヲ出ス可シ。此ノ條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ説ノ互ニ相異ナル判断人二人ハ一通ノ調書又ハ別通ノ調書ニ其説ト其説ノ趣旨トヲ記ス可シ。

第千十八條 別段ノ判断人ハ其職ヲ受ケタルヨリ一月内ニ判断ヲ為ス可シ但シ其職ニ任マラレタル書面ニ一月ヨリ更ニ長キ期内ニ其判断ヲ為シ得可キヲ記シタル時ハ格別ナリトス。又其別段ノ判断人ハ従前ノ判断人等ニ集會ヲ為ス可キノ招書ヲ送リ之ト評議シタル後ニ非レハ判断ヲ為ス可カラス。若シ従前ノ判断人出席ヤサル時ハ別段ノ判断人一人ニテ判断ヲ為ス可シ然レハ其判断人ハ必ス従前ノ判断人中一人ノ説ニ從テ判断ヲ為ス可シ。

第千十九條 初メ任テ受ケタル判断人及ビ別段ノ判断人ハ双方本人ノ爭ヲ法律ニ循ヒ判断ス可シ但シ本人等ノ契約書ニ判断人ハ双方ノ間ニ勸解ヲ為ス可キノ權アルトヲ定メ置キタル時ハ格別ナリトス。

第千二十條 判断人ノ判断ノ言渡ハ其地方ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ノ言渡ニ因リ之ヲ取行フヲ得可シ但シ之カ為メニ判断人中ノ一人其判断ノ言渡ヲ為シタルヨリ二日内ニ其言渡書ノ正本ヲ初告裁判所ノ書記局ニ送リ之カ為メニ又初告裁判所ノ裁判言渡ニ取付テ判断人ノ判断ヲ求メタル時ハ判断人ノ判断言渡書ノ正本ヲ控訴院ノ書記局納ムルニ付テノ費用及ヒ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルニ付テノ税金ヲ償ハシム可キ許ハ判断人ニ對シテ為ス可カラス又方本人ニ對シテ之ヲ為ス可シ。

第千二十一條 判断人ノ判断言渡書ハ發令ト預審ノ言渡ト雖モ裁判所ノ上席人ノ之ヲ許可スル言渡ヲ其裁判言渡書ノ正本ノ末又ハ端ニ附記シタル後ニ非レハ之ヲ執行フ可カラス但シ判断人ノ言渡書ハ之ヲ檢察官ニ送達スルニ及ハス。又判断人ノ判断言渡書ノ寫ノ末ニモ亦裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ附記ス可シ。判断人ノ判断言渡ヲ執行フ事ヲ管轄スル權ハ之ヲ許可スルノ言渡ヲ為シタル裁判所ニ屬ス可シ。

第千二十二條 判断人ノ判断言渡ハ其判断ヲ受ケタル者ノ間ニ其効ヲ生ス可ク其他ノ者ニ付テハ其効ナシトス。第千二十三條 判断人ノ判断言渡ヲ控訴スルニ付テノ規則ハ左ノ如シ。判断人ノ判断ヲ求メタル時ハ初告裁判所

トヲ問ハス當然治安裁判役ノ管轄タル可キ事件ニ付テハ判断人ノ判断言渡ヲ初告裁判所ニ控訴ス可シ。又初告裁判所トヲ問ハス當然ノ初告裁判所ノ管轄タル可キ事件ニ付テハ判断人ノ判断言渡ヲ控訴院ニ控訴ス可シ。

第千二十四條 裁判所ノ裁判言渡ヲ假リニ執行フニ付テノ規則亦判断人ノ判断言渡ニ通シ之ヲ用フ可シ。

第千二十五條 判断人ノ判断言渡ヲ控訴シタル上ニテ負訴訟トナル者ハ裁判所ノ裁判言渡ヲ控訴シテ負訴訟トナル者ニ等キ罰金ヲ言渡サル可シ。

第千二十六條 判断人ノ判断言渡ニ付キ敬慎ノ願書條以下四百八十九ヲ出スニ付テノ定期及ヒ其法式並ニ其額ヲ為シ得可シ。可場合ハ裁判所ノ裁判言渡ニ付キ同上ノ願書ヲ出シ得可シ。同一ナリトス。同上ノ願書ハ控訴ヲ為スト同シキ裁判所ニ之ヲ出ス可シ。

第千二十七條 然レハ左ノ事ニ付テハ判断人ノ判断ニ付キ敬慎ノ願書ヲ出ス可カラス。第一 判断ノ手續平常裁判所ニテ行フ所ノ法式ニ背キタル事但シ第千九條ニ記シタル如ク双方本人別段ノ契約ヲ為シタル時ハ格別ナリトス。

第二 双方本人ヨリ判断ヲ求メサル事件ニ付キ判断人其判断ヲ言渡シタル事但シ此場合ニ於テハ後條ニ記シタル如ク其言渡ノ取消ヲ願フヲ得可シ。

第千二十八條 左ノ場合ニ於テハ判断人ノ判断言渡ヲ控訴スルニ及ハス又其言渡ニ付キ敬慎ノ願書出スニ及ハス。第一 双方本人判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲ為ストナクシテ其判断言渡ヲ受ケタル時又ハ其契約アリト雖モ其契約ニ定メタルヨリ以外ノ事ニ付キ判断言渡ヲ受ケタル事。

第二 双方本人判断人ノ判断ニ任カスル契約アリト雖モ其契約ノ効ナシ又ハ其期限既ニ終リタル場合ニ於テ判断言渡ヲ受ケタル事。

第三 判断人中ノ一人不在ナル時判断ヲ為ス可キノ任ヲ受ケタル者ニ非ナル判断人ノ判断ヲ為シタル時。第四 判断人ニ對シテ説互ニ相異ナリ之ヲ決定ス可キカ為メ更ニ別段ノ判断人一人ヲ任シタル場合ニ於テ



其別後ノ判後人從前ノ判断人ノ説ヲ聞ハスレテ判後ノ言渡ヲ為シタル時

第五 双方本人判断人ノ判断ヲ求メサル事件ニ付キ其判断ヲ受ケタル時

總テ此等ノ場合ニ於テハ其判断人ノ判断言渡ノ執行ヲ承諾セサル者其言渡ノ執行ヲ命シタル裁判所ニ判断言渡ノ取消ヲ訴出ス可シ 判断人ノ判断言渡ヲ裁判所ニ控訴シ又ハ其言渡ニ付キ敬慎ノ願書ヲ裁判所ニ出シ其裁判所ノ裁判言渡ヲ得テ之ニ服マサル時ニ非レハ覆審院ニ訴出ス可カラス

總規則

第千二十九條 總テ訴訟法ニ記スル無効ノ規則罰金ノ規則期限ノ規則ハ必ス之ニ循フ可シ

第千三十條 總テ呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ書類ノ効ナキ旨ヲ別段法律上ニ定メタルトナキ時ハ其取消ノ旨ヲ言渡ス可カラス 呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ書類ノ効ナキ旨ヲ別段法律上ニ定メタルトナキ時ハ此等ノ書類ヲ取扱ヒタル者等ノ如キヲ云フ其為ス可キ手續ヲ怠リ又ハ規則ニ背キタルニ付キ五フランシヨリ少ナカラス百フランシヨリ多カテハ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第千三十一條 法律上ニテ効ナシトスル書類又ハ益ヲ生セサル書類又ハ罰金ノ言渡ヲ受ケルノ原由タル書類ノ費用ハ其書類ノ取扱人ノ之ヲ擔當ス可ク且其取扱人ハ其時ノ損益ニ因リ本人ニ損失ノ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ覺ケ又ハ定期間其職ヲ罷メラル可シ

第千三十二條 邑及ヒ公舎ハ裁判所ニ訴ヲ為スニ付キ別段ノ行政法ニ從フ可シ

第千三十三條 千八百六十二年五月三日左ノ如ク改メ初告裁判所ヘノ呼出狀治安裁判所ヘノ呼出狀本人又ハ其住所ニ送達スル招書及ヒ其他總テ本人又ハ其住所ニ送達スル書類ニ付テハ其送達ノ日ト期限加レノ口トラ定期中ニ算入スルナカル可シ○定期ハ路程五ミリアノートル毎ニ一日ヲ増ス可シ○又民法或ハ商法ニ管レタル諸事ニ付キ法律勅命言渡等ニ因リ路程ニ准シテ日數ヲ増ス可キ時ハ亦前ニ記スル所ト等シトス○四ミリアノートル以下ノ路程ハ之ヲ算フ可カラズ又四ミリアノートル以上ノ路程アル時ハ定期ニ一日ヲ増ス可シ若シ期限ノ最終

ノ日祭日ニ當ル時ハ期限ヲ翌日ニ延ハス可シ

第千三十四條 評價人ノ評價ヲ為ス時ハ立會フ可キノ招書又ハ二箇ノ訴訟ヲ混内シテ一箇ト為スニ付テノ呼出狀條見合マニハ其初度ノ評價ヲ為ス場所ト日刺又ハ初度ノ吟味ヲ為ス場所ト日刺トヲ記ス可ク第二次ノ評價ヲ為シ又ハ第二次ノ吟味ヲ為スニ付テハ更ニ再ヒ其招書又ハ呼出狀ヲ送達スルニ及ハス

第千三十五條 原告或ハ被告ヲシテ誓ヲ為サシム可キ時又ハ保證人ヲ立テシム可キ時又ハ證人吟味ヲ為ス可キ時又ハ本人ノ問札ヲ為ス可キ時又ハ評價人ヲ任ス可キ時及ヒ其他總テ裁判所ノ言渡ニ因リ或事ヲ為ス可キ時本人住所或ハ争ノアル場所ト其言渡ヲ為シタル裁判所ト大ニ隔リメルニ於テハ其言渡ヲ為シタル裁判所ヨリ其時ノ模様ニ因リ其本人ノ住所或ハ其争アル場所ニ近キ裁判所ノ裁判役全員又ハ一員又ハ治安裁判役ニ其為ス可キ事務ヲ托シ又ハ本人ノ住所或ハ争アル場所ニ近キ裁判所ニ其裁判役中ノ一人又ハ治安裁判役ヲ擇ミテ別段其事務ヲ行ハシム可キ事ヲ托スルヲ得可シ

第千三十六條 裁判所ニ於テハ訴訟吟味ノ時其模様ニ因リ一方本人ノ願ニ從ヒ或ハ裁判役ノ公務ヲ以テ訟庭取締ノ言渡ヲ為シ又ハ一方ノ書類他ノ一方ノ名聲ヲ害ス可キモノタルニ因リ之ヲ棄滅スルヲ言渡シ且此等ノ言渡書ヲ別行レテ之ヲ貼附ス可キ旨ヲ定ムルヲ得可シ

第千三十七條 毎歲十月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル迄ノ間ハ朝六時前ト夕六時後又四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル迄ノ間ハ朝四時前ト夕九時後ニ裁判手續ニ管レタル書類ヲ送達ス可カラズ又裁判言渡ヲ執行フ可カラズ○又祭日ニ於テハ其送達及ヒ執行ヲ為ス可カラズ但シ其送達及ヒ執行ヲ遲延スル時危害アル可キ場合ニ於テ別段裁判役ノ允許アル時ハ格別ナリトス

第千三十八條 確定ノ裁判言渡アリタル訴訟ニ管レシ代書師ハ其言渡ヨリ一年內ニ其言渡ヲ執行フ時別ニ本人ニ代ル可キノ權ヲ受ケサルト雖モ當然本人ニ代テ裁判言渡ノ執行ニ管ス可シ

第千三十九條 裁判手續ニ管レタル書類ヲ受取ル可キノ任ヲ受ケタル官吏ハ無償ニテ其受取リタル書類ノ正本ニ



檢印ヲ為ス可シ 其官吏檢印ヲ為スルヲ肯セサル時ハ其官吏ノ任所ノ初告裁判所ノ檢事之ニ代テ其檢印ヲ為シ之ヲ肯セサル官吏ハ檢事ノ申立ニ因リ五ラランヨリ少ナカラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第千四十條 裁判役ノ管スル總テノ書類及ヒ證書ハ裁判所野在ノ場所ニテ之ヲ記シ書記官之ニ立會テ其書類ノ正本ヲ預リ置キ其寫ヲ渡ス可シ又至急ノ場合ニ於テハ裁判役已レノ任所ニテ其受取リタル願書ノ答ヲ為スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ第八百六條以下ノ至急吟味ノ規則ニ循フ可シ

第千四十一條 此訴訟法ハ千八百七一年一月一日ヨリ之ヲ執行フ可シ故ニ其執行以後ノ訴訟ハ此法ニ循ヒ之ヲ吟味ス可シ

○其他訴訟ニ管シタル從前ノ法律規則及ヒ習慣之ヲ廢ス可シ

第千四十二條 此訴訟法執行ノ前ニ裁判所費用取極メノ為ニ並ニ裁判所取縮ノ為メ行政規則ヲ設ク可シ 其時ヨリ遼クトモ三年内ニ其行政規則ヲ法律ノ體裁ニ為シテ之ヲ議院ニ差出ス可シ

辻 士 幸 校

佛蘭西 法律書 訴訟法八 終

佛蘭西 法律書 訴訟法目次

- 上篇 裁判所ニ於テノ訴訟
- 第一卷 治安裁判所
- 第一章 呼出ノ事
- 第二章 治安裁判所ノ聽訟及ヒ双方者出席
- 第三章 一方者抗傳シテ言渡シタル裁判及ヒ其裁判ニ付キ故障ヲ述フル事
- 第四章 財産占有ノ權ノ訴訟ノ裁判
- 第五章 確定ニ非サル裁判言渡及ヒ其執行
- 第六章 保證者ヲ呼出ス事
- 第七章 證人吟味ノ事
- 第八章 土地ノ檢査及ヒ評價
- 第九章 治安裁判所ノ裁判役付故障ヲ述フル事
- 第二卷 下等裁判所
- 第一章 勸解
- 第二章 初告裁判所ニ呼出ス事
- 第三章 被告人代官人ヲ任ル事及ヒ被告人答辨
- 第四章 檢察官ニ報告スル事
- 第五章 吟味事吟味ノ公ナル事吟味取締ノ規則

訴訟法目次 第壹版 九十五

- 第六章 裁判役評議及ヒ書面因テ吟味ヲ為ス事
- 第七章 裁判言渡ノ事
- 第八章 原告又ヒ被告一方抗傳タル儘ニテ裁判言渡ス事及ヒ其言渡ニ付キ故障ヲ述フル事
- 第九章 訴訟ノ故障ヲ述フル事
- 第一款 外國人ノ立ッ可キ保證ノ事
- 第二款 裁判所ノ管轄異ルヲ以テ其裁判所吟味ヲ受クルニ故障ヲ述フル事
- 第三款 呼出狀及其他訴訟手續書類取消可シ
- 第四款 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル事
- 第五款 相手方ノ證書類ヲ受取ル事
- 第十章 書類ノ聽具ヲ為ス事
- 第十一章 書類ノ廢止ヲ主テ訴訟添へ訴ル事
- 第十二章 證人吟味ノ事
- 第十三章 裁判役自訴訟生シ地ニ至檢査スル事
- 第十四章 鑑定人ノ申立
- 第十五章 訴訟ノ本案ニ付キ本人問糾ノ事
- 第十六章 附帶ノ訴訟



○第一款 附帶ノ訴訟

○第二款 他人主タル訴訟ニ管法スル事

○第十七章 訴訟ノ再起ノ事及ヒ更代書師ノ事

○第十八章 本人其代書師及使吏ノ為知ト述ル事

○第十九章 數箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル時其中ノ一箇ニ定ム可キトニ付テノ訴訟

○第二十章 裁判所一方ノ者ノ親族ニ付キ相手方ヨリ他裁判所ニ訴訟ヲ移トント述フル事

○第二十一章 裁判所ニ付キ故障ヲ述フル事

○第二十二章 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止スルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消ト為ス事

○第二十三章 原告人故ヲ其訴訟ヲ止ムル事

○第二十四章 急速叫味ノ法式

○第二十五章 商法裁判所ノ訴訟

第四

○第三章 自第四百四十三條 控訴院

○一章 控訴及其手續

○第四章 自第四百七十四條 裁判官渡ヲ取消サントスル為メノ異常ノ方法

○第一章 原告及被告非ル者ニ裁判取消訴ヲ行フル事

○第二章 自第四百七十六條 裁判官渡ヲ取消サントスル為メノ異常ノ方法

○第一章 原告及被告非ル者ニ裁判取消訴ヲ行フル事

○第二章 自第四百七十六條 裁判官渡ヲ取消サントスル為メノ異常ノ方法

○第一章 原告及被告非ル者ニ裁判取消訴ヲ行フル事

○第二章 敬慎ノ願書

○第三章 裁判所不正ノ裁判為シタルニ因リ損失ヲ受ケタル時其裁判ヲ取消其償得スルニ付テノ訴訟

○第五章 自第五百十七條 裁判官渡執行ノ事

○第一章 保證人ノ承諾スル事

○第二章 損失償ノ高ヲ定ムル事

○第三章 利得ノ高ヲ定ムル事

○第四章 算定ノ事

○第五章 裁判費用ノ高ヲ定ムル事

○第六章 裁判官渡書及ヒ契約証書ノ如ク強テ執行ハシムル事ニ付テノ總規則

○第七章 自債者人ノ物件渡ヲ其債主差留ル事

○第五

○第八章 換價トシテ動産ヲ差押フル事

○第九章 現在土地生所収納物負債換價テ差押事

○第十章 平民ヨリ渡ス可キ年金ヲ差留ル事

○第十一章 差押ル物件ノ價高債主數人分派ル事

○第十二章 不動産ヲ抵償トシテ差押フル事

○第十三章 不動産差押ニ付キ附帶ノ訴訟

○第十四章 負債者ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ認賣トス

訴訟法目次 第九十六

為シテ得タル代金ヲ債主數人ニ分派スル順序

○第十五章 負債者ヲ禁錮スル事

○第十六章 至急叫味ノ事

第七

○下篇 極々ノ訴訟手續

○第一卷 自第八百十二條

○第一章 負債者債主ニ其債ヲ償還セント提供スル事及ヒ其借高ヲ官署ニ預ケル事

○第二章 土地又ハ家屋所有者其借主動産並収納物質ヲ差押事及ヒ他地來負債者動産質ヲ差押事

○第三章 自己ノ所有リト述フル動産他人ノ手ニ在ラ取戻ントスル為メ之ヲ差押フル事

○第四章 負債者其債ヲ償フカ為メ其不動産ヲ賣拂ル時債主更價之賣拂スル為再之認賣ノ事

○第五章 證書類寫書得手續又證書類更改ル手續

○第六章 失踪者財産假ニ所有為メニ付テノ規則

○第七章 婚姻ナル訴訟為メサント欲スル時裁判所ヨリ其訴訟為メノ允許ヲ受ケル手續

○第八章 夫婦財産ヲ分ツ事

○第九章 夫婦居分ツ事及ヒ離婚ノ事

○第十章 親族會議ノ決定

○第十一章 治産ノ禁ヲ受ケル事

○第十二章 負債者其債償フ時其財産拋棄事

○第二卷 自第九百七條 遺物相續ヲ始ムルニ付テノ手續

○第一章 死者ノ財産ニ封印ヲ為ス事

○第二章 死者ノ財産ノ封印除去ニ付テノ手續

○第三章 死者ノ財産ノ封印除去ニ付テノ手續

○第四章 死者ノ財産ノ目錄書

第八

○第五章 動産賣拂ノ事

○第六章 幼者ニ屬スル不動産ヲ賣拂ノ事

○第七章 遺物財産ノ分派及ヒ認賣

○第八章 遺物財産價至迄外負債償ハサル特權

○第九章 夫婦共遺財産拋棄ル事遺物財産拋棄ル事遺物不効産ヲ賣拂ノ事

○第十章 遺物相續人虧欠シタル財産管財人ノ事

○第三卷 自第九百七條

○第一章 判斷人ノ事

○第二章 判斷人ノ事

附屬西 訴訟法目次 終